Print Server N01

Version 6.0

ユーザーズガイド

運用編

はじめに

このたびは、Print Server N01をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

Print Serverは、Adobe® PostScript®を使用して、高品質のカラープリントを実現するためのプリントサーバーです。

本書は、お使いのOS環境の基本的な知識や操作方法、およびPrint Serverの基本的な操作を習得されていることを前提に、色の調整やプリントの設定など、Print Serverをより高度に使いこなすための設定方法や情報を記載しています。
Print Serverの基本的な操作については、『ユーザーズガイド導入編』をお読みください。

Print Serverの性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、Print Serverをご使用になる前に、本書を必ずお読みのうえ、正しくご利用ください。また、カラープリンターの機能や操作については、お使いのカラープリンターに付属のマニュアルをお読みください。なお、弊社の保証範囲は、本製品の標準構成とそのオプション商品に限ります。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が生じたときに、読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

Contents

マニュアル体系

Print Serverには、以下のマニュアルが用意されています。使用目的に合わせてご利用ください。

●ユーザーズガイド運用編　<本書>

Print Serverのプリント機能、色の調整の仕方、プロファイルの割り当てやツールの操作方法について説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDF で格納されています。ファイル名は、「Manual_Operation.pdf」です。

●ユーザーズガイド導入編

Print Server を導入するうえでの設定や操作方法について説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDF で格納されています。ファイル名は、「Manual_Introduction.pdf」です。

●ユーザーズガイドセットアップ編

Print Serverを安全にご利用いただくために、本機を使用する前に知っておいていただきたいことについて説明しています。Print Serverの商品パッケージに同梱されているハードウエアの接続方法、各部の名称、およびプリントサーバーとして使用するためのシステムのセットアップ方法について説明しています。マニュアルは、DVDの「Document」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「Manual_Setup.pdf」です。

●キャリブレーションガイド

Print Server のキャリブレーションについて説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDF で格納されています。ファイル名は、「Manual_Calibration.pdf」です。

●ライセンスについて

Print Server のライセンスについて記載しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDF で格納されています。ファイル名は、「Licence.pdf」です。

●セキュリティー対策に関する補足情報

Print Serverのセキュリティーに関する補足情報について説明しています。

●Version 6.0リリースについての追加補足情報

Print Serverの追加補足情報について説明しています。

●Color Profile Maker Pro操作説明書

Color Profile Maker Proの機能や操作方法について説明しています。マニュアルは、DVDの「CPMP」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「CPMP_Manual.pdf」です。

本書の使い方

本書は、Print Serverのいろいろな機能や操作方法を記載しています。

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

本書の表記

本文中では、説明する内容によって、以下のマークを使用しています。

補足　補足事項を記載しています。

参照先を記載しています。

本文中では、以下の記号を使用しています。

記号	説明
「　」	フォルダー、ファイル、アプリケーション、CD/DVD、機能などの名称や入力文字などです。また、本書内にある参照先です。
『　』	参照するマニュアルです。
[　]	コンピューターのメニュー、コマンド、ウィンドウやダイアログボックスとそれらに表示されるタブ、ボタン、メニュー、項目などの名称です。
→	メニューの選択順序です。[XXX] → [XXX] のように記載しています。
>	プリントオプションの表示順序です。[XXX] > [XXX] のように記載しています。プリントオプションについては、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。
〈　〉	キーボードのキーです。
	フォルダーを表します。
	ファイルを表します。

本文中では、以下の文章表現を使用しています。

・「XXX」は任意の文字を、「＊」は任意の数字です。

・OSがMac OS® Classic（8.＊、9.＊）とMac OS Xのクライアントコンピューターを「Macintoshクライアント」、OSがMicrosoft Windows＊＊のクライアントコンピューターを「Windowsクライアント」と記載しています。

特に注釈がない限り、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー、K：ブラック、R：レッド、G：グリーン、B：ブルーと記載しています。

本書では、一部を除いてMicrosoft® Windows® 7の画面で説明しています。ご使用のOSによっては、メニューや項目などの名称が異なる場合があります。

本書では、一部を除いてデフォルトの画面で説明しています。説明のために、デフォルトでない画面を使用している場合は、補足で明記しています。

本書に記載されている画面や本機のイラストは一例です。お使いの機種やソフトウエア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書の内容は、本書の制作時点のものです。本書に記載されている画面やイラスト、お問い合わせ先の窓口、ホームページのアドレスなどは、将来予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

商標について

・Apple、AppleShare、AppleTalk、ColorSync、Macintosh、Mac OS、およびSafariは、米国、および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
・Adobe、Adobe Illustrator、Adobe Reader、FreeHand、InDesign、PageMaker、Photoshop、PostScript、PostScript 3、およびPostScriptロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国、およびその他の国における登録商標、または商標です。
・Internet Explorer、Microsoft、OpenType、PowerPoint、Windows、Windows Server、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・中ゴシックBBBは、株式会社モリサワとアドビシステムズ社が共同開発したフォントで承認外の複製は禁止しており、それらの書式名は株式会社モリサワの商標です。
・平成明朝体W3、および平成角ゴシック体W5は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。
・X-Riteは、X-Rite社の米国、およびその他の国における登録商標であり、Eye-One、i1ロゴ・i1はX-Rite社の商標です。
・GretagMacbeth、Spectroscan、およびSpectroChartは、Amazys Holding AGの登録商標、または商標です。
・Quark、QuarkXPressは、米国ならびに各国で登録されたQuark, Inc.とQuark関連会社の商標です。
・Netscapeは、米国Netscape Communications Corporationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・UNIXは、The Open Groupの米国、およびその他の国における登録商標です。
・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
・PANTONEは、Pantone LLCの登録商標です。
・接続するプリンターのソフトウエアには、the Independent JPEG Groupで作成されたコードの一部を利用しています。

・その他の製品名、会社名は、各社の登録商標、または商標です。
・XEROX、そのロゴと“コネクティング・シンボル”のマークは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

さまざまな機能を使用してのプリント

Print Server のさまざまなプリント機能（小冊子作成、差込印刷など）、ワークフローとの連携について説明しています。

1.1　印刷前に画像を確認する

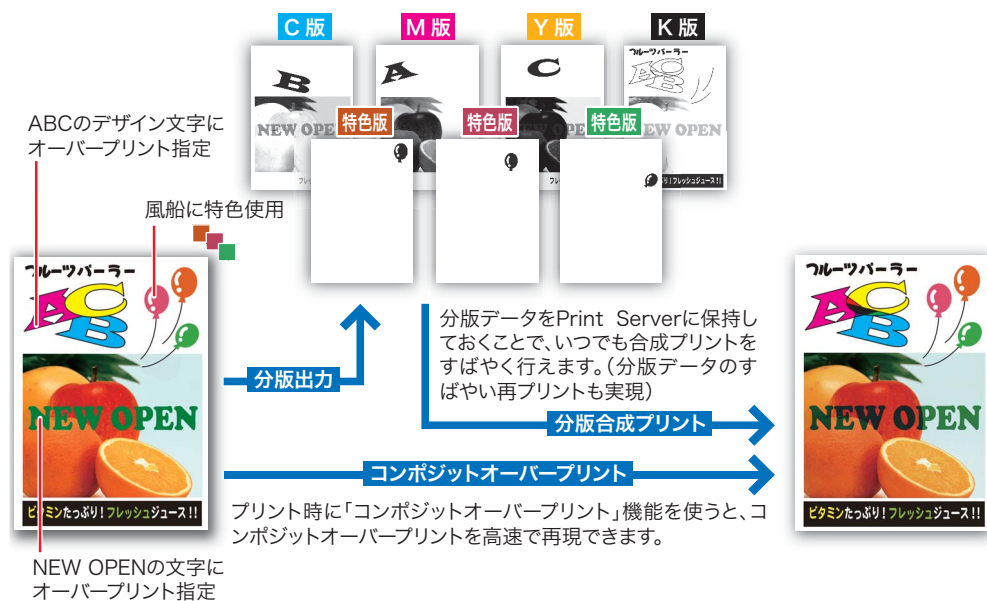
Print Server には、印刷用データの確認をするときに、印刷をシミュレートしたり、印刷に適さないデータを検出して警告するなど、印刷用データの確認に役立つさまざまな機能が搭載されています。

1.1.1　分版出力の合成（色分版の合成）

各色で分版されたデータが合成してプリントされます。

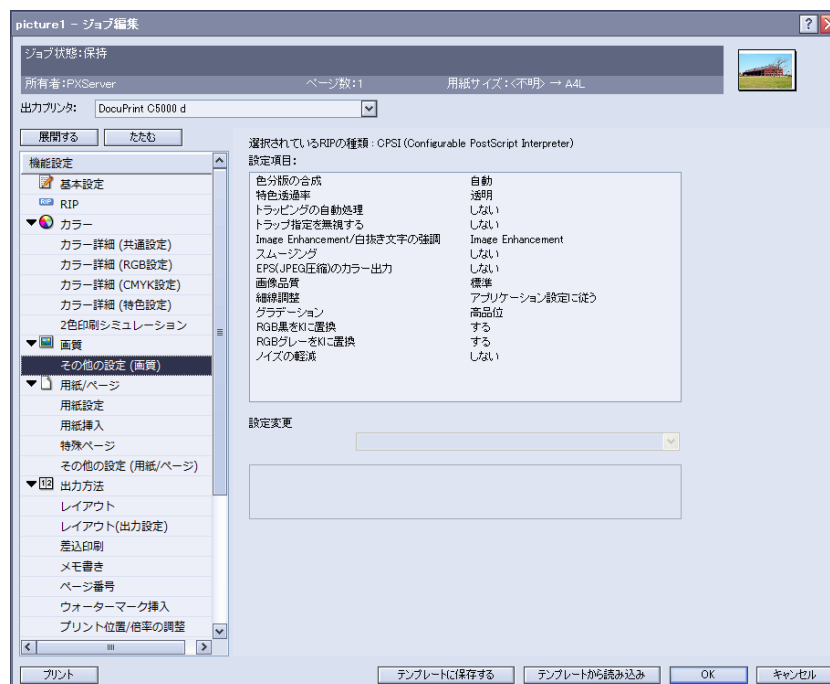
PageMaker、Illustrator、FreeHand、QuarkXPress、または InDesign などのレイアウトアプリケーションで提供されている色分版機能はフィルム出力するイメージセッター用なので、それぞれのページは1枚以上（通常4枚）のグレースケールのページに変換されて出力されます。色分版の合成機能を持たないプリンターでこのようなページをプリントすると、オリジナルの１ページごとに使われている色数と同じ枚数がグレースケールでプリントされます。

この機能を使うと、これらのページを１枚のカラーページに合成してプリントできます。この機能で作成した色校正は、フィルムから作成した色校正の代わりになります。オーバープリントを再現できるので、トラッピングの結果も確認できます。

■色分版の合成

操作手順

1. プリントオプションを表示させます。

プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［画質］＞［その他の設定（画質）］を選択します。

設定項目が表示されます。

参照　各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（その他の設定（画質）- 色分版の合成）」(P.15) を参照してください。

3. ［色分版の合成］を選択し、表示されたメニューから各色の版を合成するスタイルを選択します。

通常は［自動］を選択します。

プリントオプションの設定（その他の設定（画質）- 色分版の合成）

各色の版を合成するスタイルを選択します。

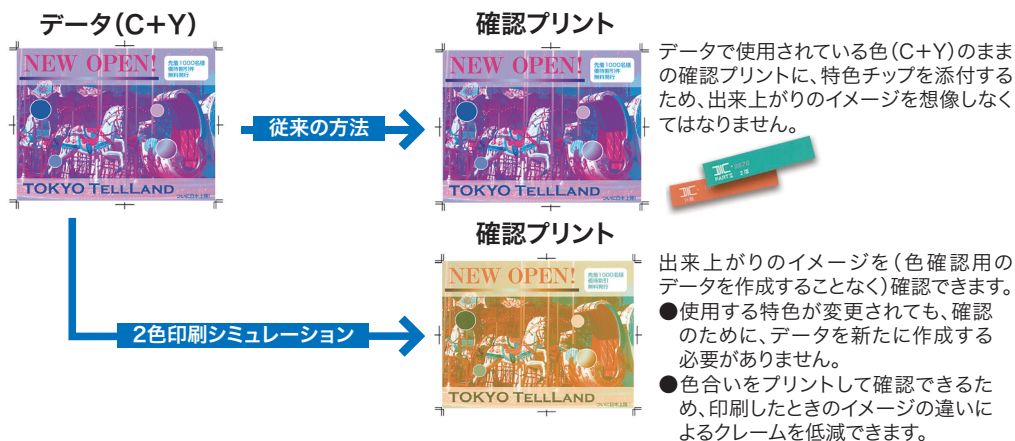
・自動
・しない
・コンポジット分解
・QuarkXPress-4 Style
・QuarkXPress-3 Style
・PageMaker Style
・FreeHand Style
・Canvas Style
・Illustrator Style
・InDesign Style

［自動］の場合、特色版の合成にも対応できます。対応している特色は、DIC、TOYO、PANTONE です。また、ユーザーが任意に作成した特色（「CUSTOM」）にも対応しています。

・QuarkXPress 6.＊/8からの分版合成プリント時には、[自動]、または [QuarkXPress-4 Style] を選択してください。
・［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は、無効です。

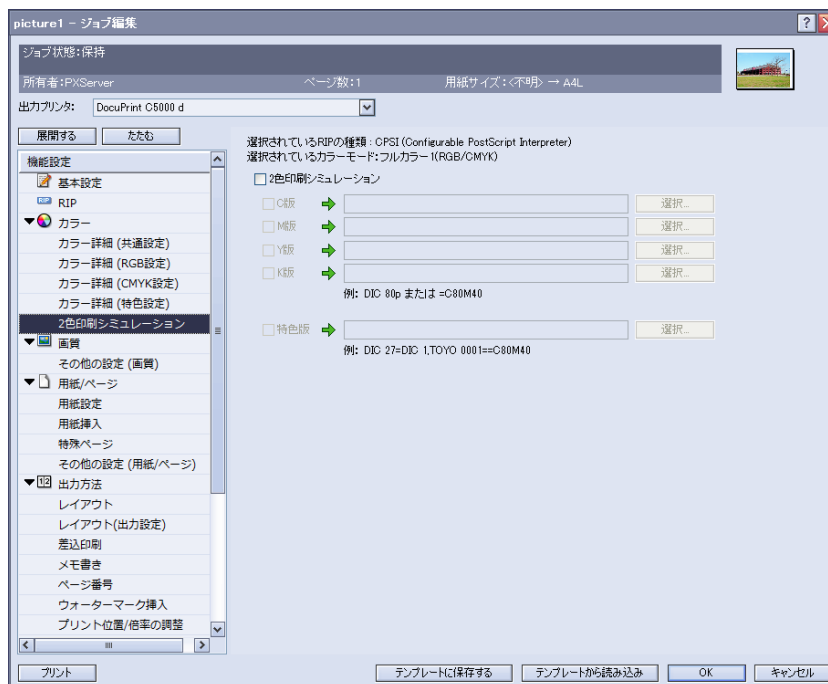
1.1.2　2色印刷シミュレーション

使用する色版（C、M、Y、K）の入力と置き換える特色名、またはCMYK色を入力します。
この機能を使うと、チラシなどで使用される特色を用いた2色印刷を再現できます。（特色以外も入力することができます）

■2色印刷シミュレーション

操作手順

1. プリントオプションを表示させせます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させせます。

2. 左側の機能設定ツリーから［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］を選択します。

設定項目が表示されます。

参照　各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（2色印刷シミュレーション）」（P.17）を参照してください。

3. ［2色印刷シミュレーション］にチェックマークを付けます。

4. 使用する色版にチェックマークを付け、置き換える特色名、または色の数値を入力します。
   - Print Serverに登録されている特色名、または書式に従った色の数値を入力します。
   - CMYK色は64バイト、特色は512バイトで入力します。
   - ［選択］をクリックしても、CMYK色、または特色を選択できます。

プリントオプションの設定（2色印刷シミュレーション）

［2色印刷シミュレーション］にチェックマークを付けると、レイアウトのCMYK、特色を置き換える特色名、またはCMYK色をテキスト欄で入力できます。
特色名は、Illustratorなどのアプリケーションで使用する名称と同じです。また、CMYK色を入力する場合は、「=」に続けて、色とパーセント数値を入力します。
［選択］をクリックして、色を選択することもできます。
テキスト欄が空欄の場合は、設定した色版がそのままの色でプリントされます。

入力例）

CMYK＋特色2色（DIC 1とDIC 10）が使用されているファイルに対して、以下の設定でプリントできます。

例1

特色版全部をプリントしない
- ［C版］、［M版］、［Y版］、［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
- ［特色版］のチェックマークを外す。

例2

特色版はDIC 1のみプリントし、DIC 10はプリントしない
- ［C版］、［M版］、［Y版］、［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
- ［特色版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「DIC 1=DIC 1,DIC10==C0M0Y0K0」と入力する。

例３

CM版はプリント、Y版はプリントしない、K版をTOYO 1000に置き換え、DIC 1をC80%/M40%に置き換え、DIC 10はプリントしない

- ［C版］、［M版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
- ［Y版］のチェックマークを外す。
- ［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「TOYO 1000」と入力する。
- ［特色版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「DIC 1==C80M40,DIC10==C0M0Y0K0」と入力する。

- CMYKのうち、チェックマークが外れている色のオブジェクトをプリントしようとしても、そのオブジェクトはプリントされませんが、プリントされる色部分にはそのオブジェクトのノックアウト効果による白い影ができます。
- ［プリフライト］＞［画像警告］＞［ヘアライン警告］が［抽出］、または［オーバープリント警告］が［抽出］のとき、抽出すべきオブジェクトの色のチェックマークが外れている場合は、そのオブジェクトの抽出結果はプリントされません。
- 分版ジョブに対して、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］が［しない］の場合は、Kだけのプリントになります。このときに、2色印刷シミュレーションを実行した場合は、Kがプリントされない設定になっていると、白紙が出力されます。
- 特色が使われているジョブをコンポジットモードでプリントしたときに,2色印刷シミュレーションを実行した場合は、特色をCMYKで表現した値に対して2色印刷シミュレーションが行われるため、特色とは異なる色になります。
- 2 色印刷シミュレーションでは、特色を使用しないように設定するか、または分版出力を行ってください。
- 分版出力では、2 色シミュレーションでも、特色は特色のシミュレーションが行われてプリントされます。
- InDesign 1.0のコンポジットプリントでは、トンボは単色Kでプリントされるので、トンボをプリントするにはK版をプリントするように設定してください。
- InDesign 2.0 や Illustrator 9.0/10.0 のコンポジットプリントでは、レジストレーションカラーが使用されたオブジェクト（トンボも含む）は、2 色印刷シミュレーションの対象とはなりません。その場合、［画質］＞［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］の場合、2色印刷シミュレーションが行われます。
- PDF 内のオーバープリントが使用されているオブジェクトは、2 色印刷シミュレーションの対象にはなりません。（セパレーションカラースペースが設定されるため）
- その場合、［画質］＞［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］の場合、2色印刷シミュレーションが行われます。

1.1.3　画像警告機能

設定した要素が含まれるオブジェクトを警告してプリントされます。

この機能を使うと、印刷時にトラブルとなる危険性のあるオブジェクトが検出、警告され、プリント時に確認できます。

画像警告機能は、以下の場合に有効になります。

・ServerManager の［システム］→［プリントジョブの設定］の［画像警告指定］が［無視しない］の場合

・プリントオプションの［RIP］＞［RIPの種類］が［CPSI］のジョブの場合

警告が複数ある画像の警告優先順位は以下のとおりです。
コンポジットプリント時は、「特色→ヘアライン→オーバープリント→RGB画像/インキ総量」の順です。（インキ総量警告を有効にすると、RGB画像警告は実施されません）
分版出力時は、「ヘアライン→インキ総量→特色」の順です。（分版出力時は、オーバープリント警告、RGB画像警告は実施されません）

■RGB画像警告

印刷時に問題が発生するRGB、およびCIE画像が警告色でプリントされます。

RGBイメージやRGBオブジェクトなどのRGB画像はマゼンタで、CIE画像はシアンの警告色でプリントされます。

RGB画像データは、印刷用分版出力時に、K版で出力されてしまうことがあります。このため、コンポジットプリンターへのプリントではカラーでプリントされても、オフセット印刷などのための分版出力では白黒で印刷されることがあります。

RGB画像警告は、RGB画像やCIE画像をプリント時に検出して、印刷時のトラブルを防止するための機能です。

通常プリント

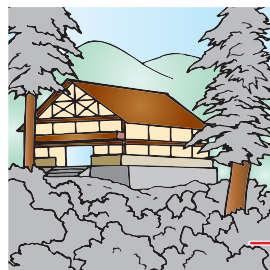
警告オンでプリント

- RGB画像警告は、プリントオプションの［2色印刷シミュレーション］を設定している場合、コンポジットプリント時は、2色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、有効になります。
  分版出力時は、2色印刷シミュレーションで警告色の色版が設定されている場合にだけ、有効になります。
- プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合は、RGB画像警告機能は無効になります。
- RGB画像警告機能は、コンポジットカラープリントのジョブに対して有効です。アプリケーションから色分版出力している場合は、アプリケーションがRGBやCIE画像をKだけの画像などにしてプリントするので、イメージセッターなどへ色分版出力している場合と同様のプリントになります。
- RGB画像警告機能が有効の場合は、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定）］＞［RGB色補正］の設定は無視されます。
- CIE画像とは、CIE色空間で色を記述した画像のことです。たとえば、Photoshopでポストスクリプトカラーマネージメント機能を有効にすると、RGB画像は自動的にCIE画像に変換されます。またCMYK画像は、カラープロファイルを埋め込んだ形でCIE画像に変換されます。
- Macintosh クライアントでは、CMYK画像を扱えるアプリケーションからプリントすると、RGB画像警告が有効になります。RGB画像しか扱えないアプリケーションからプリントすると、RGB画像警告は無効になります。

RGB画像警告が有効になるアプリケーションを変更することも可能です。変更の方法は、「警告の対象になるアプリケーションの変更」（P.353）を参照してください。なお、RGB画像警告が有効になる以下のアプリケーションが、あらかじめ登録されています。
Illustrator、InDesign、PageMaker、QuarkXPress

■特色警告

特色が使用されている部分が警告色でプリントされます。データ再利用時などに意図せず特色を使用してしまった場合でも、事前に検出することができ、オフセット印刷時にCMYK版以外の版が生成されることを防ぎます。

通常プリント　　警告オンでプリント

補足

- 特色警告は、プリントオプションの［カラー］>［2色印刷シミュレーション］の設定にかかわらず、有効になります。
- プリントオプションの［カラー］>［2 色印刷シミュレーション］が設定されていて、以下のプリントオプションを設定すると、特色警告は無視されます。
  - 分版合成/In-RIPセパレーションに対して、［カラー］>［カラーモード］が［グレースケール(K)］の場合
  - 分版出力されているジョブに対して、プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［色分版の合成］が［しない］の場合
  - コンポジットプリントされているジョブに対して、プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［色分版の合成］が［コンポジット分解］の場合

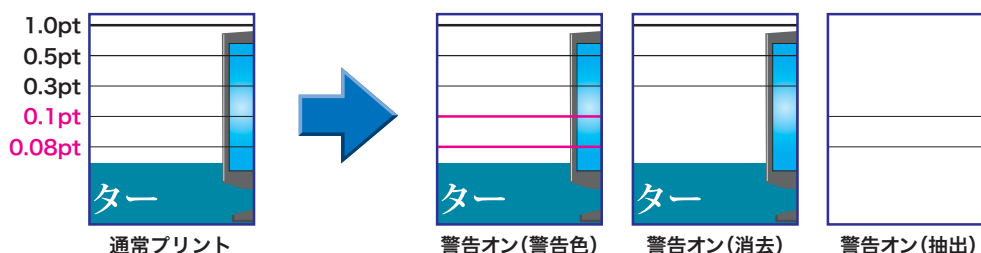
■インキ総量警告

通常プリント　　警告オンでプリント

ファイル内に、設定した数値以上のインキ総量を持つオブジェクトが存在する場合、そのオブジェクトは警告色でプリントされます。

- インキ総量警告は、プリントオプションのプリントオプションの［カラー］>［2色印刷シミュレーション］が有効の場合、2色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、無効になります。
- プリントオプションの［カラー］の［ラスター色補正モード］のチェックマークが外れている場合、インキ総量警告は、CMYK/RGB/CIE画像だけに適用されます。チェックマークが付いている、または［画質］>［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、［プロセスカラー＋特色］の場合、インキ総量警告は、すべてのオブジェクトに適用されます。
- 分版合成/In-RIPセパレーションでは、全面（すべてのオブジェクト）に対して適用されます。ただし、プリントオプションの［カラー］>［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は無効です。

■ヘアライン警告

警告幅よりも細い線が抽出、消去、または警告色でプリントされます。オフセット印刷で消えてしまったり、かすれてしまったりする可能性のある線を検出できます。検出する線幅は、［警告幅］で設定します。

- Illustratorなどで作成したEPSファイルを縮小して割り付けた場合、縮小後の線幅もヘアライン警告で検出できます。
- PageMakerは、線幅の設定をデバイスの1ピクセル幅単位にまるめてプリントするので、600dpiのプリンターに対しては0.12ptよりも細い線がプリントされません。このため、PageMakerで作成した描画オブジェクトには、ヘアライン警告機能が正しく適用されません。
  なお、PageMakerに割り付けたEPSファイルに含まれる細線には、正しく適用されます。
- InDesign 1.0/2.0で、鉛筆ツールや楕円形ツールで描いた曲線にグラデーションで塗りを使用したオブジェクトは、ヘアライン警告機能では検出できません。
- Illustrator で、曲線にパターンで塗りを使用したオブジェクトにはヘアライン警告は有効ですが、警告色の場合は、警告幅での曲線は外形がギザギザになります。
- Illustrator 9.0/10.0で、「コンポジットプリントでのオーバープリントを無視」を無効にしてプリントすると、Illustrator が線オブジェクトを塗り図形オブジェクトに変換するため、ヘアライン警告機能が効かないことがあります。「コンポジットプリントでのオーバープリントを無視」を有効にすると、レイアウトした線はそのままプリントされるので、ヘアライン警告機能が有効になります。
- Illustrator 9.0 は、EPS 作成時に線オブジェクトを塗り図形オブジェクトに変換してしまうことがあります。その場合は、Illustrator 9.0.2を使用してください。
- ヘアライン警告は、プリントオプションのプリントオプションの［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］が有効の場合、コンポジットプリント時は、2 色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、ヘアライン警告は有効になります。
  分版出力時は、2 色印刷シミュレーションで警告色の色版が設定されている場合にだけ、有効になります。
- この機能は、線に有効であり、イメージや図形には無効です。
- 下地がある場合のヘアライン警告の消去
  ヘアライン警告機能の消去は、警告されるオブジェクトの下地に別のオブジェクトが存在する場合は、ヘアラインオブジェクトを消去したうえで、下地のノックアウト（下地への白い線の描画）も行わないようにしています。これは、下地に対する細い白抜きはつぶれてしまい再現されないという現象をシミュレーションするものです。
- この機能は、コンポジットモードだけではなく、分版合成モードでも有効です。

■オーバープリント警告

モニターや通常のプリントで確認が困難なオーバープリントやトラッピングが指定されているオブジェクトを抽出、または警告色でプリントして確認できます。

通常プリント

警告オンでプリント（警告色）

コンポジット再現プリント

警告オンでプリント（抽出）

グレースケールモードでも指定できます。グレースケールモードで警告色を指定した場合は、K70%でプリントされます。

- アプリケーションからコンポジットプリントを設定した版にだけ、有効です。
- 分版合成モード（InDesignで設定できるInRIPセパレーションモードも含む）では、オーバープリントやトラッピングが設定どおりにプリントされるため、オーバープリント警告機能を設定しても、自動で無効になります。
- 白オブジェクト（C-0,M=0,Y=0,K=0）にオーバープリント指定、トラッピング指定（スプレッド）が指定されているときは、オーバープリント警告は効かないように設定してあります。
  設定を変更する場合は、「7.1 RIP処理に関する設定」（P.352）を参照してください。
- Illustrator 9.0/10.0は、オーバープリントをシミュレーションしてプリントするため、オーバープリント警告機能は無効になります。
- PageMaker、およびInDesignでは、紙白に対してオーバープリント警告機能が働かないように設定してあります。これは、オーバープリントかつ紙白を設定してプリントすると、白のノックアウトのPostScriptコードが、必ず出力されるためです。
- InDesign 2.0には、オーバープリント処理にした場合と同様の結果になる「オーバープリント処理」モードがあります。この場合、アプリケーションからはオーバープリントを行ったように見えるコンポジットプリントのオブジェクトをプリントしてくるので、オーバープリント警告機能は働きません。
- QuarkXPress 3.3Jで、プリンターの設定ファイルとしてPPDファイルを使用しているときには、オーバープリント警告機能は働きません。プリンターの設定ファイルには、PDF ファイル（QuarkXPress 3.3用のプリンター設定ファイル）を設定してください。
- オーバープリント警告は、プリントオプションの［カラー］＞［2 色印刷シミュレーション］の設定にかかわらず、有効になります。

警告色や対象とするアプリケーションを変更する場合は、「7.1 RIP 処理に関する設定」（P.352）を参照してください。

■QRコード検出

QRコードの数を確認できます。（QRコード自体の解析は行われません）

以下のように、検出された数と色が印字されます。

・検出数が0個のとき：「QRコードチェック済み」

・検出数が1個のとき：「QRコードが検出されました（カラー）」

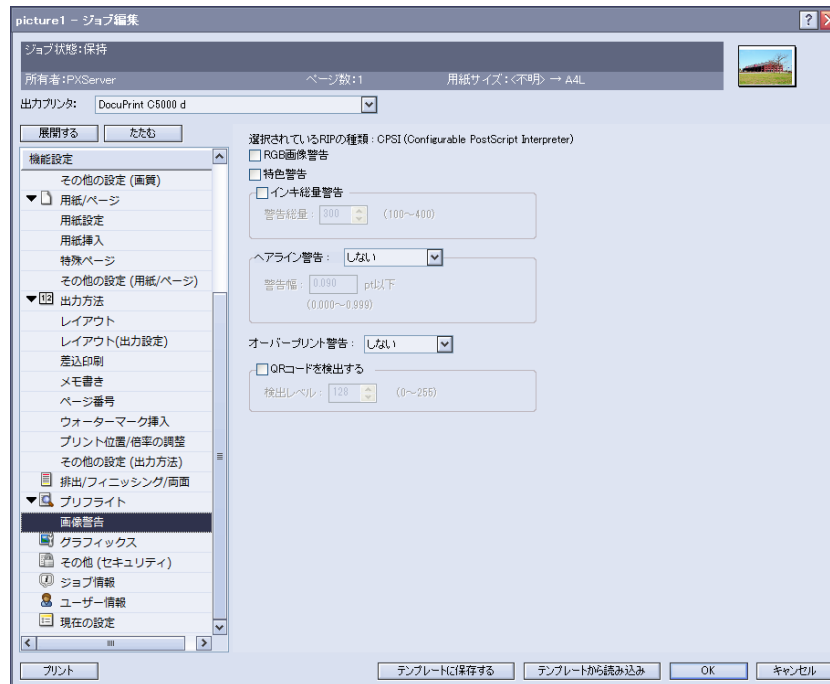
・検出数が2個以上のとき：「＊個のQRコードが検出されました（グレー＊個 反転＊個, カラー＊個：CM)」

画像警告の設定

操作手順

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［プリフライト］＞［画像警告］を選択します。

   設定項目が表示されます。

   参照　各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（画像警告）」（P.24）を参照してください。

3. 警告する項目にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定（画像警告）

警告色などの各画像警告機能のデフォルトの設定値を変更できます。詳細は、「7.1 RIP処理に関する設定」（P.352）を参照してください。

項目		説明
RGB画像警告		チェックマークを付けると、RGB画像警告されます。
特色警告		チェックマークを付けると、特色警告されます。
インキ総量警告		チェックマークを付けると、インキ総量警告されます。
	警告総量	［インキ総量警告］にチェックマークを付けると、警告するインキの総量を入力できます。入力した総量の値以上の部分が警告色でプリントされます。入力範囲は、100〜400です。
ヘアライン警告	しない	ヘアライン警告をしません。
	警告色	**デフォルト：**マゼンタ100%/3pt幅、グレースケールモード：60%/20pt幅 細線が警告のための色と太さでプリントされます。 IllustratorやInDesignなどで作成できる幅のない直線「fill」は、警告のための色と鎖線パターンでプリントされます。
	消去	細線が消去されてプリントされます。
	抽出	ファイルから細線だけが抜き出されてプリントされます。細線がない場合は、白紙でプリントされます。
	警告幅	［しない］以外の場合、警告する線の幅を入力します。入力した幅の値以下の部分が警告色でプリントされます。 入力範囲は、0.000〜0.999ptです。
オーバープリント警告	しない	オーバープリント警告をしません。
	警告色	**デフォルト：**シアン30%/ マゼンタ70%/ イエロー30%、グレースケールモード：70% オーバープリントが使用されている部分が警告色でプリントされます。
	抽出	ファイルがオーバープリント指定している部分だけを抜き出して、プリントされます。設定している部分がない場合は、白紙でプリントされます。 参照 白いオーバープリントオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K20%で抽出描画するようになっています。 描画色を変更する場合は、「7.1 RIP処理に関する設定」(P.352)を参照してください。
QRコードを検出する		チェックマークを付けると、QRコードの総数が印字されます。
	検出レベル	QRコード検出時の2値化処理に使用する、しきい値を入力します。入力範囲は、0〜255です

1.1.4　プリフライト

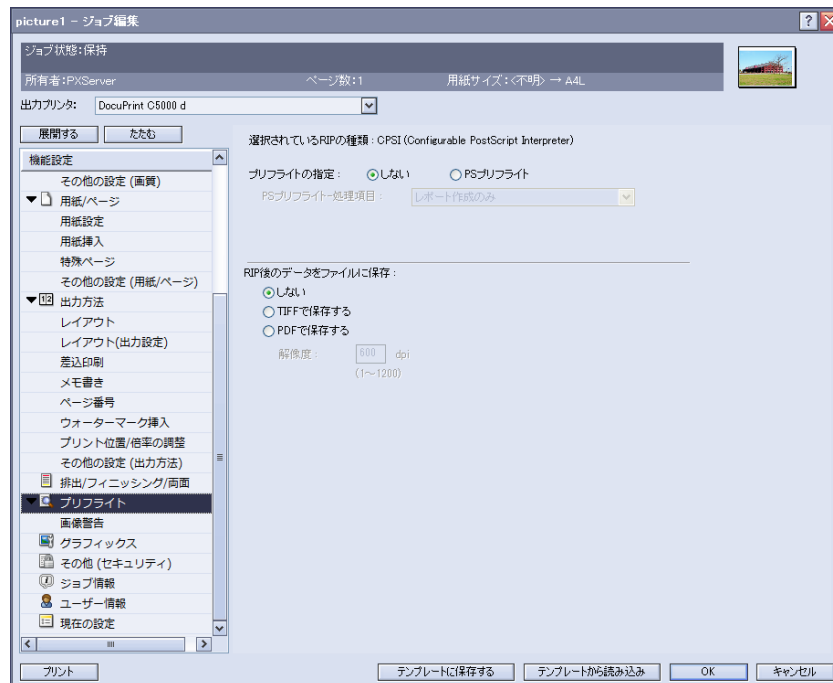
プリフライトを行うことにより、使用されているフォントや色空間などが適正であるかを印刷する前に確認することができます。

プリフライトの設定

操作手順

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［プリフライト］を選択します。

   設定項目が表示されます。

各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（プリフライト-プリフライトの指定）」（P.26）を参照してください。

3. ［プリフライトの指定］を選択します。

プリントオプションの設定（プリフライト-プリフライトの指定）

選択されているRIPの種類：CPSI (Configurable PostScript Interpreter)
プリフライトの指定： ○しない ◉PSプリフライト
PSプリフライト-処理項目： レポート作成のみ

項目			説明
しない			プリフライトをしません。
PSプリフライト			PSプリフライトでチェックされる項目は、以下のとおりです。 ・ファイルサイズ ・ドキュメント名 ・アプリケーション/ドライバ ・ユーザー名 ・ページ数 ・用紙サイズ ・PostScriptメッセージ ・使用している色空間 ・使用しているフォント ・使用しているスポットカラー（特色） ・例外ページ 補足 PDFファイルに対してもPSプリフライトが実行できます。
	PSプリフライト-処理項目	レポート作成のみ	PSプリフライトが実行され、レポートが作成されます。［プリフライトレポート］ダイアログボックスが表示されます。 参照 ［プリフライトレポート］ダイアログボックスについては、「［プリフライトレポート］ダイアログボックス」（P.26）を参照してください。
		レポート作成とレポート印刷	PSプリフライトが実行され、レポート作成後にプリントされます。［プリフライトレポート］ダイアログボックスが表示されます。 参照 ［プリフライトレポート］ダイアログボックスについては、「［プリフライトレポート］ダイアログボックス」（P.26）を参照してください。

［プリフライトレポート］ダイアログボックス

項目	説明
未登録の特色を登録する	管理者モードのとき、PSプリフライトを実行した結果、登録されていない特色が検出されたときは、［プリフライトレポート］ダイアログボックスの［未登録の特色を登録する］が有効になります。 ［未登録の特色を登録する］をクリックすると、検出された未登録の特色をPrint Serverに登録できます。 補足 特色名にMac OSの機種依存文字が含まれる場合、Print Serverでは特色名が文字化けすることがあります。 参照 特色の登録については、「2.8.1 特色の設定」（P.134）を参照してください。

1.1.5　ファイルの保存とイメージの確認

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP 後のデータをファイルに保存］＞［TIFF で保存する］、または［PDFで保存する］を選択してジョブをTIFFファイル、またはPDFファイルで保存できます。

Print Serverと接続しているクライアントコンピューターから、保存されているファイルに対して、以下の操作ができます。

・ファイルの取得

・ファイルの一覧表示

・Print Serverに保存されているファイルの削除

取得したファイルは、プリント結果を確認できます。

WebManagerを使用して、ブラウザーから同様の操作を行うこともできます。

Print Serverで作成したファイルは、RIP後のイメージとしてだけ使用することができます。

- WebManagerを使用したブラウザーからのファイルの確認、操作方法については、「ファイルのダウンロード」（P.303）を参照してください。
- ジョブをファイルで保存する操作手順については、「RIP 後のデータをファイルに保存」（P.261）を参照してください。

Macintoshクライアント

Macintoshクライアントからファイルを取得するには、AppleShareを使用します。

ここでは、Mac OS X 10.5の画面を例に説明します。

AppleShareを使用してファイルを取得するには、AppleTalkプロトコルとフォルダーの共有設定が必要です。詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1.2 Macintoshクライアント用のプロトコル設定と論理プリンタの作成」を参照してください。

操作手順

1. プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択し、ジョブを実行します。

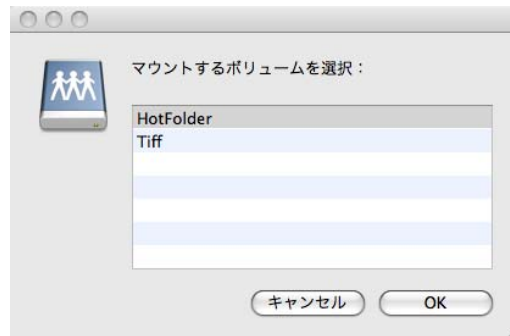
   参照　ファイルの保存方法については、「RIP後のデータをファイルに保存」（P.261）を参照してください。

2. ［移動］→［サーバへ接続］を選択します。

3. ［サーバアドレス］にPrint ServerのIPアドレスを入力し、［接続］をクリックします。

4. 名前とパスワードを入力して、[接続] をクリックします。

- 名前、およびパスワードは、ネットワーク管理者に確認してください。Mac OS X 10.5 以降のクライアントコンピューターでは、[ゲスト] を選択してください。
- Mac OS X 10.5 以降のクライアントコンピューターでは、名前とパスワードによる認証には対応していません。AppleTalk 設定ツールの [共有設定] でゲストアクセスを許可してください。共有設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1.2 Macintosh クライアント用のプロトコル設定と論理プリンタの作成」を参照してください。

5. [Tiff] を選択し、[OK] をクリックします。

6. ファイルが格納されているフォルダーを選択します。

7. アプリケーションを使ってファイルを開きます。

Windowsクライアント

Windowsクライアントからファイルを取得するには、Microsoftネットワーク共有機能を使用します。

参照　共有設定については、「7.3.2 フォルダーの共有」（P.370）を参照してください。

1. プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択し、ジョブを実行します。

   参照　ファイルの保存方法については、「RIP後のデータをファイルに保存」（P.261）を参照してください。

2. クライアントコンピューターのデスクトップにある、［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。
3. Print Serverがあるドメイン、またはワークグループをダブルクリックします。
   ［Tiff］フォルダーが表示されます。

   補足　ファイルが保存されているフォルダーについては、ネットワーク管理者に確認してください。

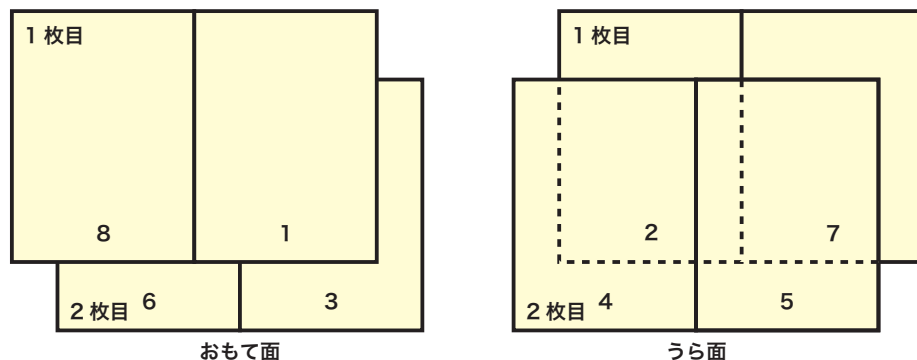
4. ［Tiff］フォルダーをダブルクリックします。
   保存されているファイルが表示されます。
5. アプリケーションを使ってファイルを開きます。

1.2　さまざまな割り付け方法でプリントする

ここでは、プリント時に使うさまざまな割り付け機能について説明します。

1.2.1　小冊子作成

小冊子作成機能を使うと、プリントされた用紙をまとめて中央で二つ折りしてとじたとき、小冊子の形になるようにプリントできます。プリントするときは、ページ番号が順番に並ぶように自動的に調整しながら、両面印刷されます。

例）A4サイズ8ページ分のファイルを左とじでA3にプリントした場合

中とじ以外のとじ方には、対応していません。

●ジョブの1ページの用紙サイズ

クライアントコンピューターのプリンタードライバーからブックレット専用の用紙サイズを選択すると、のどあき部分（ページの余白）にもイメージをプリントできます。

補足　A4など定型サイズの用紙を選択した場合は、のどあき部分にプリンターで8mmの余白が付きます。

小冊子作成ができるジョブの用紙サイズは、以下のとおりです。

- A4L
- A4
- B5L
- B5
- 8×10L
- 8×10
- 8.5×11L
- 8.5×11
- 8.5×13
- 8.5×14
- はがき
- 往復はがき
- 4連はがきL
- 4連はがき
- 封筒長形3号
- 封筒C4
- A6ブックレット
- A5ブックレット
- A4ブックレット
- B6ブックレット
- B5ブックレット
- 8.5×11ブックレット
- カスタム

●仕上がりの用紙サイズ

プリントされる用紙サイズは、プリントオプションの［出力方法］>［レイアウト（出力設定）］>［出力用紙サイズ］が［自動］の場合、もとのサイズの2倍の大きさになります。

たとえば、A4サイズのジョブは、A3サイズでプリントされます。

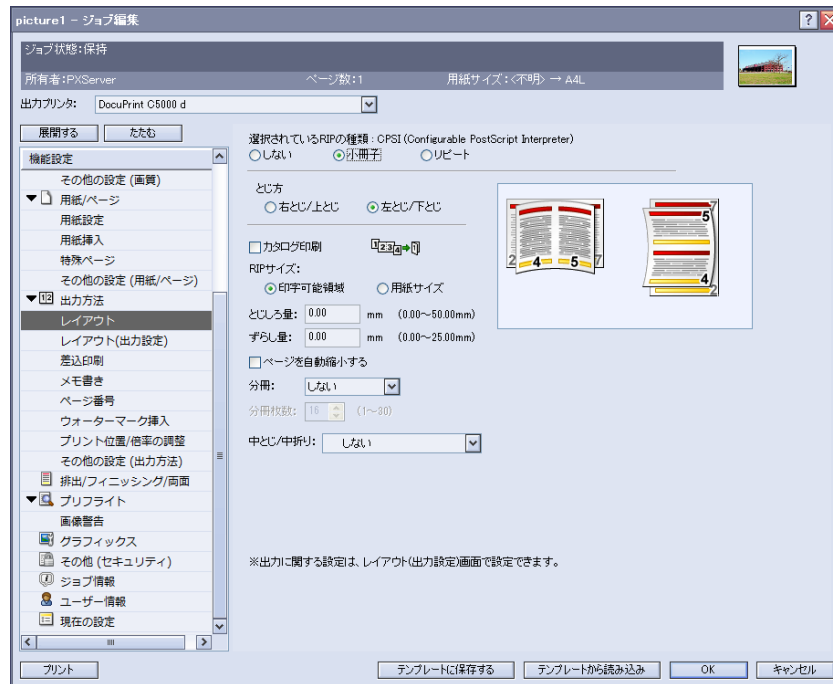
- ジョブの用紙サイズがカスタムサイズの場合、ジョブの用紙サイズの2倍の大きさがプリンターで使用可能な用紙サイズになるように、［出力用紙サイズ］を設定してください。
- A5ブックレットサイズのジョブを小冊子作成する場合は、トレイにA4用紙をセットしてください。A4L用紙では、正しくプリントされません。
- B6ブックレットサイズのジョブを小冊子作成する場合は、トレイにB5用紙をセットしてください。

操作手順

1. プリントオプションを表示させせます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させせます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］>［レイアウト］を選択します。

3. ［小冊子］を選択します。

設定項目が表示されます。

ServerManagerの［ジョブ］→［小冊子作成］を選択しても、プリントオプションを表示できます。

各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（レイアウト-小冊子）」（P.32）と「プリントオプションの設定（レイアウト（出力設定））-選択されているレイアウト：小冊子」（P.34）を参照してください。

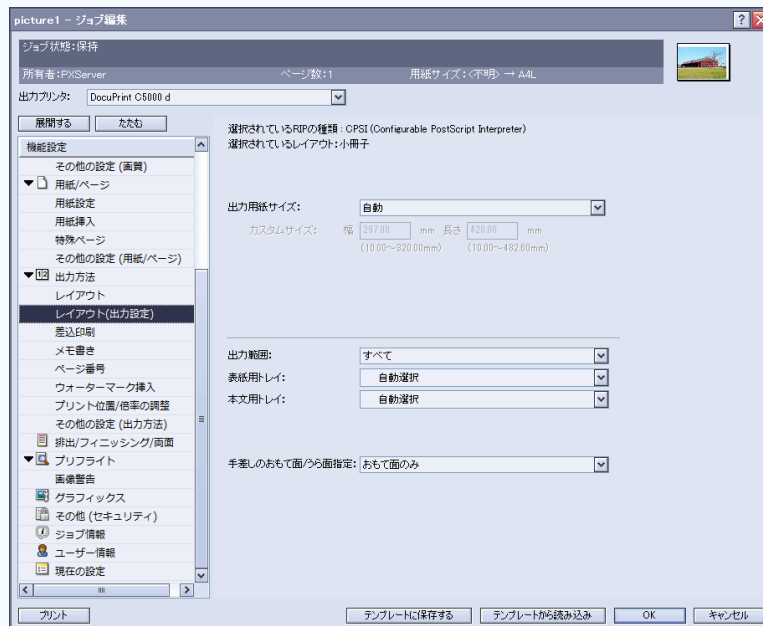
・1枚の用紙の両面に、それぞれ2ページずつプリントされます。
・プリントされた用紙を重ね合わせて中央で二つ折りにすると、正しいページ順序になり、そのまま小冊子のようにとじることができます。

プリントオプションの設定（レイアウト-小冊子）

項目	説明
とじ方	とじ方を選択します。小冊子の状態にしたときに、ページを開く方向をどちら側にするかを選択します。 ・［右とじ/上とじ］は、縦向き原稿の場合は右側をとじるように、横向き原稿の場合は上側をとじるようにプリントされます。 ・［左とじ/下とじ］は、縦向き原稿の場合は左側をとじるように、横向き原稿の場合は下側をとじるようにプリントされます。
カタログ印刷	チェックマークを付けると、用紙サイズが混在しているファイルから小冊子が作成されます。 たとえば、A4-A3-A3-A4という混在ファイルから小冊子が作成されます。 補足　ジョブの用紙サイズがカスタムサイズの場合、カタログ印刷はできません。
RIPサイズ	元原稿をRIP処理する場合の処理範囲を選択します。プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスでは設定できません。
印字可能領域	印字可能領域でRIP処理され、イメージの周りに余白が付きます。
用紙サイズ	各ページは原稿のページサイズでRIP処理されます。
とじしろ量	二つ折りにした場合の折り部分のとじしろ量を入力します。入力範囲は、0.00～50.00mmです。
ずらし量	二つ折りにした場合に、小冊子の一番外側の用紙から一番内側の用紙に向かって生じる、各用紙内のページのずれを抑えることができます。 合計のずらし量を入力します。入力範囲は、0.00～25.00mmです。
ページを自動縮小する	チェックマークを付けると、とじしろ量を入力することによって、狭くなった印字領域内に画像が収まるように、自動で縮小されます。
分冊	分冊にせずに用紙をすべてかさねて小冊子にするか、分冊にして小冊子にするかを選択します。 ・しない　・自動分冊　・枚数指定 ［自動分冊］は、1冊の枚数が均等になるように複数の小冊子が作成されます。 1冊あたりの最大枚数は、［中とじ/中折り］が［しない］の場合は16枚、［中とじ（2-15枚）］の場合は15枚、［中折り（1-5枚）］の場合は5枚です。
分冊枚数	［分冊］が［枚数指定］の場合に入力します。入力された枚数で複数の小冊子が作成されます。入力範囲は、1～30です。 たとえば、原稿が10ページで［分冊枚数］が4の場合、それぞれ4、4、2枚の小冊子に分けてプリントされます。 ただし、［中とじ/中折り］が［中とじ（2-15枚）］の場合は2～15枚、［中折り（1-5枚）］の場合は1～5枚の範囲で枚数を入力します。

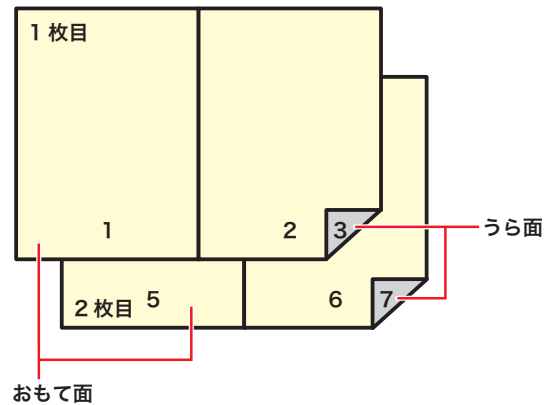
項目	説明
中とじ/中折り	小冊子の仕上がりを選択します。 ・しない　・中とじ（2-15枚）　・中折り（1-5枚） ［中とじ（2-15枚）］、または［中折り（1-5枚）］の場合、［分冊］、および［分冊枚数］の設定に従って、中とじ、または中折りが行われます。 補足 ・オプション装置の中とじフィニッシャー C1 が装着されている場合にだけ、中とじ/中折りができます。 ・［分冊］が［しない］の場合、［中とじ（2-15 枚）］では、プリント枚数が16枚以上のとき、ジョブはキャンセルされ、エラーになります。 ・［分冊］が［しない］の場合、［中折り（1-5枚）］では、最大5枚単位で中折りが行われます。分冊の必要がない場合は、プリント後に手動で並べ替えてください。 ・排出先の設定にかかわらず、フィニッシャーに排出されます。

プリントオプションの設定（レイアウト（出力設定））-選択されているレイアウト：小冊子

機能設定ツリーから［レイアウト（出力設定）］を選ぶと、出力に関する設定ができます。

項目	説明
出力用紙サイズ	プリントする用紙サイズを選択します。 ［自動］の場合、イメージが収まる印字エリアを持つ用紙サイズのうち、用紙トレイにセットされている最小の用紙が選択されます。イメージが収まる印字エリアを持つ用紙サイズが用紙トレイにセットされていない場合は、用紙トレイにセットされている最大の用紙が選択されます。
カスタムサイズ	［出力用紙サイズ］が［カスタム］の場合に入力します。入力範囲は、幅 10.00 ～ 320.00mm/長さ 10.00～482.60mm です。 補足 プリンターで使用可能な範囲のサイズを入力してください。
出力範囲	プリントする用紙の範囲を選択します。［表紙のみ］、［本文以降］は、表紙だけ厚紙などにする場合に選択します。
すべて	すべての用紙がプリントされます。
表紙のみ	小冊子になったときの表紙の用紙だけがプリントされます。 たとえば、8 ページの原稿の場合、1、2、7、8 ページが印字された用紙がプリントされます。
本文以降	小冊子になったときの本文以降の用紙がプリントされます。 たとえば、8 ページの原稿の場合、3、4、5、6 ページが印字された用紙がプリントされます。
表紙用トレイ	表紙用（1 枚目）の用紙に使用する用紙トレイを選択します。
本文用トレイ	本文用（2 枚目以降）の用紙に使用する用紙トレイを選択します。 補足 ［本文用トレイ］で用紙トレイを選択した場合は、［表紙用トレイ］でも同じサイズになるように、用紙トレイを選択してください。
手差しのおもて面/うら面指定	手差しトレイからプリントする場合の印字面を指定します。 ・自動両面　・おもて面のみ　・うら面のみ

1.2.2　2アッププリント

ServerManagerで2アップを選択すると、複数ページのファイルが1枚の用紙に2ページずつ割り付けてプリントされます。

例）A4サイズ8ページ分のファイルをA3に両面でプリントした場合

● ジョブの1ページの用紙サイズ

2アップができるジョブの用紙サイズは、以下のとおりです。

・A4L
・A4
・B5L
・B5
・8×10L
・8×10
・8.5×11L
・8.5×11
・8.5×13
・8.5×14
・はがき
・往復はがき
・4連はがきL
・4連はがき
・封筒長形3号
・封筒C4
・カスタム

仕上がりの用紙サイズ

プリントされる用紙サイズは、もとのサイズの2倍の大きさになります。
たとえば、A4サイズのジョブは、A3サイズでプリントされます。

- ジョブの用紙サイズがカスタムサイズの場合、ジョブの用紙サイズの2倍の大きさがプリンターで使用可能な用紙サイズになるように、出力用紙サイズを設定してください。
- 2アッププリントが選択できるのは、ServerManagerの［ジョブ］メニューだけです。
- 2アッププリント時は、以下のプリントオプションは無視されます。
  - ［レイアウト］＞［小冊子］、［リピート］
  - ［用紙/ページ］＞［用紙トレイ］
  - ［出力方法］（または［排出/フィニッシング/両面］）＞［両面］
  - ［出力方法］＞［RIP済みデータの保存］
  - ［排出/フィニッシング/両面］＞［最終ページから印刷］
  - ［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、［PDFで保存する］

操作手順

1. ServerManagerの保持リストから2アッププリントをするジョブを選択します。

   検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。

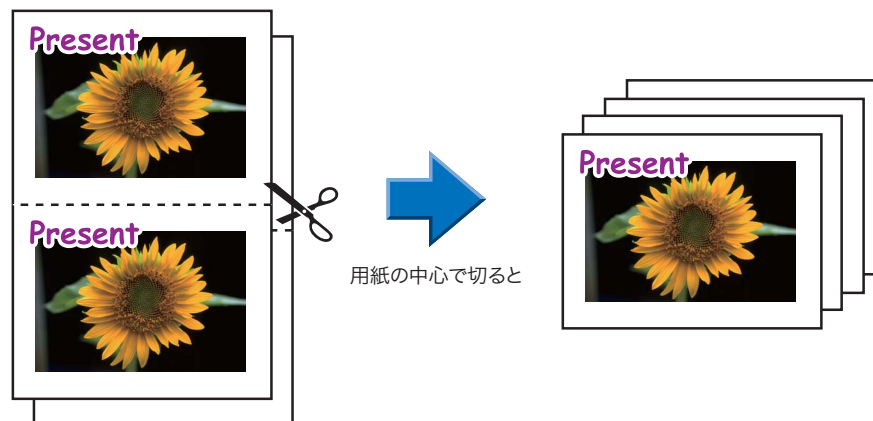
2. ［ジョブ］→［2アップ］を選択します。

3. ［用紙トレイ］を選択します。

4. 両面プリントする場合は、［両面印刷］で［短辺とじ］、または［長辺とじ］を選択します。

5. ［OK］をクリックします。

1.2.3　リピートプリント

ServerManagerでリピートプリントを選択すると、原稿イメージを1枚の用紙に繰り返してプリントされます。繰り返し回数は、選択用紙と原稿イメージサイズから算出した最大数になります。
プリント後に、用紙を断裁すると、1枚の用紙から複数枚の印刷物を作成できます。

●仕上がりの用紙サイズ

リピートしたジョブをプリントできる用紙サイズは、以下のとおりです。

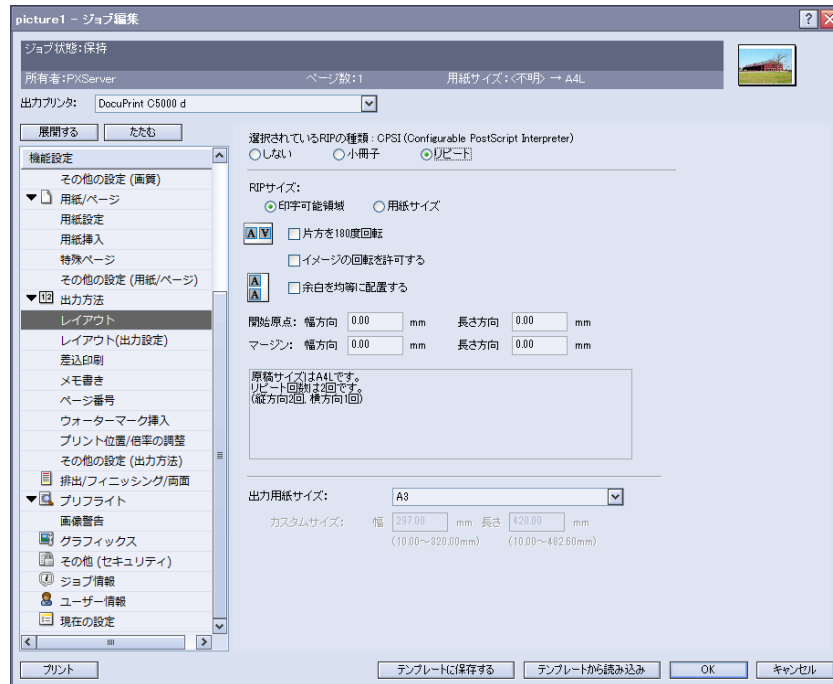
・A6L	・A6	・A5L	・A5
・A4L	・A4	・A3	・B6
・B5L	・B5	・B4	・8×10L
・8×10	・8.5×11L	・8.5×11	・8.5×13
・8.5×14	・11×17	・12×18	・SRA3
・はがき	・往復はがき	・4連はがきL	・4連はがき
・封筒長形3号	・封筒角型2号	・封筒C4	・封筒C5
・A6ブックレット	・A5ブックレット	・A4ブックレット	・B6ブックレット
・B5ブックレット	・8.5×11ブックレット	・カスタム	

操作手順

1. プリントオプションを表示させせます。

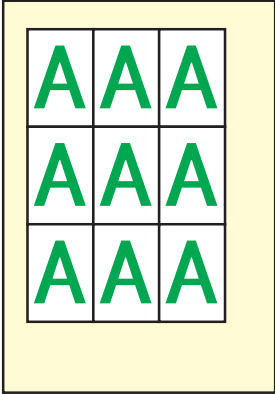
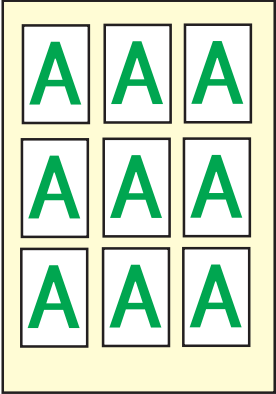
   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させせます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］>［レイアウト］を選択します。

3. ［リピート］を選択します。

設定項目が表示されれます。

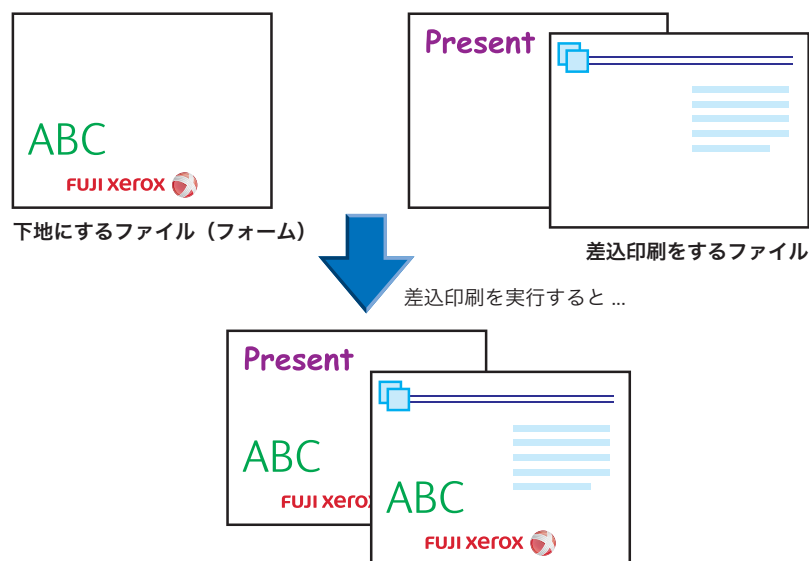
ServerManagerの［ジョブ］→［リピートプリント］を選択しても、プリントオプションを表示できます。

各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（レイアウト - リピート）」（P.38）を参照してください。

プリントオプションの設定（レイアウト - リピート）

項目	説明
RIPサイズ	元原稿をRIP処理する場合の処理範囲を選択します。 元原稿は印字可能領域でクリップされません。 プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスからは設定できません。
印字可能領域	印字可能領域でRIP処理され、この領域内の画像がリピートされます。元原稿は印字可能領域でクリップされます。
用紙サイズ	元原稿のページサイズでRIP処理され、画像がリピートされます。
片方を180度回転	チェックマークを付けると、リピート回数が２回の場合に、片方のイメージを180˚回転してプリントされ、断裁面が統一されるようになります。
イメージの回転を許可する	チェックマークを付けると、イメージの向きと出力用紙の向きからリピート回数が多くなるように自動でリピートイメージが回転されます。 プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスからは設定できません。 補足 イメージのリピート回数が自動的に算出されない場合は、［イメージの回転を許可する］を設定できません。
余白を均等に配置する	チェックマークを付けると、出力用紙の印字可能領域と、リピートイメージサイズからできるリピートイメージ間の余白が均等になるように、リピートイメージが配置されてプリントされます。 AAA AAA AAA 余白を均等に配置しない　AAA AAA AAA 余白を均等に配置する 補足 リピート回数が１の場合は、両端からの余白は自動的に均等に配置されます。

項目		説明
開始原点		［余白を均等に配置する］のチェックマークが外れている場合に入力します。 リピートの開始位置を入力します。入力範囲は、0.00～10.00mmです。 用紙の印字可能位置（原点）からのオフセット値になります。
マージン		［余白を均等に配置する］のチェックマークが外れている場合に入力します。 画像の間隔を入力します。入力範囲は、0.00～10.00mmです。
出力用紙サイズ		プリントする用紙サイズを選択します。
	カスタムサイズ	［出力用紙サイズ］が［カスタム］の場合に入力します。入力範囲は、幅10.00～320.00mm/長さ10.00～482.60mmです。 補足　プリンターで使用可能な範囲のサイズを入力してください。

1.2.4　差込印刷

差込印刷とは、1つのファイルをフォームとして使い、ほかのファイルの内容を重ねてプリントする機能です。
差込印刷用のフォームは、500件まで登録できます。
フォームを使用すると、すべてのページに同じイメージやテキストを配置する必要がないので、ファイルサイズを小さくできます。
フォーム用ファイルのRIP処理が1回で済むので、複数ページをプリントするときにプリント処理が速くなります。

- 下地にするファイルと下地の上に合成するファイルのイメージが重なる場合、下地になるほうは上のファイルのイメージに上書きされます。
- ServerManager の保持リストで複数のジョブを選択した場合は、メニューから直接［差込印刷］を選択できません。複数のジョブを一括して差込印刷を選択する場合は、プリントオプションから選択してください。
- 複数ページのジョブも、フォームとして登録できます。フォームの最終ページまで使用されると、先頭ページに戻ります。また、プリントオプションで、あらかじめページ範囲を設定すると、設定したページだけをフォームとして使うこともできます。

差込印刷ができるジョブの条件は、以下のとおりです。

●ファイルフォーマット

・PostScript　　・PDF

●用紙サイズ

- A6L
- A6
- A5L
- A5
- A4L
- A4
- A3
- B6
- B5L
- B5
- B4
- 8×10L
- 8×10
- 8.5×11L
- 8.5×11
- 8.5×13
- 8.5×14
- 11×17
- 12×18
- SRA3
- はがき
- 往復はがき
- 4連はがきL
- 4連はがき
- 封筒長形3号
- 封筒角型2号
- 封筒C4
- 封筒C5
- A6ブックレット
- A5ブックレット
- A4ブックレット
- B6ブックレット
- B5ブックレット
- 8.5×11ブックレット
- カスタム

フォームの登録

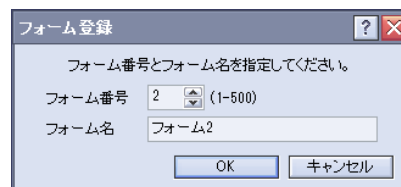
操作手順

1. 下地としてフォームに登録するジョブとその上に重ねるジョブをServerManagerの保持ジョブに保存します。
2. ［管理］→［フォーム管理］を選択します。

3. 下段のリストからフォームとして登録するジョブを選択し、［登録］をクリックします。

- 上段は、フォームとして登録済みのジョブのリストです。
- 下段は、ServerManagerに保存されている、未登録のジョブのリストです。

- 下段のジョブリストは、ServerManagerのジョブリストと同じ色の文字で表示されます。
- 下段のジョブリストは、ファイルタイプがPS、またはPDFのときに表示されます。また、プリントオプションの［RIP］＞［RIPの種類］が［APPE］のジョブは表示されません。
- 下段のジョブを上段の登録する番号にドラッグ＆ドロップしても、フォームとして登録できます。
- 上段のリストからフォームを選択してダブルクリックすると、ジョブに関する情報が確認できます。

4. フォーム番号を選択し、フォーム名を確認して［OK］をクリックします。

5. ［フォーム管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

6. RIP 済みデータの作成が必要な場合は、RIP 済みデータを作成するダイアログボックスが表示されるので、［はい］をクリックします。

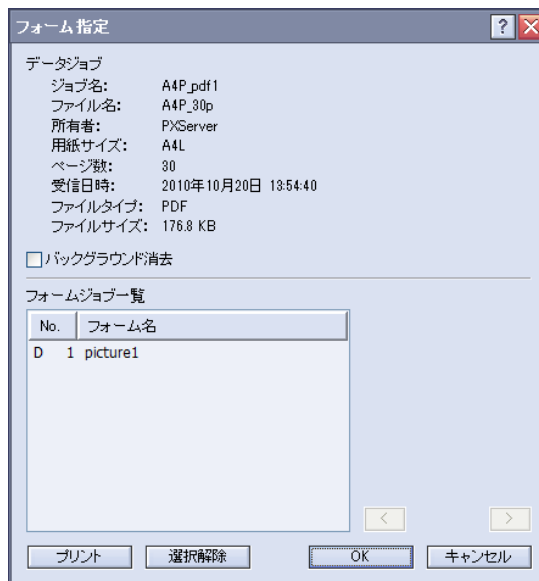
- ［いいえ］をクリックすると、RIP済みデータは作成されません。
- RIP済みデータを持たないフォームを使ってクライアントコンピューターから差込印刷をすると、ジョブがエラーになります。

補足　一般ユーザーモードでは、設定したジョブが RIP 済みデータを持っていなくても、RIP 済みデータを作成するためのダイアログボックスは表示されません。

差込印刷の設定

■［ジョブ］メニュー

操作手順

1. ServerManager の保持リストからフォームの上に重ねるジョブを選択します。
   - 保持リストの別々のフォルダーからも選択できます。
   - 検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。
2. ［ジョブ］→［差込印刷］を選択します。
3. ［フォームジョブ一覧］から使用するフォームを選択します。

［フォームジョブ一覧］には、フォームとして登録済みのジョブが表示されます。

● バックグラウンド消去

チェックマークを付けると、フォームの上に重ねるファイルを Microsoft PowerPoint などのアプリケーションで作成した場合に、白色の背景が下地のイメージを塗りつぶすことを防ぎます。

以下のジョブはグレーで表示され、フォームとして使用できません。

- 下地の上に合成するジョブと用紙サイズ、プリンターモードの設定が異なるジョブ
- プリントできないエラージョブ

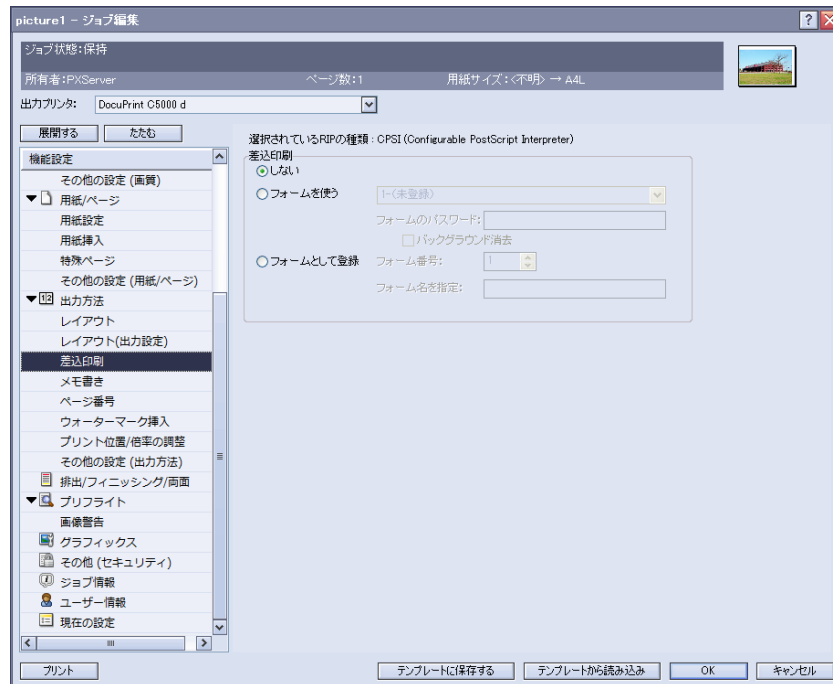
■プリントオプション

プリントオプションを使って差込印刷、およびフォームの登録ができます。

操作手順

1. プリントオプションを表示させせます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させせます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［差込印刷］を選択します。

設定項目が表示されます。

各項目の詳細は、「プリントオプションの設定 （差込印刷）」（P.44）を参照してください。

プリントオプションの設定（差込印刷）

項目		説明
しない		差込印刷をしません。
フォームを使う		あらかじめ Print Server に登録してあるフォームの番号を選択して、差込印刷されます。 プリントオプションの［出力方法］＞［RIP済みデータの保存］にチェックマークを付けた場合は、フォームと合成後にRIP済みデータが保存されます。
	フォームのパスワード	フォームジョブにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 補足　パスワードとして入力できるのは、1バイト文字だけで、5～31バイトの範囲です。
	バックグラウンド消去	チェックマークを付けると、フォームの上に重ねるファイルを Microsoft PowerPoint などのアプリケーションで作成した場合に、白色の背景が下地のイメージを塗りつぶすことを防ぎます。
フォームとして登録		プリントオプションを開いているジョブがフォームとして Print Server に登録されます。
	フォーム番号	フォームを登録する番号を選択します。
	フォーム名指定	フォームの登録名をジョブ名から変更する場合は、新しいフォーム名を 255 バイト以内で入力します。
	強制上書き	補足　プリンタードライバーや DropUtility で、ジョブをフォームとして登録する場合に選択します。 ［差込印刷］の［フォーム番号］で選択したフォーム番号がすでに登録済みの場合、チェックマークを付けると、登録されていたフォームの差込印刷を解除し、選択したフォームを登録し直します。 チェックマークが外れている場合、選択したフォーム番号がすでに登録済みのときは登録できません。ジョブはエラーリストに移動します。 ただし、チェックマークを付けても、登録済みのフォームにセキュリティプリントが設定されていた場合は、登録できません。設定したジョブは差込印刷が解除されてエラーリストに移動します。

フォーム登録の解除

1. ［フォーム管理］ダイアログボックス内の上段のリストから解除するジョブを選択し、［解除］をクリックします。
2. RIP済みデータの削除を確認するダイアログボックスが表示された場合は、［はい］をクリックします。
   登録が解除され、登録されていたフォーム番号が「未登録」に戻ります。

プリントオプションを使っても差込印刷ができます。

1.3　ワークフローと連携する

ここでは、各種の機能やツールを使ってプリントする場合に対応しているアプリケーションやファイルフォーマットなどについて記載しています。

1.3.1　ホットフォルダを使用したプリント

FTP、Windows共有フォルダ、またはAppleShareを使用してホットフォルダにファイルを送信することで、Print Serverにプリントできます。

デフォルトのホットフォルダのほかに、サブフォルダーを100まで設定できます。ただし、同時に起動できるのは、すべての論理プリンタで合計50までです。

- Windows ネットワークでの共有プリンターを使用してプリントする場合は、Print Serverで、Windowsに管理者権限を持つユーザー名でログインし、[スタート] → [コントロールパネル] → [Windows ファイアウォール] → [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する] で、[ファイルとプリンターの共有] と [Fuji Xerox AFP Service] の [ホーム/社内 (プライベート)] にチェックマークを付けてください。
- Print ServerにFTP接続するときのユーザー名、およびパスワードは、ネットワーク管理者に確認してください。
- この機能を使用するには、あらかじめPrint ServerのOSにユーザーを登録しておく必要があります。

「anonymous」で使用する場合は、「7.3.3 FTPの匿名アクセス」(P.371) を参照してください。

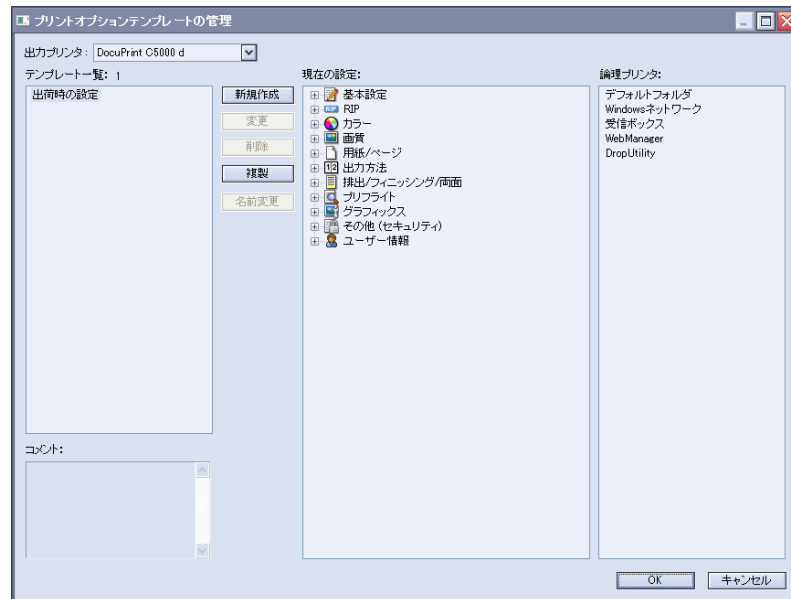
● ファイルフォーマット

プリントできるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- PostScript
- EPS
- TIFF
- PDF
- JPEG

●プリントオプション

ホットフォルダに送信したファイルに対するプリントオプションは、プリントオプションテンプレートの設定項目が適用されます。

［プリントオプションテンプレート管理］ダイアログボックスでは、論理プリンタごとに設定できます。

［論理プリンタ］にホットフォルダが表示されない場合は、ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択し、［論理プリンタの管理］ダイアログボックスで［ホットフォルダ］にチェックマークが付いていること、サブフォルダーが割り当てられていることを確認してください。

［論理プリンタの管理］、およびホットフォルダの設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1.3 TCP/IP用の論理プリンタの作成」と「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「論理プリンタの管理」を参照してください。

●転送モード

ファイルをFTP送信にするときの転送モードは、Binary（バイナリー）です。

●データを格納するフォルダー

ファイルを格納するフォルダーは、「/folder1」です。

サブフォルダーは、「/folder1/XXX」（XXXにはサブフォルダー名が入ります）です。

色の調整と管理

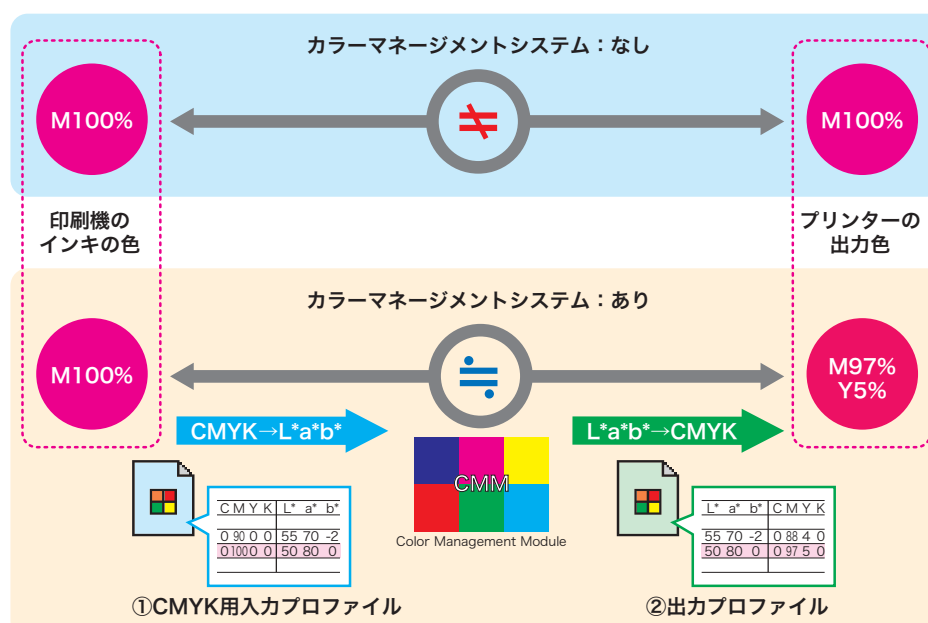
プリンターのキャリブレーション方法とカラープロファイルの作成方法、およびプロファイルを使用したシミュレーションの流れについて説明しています。

2.1　カラーマネージメントについて

広い意味で、色を管理することを「カラーマネージメント」といいます。カラーマネージメントシステムは、基本的にカラーマッチング処理（色合わせ）とキャリブレーションのことです。

カラーマッチング処理（色合わせ）

オフセット印刷機、カラープリンター、またはモニターなどのデバイスは、それぞれ色再現の範囲が異なり、同じ画像でも、オフセット印刷、カラープリント、およびモニター表示では違う色に見えてしまいます。しかし、これでは工程の中で一貫した色を取り扱うのには不便です。そこで、測色データ、ICC プロファイル、または Japan Color などの標準印刷データを使用し、デバイスに依存していない色を介して、プリントするプリンターのデバイス色に変換することによって、異なるデバイス特性の色をプリンターで表現します。

デバイスに依存しない色（デバイスインディペンデントカラー）として使用されるのが、CIE L*a*b*です。

キャリブレーション

キャリブレーションとは、使用環境やプリント枚数による色の変動を補正する機能です。キャリブレーションをすると、安定した色再現を得ることができます。

目標の色（ターゲット色）

カラーマネージメントでは、まず、出力結果を何に合わせるかという目的の色を明確にする必要があります。

・作業を行うモニターに合わせる
・ほかのプリンターに色を合わせる
・最終的に印刷する印刷機や色校正機に色を合わせる
・以前に同じプリンターで出力した色に合わせる
・同じ機種で別のプリンターで出力した色に合わせる

このような目標の色のことを「ターゲット（ターゲット色）」と呼びます。目標の色が決まったら、その色に合わせてカラーマネージメントを行います。

2.1.1 カラーマネージメント

Print Serverには以下のカラーモードがあり、カラーモードの設定によって利用できる機能が異なります。

・フルカラー 1（RGB/CMYK）

・グレースケール（K）

●RGBカラープロファイルの読み込み

モニターで使用したICCプロファイルをPrint Serverのカラープロファイルとして登録できます。RGB出力プロファイルに印刷環境用のICCプロファイルを登録すると、印刷環境に近い色味でプリントできます。また、「RGB出力プロファイルの作成」機能を使用して、sRGBやAdobeRGBを想定した、プリンター出力向けのプロファイルを作成することができます。

参照 詳細は、「2.3 RGB用ICCプロファイルを設定する」（P.75）を参照してください。

●CMYKプロファイルの作成

Color Profile Maker Proを使用して、印刷物をターゲットとして印刷シミュレーションをするための、より精度の高いCMYKプロファイルを作成できます。作成には、ICCプロファイルも使用できます。

- Color Profile Maker Proは、単独でクライアントコンピューターにインストールして使用することもできます。インストールについては、DVD の「CPMP」フォルダーに格納されている「CPMP_Manual.pdf」を参照してください。
- クライアントコンピューターにServerManagerがインストールされている場合は、ServerManagerを使ってPrint Serverにプロファイルを割り当てることができます。詳細は、「2.4.7 CMYKプロファイルの設定」（P.120）を参照してください。
- クライアントコンピューターに ServerManager がインストールされていない場合は、作成したプロファイルをPrint Serverに複製する必要があります。詳細は、前述の「CPMP_Manual.pdf」を参照してください。

参照 詳細は、「2.4 CMYKプロファイルを設定する」（P.83）を参照してください。

●CMYKカラープロファイルを使った印刷シミュレーション

CMYKプロファイル作成機能で作成したプロファイル、または標準で用意されているプロファイルを設定して、オフセット印刷の色味をシミュレーションできます。

印刷会社、デザイン会社や依頼先など環境が違っても、それぞれをPrint Serverに登録しておくと、切り替えて色味をシミュレーションできます。

参照 詳細は、「4.1.4 カラー」（P.229）を参照してください。

●ユーザー調整カーブ

ユーザー調整カーブを作成すると、CMYKそれぞれの色の濃度を自由に調整できます。

参照 詳細は、「2.6 ユーザー調整カーブを設定する」（P.125）を参照してください。

●プリント結果を安定させるキャリブレーション

プリント枚数による色再現性の劣化を補正する、キャリブレーション機能があります。

参照 詳細は、「2.2.2 キャリブレーションの実施」（P.54）を参照してください。

●キャリブレーションファイル

プリントするときは、ジョブごとにキャリブレーションファイルの読み込みと割り当てができます。また、用紙トレイに割り当てることもできます。

参照 詳細は、「割り当て」（P.60）、「2.2.4 キャリブレーションファイルの割り当て」（P.70）を参照してください。

● 濃度調整

濃度調整カーブは、カラーマネージメントの範囲を超えて、直感的に濃度を調整するときに使用します。

詳細は、「2.7 濃度調整カーブを設定する」（P.130）を参照してください。

色調整のヒント

期待どおりのプリント結果が得られなかったときや、ワークフローを見直すときの参考にしてください。

● 印刷会社との打ち合わせ

プロセス校正や印刷物のようなCMYK印刷では、紙質やインキ、印刷方法、環境要素によって、色再現の領域が変化します。また、印刷機ごとに、使用すべきスクリーン線数や角度、網点などの設定は異なります。印刷会社と十分に打ち合わせをすることをお勧めします。

● ICCプロファイルと、その他のプロファイル

必ずしも ICC プロファイルを使う必要はありませんが、使用するとカラーマネージメントが簡単になります。より厳密なカラーシミュレーションを行う場合は、測色データの作成をお勧めします。

● ユーザー調整カーブの活用

ユーザー調整カーブは、CMYKそれぞれの色の濃度を調整できます。ユーザー調整カーブや明るさ調整を操作することで、明るさや色調を自由に変えることができます。

● 入力デバイスと出力デバイスの補正

モニター、およびプリンターの性能は、時間が経つと変化しますので、デバイスのキャリブレーションは、色の調整で重要なプロセスの１つです。アプリケーションの操作を始める前に、必ずキャリブレーションを行います。

● アプリケーションとプリントオプションの設定

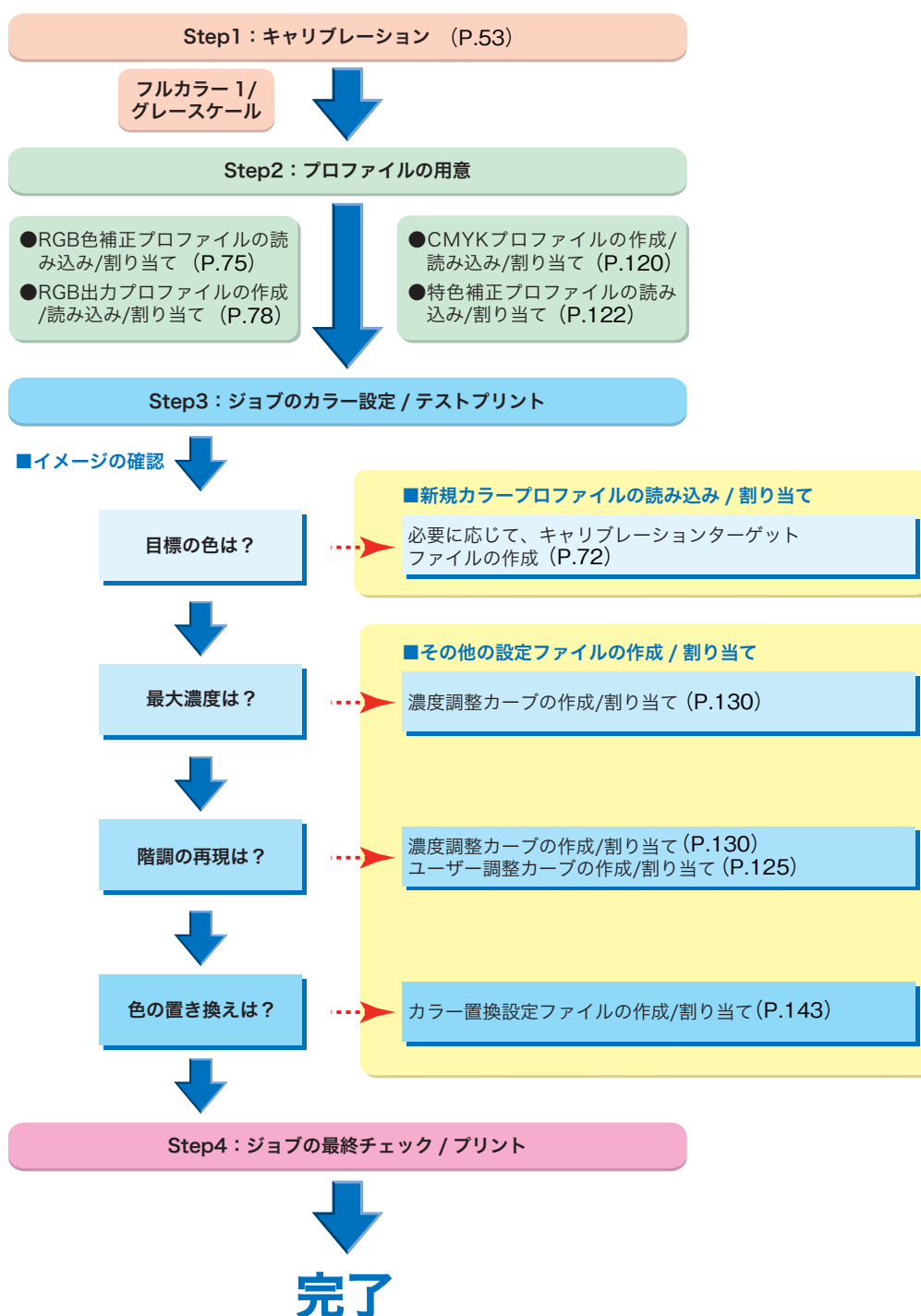
プリントオプションが正しく設定されていることを確認します。また、アプリケーションのRGB、CMYK、およびICCプロファイル設定情報に、誤りがないか、付属のマニュアルを参照し、もう一度確認します。

● 測色をするときの注意

測色器自体のキャリブレーションや測色方法は、カラーシミュレーションの精度に大きく影響します。「測色をするときの注意点」（P.67）をお読みのうえ、正しくご利用ください。

● 色パッチの確認

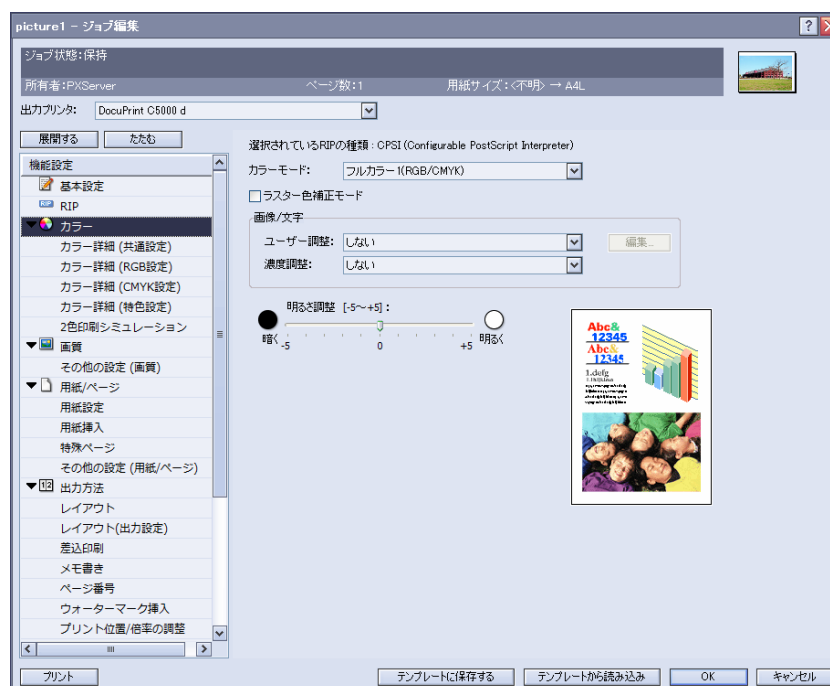
印刷された各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認します。汚れなどがあった場合は、印刷会社に再度印刷を依頼してください。

2.1.2　カラーマネージメントのワークフロー

2.1.3 カラーモードの設定

操作手順

1. プリントオプションを表示させせます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントアプリケーションのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させせます。

2. 左側の機能設定ツリーから［カラー］を選択します。

   設定項目が表示されます。

3. ［カラーモード］を［フルカラー 1（RGB/CMYK)］、または［グレースケール（K)］にします。

4. RGB データをプリントする場合は、機能設定ツリーから［カラー詳細（RGB 設定)］を選択し、各項目を設定します。

   CMYKデータをプリントする場合は、機能設定ツリーから［カラー詳細（CMYK設定)］を選択し、各項目を設定します。

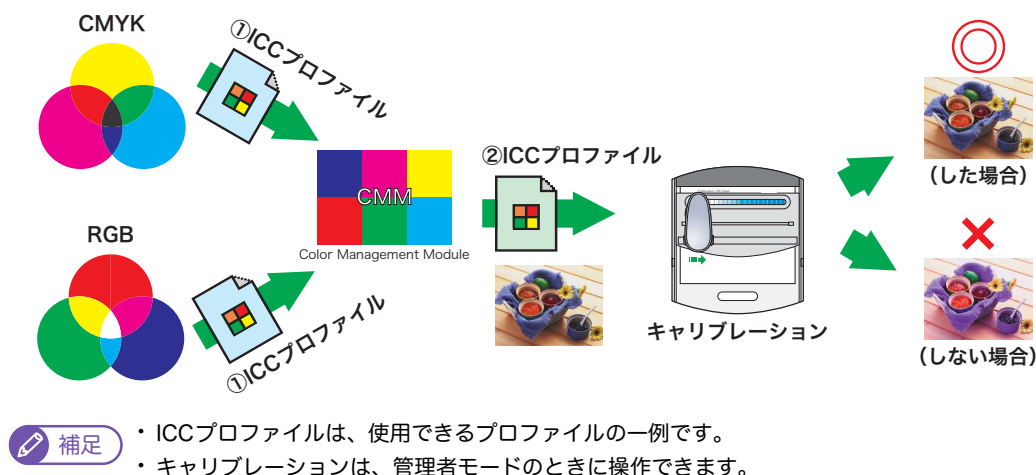
［カラー詳細（RGB 設定)］、および［カラー詳細（CMYK 設定)］で設定できる項目は、カラーモードによって異なります。

2.2　キャリブレーションで色を補正する

キャリブレーションとは、モニター、カラープリンターなどの色再現変動を補正し、常に安定した再現が得られるようにするための機能です。

同じモニターでも個体差により、色再現性が異なることがあります。また、設置環境や経時劣化により、色再現が変動することがあり、カラープリンターもモニターと同様に色再現が変動し、出力結果が予想と異なることがあります。

このように色再現が変動している状態で、カラーマッチング処理をしても正確な色再現は得られません。
カラーマッチングの前処理として、モニター、カラープリンターのデバイスごとにキャリブレーションで色を補正することが必要です。

- ICCプロファイルは、使用できるプロファイルの一例です。
- キャリブレーションは、管理者モードのときに操作できます。

キャリブレーション

プリンターは、使用環境やプリント枚数などによって、プリントされる色が変化します。プリンターでも、このような変化を補正する機能を持っていますが、Print Serverでは、さらに精度の高いキャリブレーションができます。

作成したキャリブレーションファイルは、任意の用紙トレイ、原稿タイプ、およびキャリブレーションファイル管理の設定1～100に割り当てます。

- あらかじめ割り当てられているキャリブレーションの標準ファイルは、キャリブレーション効果を持ちません。必ずキャリブレーションを実施し、キャリブレーションファイルの割り当てを行ってください。
- より良いプリント結果を得るには、少なくとも毎日一度はキャリブレーションをしてください。使用頻度が高い場合は、必要に応じて、一日に何度もキャリブレーションをしても問題ありません。
- 夏季や冬季に空調設備を始動した直後は、室内環境が急激に変化するため、プリントされる色が変化することがあります。室内環境が安定したあと、プリントしてください。
- 用紙そのものの色味の違いや、用紙表面の加工処理の違いによって、プリントされる色に影響が出ます。使用する用紙を切り替えるときにキャリブレーションを実施すると、より厳密な色の安定・再現につながります。
- 同じ用紙銘柄を使用するときでも、一定期間後に再プリントするジョブの場合、再度キャリブレーションを実施すると、より厳密な色の安定・再現につながります。
- キャリブレーション中は、受信ジョブはRIP処理されません。

キャリブレーションの種類

●測色器キャリブレーション

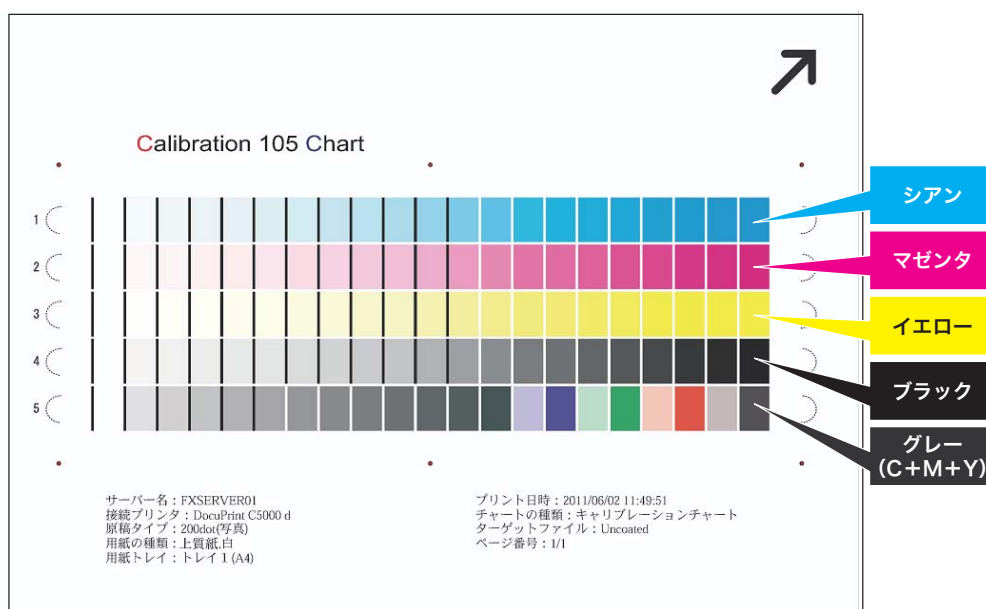
測色器（i1+i1_Reader、i1iO+MeasureTool）を使用して、キャリブレーションチャートを測る方法です。キャリブレーションファイルの作成、割り当て、結果確認用サンプルのプリントなどが実行できます。また、キャリブレーション用のターゲットファイルの作成もできます。

測色器キャリブレーションでは、オプションの測色器（UVフィルターなしのi1）を使用してください。

2.2.1　キャリブレーションチャート

キャリブレーションを実施するための測色用チャートをキャリブレーションチャートと呼びます。

●Calibration 105 Chart

キャリブレーションに使用するチャートです。

2.2.2　キャリブレーションの実施

キャリブレーションを実施する手順について説明します。

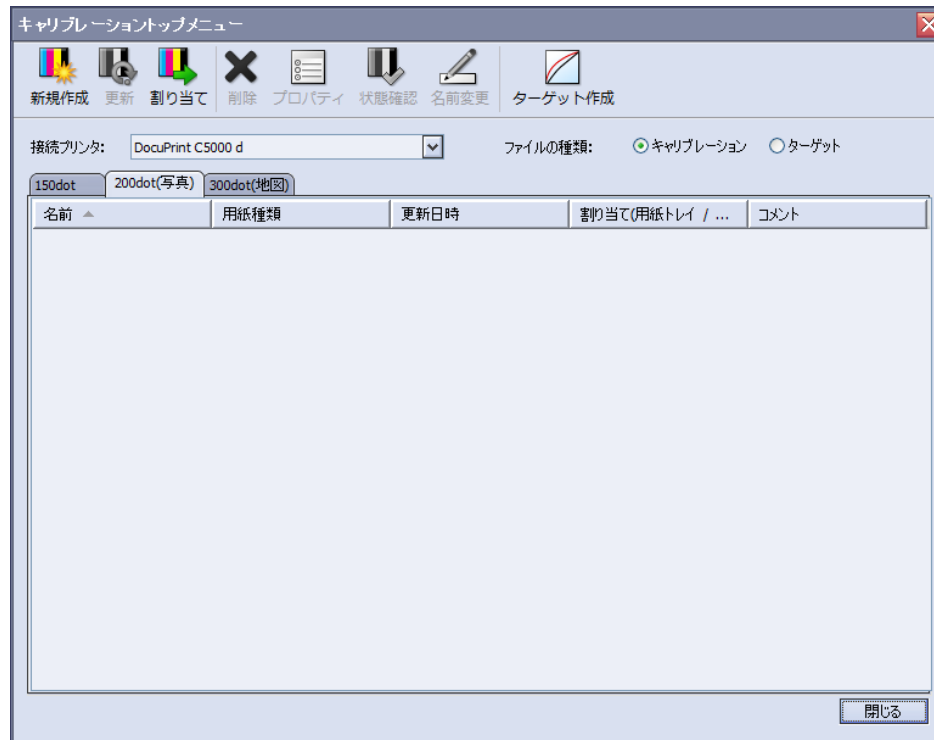
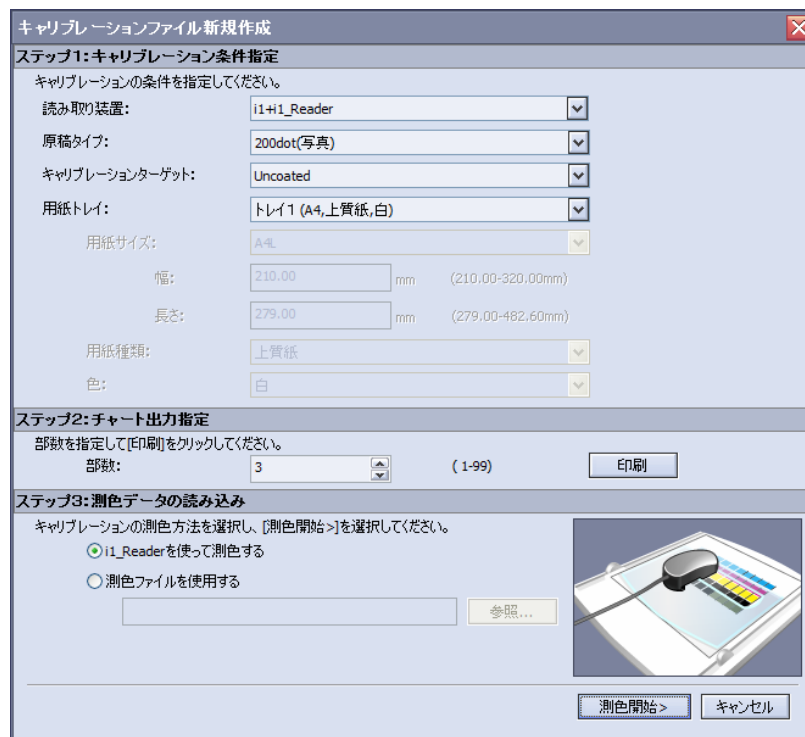
キャリブレーションチャートをプリントするため、用紙トレイに A4 サイズ以上の用紙をあらかじめセットしておいてください。

キャリブレーションファイルの作成

操作手順

1. ServerManagerの[キャリブレーション]をクリックします。

[カラー] → [キャリブレーション] を選択しても、[キャリブレーショントップメニュー] ダイアログボックスを表示できます。

2. ［新規作成］をクリックします。

［キャリブレーションファイル新規作成］ダイアログボックスが表示されます。

●読み取り装置

i1+i1_Reader

i1_Readerを使用して、キャリブレーションファイルを作成します。

- i1はオプションです。
- i1はUVフィルターなしのi1を使用してください。

i1iO+MeasureTool

i1iO+MeasureToolを使用して、キャリブレーションファイルを作成します。

i1iOにセットするi1はUVフィルターなしのi1を使用してください。

●原稿タイプ

スクリーン線数を選択します。

［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスで［新規作成］をクリックしたときに、選択されていたタブと同じ原稿タイプが表示されます。

- 150dot
- 200dot（写真）
- 300dot（地図）

●キャリブレーションターゲット

非コート紙用のキャリブレーションターゲットです。［i1+i1_Reader］を選択してキャリブレーションするときは［Uncoated］、［i1iO+MeasureTool］を選択してキャリブレーションするときは、［Uncoated_i1iO］を選択します。

- キャリブレーションターゲットはJ紙で82g/㎡を想定しています。
- 独自のキャリブレーションターゲットを作成して登録している場合は、それらのキャリブレーションターゲットも選択できます。

参照 キャリブレーションターゲットの設定方法については、「2.2.5 キャリブレーションターゲットファイルの設定」（P.72）を参照してください。

●用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

［手差しトレイ］を選択した場合は、［用紙サイズ］を入力し、［用紙種類］、［色］を選択します。

キャリブレーションでは、以下の用紙種類を使用できます。

- 上質紙
- 普通紙
- うら紙
- 再生紙
- 厚紙1（106～169g/㎡）
- 厚紙1（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙1［A］（106～169g/㎡）
- 厚紙1［A］（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙2（170～256g/㎡）
- 厚紙2（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［A］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙3（257～280g/㎡）
- 厚紙3（257～280g/㎡）うら面
- コート紙1（106～169g/㎡）
- コート紙1（106～169g/㎡）うら面
- コート紙2（170～256g/㎡）
- コート紙2（170～256g/㎡）うら面

「厚紙1［A］（106～169g/㎡）」、「厚紙1［A］（106～169g/㎡）うら面」、「厚紙2［A］（170～256g/㎡）」、および「厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面」は、［自動トレイ］を選択した場合に使用できます。「厚紙3（257～280g/㎡）」、および「厚紙3（257～280g/㎡）うら面」は、［手差しトレイ］を選択した場合に使用できます。

3. ［読み取り装置］で、［i1+i1_Reader］、または［i1iO+MeasureTool］を選択して各項目を設定します。

4. キャリブレーションチャートをプリントする場合は、［部数］を入力し、［印刷］をクリックします。

- 最後にプリントされたキャリブレーションチャートの各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、1枚前のチャートを確認してください。
- プリントする部数は、プリントを安定させるために3部以上をお勧めします。

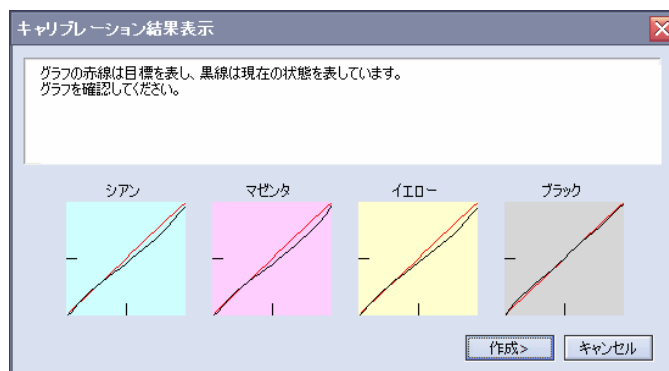
5. 読み込み方法（［i1_Reader を使って測色する］、または［測色ファイルを使用する］）を選択します。
［測色ファイルを使用する］を選択したときは、［参照］をクリックして、測色ファイルを選択します。

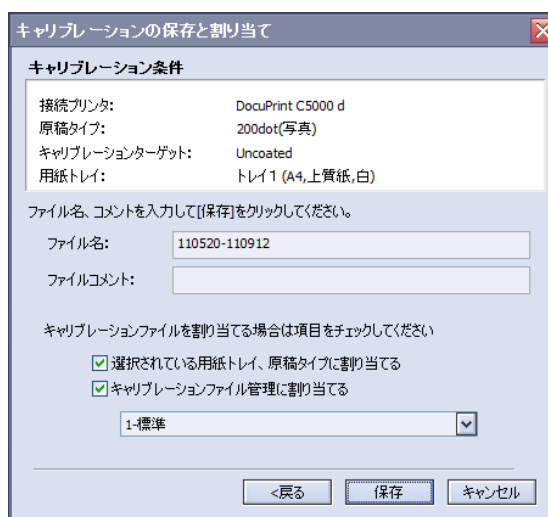
- ［i1iO+MeasureTool］を選択したときは、［i1_Readerを使って測色する］を選択することはできません。
- i1_Readerを起動して測色中の場合は、i1_Readerを終了してから［i1_Readerを使って測色する］を選択してください。
- i1 はUVフィルターなしのi1を使用してください。

6. ［測色開始］をクリックします。
［i1_Readerを使って測色する］を選択したときは、i1_Readerが起動します。
［測色ファイルを使用する］を選択したときは、測色ファイルが読み込まれます。

A4 サイズ以上でキャリブレーションチャートをプリントすると、そのままでは測定用バックアップボードとチャート測定用ルーラーを使った測色ができません。キャリブレーションチャートを破線で切り取ってから測色してください。

- 測色方法については、「2.2.3 i1_Readerと測色器」（P.62）を参照してください。
- i1_Readerでの測色データの読み込みについては、「i1_Readerによる測色」（P.67）の手順4以降を参照してください。

7. 表示された結果に問題がないときは、［作成］をクリックします。

補足　グラフの赤線はキャリブレーションの目標を表し、黒線は現在の状態を表しています。

8. キャリブレーションファイル名と必要に応じてファイルコメントを入力し、［保存］をクリックします。

補足

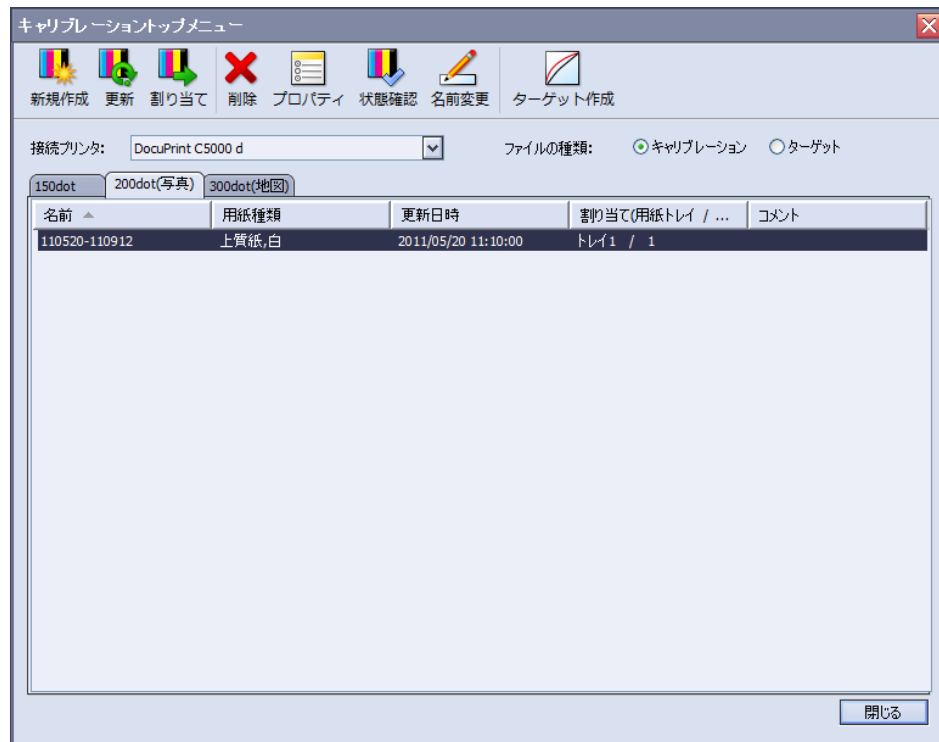
- キャリブレーションファイルを作成しただけではプリントに反映されません。プリントにキャリブレーションを反映させるには、用紙トレイ、原稿タイプ、およびキャリブレーションファイル管理の設定１～100にキャリブレーションファイルを割り当てる必要があります。キャリブレーションファイルを割り当てる項目にチェックマークを付けてください。
- ［キャリブレーションファイル管理に割り当てる］にチェックマークを付けた場合は、プルダウンメニューから、割り当てるキャリブレーションファイルを選択します。このとき、必要なキャリブレーションファイルに割り当てて、変更しないように注意してください。

キャリブレーションファイルの操作

操作手順

1. ServerManagerの［キャリブレーション］をクリックします。

補足　［カラー］→［キャリブレーション］を選択しても、［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスでキャリブレーションファイルを操作します。

詳細は、以下の各項目の説明を参照してください。

用紙トレイ、およびキャリブレーションファイル管理の設定 1 ～ 100 に割り当てられていないキャリブレーションファイル名は黒字で、割り当て済みのキャリブレーションファイル名は青字で表示されます。

■更新

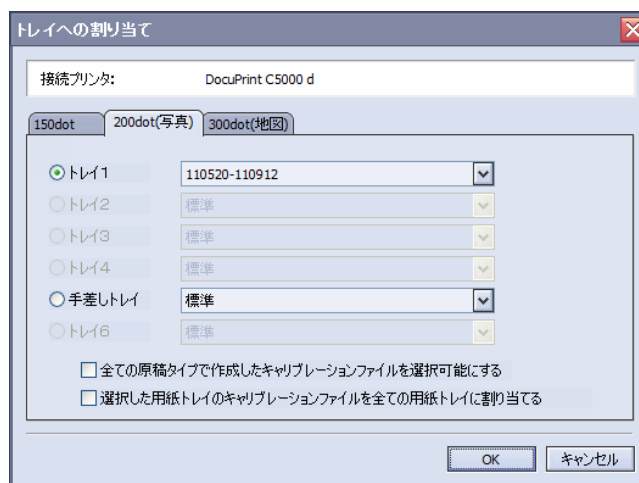
割り当て状態は変更せずに、既存のキャリブレーションファイルが更新されます。

- 用紙トレイの変更ができます。用紙トレイについては、「用紙トレイ」（P.56）を参照してください。
- 以降の操作手順については、「キャリブレーションファイルの作成」（P.54）の手順4以降を参照してください。

■割り当て

キャリブレーションファイルを用紙トレイに割り当てます。

操作手順

1. ［割り当て］をクリックします。
2. 割り当てる原稿タイプを選択したあと、用紙トレイのプルダウンメニューからキャリブレーションファイルを選択し、［OK］をクリックします。

● 全ての原稿タイプで作成したキャリブレーションファイルを選択可能にする

チェックマークを付けると、すべての原稿タイプで、すべてのキャリブレーションファイルが割り当て可能になります。

チェックマークを外すと、ほかの原稿タイプで作成されたキャリブレーションファイルが割り当てられている用紙トレイには、「標準」が割り当てられます。

● 選択した用紙トレイのキャリブレーションファイルを全ての用紙トレイに割り当てる

チェックマークを付けると、選択している用紙トレイに割り当てられているキャリブレーションファイルがすべての用紙トレイに割り当てられます。

［全ての原稿タイプで作成したキャリブレーションファイルを選択可能にする］、［選択した用紙トレイのキャリブレーションファイルを全ての用紙トレイに割り当てる］にチェックマークを付けると、選択されているタブだけでなく、すべてのタブに反映されます。

■削除

選択したキャリブレーションファイルが削除されます。

- 削除したキャリブレーションファイルが割り当てられていた用紙トレイには「標準」が割り当てられます。
- 〈Delete〉キー、または〈Back Space〉キーでも削除できます。

■プロパティ

キャリブレーションファイルを作成したときの状態を確認できます。
キャリブレーションを適用したサンプルをプリントして、キャリブレーションの効果を確認できます。

操作手順

1. 確認するキャリブレーションファイルを選択し、［プロパティ］をクリックします。

   キャリブレーションファイルを作成したときの状態が表示されます。

2. キャリブレーションを適用したサンプルをプリントする場合は、［確認印刷］をクリックします。

3. 用紙トレイ、出力チャートを選択し、［印刷］をクリックします。

キャリブレーション適用前と適用後のサンプルのプリントが開始されます。

- ServerManager の保持リストにあるジョブの適用前後の確認プリントをすることもできます。詳しくは、「キャリブレーションの確認印刷」（P.167）を参照してください。
- 用紙トレイについては、「用紙トレイ」（P.56）を参照してください。

■状態確認

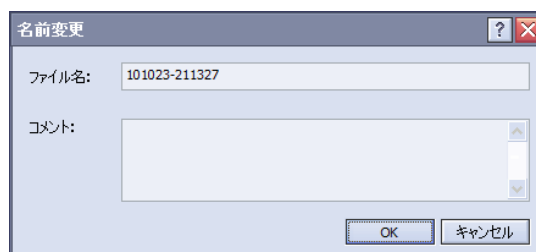
キャリブレーションの結果がターゲットに対してどれだけ一致しているかを確認できます。

確認するための手順は、「 キャリブレーションファイルの作成」（P.54）の手順 2 ～ 5 と同じです。ただし、キャリブレーションファイルの作成はできません。

■名前変更

選択したキャリブレーションファイルの名前を変更します。

操作手順

1. 名前を変更するキャリブレーションファイルを選択し、[名前変更]をクリックします。
2. [名前変更]ダイアログボックスで新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。

キャリブレーションファイル作成時に入力したファイルコメントも、名前変更時に変更できます。

2.2.3 i1_Readerと測色器

i1_Readerの概要

CMYKプロファイル、RGB出力プロファイル作成用チャート、キャリブレーションチャートの測色には、i1が使用できます。測色器として、X-Rite社の「i1」を使用した場合の測色方法について説明します。

測色には、i1_Readerというアプリケーションを使用します。i1_Readerは、USB接続ができるパソコン(OSがWindows、またはMac OS X 10.3.9以降)で使用できます。

Color Profile Maker Proについては、DVDの「CPMP」フォルダーに格納されている「CPMP_Manual.pdf」をお読みください。

i1_Readerのインストール

1. 本機に同梱されているDVDをDVDドライブに挿入します。
2. 以下のフォルダーをフォルダーごと、任意のフォルダーに複製します。(Mac OS Xクライアント)

Client/OS X/

Macintosh(Mac OS X)クライアントは、DVD内の「i1_Reader.dmg」をダブルクリックすると、i1_Readerアプリケーションを含むボリュームがマウントされるので、アプリケーションだけを任意のフォルダーに複製して使用してください。

以下のフォルダーにある「i1_Reader.msi」をダブルクリックして、i1をインストールします。(Windowsクライアント)

XXX:¥Client¥i1 Reader

XXXは、DVDドライブに割り当てられているドライブ名です。

Print Serverの設定

Print Serverが動作しているWindows 7では、測色の開始や終了などを知らせるビープ音が出ません。ここでは、ビープ音のかわりに、画面で測色の進行状態が通知されるための設定を行います。必要に応じて、設定してください。

1. Print Serverで、Windowsの［スタート］→［コントロールパネル］→［コンピュータの簡単操作センター］→［サウンドの代わりにテキストまたは画像を使用します］を選択します。
2. ［サウンドの代わりにテキストまたは画像を使用します］ダイアログボックスで、［サウンドを視覚的な通知へ置き換えます（サウンド表示）］にチェックマークを付け、［デスクトップを点滅させます］を選択します。

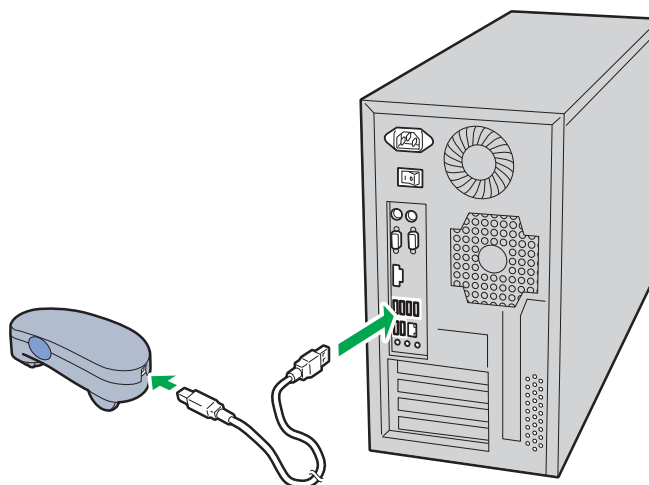
- ［デスクトップを点滅させます］を選択することにより、エラーが発生したときに、画面全体が点滅する設定に変更することもできます。
- ただし、［デスクトップを点滅させます］を選択すると、i1の測色以外の操作でエラーが発生した場合にも、画面全体が点滅します。

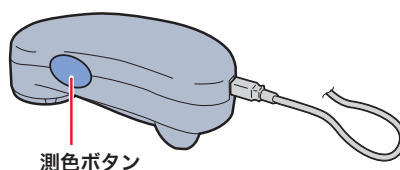
3. ［OK］をクリックします。

i1の使い方

i1は精密機器です。i1を使用したあとは、損傷やほこりによる影響を避けるため、専用のケースで保管してください。

■i1の接続

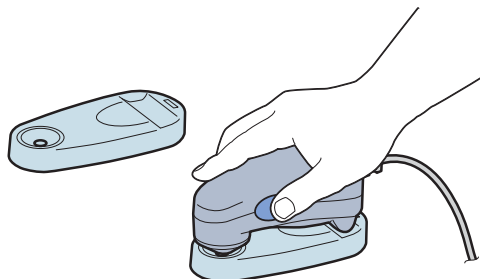
Print Serverの背面、または前面のUSBコネクターに、測色器を接続します。

■i1の使用方法

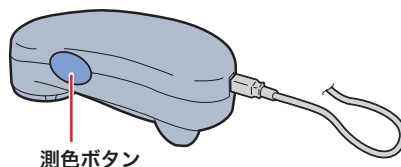
測色をするときは、測色ボタンを押し、アプリケーションのメッセージに合わせて操作します。

■i1 のキャリブレーション

測色を行う前に、必ず測色器のキャリブレーションを行います。

操作手順

1. 付属の白色板にi1 をセットします。

測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1対1の組み合わせになっています。

2. 測色ボタンを押します。

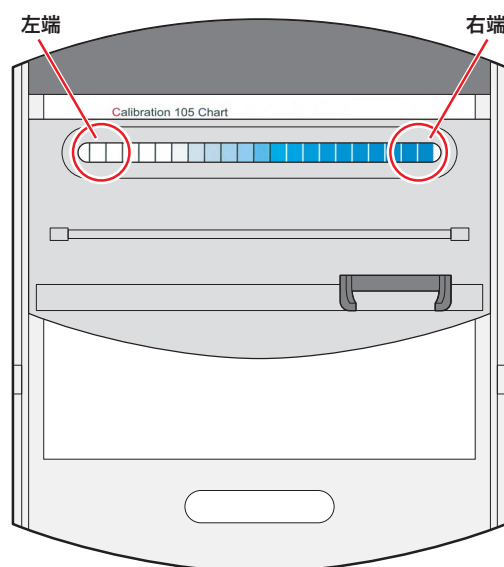
終了メッセージが表示されたら、キャリブレーションは終了です。

終了メッセージが表示されるまで、i1 を動かさないでください。

■キャリブレーションチャートの測色

測色は、CMYKの色をC→M→Y→K→グレーの順に、一番薄い色から濃い色の順に作業を進めます。

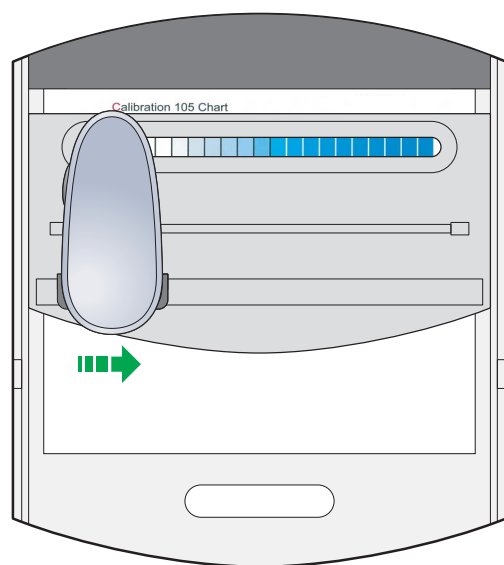
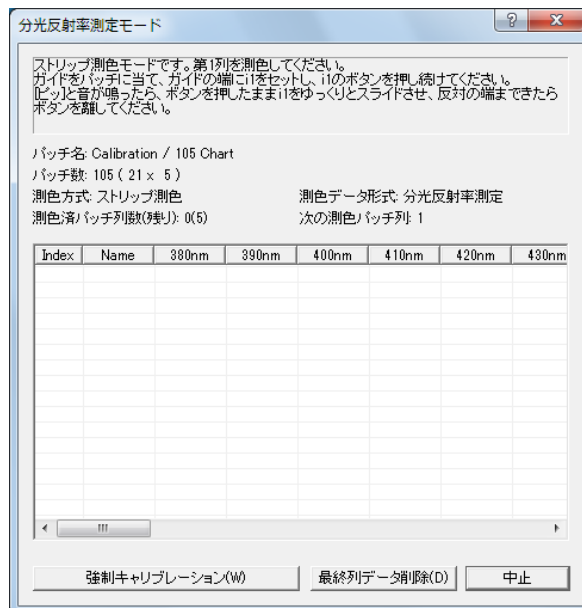
参照 キャリブレーションチャートについては、「2.2.1 キャリブレーションチャート」（P.54）を参照してください。

操作手順

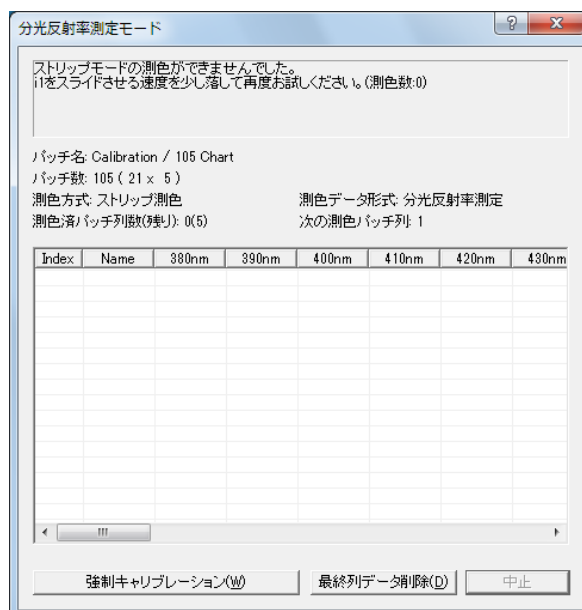
1. チャート測定用ルーラーの測定窓の左右端とキャリブレーションチャートの破線マークを合わせるように、キャリブレーションチャートを測定用バックアッププボードにセットし、その上にチャート測定用ルーラーをのせます。

補足 測色するときは、測色するチャートの下にチャートと同じ用紙の白紙を5枚以上敷いてください。

2. チャート測定用ルーラーを測定第1列目のシアンパッチの破線に合わせるように、水平移動します。

   シアンから測定します。

3. チャート測定用ルーラーにi1をセットし、i1を左端破線の位置に移動します。

4. 測色ボタンを押し、ボタンから指を離さずに、左から右へとi1 を移動します。

移動速度は、6色/秒を目安にしてください。以下の場合は、測定に失敗することがあります。
- 移動速度が速すぎる、または遅すぎる
- 移動途中にボタンから指を離した

5. 一番右まで移動したら、ボタンから指を離します。

測定に失敗した場合は、以下のエラー画面が表示されるので、手順3からやり直してください。

6. 同様に他の色も順に測定します。

測色器用のチャートはマゼンタ、イエロー、ブラック、グレーの順に測定します。

途中で測定に失敗した場合には、失敗した色からやり直してください。

測色をするときの注意点

・測色するときは、i1 に付属しているチャート測定用ルーラーと測定用バックアップボートを必ず使用してください。フリーハンドで測色を行うと、正しい測色結果にならないことがあります。
・測色をするときは、測色するチャートと測色器の間に光が入らないように平らな場所で行ってください。
・測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1対1の組み合わせになっています。そのため、ほかの測色器のパッケージに同梱されている白色板を使用すると、正確な調整ができません。必ず、パッケージに同梱されている白色板を使用してください。

i1_Readerによる測色

測色に使用するチャートのパターン画像セットは、以下の種類があり、それぞれ画像ファイルが用意されています。用途や使用条件に応じて選択してください。

・PrintServer Series 1188 Chart
このパターンは使用できません。
・CPMP / FULL 1584 Chart
測色データを作成するためのFullセット1584パッチのチャートです。測色データは、Color Profile Maker ProやRGB出力プロファイル作成機能を使用してカラープロファイルを作成するときに使用します。
・CPMP / Standard 1188 Chart
測色データを作成するための 1188 パッチのスタンダードチャートです。測色データは、Color Profile Maker ProやRGB出力プロファイル作成機能を使用してカラープロファイルを作成するときに使用します。
・CPMP / DRAFT 256 Chart
Color Profile Maker Proでプロファイルを作成する場合に使用するパターン画像セットです。
・Calibration / 100 Chart
このパターンは使用できません。
・Calibration / 105 Chart
キャリブレーション用測色チャートです。キャリブレーション実施中に、[印刷] をクリックするとプリントされます。
・Calibration / 170 Chart
このパターンは使用できません。
・Calibration / 252 Chart
このパターンは使用できません。

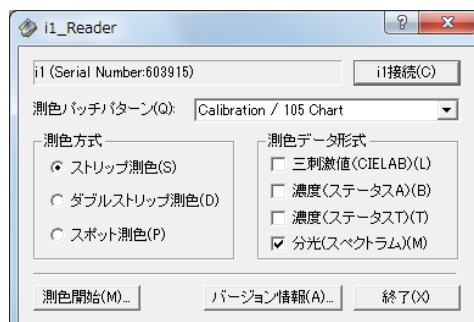
次に、コンピューターでi1が使える環境があることを前提に、Windowsを例に説明します。

操作手順

1. コンピューターを起動し、i1を接続します。

i1 を初回に接続したときに、ドライバーインストール画面が表示されます。画面の指示に従って、「i1_Reader」フォルダーの以下のファイルを選択してください。
driver¥EyeOne¥i1.inf

2. 複製したi1_Readerのフォルダーを開き、「i1_Reader」をダブルクリックします。(Mac OS X クライアント)
Windowsの [スタート] → [すべてのプログラム] → [FujiXerox] → [i1_Reader] を選択します。(Windowsクライアント)
i1_Readerが起動します。

3. 各項目を設定し、[測色開始]をクリックします。

●測色パッチパターン

- 指定なし
- CPMP / FULL 1584 Chart
- CPMP / DRAFT 256 Chart
- Calibration / 105 Chart
- Calibration / 252 Chart
- PrintServer Series 1188 Chart
- CPMP / Standard 1188 Chart
- Calibration / 100 Chart
- Calibration / 170 Chart

- 「PrintServer Series 1188 Chart」、「Calibration / 100 Chart」、「Calibration / 170 Chart」、および「Calibration / 252 Chart」は、Print Server N01では使用しません。
- 測色パッチパターンを選択すると、読み込んでいるチャートのカラー値、および数をチェックして、チャートの間違いや行数のずれを検出してエラーが表示されるようになっています。したがって、専用のチャート以外は測れません。
- [指定なし]は専用チャート以外のチャートを測色する場合に選択します。測色は[終了]をクリックするまで続きます。[終了]をクリックするとデータの保存ダイアログボックスが表示されます。
- 「Calibration / 105 Chart」は、キャリブレーションに使用します。

●測色方式

ストリップ測色

横一列の色をi1に付属しているチャート測定用ルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。右端の色までスライドさせたら、横一列の測色は終了です。

ダブルストリップ測色

横一列の色をi1に付属しているチャート測定用ルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。右端の色までスライドさせたら、左端の色まで測色器を再度スライドさせて測色します。往復で測色し、その平均値を測色値として使うため、ストリップ測色よりも精度が向上します。

スポット測色

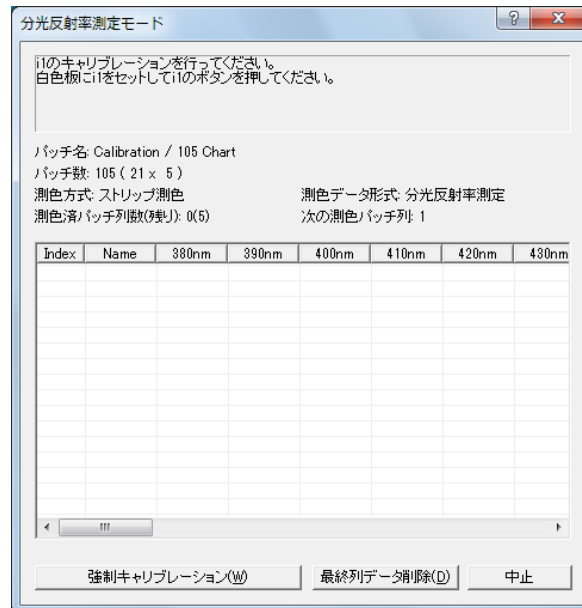
色を1つずつ測色します。

測色方式は、「ストリップ測色」、または「ダブルストリップ測色」をお勧めします。

●測色データ形式

- 三刺激値(CIELAB)
- 濃度(ステータスA)
- 濃度(ステータスT)
- 分光(スペクトラム)

- Color Profile Maker Pro、またはRGB出力プロファイル作成機能で使用する場合は、必ず[三刺激値(CIELAB)]を選択してください。
- キャリブレーションで使用する場合は、必ず[分光(スペクトラム)]を選択してください。

4. 測色器をキャリブレーションします。

i1 に付属の白色版に、i1 をセットし、i1 の測色ボタンを押します。終了メッセージが表示されたら、キャリブレーションは終了です。

参照　「i1 の使い方」（P.63）を参照してください。

5. チャートを測色します。

ダイアログボックスの上部に表示されるメッセージに従って、チャートを測色します。

測色時の裏写りを防ぐため、測色対象と同じ用紙の白紙を５枚以上、下に敷いて測色します。

Index	Name	380nm	390nm	400nm	410nm	420nm	430
6	"1F"	0.344	0.495	0.492	0.584	0.675	0
7	"1G"	0.461	0.529	0.467	0.574	0.664	0
8	"1H"	0.387	0.459	0.455	0.555	0.645	0
9	"1I"	0.365	0.466	0.440	0.537	0.625	0
10	"1J"	0.372	0.469	0.433	0.529	0.616	0
11	"1K"	0.320	0.410	0.404	0.504	0.588	0
12	"1L"	0.358	0.470	0.395	0.481	0.563	0
13	"1M"	0.451	0.430	0.367	0.453	0.532	0
14	"1N"	0.642	0.500	0.363	0.430	0.502	0
15	"1O"	0.664	0.567	0.360	0.421	0.491	0
16	"1P"	0.646	0.551	0.344	0.406	0.477	0
17	"1Q"	0.609	0.498	0.319	0.383	0.452	0
18	"1R"	0.559	0.461	0.294	0.361	0.426	0
19	"1S"	0.603	0.502	0.289	0.346	0.413	0
20	"1T"	0.446	0.461	0.269	0.331	0.395	0
21	"1U"	0.372	0.405	0.254	0.322	0.389	0

チャートの測色に失敗すると、ダイアログボックスの上部にメッセージが表示されます。再度測色を実行してください。

6. 保存する場所とファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

■キャリブレーションチャートのi1iO+MeasureToolでの測定方法

1. DVD内の以下のファイルを、MeasureToolのインストールフォルダーに複製します。

   複製するファイル

   ¥etc¥CalibChart for MeasureTool¥Calib105Chart_MeasureTool.txt

   MeasureToolのインストールフォルダー（デフォルトの場合）

   C:Program Files¥GretagMacbeth¥ProfileMaker Professional¥Reference Files¥Printer¥EyeOne_iO

2. MeasureToolの［テストチャートの測定］ダイアログボックスで、テストチャートの一覧から「Calib105 Chart_MeasureTool.txt」を選択します。
3. ［ファイル］→［別名で保存］で、測定後のデータを「.txt」ファイルで保存します。

   補足　［Labの書き出し］はしないでください。

4. キャリブレーションの［測色ファイルを使用する］の［参照］をクリックして、保存した「.txt」ファイルを選択します。

便利な使い方

●最終列データ削除

チャート測定用ルーラーにそって測色器をスライドさせているときに、測色器が少し浮いてしまうことがあります。このような場合、測色はできており、i1_Readerから次の列の測色を促されます。しかし、このようなデータは、精度の低下の原因になるため、測色し直すことをお勧めします。

測色し直すときは、［最終列データ削除］をクリックして、最後の1列分の測色を削除してから、データを測色し直してください。

●エラーメッセージ表示時間の短縮

i1_Readerは、測色のスライド速度が速いなどのエラーが発生した場合に、エラーメッセージが7秒間表示されます。7秒間のメッセージ表示は、メッセージを読みとるために十分な長さとして設定されたものですが、i1_Readerに慣れてくると、7秒間が長すぎると感じるかもしれません。その場合は、エラーメッセージが表示されているときに、i1のボタンを軽くクリックしてください。エラー表示がキャンセルされ、次の測色がすぐにできるようになります。

2.2.4　キャリブレーションファイルの割り当て

作成したキャリブレーションファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

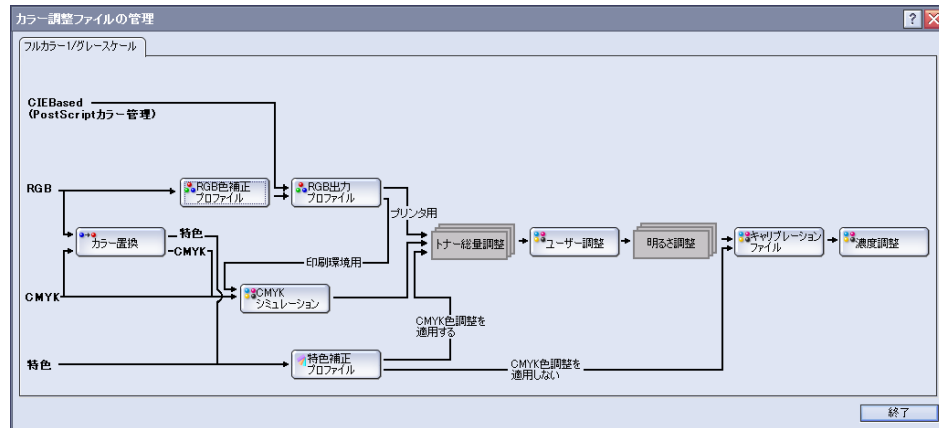
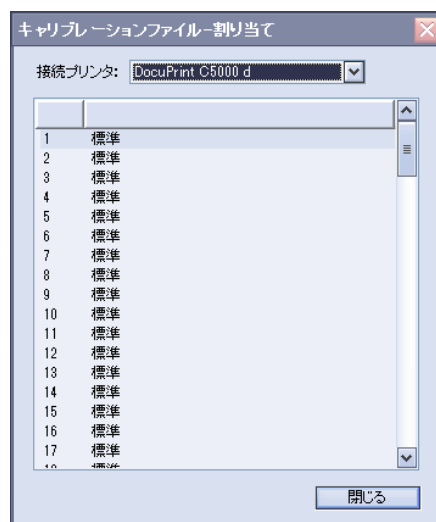
- キャリブレーションを実施しただけではプリントに適用されません。［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで割り当てを行い、プリントオプションの［画質］＞［キャリブレーション］でキャリブレーションファイルを選択してください。
- ［自動］の場合、キャリブレーション作成時や［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスの［割り当て］で、用紙トレイと原稿タイプに割り当てられたキャリブレーションファイルが使用されます。
- 1～100の場合、キャリブレーション作成時や［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで、該当番号に割り当てたキャリブレーションファイルが使用されます。
- 割り当てられたキャリブレーションファイルは、［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスに青字で表示されます。

キャリブレーションファイルの作成については、「2.2.2 キャリブレーションの実施」（P.54）を参照してください。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［キャリブレーションファイル］をクリックします。

3. 1 ～ 100 の中から割り当てる番号のキャリブレーションファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからキャリブレーションファイルを選択します。

4. ［閉じる］をクリックします。

割り当てたキャリブレーションファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［画質］>［キャリブレーション］からキャリブレーションファイルを選択します。

詳細は、「4.1.5 画質」（P.238）を参照してください。

2.2.5　キャリブレーションターゲットファイルの設定

プリントで使用する用紙専用にカスタマイズしたキャリブレーションターゲットファイルを作成できます。

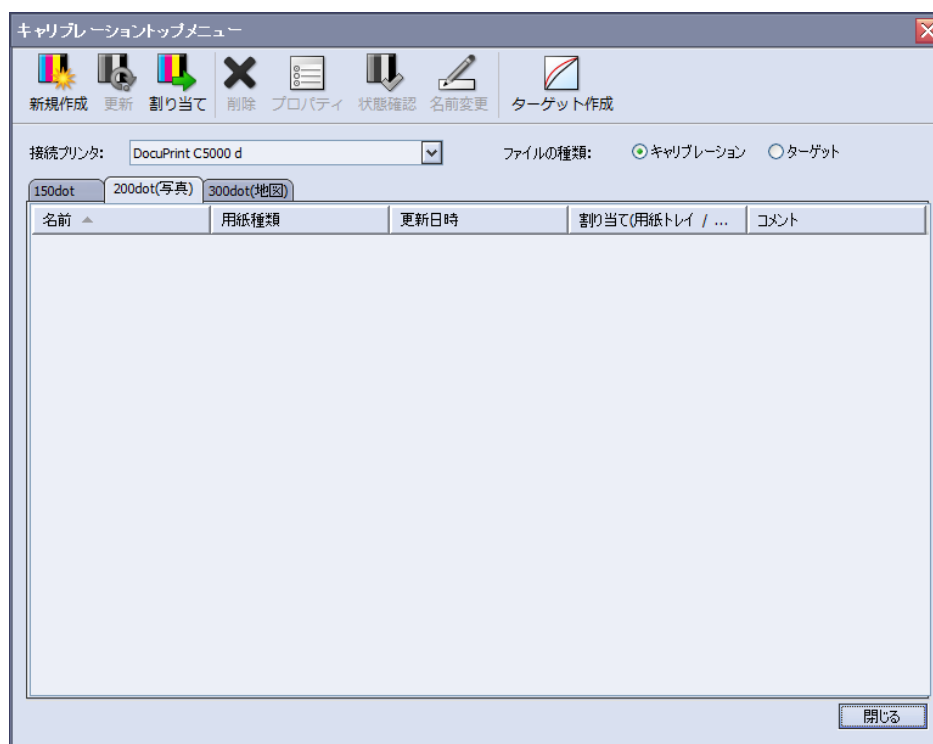
- 非コート紙用のキャリブレーションターゲットファイルを標準で用意しています。
- キャリブレーションターゲットファイルを作成するためには、オプションの測色器（UV フィルターなしのi1）が必要です。

キャリブレーションターゲットファイルの作成

操作手順

1. ServerManagerの［キャリブレーション］をクリックします。

補足　［カラー］→［キャリブレーション］を選択しても、［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［ターゲット作成］をクリックします。

3. 読み取り装置と原稿タイプ、用紙トレイを設定します。

● 読み取り装置

i1+i1_Reader

i1_Readerを使用して、キャリブレーションターゲットファイルを作成します

- i1はオプションです。
- i1はUVフィルターなしのi1を使用してください。

i1iO+MeasureTool

i1iO+MeasureToolを使用して、キャリブレーションターゲットファイルを作成します。

i1iOにセットするi1はUVフィルターなしのi1を使用してください。

● 原稿タイプ

スクリーン線数を選択します。

・150dot　・200dot（写真）　・300dot（地図）

● 用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

［手差しトレイ］を選択した場合は、［用紙サイズ］を入力し、［用紙種類］、［色］を選択します。

4. ターゲット作成用チャートをプリントする場合は、［部数］を入力し、［印刷］をクリックします。

- 最後にプリントされたキャリブレーションターゲット作成用チャートに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、1枚前のチャートを確認してください。
- プリントする部数は、プリントを安定させるために3部以上をお勧めします。

5. 読み込み方法（［i1_Readerを使って測色する］、または［測色ファイルを使用する］）を選択します。

［測色ファイルを使用する］を選択したときは、［参照］をクリックして、測色ファイルを選択します。

- ［i1iO+MeasureTool］を選択したときは、［i1_Readerを使って測色する］を選択することはできません。
- i1はオプションです。
- i1はUVフィルターなしのi1を使用してください。

6. ［測色開始］をクリックします。

［i1_Readerを使って測色する］を選択したときは、i1_Readerが起動します。

［測色ファイルを使用する］を選択したときは、測色ファイルが読み込まれます。

補足　A4 サイズ以上でターゲット作成用チャートをプリントすると、そのままでは測定用バックアップボードとチャート測定用ルーラーを使った測色ができません。ターゲット作成用チャートを測定用バックアップボードに入る大きさに切り取ってから測色してください。

参照
- 測色方法については、「2.2.3 i1_Readerと測色器」（P.62）を参照してください。
- i1_Readerでの測色データの読み込みについては、「i1_Readerによる測色」（P.67）の手順4以降を参照してください。

7. ターゲットファイル名と必要に応じてファイルコメントを入力し、［保存］をクリックします。

キャリブレーションターゲットファイルの削除

1. ［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスの［ファイルの種類］で、［ターゲット］を選択します。

2. 削除するキャリブレーションターゲットファイルを選択し、［削除］をクリックします。

- キャリブレーションの作成や更新で使うキャリブレーションターゲットファイルを削除しないように注意してください。
- 〈Delete〉キー、または〈Back Space〉キーでも削除できます。

2.3　RGB用ICCプロファイルを設定する

モニターに使用したICCプロファイルをプリントに適用すると、プリント結果の色味をより近づけることができます。

ICCプロファイルをPrint Serverに読み込み、［カラーモード］を［フルカラー1（RGB/CMYK)］にすると、プリントに反映できます。

以下の2種類のRGB用ICCプロファイルをPrint Serverに読み込み、プリントに反映できます。

・モニター用RGB色補正プロファイル

・プリンターや印刷環境用のプリント用RGBプロファイル

ICCプロファイルは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。

2.3.1　RGB色補正プロファイルの設定

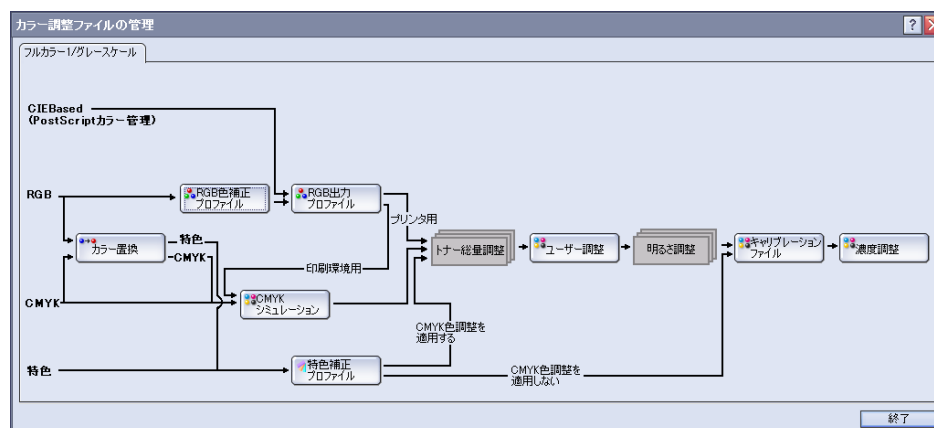
RGB色補正プロファイルの読み込み/割り当て

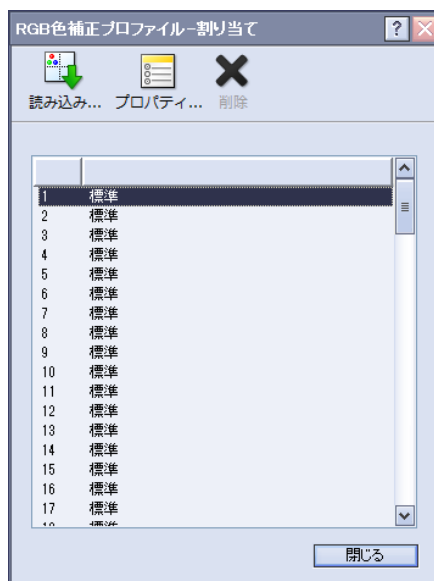
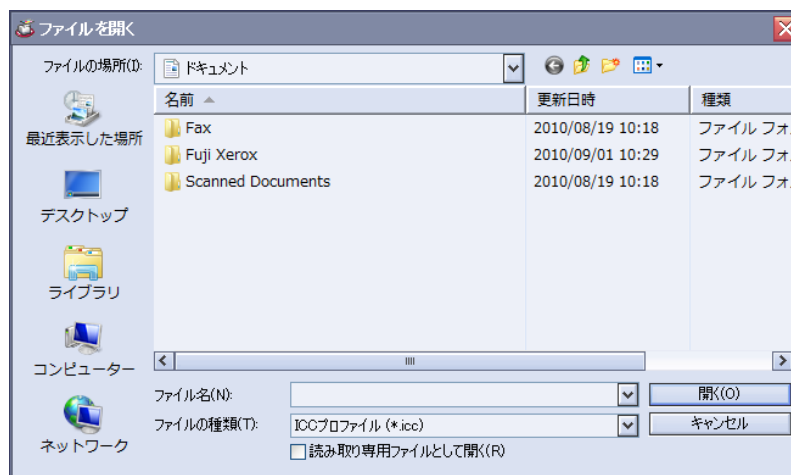
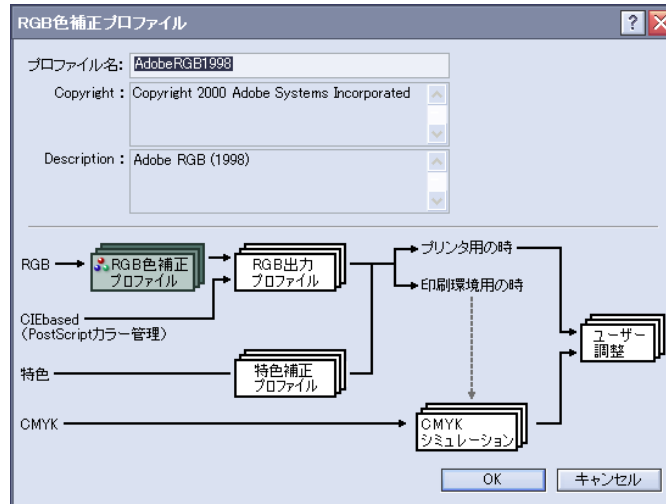
プリントに適用するRGB色補正プロファイルの読み込みと割り当てを行います。

読み込んだRGB色補正プロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［RGB色補正プロファイル］をクリックします。

補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、Print Serverのファイルか、クライアントコンピューターのファイルのどちらから読み込むかを選択する、［読み込み元］ダイアログボックスが表示されます。

3. ［読み込み］をクリックします。

4. 読み込むICCプロファイルを選択し、［開く］をクリックします。

5. 必要に応じてプロファイル名を変更し、[OK] をクリックします。

プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

- [RGB色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号にプロファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] を選択すると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 「標準」、「fxsRGBCSA」、「fxaRGB1998」、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

6. 1～100の中から割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからプロファイルを選択します。

7. [閉じる] をクリックします。

割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの [カラー] > [カラー詳細(RGB設定)] > [RGB色補正] からプロファイルを選択します。

参照　詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー詳細 (RGB設定)」(P.232) を参照してください。

RGB色補正プロファイル名の変更

1. [RGB 色補正プロファイル - 割り当て] ダイアログボックスで、変更するプロファイルを選択して [プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ダイアログボックスで名前を変更し、[OK] をクリックします。

RGB色補正プロファイルの削除

1. [RGB色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、[削除] をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

割り当てられているプロファイルを削除した場合は、「標準」が割り当てられます。

2.3.2　RGB出力プロファイルの設定

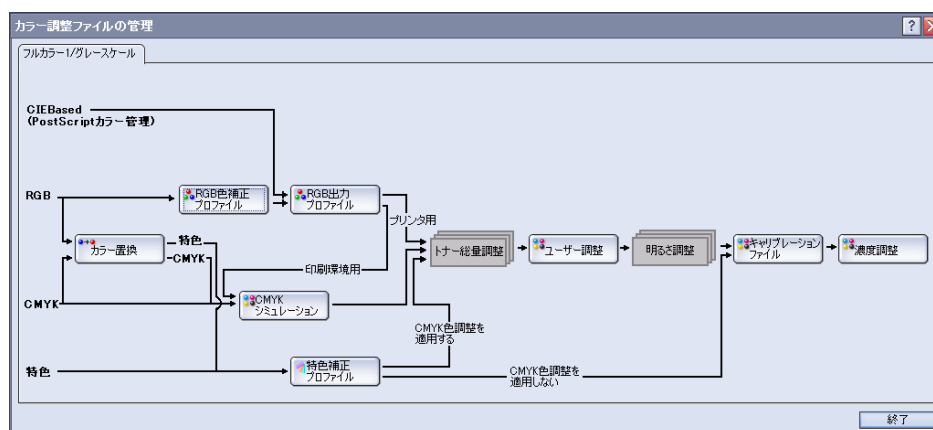
RGB出力プロファイルの作成/読み込み/割り当て

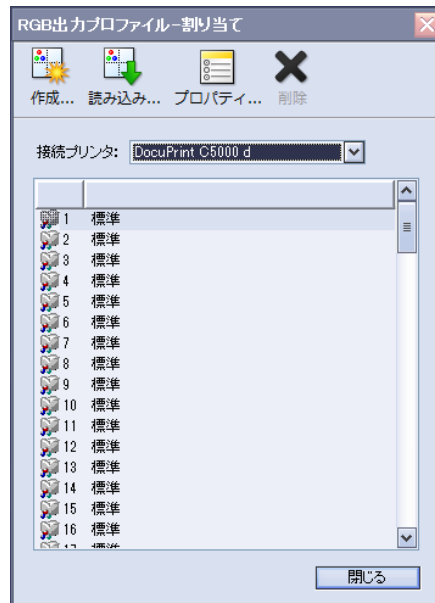
プリントに適用するRGB出力プロファイルの作成、またはICCプロファイルの読み込みと割り当てを行います。
読み込んだRGB出力プロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

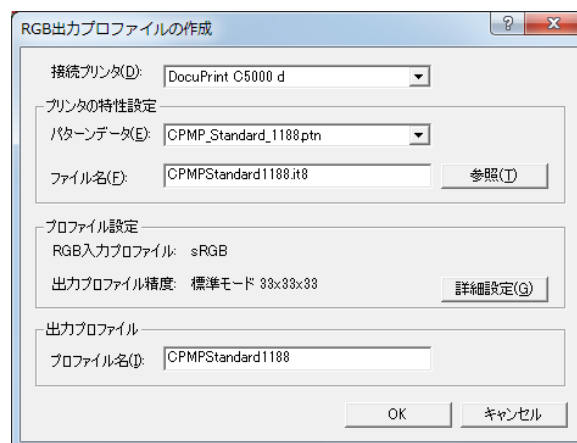
   補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［RGB出力プロファイル］をクリックします。

・RGB出力プロファイルの作成を行う場合は、手順3に進んでください。
・作成済みのRGB出力プロファイルの読み込みを行う場合は、手順7に進んでください。

3. RGB出力プロファイルを作成する場合は、[作成] をクリックします。

RGB出力プロファイルを作成する場合は、事前にパターン画像セットをプリンターでプリントし、測色を行っておく必要があります。

- パターン画像セットのうち、「ドラフトセット」はRGB出力プロファイルの作成には使用できません。
- [標準] が選択されている場合には、RGB 色補正プロファイルで [AdobeRGB（1998）] を選択すると、RGB 出力プロファイルは「AdobeRGB（1998）」用に切り替わります。ただし、RGB 出力プロファイルで読み込んだプロファイルが選択されている場合には、「AdobeRGB（1998）」用のプロファイルに切り替わらずに、選択されたRGB出力プロファイルが使用されます。
  そのため、RGB 色補正プロファイルで、[AdobeRGB（1998）] を選択し、RGB 出力プロファイルで「AdobeRGB（1998）」を想定していないプロファイルを選択した場合には、意図したプリント結果にならないことがあります。

参照　詳細は、「2.4.1 測色データの作成」（P.84）を参照してください。

4. 各項目を設定し、[OK] をクリックします。

● 接続プリンタ

[DocuPrint C5000 d] を選択します。

●プリンタの特性設定

プリンターの特性データを設定します。

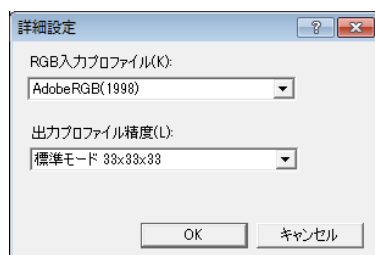
パターンデータ

測色データの作成に使用したパターン画像セットと同じものを選択します。

ファイル名

ファイル名を直接入力するか、［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスで測色データのファイルを選択します。

●プロファイル設定

［詳細設定］をクリックして、RGB入力プロファイルと出力プロファイルの精度を設定します。

RGB入力プロファイル

RGB出力プロファイルを作成するときに、RGB入力で想定される入力プロファイルを設定します。このRGB入力プロファイルの特性に合わせてRGB出力プロファイルの作成を最適化します。

・sRGB

デジタルカメラ・モニターなどの標準的なソース色空間です

・AdobeRGB（1998）

Adobe社指定のソース色空間です。標準的なモニターよりかなり広域な色空間です。

・［Adobe RGB（1998）］を選択した場合、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定）］の［RGB色補正］を［Adobe RGB（1998）］にしてください。［Adobe RGB（1998）］以外の場合、意図したプリント結果にならないことがあります。
・［Adobe RGB（1998）］を選択した場合、［RGB出力インテント］の設定を変更しても同じプリント結果になります。

出力プロファイル精度

作成するプロファイルの精度を選択します。

・高速モード21 x 21 x 21

21 x 21 x 21の格子点のプロファイルを作成します。格子点数が少ないので、短い時間でプロファイルを生成できます。

・標準モード33 x 33 x 33

33 x 33 x 33の格子点のプロファイルを作成します。格子点数が多いので、高精度なシミュレーションができます。

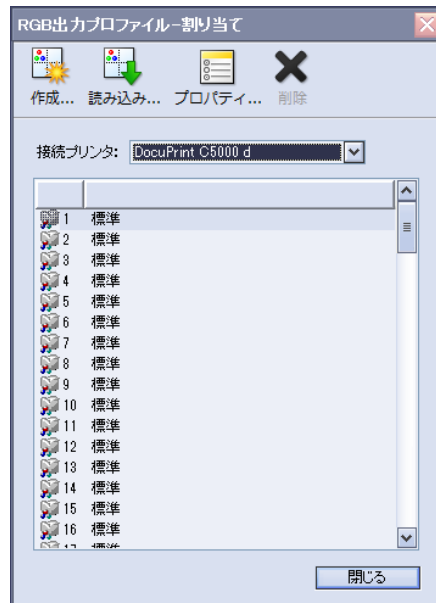
●出力プロファイル

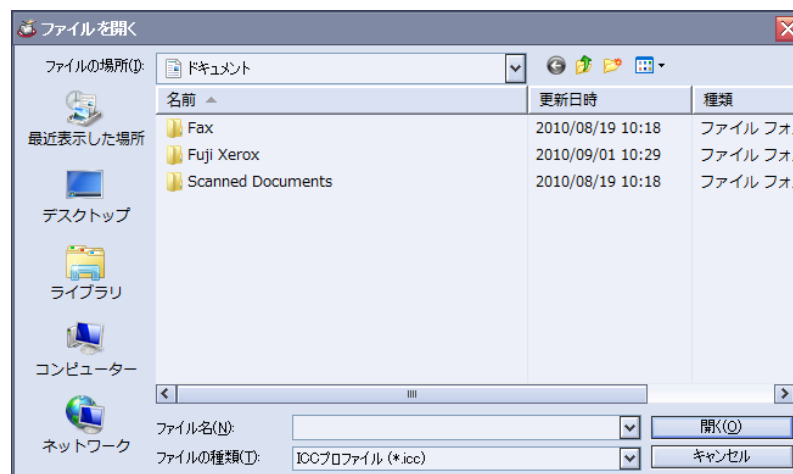
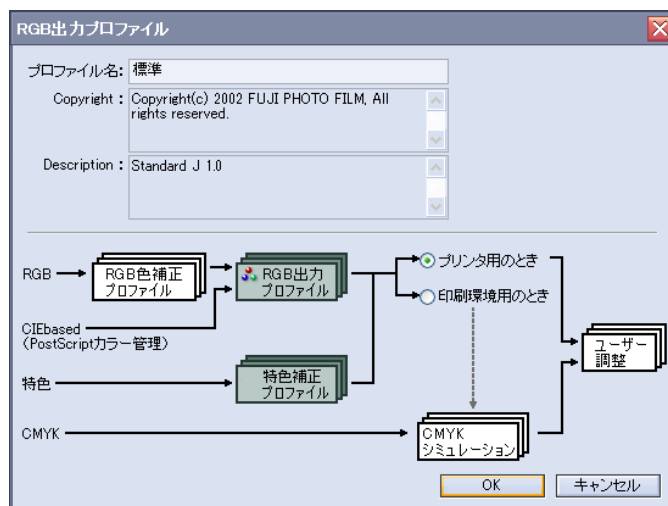
作成するプロファイル名を入力します。

5. ［はい］をクリックします。

6. ［OK］をクリックします。

RGBプロファイルの作成を行った場合は、手順9に進んでください。

7. 作成済みのRGB出力プロファイルを読み込む場合は、［読み込み］をクリックします。

補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、Print Serverのファイルか、クライアントコンピューターのファイルのどちらから読み込むかを選択する［読み込み元］ダイアログボックスが表示されます。

8. 読み込むICCプロファイルを選択し、［開く］をクリックします。

9. RGBプロファイルの出力形態を設定します。

読み込んだICCプロファイルに合わせて、[プリンタ用のとき]、または[印刷環境用のとき]のどちらかを選択します。

10. 必要に応じてプロファイル名を変更し、[OK]をクリックします。

プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

- [RGB出力プロファイル-割り当て]ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号にプロファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい]を選択すると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 標準で用意されているプロファイル名、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

11. 1～100の中から割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからプロファイルを選択します。

12. [閉じる]をクリックします。

割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの[カラー]>[カラー詳細(RGB設定)]>[RGB出力プロファイル]からプロファイルを選択します。

参照 詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー詳細(RGB設定)」(P.232)を参照してください。

RGB出力プロファイルの名前変更

1. [RGB出力プロファイル-割り当て]ダイアログボックスで、変更するプロファイルを選択し、[プロパティ]をクリックします。
2. [プロパティ]ダイアログボックスで名前を変更し、[OK]をクリックします。

RGB出力プロファイルの削除

1. [RGB 出力プロファイル - 割り当て]ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、[削除]をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

割り当てられているプロファイルを削除した場合、「標準」が割り当てられます。

2.4　CMYKプロファイルを設定する

CMYKプロファイルの作成には、シミュレーションする印刷環境と、Print Serverからパターン画像データをプリントして測色した測色データを使用します。各測色データの代わりに、ICCプロファイルも使用できます。

測色には、以下の測色器と測色ソフトウエアの組み合わせを使用できます。

・X-Rite社の測色器「i1」と、測色ソフトウエア「i1_Reader」

・X-Rite社の測色器「i1iO」、「i1iSis」、「i1iSis XL」、または「SpectroScan」と、測色ソフトウエア「MeasureTool」

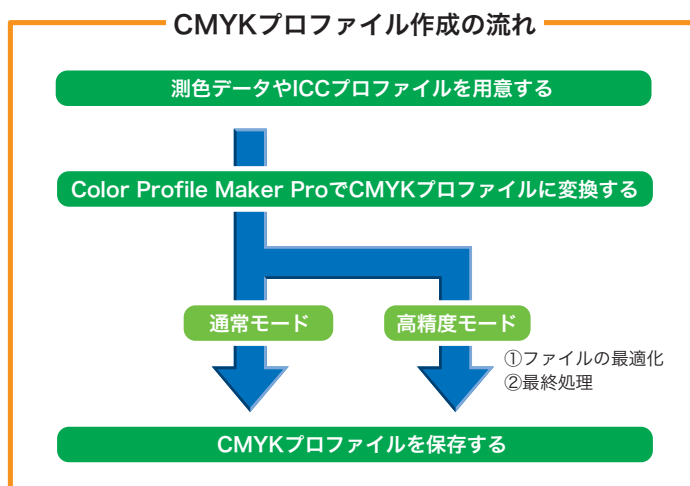
・X-Rite社の測色器「SpectroScan」と測色ソフトウエア「SpectroChart」、「SpectroChart Lite」

以降、SpectroChartと記載した場合は、SpectroChartとSpectroChart Liteの両方を表します。

X-Rite社の製品については、同製品の取扱説明書を参照してください。

◆デバイスリンクプロファイルをCMYKプロファイルに変換する方法

デバイスリンクICCプロファイルを作成できるアプリケーションで作成されたプロファイルが、Print Serverで使用できるCMYKプロファイルに変換できます。

変換方法には、通常モードと高精度モードがあります。

・測色データの作成方法については、「2.4.1 測色データの作成」（P.84）を参照してください。
・通常モードについては、「2.4.2 通常モード」（P.88）を参照してください。
・高精度モードについては、「2.4.3 高精度モード」（P.102）を参照してください。

CMYKプロファイル

以下のカラープロファイルが用意されています。以下のプロファイルは、CMYKプロファイルの割り当てを実行しなくても使用できます。

カラープロファイルは、J紙で82g/㎡を想定して作成されています。

JapanColor2007(アート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2007」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007(コート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2007」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007(マット紙)

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2007」のマットコート紙（ISO 規格用紙タイプ 2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(アート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2001」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(コート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2001」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(マット紙)

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のマットコート紙（ISO 規格用紙タイプ 2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2002(新聞)

新聞用Japan Color2002（JCN2002）をシミュレーションできるプロファイルです。

雑誌広告基準カラー V2(2004)

雑誌広告基準カラー（JMPAカラー）Version2をシミュレーションできるプロファイルです。

2.4.1 測色データの作成

CMYKプロファイルを作成するときに必要となる印刷物の測色データ、およびプリンターの測色データを作成します。

- オフセット印刷の特性がICCプロファイルで提供されるような場合には、測色値の代わりにICCプロファイルを使用することもできます。また、より厳密な印刷シミュレーションを行う場合は、測色データの作成をお勧めします。
- 代用できるICCプロファイルは、CMYKのアウトプットプロファイルに対応しているものだけです。それ以外のICCプロファイルは、処理できません。
- SpectroChart には、測定パターンを作成する機能があるため、任意のパターン画像セットを測定することができます。

デバイスリンクICCプロファイルからCMYKプロファイルを作成する操作については、「2.4.4 デバイスリンクICCプロファイルの変換」（P.108）を参照してください。

■パターン画像セット

MeasureToolを使用して測色する場合は、パターン画像セットが用意されているフォルダーに、測色パターンファイルを用意しています。用意されているパターン画像セット以外を使用しても、プロファイルを作成することができます。ただし、主要な色を含み、パッチ数が多いパターン画像セット（IT8.7/3やECI2002など）をお勧めします。主要な色を含まなかったり、パッチ数が少ない場合、プロファイルの精度が低下したり、ターゲット調整機能を使用できないことがあります。

◆SpectroScanを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル	測色ソフトウエア	
			SpectroChart	MeasureTool
for SpectroScan and SpectroChart	CMYK_Gretag.eps	PrintServer_Series _1188.ptn	○	
for SpectroScan and MeasureTool	CPMP_Full_Lino _MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn		○

○：使用可能な組み合わせです。

SpectroChartを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。

Macintoshクライアント用

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Mac chart pattern file

Windowsクライアント用

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Win chart pattern file

SpectroChart は Mac OS X には対応していません。Mac OS X で SpectroScan を使用する場合は、MeasureToolを使って測色を行ってください。

◆i1 とi1_Readerを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1 Ruler Board	CPMP_Draft_eye-one.eps	CPMP_Draft_256.ptn
	CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps	CPMP_Standard_1188.ptn
	CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps	CPMP_Full_1584.ptn

- 「CPMP_Draft_eye-one.eps」、「CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps」、および「CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps」は、i1 に付属している測定用バックアップボードを使用することを想定しているので、測定用バックアップボードについているクリップで挟みやすいように上部に余白のある配置になっています。
- 測定用バックアップボードが付属していないi1 を使用する場合は、下部に余白があった方が測色しやすいので、下部に余白がある配置の異なるパターン画像が「for i1 Ruler」フォルダーに同一ファイル名で用意されています。

◆i1iO とMeasureToolを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1iO and MeasureTool	CPMP_Full_i1iO_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn

i1iO とMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS¥for i1iO and MeasureTool

◆i1iSis とMeasureToolを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル	i1iSis のタイプ	
			i1iSis	i1iSis XL
for i1iSis and MeasureTool	CPMP_Full_iSis _MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn	□	□
for i1iSisXL and MeasureTool	CPMP_Full_iSisXL _MeasureTool.eps	CPMP_Full_1584.ptn		■

□：A4サイズ用です。A4よりも大きい用紙にプリントしたときは、実線で切り取ってください。
■：A3サイズ用です。

- i1iSis とMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS¥for i1iSis and MeasureTool
- i1iSis XL とMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS¥for i1iSisXL and MeasureTool

測色データの作成

操作手順

1. 以下のフォルダーにある任意のパターン画像セットを複製します。

   パターン画像セットは、測色に使用する測色器の種類によってファイルが異なります。

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS

2. 手順1で複製したパターン画像セットを印刷会社や印刷工場などに提供し、印刷を依頼します。

3. 手順1で複製したパターン画像セットをPhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで、Print Serverを使用し、プリンターからプリントします。

- 測色用の印刷物をプリントした印刷環境と実際の印刷物で使われる印刷環境が異なっていた、というような問題を避けるために、印刷会社、印刷工場（製版部門、印刷部門）の担当者へ、目的を知らせる、または打ち合わせを行うことをお勧めします。
- 測色用の印刷物には、測色用のパッチのほかに、皮膚の色やハイライトなど、目立つ、またはよく使う種類の画像を一緒に配置しておくことをお勧めします。
- パターン画像セットをプリントする前に、プリンターのキャリブレーションを行ってください。
  キャリブレーションについては、「2.2 キャリブレーションで色を補正する」（P.53）を参照してください。
- パターン画像セットのプリント時、プリントオプションの項目を、以下のとおりに設定してください。
  - ［カラー］＞［カラーモード］:［フルカラー１（RGB/CMYK)］、または［フルカラー（RGB/CMYK)］
  - ［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定)］＞［CMYK色補正］: チェックマークなし
  - ［カラー］＞［ユーザー調整］:［しない］
  - ［カラー］＞［濃度調整］:［しない］
  - ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定)］＞［トナー総量調整］:［標準］
  - ［カラー］＞［明るさ調整］:［0］
  - ［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［Image Enhancement/白抜き文字の強調］: しない
- Print Serverの［ジョブ読み込み］機能を使用してプリントすることもできます。［ジョブ読み込み］機能については、「ジョブ読み込み」（P.164）を参照してください。
- プリントされた各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。
- Photoshop でプリントする場合、Photoshop のポストスクリプトカラーマネージメントはオフにしてください。Photoshopのポストスクリプトカラーマネージメントをオンにして、プリント、またはEPSファイルを作成すると、Photoshop の［カラー設定］の［CMYK 設定］のカラープロファイル情報で色補正が行われます。（ICCプロファイルが埋め込まれます）
- Color Profile Maker Pro で作成したプロファイルを使用してプリントする場合も、ポストスクリプトカラーマネージメントをオフにして、ICCプロファイルが埋め込まれないようにして、PhotoshopからDeviceCMYKでプリントしてください。
- Photoshopのバージョンによって、「PostScriptカラー管理」、または「ポストスクリプトカラーマネージメント」というように表示が異なります。

4. 測色器を使って、手順2で入手した印刷物と手順3のプリント結果を番号順に測色し、それぞれの測色データを作成します。

- 測色器の違いによる誤差を避けるため、同じ測色器と測色条件で、測色データを作成してください。
- 測色するときには印刷物の下に、測色する用紙と同じ用紙の白紙を5枚以上重ねてください。

測色時の注意

Color Profile Maker Proでの印刷シミュレーションは、印刷条件や測色条件によって、その性能が左右されます。Color Profile Maker Proの機能を十分に発揮させるため、以下の事項にご注意ください。

◆用紙とインキ

Color Profile Maker Pro は、一般的な印刷用紙とプロセスインキによる印刷条件を想定しています。より良い印刷シミュレーション結果を得るために、着色紙や特色インキは、使用しないでください。

◆測色に使用するパターン画像セット

プリントされた各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。

◆測色

・測色器のキャリブレーションや測色方法は、印刷シミュレーションに大きく影響を与えます。測色器の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご利用ください。

・測色器の違いによる誤差を避けるため、同じ測色器と測色条件で、測色データを作成してください。

・測色するときに印刷物の下に敷く台紙には、測色時の写りを抑えるため、測色対象と同じ用紙の白紙を５枚以上重ねてください。

・印刷シミュレーションするファイルにICCプロファイルが埋め込まれている場合は、ファイルを保存したアプリケーションで、埋め込みを解除してください。ICC プロファイルが埋め込まれていると、ICC プロファイルの情報が優先され、Color Profile Maker Proでの印刷シミュレーションができない場合があります。

・CMYK パラメーターの作成には、処理に時間がかかる場合があります。Print Server で処理を実行すると、その間はプリント動作が遅くなります。

◆i1iO、i1iSis、i1iSis XL、またはSpectroScanと、MeasureToolを使用する場合

・測色方法については、ご使用の測色器、およびMeasureToolに付属の取扱説明書を参照してください。

・書き出しフォーマットは、CIE-Labを選択してください。

補足
・処理の完了を知らせるダイアログボックスで[Labの書き出し]を選択すると、CIE-Labで保存されます。
・［ファイル］>［別名で保存］で保存した場合は、CIE-Labで保存されません。

・測色時の設定は、以下のとおりです。
- 観測光源：D50光源
- 観測視野：2°

・フィルターを使用しないことをお勧めします。フィルターを使用しない場合、測色時のフィルターは、「No」を設定してください。

◆SpectroScanとSpectroChartを使用する場合

・測色方法については、SpectroScan、およびSpectroChartに付属の取扱説明書を参照してください。

・書き出しフォーマットは、CIE-Labを選択してください。

・測色時の設定は、以下のとおりです。
- 観測光源：D50光源
- 観測視野：2°
- 白色基準：Abs

・ファイルフォーマット形式は、「.it8」を選択してください。

・フィルターを使用しないことをお勧めします。フィルターを使用しない場合、測色時のフィルターは、「No」を設定してください。

◆i1とi1_Readerを使用する場合

- 測色するパターン画像セットに該当する測色パターンデータファイルを選択してください。
- 測色データ形式は、「三刺激値（CIELAB）」を選択してください。
- 測色方式は「ストリップ測色」、または「ダブルストリップ測色」をお勧めします。
- 測色するときは、i1 に付属しているスキャニングルーラー、または測定用バックアップボードを使用して、フリーハンドでの測色は行わないでください。フリーハンドで測色を行うと、正しい測色結果にならないことがあります。

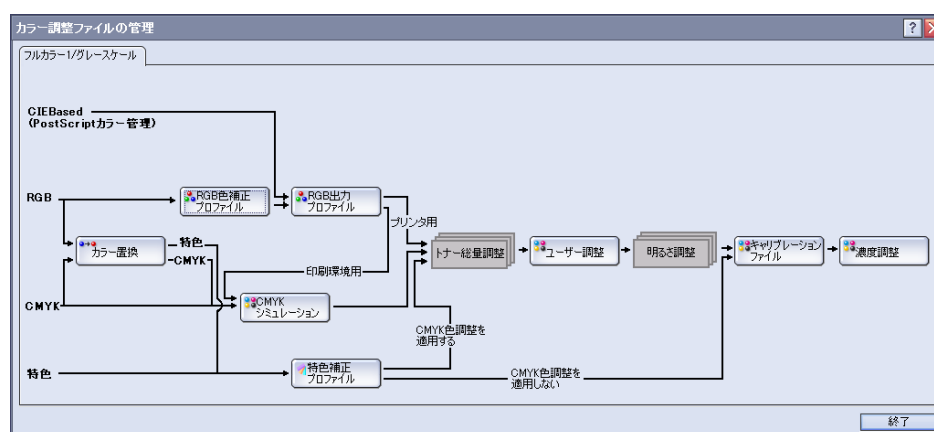
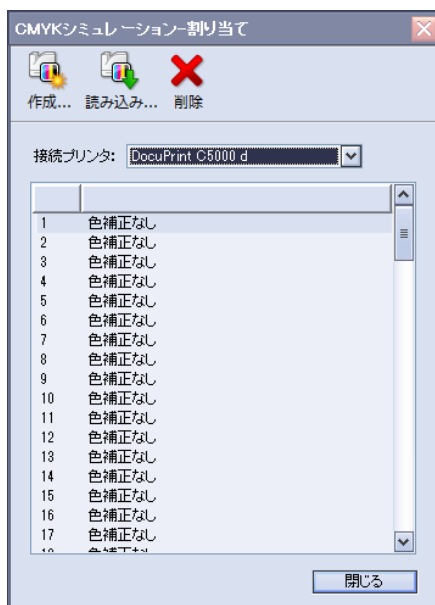
参照 測色方法については、「2.2.3 i1_Readerと測色器」（P.62）を参照してください。

2.4.2　通常モード

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

   補足 ［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［CMYKシミュレーション］をクリックします。

3. ［作成］をクリックします。

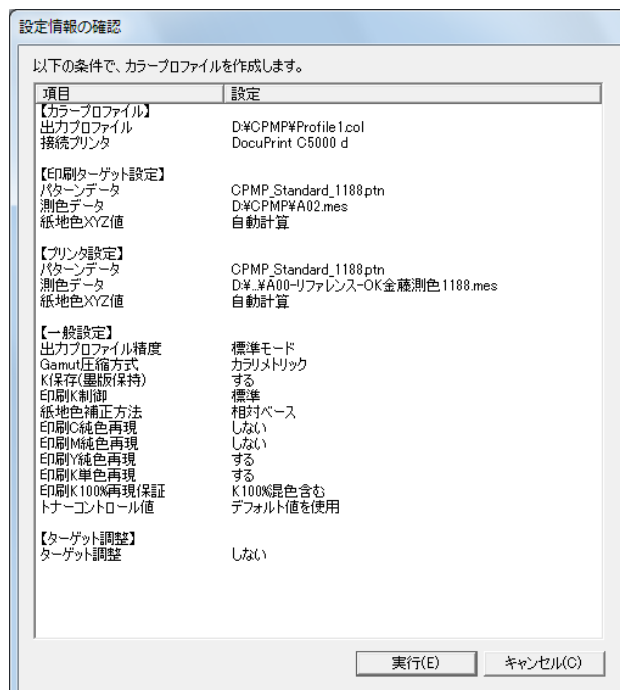
Color Profile Maker Proが起動します。

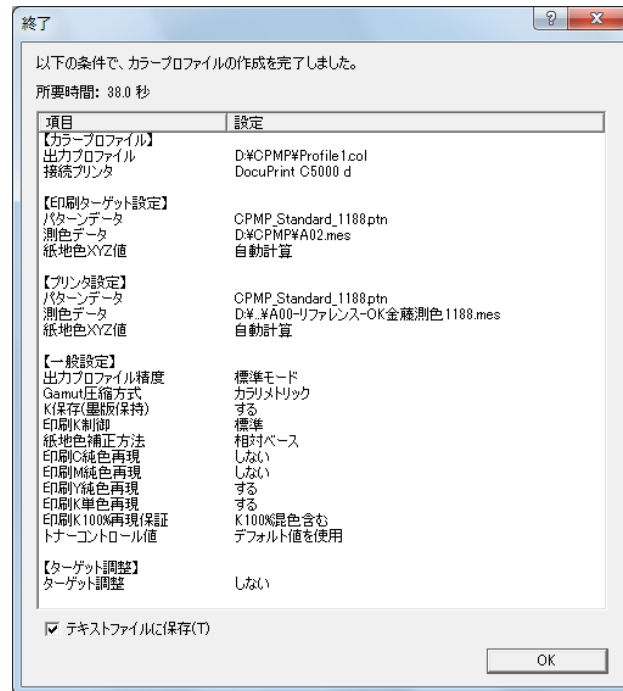
4. ［通常］をクリックします。

5. タブを切り替えて、作成するCMYKプロファイルの条件を設定し、［OK］をクリックします。

詳細は、「カラープロファイルの作成」の以下の各タブの説明を参照してください。

・「カラープロファイルの作成 - 各タブ共通」（P.91）
・「カラープロファイルの作成 - ［ファイル］タブ」（P.92）
・「カラープロファイルの作成 - ［作成条件1］タブ」（P.94）
・「カラープロファイルの作成 - ［作成条件2］タブ」（P.96）
・「カラープロファイルの作成 - ［作成条件3］タブ」（P.97）
・「カラープロファイルの作成 - ［紙地色指定］タブ」（P.101）

6. 表示されている設定内容をすべて確認し、［実行］をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

7. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

・[CMYKシミュレーション-割り当て] ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号にプロファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] を選択すると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
・[テキストファイルに保存] にチェックマークを付けると、設定情報がテキスト形式で保存されます。テキストファイルのファイル名は、「出力プロファイル名.txt」です。

カラープロファイルの作成-各タブ共通

■接続プリンタ

[DocuPrint C5000 d] を選択します。

■標準に戻す

クリックすると、すべてのタブの設定項目がデフォルトの設定に戻ります。

カラープロファイルの作成 -［ファイル］タブ

■印刷ターゲットの特性設定

・［ICCプロファイルを指定］と［測色データファイルを指定］があります。どちらかを選択し、ファイル名を入力するか、［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでファイルを選択します。

・測色データを使用する場合は、［測色データファイルを指定］を選択します。また、［パターンデータ］に、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。

・使用できる測色データファイルのファイルフォーマットは、以下のとおりです。

●Color Profile Maker Pro測色データファイル（*.mes）

測色ファイルコンバーターを使用すると作成される、Color Profile Maker Pro独自の測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●i1_Reader測色データファイル（*.it8）

i1_Readerを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●SpectroChart測色データファイル（*.it8）

SpectroChartを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●MeasureTool測色データファイル（*.txt）

MeasureToolを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
「MeasureTool Lab File.ptn」を選択します。

●Color Profile Maker Pro中間ファイル（*.fxc）

ターゲット調整機能で調整結果を保存すると作成される、Color Profile Maker Pro独自の中間ファイルの形式です。
パターンデータ情報を含んでいるため、パターンデータを選択する必要はありません。選択したパターンデータは無効になります。

Color Profile Maker Proでは、「Color Profile Maker Pro中間ファイル(*.fxc)」形式で、代表的な印刷特性の測色データを用意しています。用意されている印刷ターゲットの種類は、以下のとおりです。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Target¥JPN

用意されている印刷ターゲットの種類	説明
JapanColor2001（アート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のアート紙(ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2001（マット紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2001（コート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のコート紙(ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（アート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2007」のアート紙(ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（マット紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（コート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2007」のコート紙(ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできます。
雑誌広告基準カラー V2（2004）.fxc	雑誌広告基準カラー（JMPAカラー）Version2をシミュレーションできます。

■プリンタの特性設定

・［プリンタの代表値を使用］、［ICCプロファイルを指定］、［測色データファイルを指定］があります。
・［プリンタの代表値を使用］の場合は、プリンターの代表値が使用されます。
- プリンターの代表値は、原稿タイプが「写真」のものになっています。
- ほかの原稿タイプのプロファイルを作成する場合は、「2.4.1 測色データの作成」（P.84）の手順3に従ってパターン画像セットをプリントして測色してください。

・測色データを使用する場合は、［印刷ターゲットの特性設定］と同様に、［測色データファイルを指定］を選択します。また、［パターンデータ］に、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。
・［測色データファイルを指定］、または［ICCプロファイルを指定］の場合は、ファイル名を入力するか、［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでファイルを選択します。

［プリンタの代表値を使用］の場合は、プリンターの正確な特性を把握できないので、カラーマッチングの精度は落ちることがありますが、印刷ターゲットとしてICCプロファイルを入手したときなどは、測色を行わなくてもプロファイルを作成できます。

原稿タイプについては、「4.1.5 画質」（P.238）を参照してください。

■出力プロファイル

作成するプロファイル名を入力し、［保存先］をクリックして保存先を選択します。

カラープロファイルの作成-［作成条件1］タブ

■紙地色補正方法

紙地色補正とは、用紙の違いによって再現される色が変わる現象を調整する方法です。

●相対ベース

印刷物とプリンターで使用する用紙の紙地色を基準に調整されます。それぞれの基準に従ってカラー画像の全体的なバランスをとりながら処理します。

測色器による色差比較など、各色の絶対レベルでの比較では、絶対ベースには劣る場合がありますが、用紙の白色に対する感じ方やハイライトの自然さなどに優れたプロファイルが作成されます。

●相対ベース/中高濃度絶対

低濃度域は印刷物とプリンターで使用する用紙の紙地色を基準に調整され、中高濃度域は、印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。

測色器による色差比較など、各色の絶対レベルでの比較では［絶対ベース］の方が色差は小さくなりますが、用紙の白色に対する感じ方やハイライトの自然さなどに優れたプロファイルが作成されます。

●絶対ベース/白のみ補正

印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。ただし、白の色がプリンター用紙の白に調整されます。

印刷物の用紙がプリンター用紙よりもわずかに濃い場合など、［絶対ベース］ではファイルの白い部分に薄く色がついて、汚れのように見えることがあります。このような場合に、ファイルの白い部分が白であるプロファイルを作成できます。

● 絶対ベース

印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。印刷物が地色付きの用紙の場合に選択します。

印刷物が地色付きの場合は、ファイルの白い部分に地色を付けてプリントされます。

［絶対ベース］を選択して地色のシミュレーションを行う場合の設定について

- 「作成条件2」の［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［しない］にすることをお勧めします。
- ［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［する］にすると、色差で比較したときの精度は落ちますが、少量のシアンやマゼンタの混合を排除できます。［しない］にすると、イエロー単色の印刷物の色にシアンやマゼンタを微量に混ぜて色を精度良くシミュレーションできます。ただし、地色がついている紙の場合は、地色よりも明るくなってしまうことがあるので、［しない］をお勧めします。
- ［印刷K単色→プリンタK単色再現］も［しない］をお勧めします。
- ［印刷K単色→プリンタK単色再現］は、ブラック単色の文字や線の色がわずかににじんで見える現象を抑えたり、白黒だけのファイルをグレースケールでプリントしたりするモードです。ただし、地色がついている紙の場合は、ブラックと地色とのつながりが不自然になることがあるので、［しない］をお勧めします。

［相対ベース］の場合、用紙の白の色のばらつきを防ぐために、用紙の色を任意の値で入力できます。「カラープロファイルの作成-［紙地色指定］タブ」（P.101）を参照してください。

■K保存（墨版保持）

K保存とは、CMYKデータをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つK版の情報を保持する機能です。

■印刷K単色→プリンタK単色再現

印刷するファイルに含まれるK単色のデータがプリンターのK単色で再現されます。K単色の文字をはっきりとプリントする、Kだけの中間調をプリンターのKだけでプリントする効果があります。

［しない］の場合、ファイルのK単色の部分にも色トナーが混ざります。

- ［する］にした場合、設定した色の近傍で色味の忠実性が低下することがあります。これは、［印刷K単色→プリンタK単色再現］が優先されるためです。
- ［する］にした場合、ファイルによっては墨の周りの階調が不自然になることがあります。
- 黒の色相、または黒の近傍の色相まで、より厳密にシミュレーションする場合に［しない］を設定します。ただし、黒だけの場合にもほかの色のトナーを混ぜてシミュレーション精度を上げることになりますので、白黒だけのファイルであってもプリントはカラーと同様ということになります。（したがって、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定］＞［カラーの自動検出］でもカラーと判断されます）

■印刷K100%再現保証

印刷するファイルのK100%の色指定をどのようにプリントするかを選択します。通常は、黒文字（K100%）の判読性を高めるために、［K100%混色含む］を選択します。

● K100%混色含む

黒文字（K100%）の判読性を高める場合に選択します。印刷するファイルでK100%のデータは、プリンターでもK100%でプリントされます。

C、M、Yの値にかかわらずKが100%であるときは、プリンターのK成分は100%でプリントされるようになり、C、M、Y成分は、カラーマッチングの結果、適切な値でプリントされます。

Kオーバープリントなどでこ、M、Y成分を含んでいるようなKが100%の文字でも、より黒く判読性の高いプリントができます。

● K100%純色のみ

黒文字（K100%）の判読性を高めるときに選択します。印刷するファイルでK100%（C、M、Yは0%）のデータは、プリンターでもK100%（C、M、Yは0%）でプリントされます。

シミュレーションを行う印刷物のKの濃度が薄い場合、［K100%混色含む］を選択すると、C、M、Yが混ざっていて、Kが100%のデータは濃くなってしまうことがあります。［K100%純色のみ］を選択することで、実際の印刷物の濃度に合わせたシミュレーションが行われます。

● しない

シミュレーションを行う印刷物のKの濃度が薄い場合で、K100%を実際のKの濃度に合わせて薄くプリントするときに、［しない］にします。

カラープロファイルの作成-［作成条件2］タブ

■出力プロファイル精度

作成するプロファイルの精度を選択します。

●標準モード9×9×9×9

9×9×9×9の格子点のCMYKプロファイルが作成されます。

●高精細モード17×17×17×17

17×17×17×17の格子点のCMYKプロファイルが作成されます。格子点が細かいので、高精度なシミュレーションができます。［標準モード9×9×9×9］よりも処理時間は長くなります。

■Gamut圧縮方式

Gamut圧縮方式とは、再現できる色の範囲のデバイスによる違いを調整する方式のことです。

●カラリメトリック

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためプリンターで再現できない色については、最も近い色に再現できるよう処理されます。

●パーセプチャル

カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

●サチュレーション

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためプリンターで再現できない色については、色相や彩度のバランスをとりながら再現できるよう処理されます。

■印刷K制御

K版保存方式の選択を行います。［標準］を選択します。

■純色再現設定

単色の印刷物の色に、ほかの色を微量に混ぜて色を精度良くシミュレーションするか、または色差で比較したときの精度は落ちても、目障りな少量の色の混合を排除するかを選択できます。通常は、印刷C純色と印刷M純色を［しない］、印刷Y純色を［する］で使用します。

● 印刷C純色→プリンタC純色再現

印刷するファイルに含まれるシアン純色のデータがプリンターのシアン純色で再現されます。［しない］の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

● 印刷M純色→プリンタM純色再現

印刷するファイルに含まれるマゼンタ純色のデータがプリンターのマゼンタ純色で再現されます。［しない］の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

● 印刷Y純色→プリンタY純色再現

印刷するファイルに含まれるイエロー純色のデータがプリンターのイエロー純色で再現されます。［しない］の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

特に、イエローは微量であってもほかの色が混ざると目立つので、通常は［する］にして、イエロー純色で再現したほうが良い効果が得られます。

- ［純色再現設定］のどれかを［する］にした場合、設定した色の近傍で色味の忠実性が低下することがあります。これは、［純色再現設定］が優先されるためです。また、ファイルによっては純色の周りの階調が不自然になることがあります。
- CMYKプロファイル作成時、［作成条件1］タブの［紙地色補正方法］が［絶対ベース］の場合（地色のシミュレーションを行う場合）は、［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［しない］にすることをお勧めします。地色のついている紙の場合は、［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［する］にして、イエローに混ざるほかの色を抜いてしまうと、実際の紙の地色よりも明るくなってしまうことがあります。

カラープロファイルの作成-［作成条件3］タブ

■ トナーコントロール

作成するプロファイルのトナーの最大使用量（C、M、Y、Kの合計％）を選択できます。濃度や色差を実際のターゲットに近い状態でトナー量を調整します。通常は［デフォルト値を使用］を選択します。

［超低総量規制］の［規制する］にチェックマークが付いているときは、［トナーコントロール］を設定できません。

● デフォルト値を使用

［接続プリンタ］で選択されているプリンターのデフォルト値を使用します。

●制御を行う

トナーの最大使用量を入力する場合に選択します。

制御値％

［制御を行う］の場合、制御値を入力します。入力範囲は、200～240％です。

■超低総量規制

●規制する

チェックマークを付けると、規制できます。作成するプロファイルのトナーの最大使用量（C、M、Y、Kの合計％）を200％以下に規制できます。通常はチェックマークを外します。

超低総量規制では、200％以下に規制（二次色も対象になる）するため、一次色も含めて見た目で違和感のない画像を得るGamut圧縮が行われます。

チェックマークを付けると、［トナーコントロール］は設定できません。チェックマークを外すと、［トナーコントロール］の設定に従って、プロファイルが作成されます。

- ［作成条件1］タブの［K保存（墨版保持）］が［しない］になっているとき、または［作成条件2］タブの［印刷K制御］が［標準］以外のときは、［規制する］にできません。
- ［規制する］にチェックマークを付けると、［作成条件2］タブにある［Gamut圧縮方式］の［パーセプチャル］と［サチュレーション］は同じ結果になります。また、Gamut（色域）が極端に規制されるため、［作成条件 2］タブにある［Gamut 圧縮方式］の切り替えによる画像の変化は、より大きなものになります。

規制値％

［規制する］にチェックマークを付けたとき、規制値を選択します。入力範囲は、160～200％です。

■ターゲット調整

プロファイルの色再現を調整できます。

●調整する

チェックマークを付けると、調整できます。通常はチェックマークを外します。

チェックマークを付けたときは、［調整］をクリックして表示される［ターゲット調整］ダイアログボックスで値を設定します。

ターゲット調整機能を使用すると、プロファイルの色精度が低下することがあります。

[ターゲット調整] ダイアログボックス

項目		説明
調整量	明るさ	明るさを調整します。 「+」の値を入力すると明るく、「-」の値を入力すると暗く調整されます。入力範囲は、-100～100です。通常は［0］を入力します。
	鮮やかさ	鮮やかさを調整します。 「+」の値を入力すると鮮やかに、「-」の値を入力すると鮮やかさを抑えるように調整されます。入力範囲は、-100～100です。通常は［0］を入力します。
	色調整	色味を調整します。 ［緑-赤］の設定項目では、「+」の値を入力するとより赤に近い色に、「-」の値を入力するとより緑に近い色に調整されます。 ［青-黄］の設定項目では、「+」の値を入力するとより黄色に近い色に、「-」の値を入力するとより青に近い色に調整されます。 入力範囲は、-100～100です。通常は［0］を入力します。
対象領域	明るさ	色調整の有効範囲を明るさで選択できます。［ハイライト］、［中間調］、［シャドウ］のチェックマークを付けた範囲が色調整の対象です。通常はすべてにチェックマークを付けます。 補足　隣接する範囲でチェックマークあり・なしが設定された場合は、調整効果が連続的に変化するように処理されます。
	色相	色調整の有効範囲を色相方向で選択できます。［Y］、［R］、［M］、［B］、［C］、［G］のチェックマークを付けた色相が色調整の対象です。通常はすべてにチェックマークを付けます。 補足 ・隣接する色相でチェックマークあり・なしが設定された場合は、調整効果が連続的に変化するように処理されます。 ・1つ以上の色相のチェックマークを外した場合は、以下の設定が自動的に行われます。 　・［白点固定］、［黒点固定］、［グレー軸近傍を固定］はチェックマークあり 　・［シャドウのみを対象］、［有彩色を固定］はチェックマークなし

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="5">対象領域</td><td>白点固定</td><td>白（紙色）を色調整の対象とするかどうかを選択します。
チェックマークを付けると、白から離れるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。
補足
・［作成条件 1］タブの［紙地色補正方法］が［絶対ベース］の場合、紙地色を含めて色調整を行うときは、チェックマークを外してください。紙地色を変化させないように色調整を行うときは、チェックマークを付けてください。
・［作成条件1］タブの［紙地色補正方法］が［相対ベース］、または［相対ベース/中高濃度絶対］の場合は、チェックマークあり・なし、どちらでも紙地色に影響しません。
・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。また、［シャドウのみを対象］、または［有彩色を固定］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークありで固定になります。</td></tr>
<tr><td>黒点固定</td><td>プロセスブラックを色調整の対象とするかどうかを選択します。
チェックマークを付けると、プロセスブラックから離れるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。
補足
・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。
・［シャドウのみを対象］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークなしで固定になります。
・［有彩色を固定］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークありで固定になります。</td></tr>
<tr><td>シャドウのみを対象</td><td>チェックマークを付けると、色調整の対象をシャドウ領域（トナー総量の多い領域）に限定して、トナー総量が高くなるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。
補足
［色相］で1つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークなしで固定になります。また、チェックマークを付けた場合は、［白点固定］はチェックマークあり、［黒点固定］はチェックマークなしで固定になります。</td></tr>
<tr><td>グレー軸近傍を固定</td><td>チェックマークを付けると、グレーに近い色を色調整の対象から除外して、グレーから離れるに従って、調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。
補足
・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。
・チェックマークを付けた場合は、［有彩色を固定］はチェックマークなしで固定になります。</td></tr>
<tr><td>有彩色を固定</td><td>チェックマークを付けると、グレーに近い色を色調整の対象として、グレーから離れるに従って調整の効果が弱くなるように処理されます。通常はチェックマークを外します。
補足
［色相］で1つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークなしで固定になります。また、チェックマークを付けた場合は、［白点固定］、［黒点固定］はチェックマークあり、［シャドウのみを対象］、［グレー軸近傍を固定］はチェックマークなしで固定になります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">調整結果の保存</td><td>クリックすると、［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されるので、保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。［ターゲット調整］ダイアログボックスで設定した内容が保存されます。ファイルの拡張子は、「.fxc」です。
保存されたファイルは、［ファイル］タブにある［印刷ターゲットの特性設定］の［測色データファイルを指定］で選択できます。</td></tr>
</table>

カラープロファイルの作成-［紙地色指定］タブ

［紙地色指定］タブは、通常モードのときにだけ表示されます。

■印刷用紙 地色XYZ値、プリンタ用紙 地色XYZ値

［作成条件1］タブの［紙地色補正方法］で［相対ベース］を選択して、複数のプロファイルを作成したり、定期的にプロファイルを作成したりする場合、プロファイルごとに白の測色値が変動し、ばらつきが発生することがあります。ここで同じ値を入力すると、ばらつきを抑えることができます。

値を設定する場合は［印刷用紙 地色XYZ値］、または［プリンタ用紙 地色XYZ値］の［以下の値を使用］を選択して、数値を入力します。

入力範囲は、0.000～1000.000です。（ただし、X＜Y＜Z）
例：（X,Y,Z）＝（95.045,100.000,108.892）

●D50白色XYZをセット

クリックすると、D50白色のXYZ値（X:96.42,Y:100,Z:82.49）が入力されます。

2.4.3 高精度モード

高精度モードでは、CMYKプロファイルを繰り返し作成することによって色差を診断し、最適化することによって、より高精度なCMYKプロファイルを作成できます。

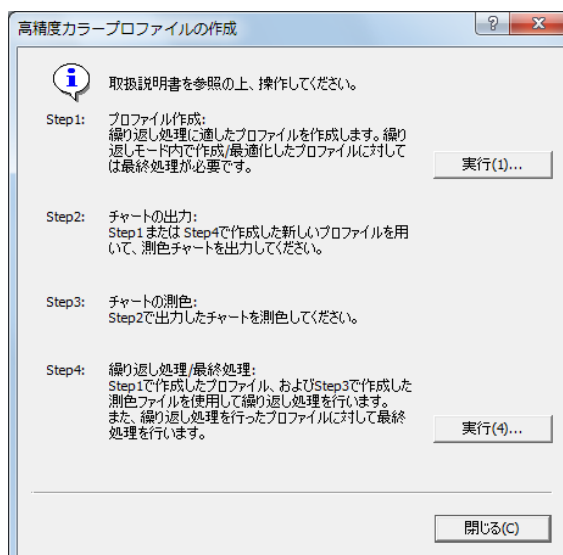
高精度モードでは、以下の設定は変更できません。
- ［作成条件1］の［K保存（墨版保持）］は［する］
- ［作成条件2］の［Gamut圧縮方式］は［カラリメトリック］
- ［紙地色指定］

CMYKプロファイルの作成

繰り返し処理に適したCMYKプロファイルを新規に作成します。

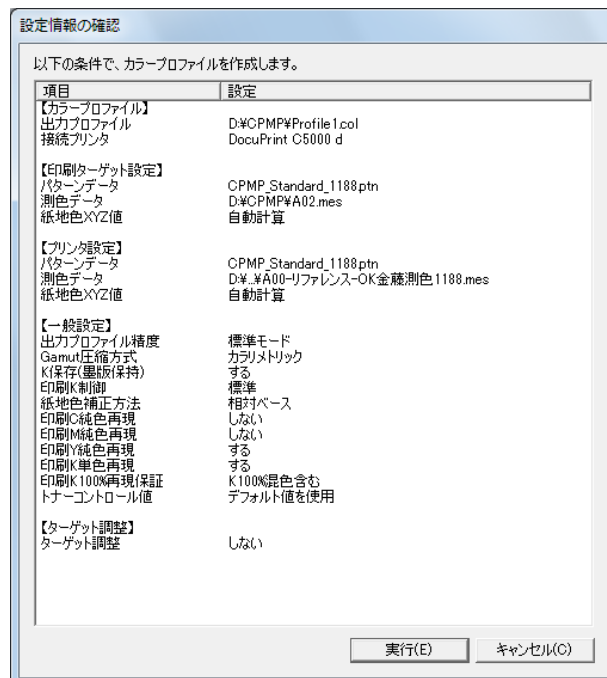
操作手順

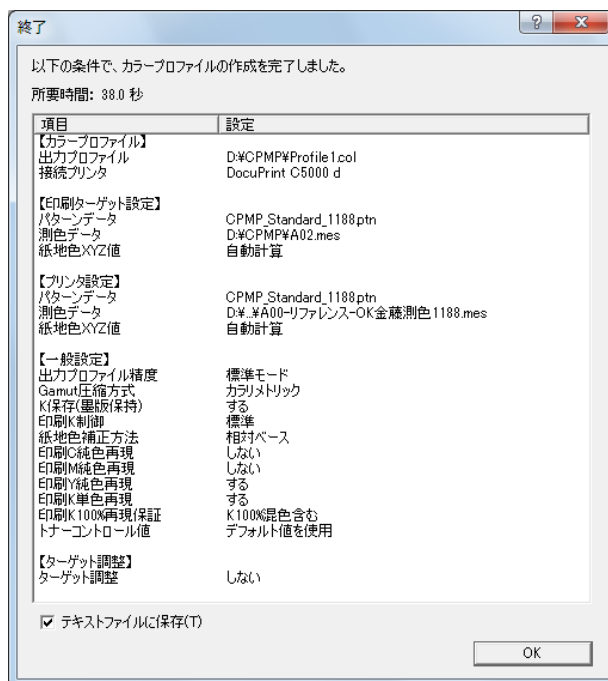
1. Color Profile Maker Proの起動画面で、［高精度］をクリックします。

2. ［Step1］の［実行］をクリックします。

3. タブを切り替えて、作成するCMYKプロファイルの条件を設定し、［OK］をクリックします。

参照　詳細は、「カラープロファイルの作成」の以下の各タブの説明を参照してください。

- 「カラープロファイルの作成-各タブ共通」（P.91）
- 「カラープロファイルの作成-［ファイル］タブ」（P.92）
- 「カラープロファイルの作成-［作成条件1］タブ」（P.94）
- 「カラープロファイルの作成-［作成条件2］タブ」（P.96）
- 「カラープロファイルの作成-［作成条件3］タブ」（P.97）

4. 表示されている設定内容をすべて確認し、［実行］をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

5. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

[テキストファイルに保存] にチェックマークを付けると、設定情報がテキスト形式で保存されます。テキストファイルのファイル名は、「出力プロファイル名.txt」です。

繰り返し処理用測色データの作成

繰り返し処理用CMYKプロファイルを割り当てて、パターン画像セットをプリントし、測色データを作成します。

パターン画像セットについては、「 測色データの作成」(P.86)を参照してください。

操作手順

1. 「 CMYKプロファイルの作成」(P.102) で作成した2つのプロファイル (「プロファイル名_FB＊＊.col」と「プロファイル名_FB＊＊.dat」) をPrint Serverの以下のフォルダーに保存します。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation¥DPC5000d_1

- プロファイル名の「＊＊」には、繰り返し処理の回数が入ります。
- プロファイル名に記号や漢字を使用している場合、プロファイル認識時にシステムが文字コードを変換するため、入力したものと違う名前になっていることがあります。
- CMYKプロファイル名は、作成時から変更しないでください。プロファイル名を変更すると、CMYKプロファイルを使用したPrint Serverでのプリント処理でエラーが発生します。
- 作成済みのプロファイルは、ServerManager の [カラー] メニューから読み込むことができます。詳細は、「2.4.7 CMYKプロファイルの設定」(P.120) を参照してください。
- プリントデータに埋め込まれたICCプロファイルを無視して、DeviceCMYKとして処理を行い、Color Profile Maker Proで作成したCMYKプロファイルで処理できるように設定できます。ServerManagerの [システム] → [プリントジョブの設定] → [埋め込みカラープロファイルを無視する (CIEBasedA/DEF/DEFG)] にチェックマークを付けてください。

2. 手順1で保存したCMYKプロファイルを割り当てます。

CMYKプロファイルの割り当てについては、「2.4.7 CMYKプロファイルの設定」(P.120) を参照してください。

3. Print Serverのキャリブレーションを実施します。

キャリブレーションについては、「2.2 キャリブレーションで色を補正する」（P.53）を参照してください。

4. パターン画像セットをPhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで開き、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定)］＞［CMYKシミュレーション］で、手順2で登録したCMYKプロファイルを選択します。

5. クライアントコンピューターからプリントする場合は、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定)］＞［CMYK色補正］に必ずチェックマークを付けます。

6. プリントします。

7. 測色器を使って、手順6のプリント結果を測色し、測色データを作成します。

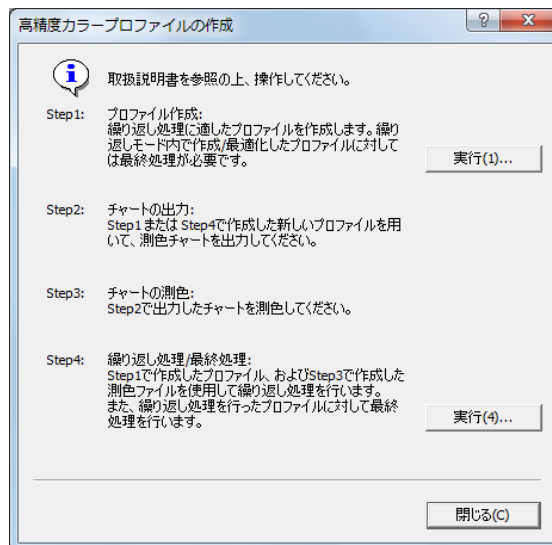
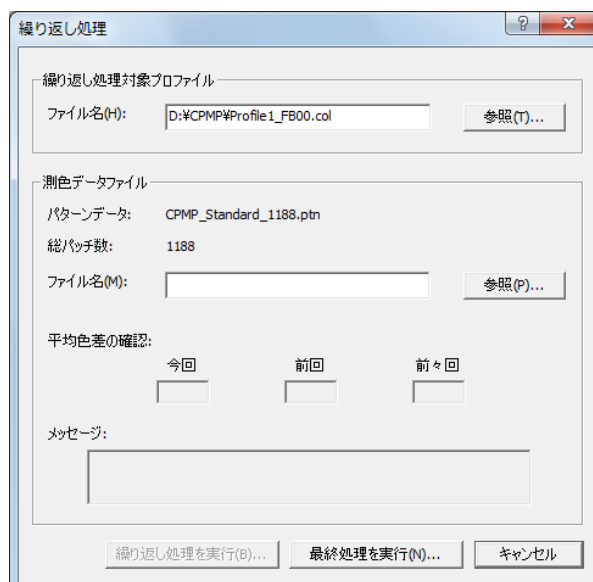
測色するときには印刷物の下に、測色する用紙と同じ用紙の白紙を5枚以上重ねてください。

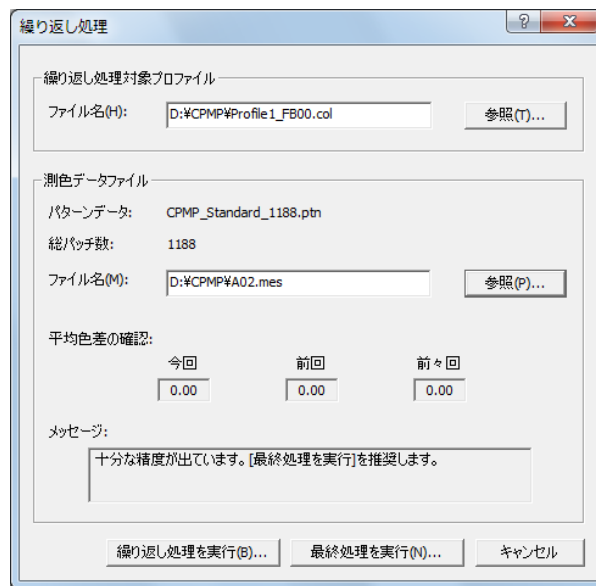
CMYKプロファイルの最適化と最終処理

「CMYKプロファイルの作成」（P.102）で作成したCMYKプロファイルに繰り返し処理をして、CMYKプロファイルを最適化します。また、最適化されたCMYKプロファイルに最終処理をして、すべてのパラメーターが適用されたCMYKプロファイルを生成します。

操作手順

1. Color Profile Maker Proの起動画面で、［高精度］をクリックします。

2. ［Step4］の［実行］をクリックします。

3. ［繰り返し処理対象プロファイル］を変更する場合は、［参照］をクリックして、繰り返し処理用CMYKプロファイルを選択します。

［測色データファイル］の［パターンデータ］と［総パッチ数］が表示されます。

4. ［測色データファイル］の［参照］をクリックして、「 繰り返し処理用測色データの作成」（P.104）で作成した測色データファイルを選択します。

［平均色差の確認］に［今回］、［前回］、および［前々回］の色差の値が表示され、［メッセージ］に色差診断結果が表示されます。

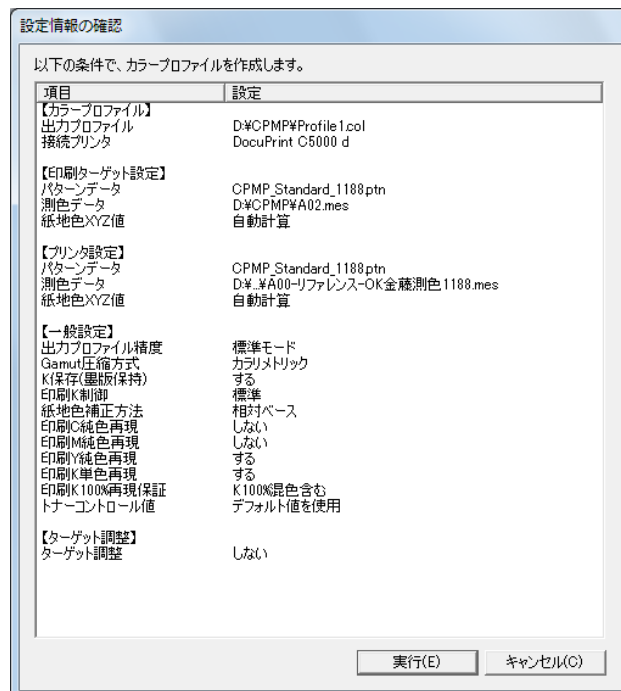
◆さらに精度を上げたい場合

［繰り返し処理を実行］をクリックします。

◆現在の精度でよい場合

［最終処理を実行］をクリックします。

補足　繰り返し処理を実行せずに最終処理を行うため、最終処理されたプロファイルの色差は、［今回］の値となります。

5. 表示されている設定内容をすべて確認し、［実行］をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

6. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

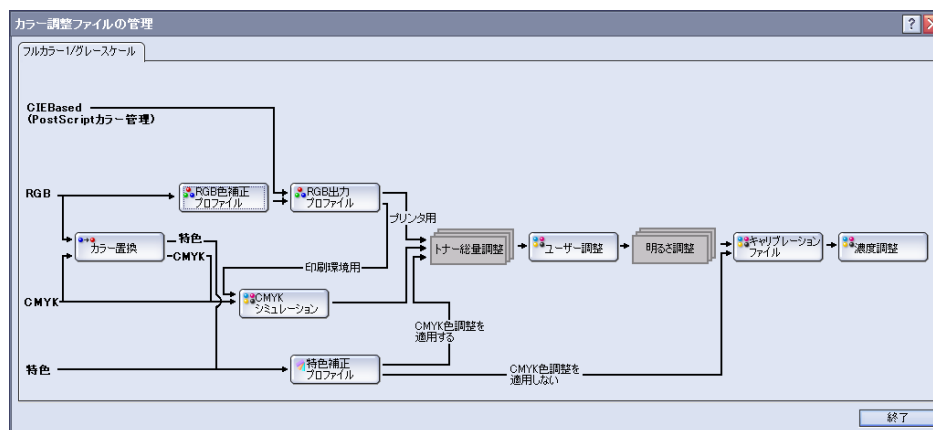
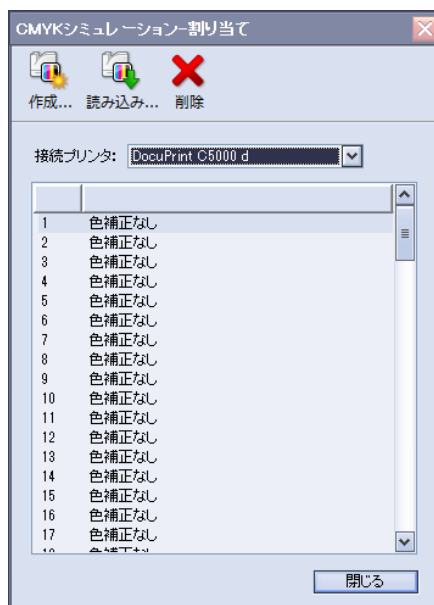
2.4.4　デバイスリンクICCプロファイルの変換

ほかのアプリケーションで作成したデバイスリンクICC（International Color Consortium）プロファイルをPrint Server専用のCMYKプロファイルに変換できます。

操作手順

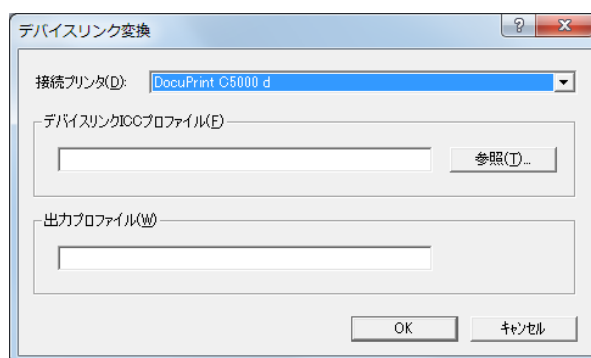
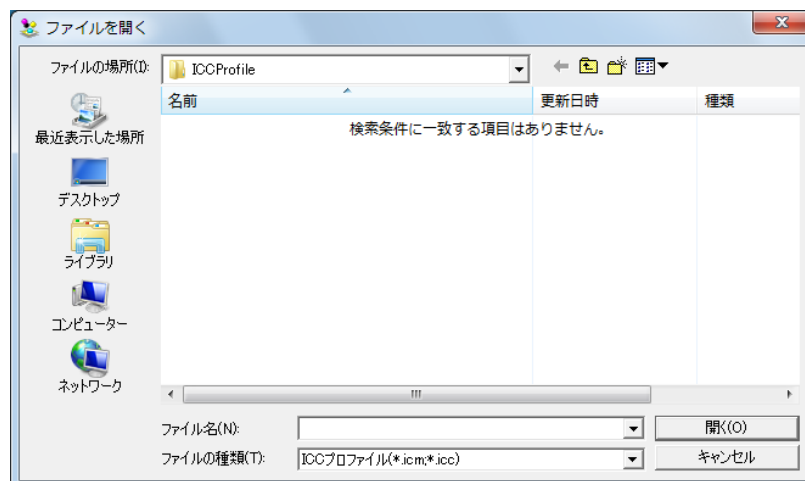
1. ServerManagerの[カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

補足　[カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

2. [CMYKシミュレーション]をクリックします。

3.［作成］をクリックします。

Color Profile Maker Proが起動します。

4.［デバイスリンク変換］をクリックします。

5. ［デバイスリンクICCプロファイル］に変換するデバイスリンクICCプロファイル名を、［出力プロファイル］に作成するプロファイル名を入力します。

- プロファイル名に一部の記号や漢字を使うと、プロファイル認識時にシステムが文字コードを変換するため、入力したものと違う名前になる場合があります。
- CMYKプロファイルは、選択した保存先に、「プロファイル名.col」と「プロファイル名.dat」の2つのプロファイルとして保存されます。（「プロファイル名」は、同じ名前が設定されます）
- 作成したCMYKプロファイル名は、変更しないでください。プロファイル名を変更すると、CMYKプロファイルを使用したPrint Serverでのプリント処理で、エラーが発生します。
- ［デバイスリンクICCプロファイル］は、［参照］をクリックして表示される［ファイルを開く］ダイアログボックスからプロファイルを選択することもできます。

6. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、［OK］をクリックします。

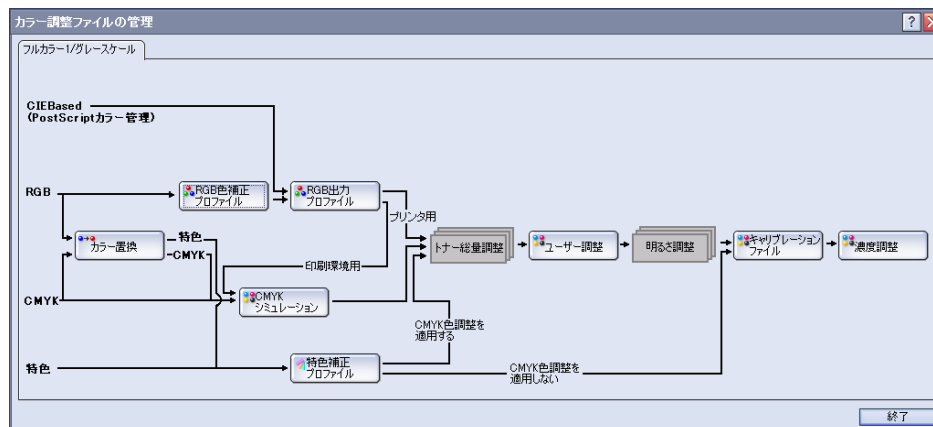
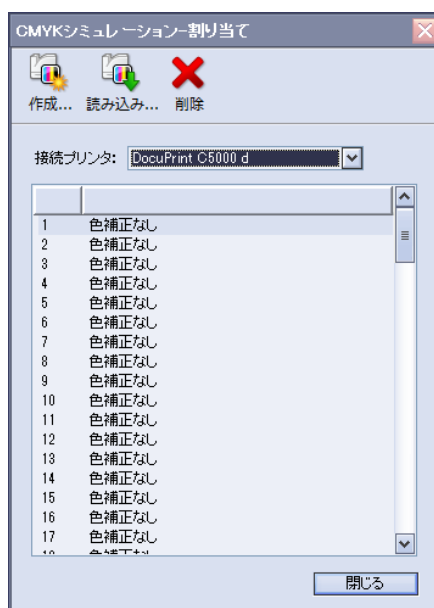
2.4.5　色域表示

測色データ、およびICCプロファイルで定義される色域を3Dの立体で表示できます。

操作手順

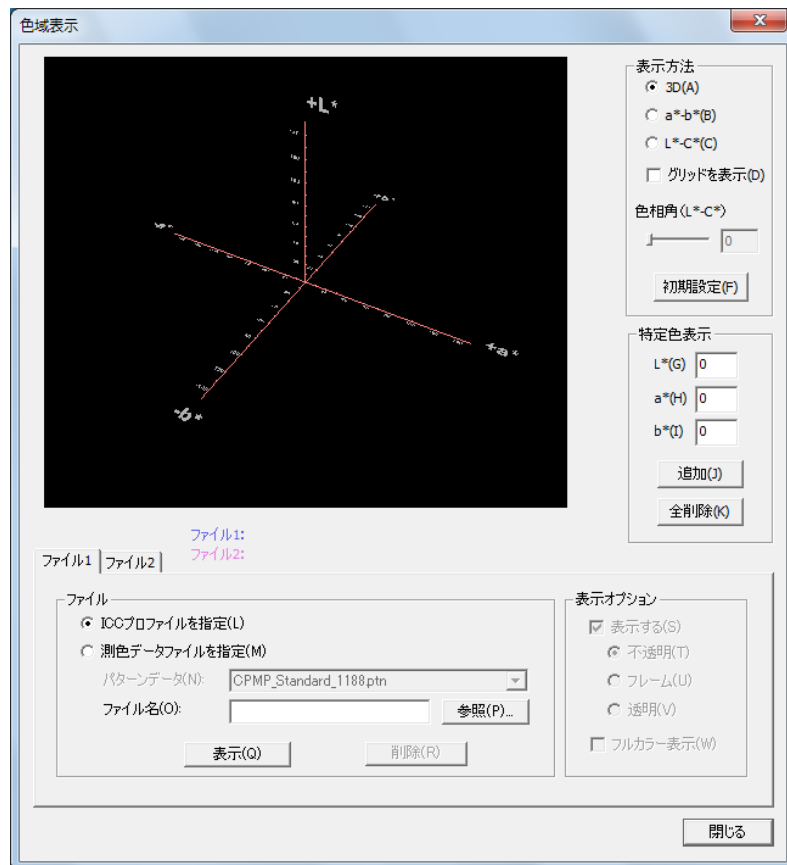
1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2.［CMYKシミュレーション］をクリックします。

3.［作成］をクリックします。

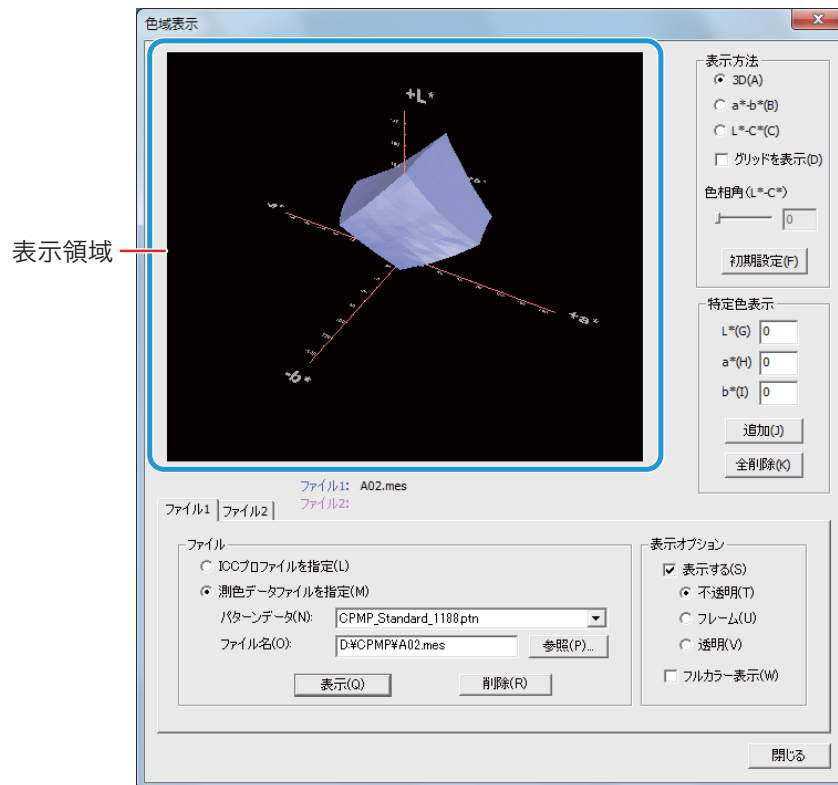
Color Profile Maker Proが起動します。

4.［色域表示］をクリックします。

5. ［ファイル］の［ICCプロファイルを指定］、または［測色データファイルを指定］を選択します。

6. ［参照］をクリックし、表示させるファイルを選択します。

- ［測色データファイルを指定］を選択した場合は、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。
- 選択できる測色データファイルの種類は、以下のとおりです。
  - 測色データ（.mes、.ptn、.it8）
  - CPMP中間データ形式（.fxc）
- 2つめのファイルを選択する場合は、「ファイル2」タブをクリックして、ファイルを選択します。

7. ［表示］をクリックします。

8. 必要に応じて、色域の表示を設定します。

項目		説明
表示オプション	表示する	チェックマークを付けると、選択したプロファイル色立体/平面図が表示されます。
	不透明	選択したプロファイルの色立体/平面図が、単色の塗りつぶしで表示されます。
	フレーム	選択したプロファイルの色立体/平面図の外郭だけが表示されます。
	透明	選択したプロファイルの色立体/平面図が、透過で表示されます。
	フルカラー表示	選択したプロファイルの色立体/平面図が、各L*a*b*に対応した色で表示されます。
表示方法	3D	選択したプロファイルの領域を3Dの色立体で表示します。
	a*-b*	選択したプロファイルのL-a*b*投影図を表示します。 L*軸の＋方向から-方向への投影図となり、a*b*平面の外郭が表示されます。
	L*-C*	対象プロファイルのL-C断面を表示します。
	グリッドを表示	チェックマークを付けると、表示領域上にグリッドが表示されます。
	色相角(L*-C*)	断面を表示する対象の角度を、バーを左右に動かして指定します。指定範囲は0～360です。
	初期設定	クリックすると、初期設定の表示に戻ります。
特定色表示	L*	L*の値を入力します。入力範囲は、0～100です。
	a*	a*の値を入力します。入力範囲は、-128～128です。
	b*	b *の値を入力します。入力範囲は、-128～128です。
	追加	クリックすると、入力した［L*］［a*］［b*］の値に基づき、表示領域に点がプロットされます。
	全削除	クリックすると、プロットしたすべての点が消去されます。

補足

表示領域では、マウスを使用して以下の操作ができます。
- 回転：左クリック＋上下左右へドラッグ
- 拡大/縮小：右クリック＋上下へドラッグ
- 表示領域内の移動：左右クリック＋上下左右へドラッグ

9. ［閉じる］をクリックします。

2.4.6　プロファイル調整

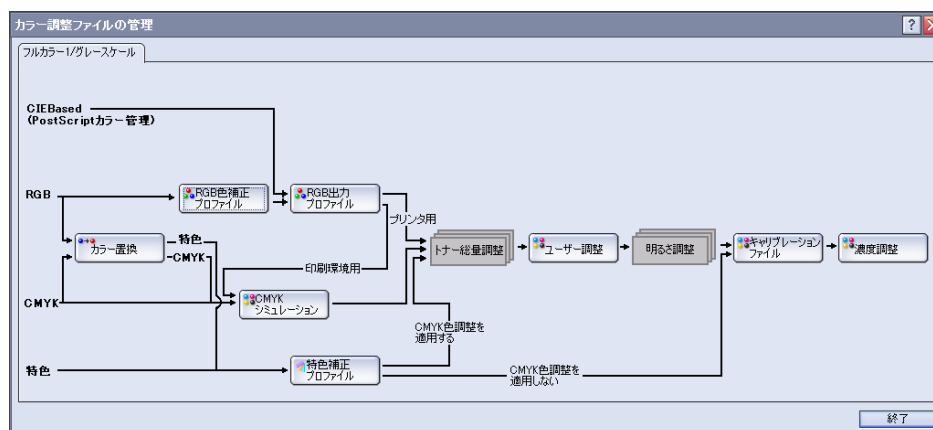
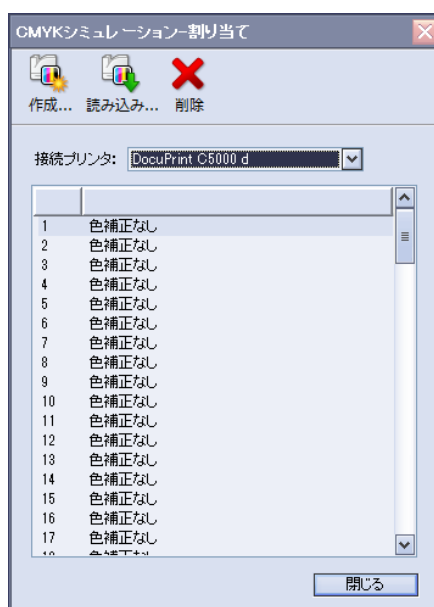
プロファイルの詳細を調整します。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

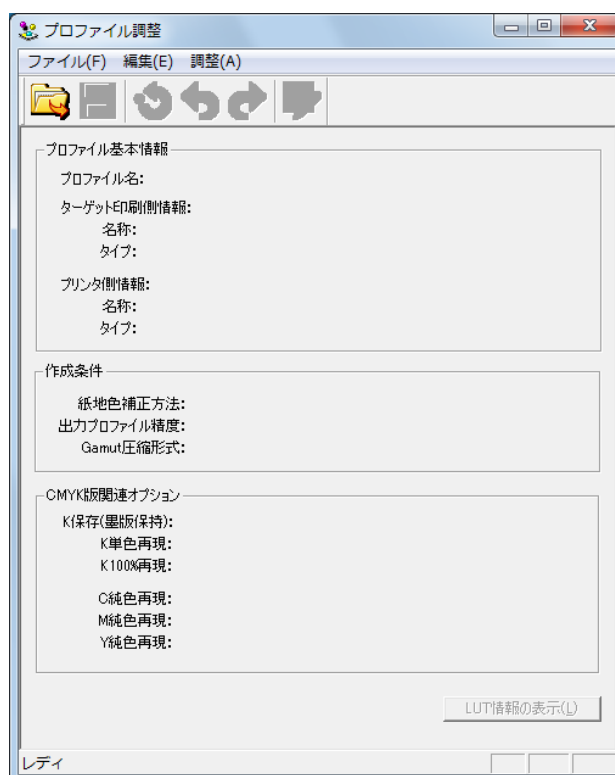
補足

［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

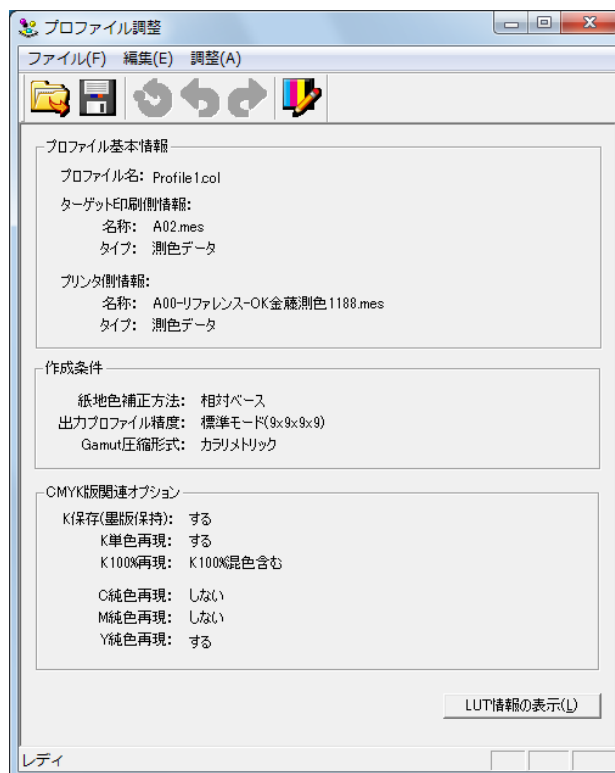
2. ［CMYKシミュレーション］をクリックします。

3. ［作成］をクリックします。

Color Profile Maker Proが起動します。

4. ［プロファイル調整］をクリックします。

5. をクリックします。

6. 調整するCMYK色補正プロファイルを選択して［開く］をクリックします。

補足
- ［ファイル］→［開く］を選択する、またはファイルを［プロファイル調整］ウィンドウにドラッグ＆ドロップしてもファイルを開くことができます。
- V2フォーマット（Color Profile Maker Pro V9.0以降で作成したCMYK色補正プロファイル）の場合は、確認のダイアログが表示されます。
- 選択するCMYK色補正プロファイルは、*.colと*.datが同じフォルダー内に保存されている必要があります。

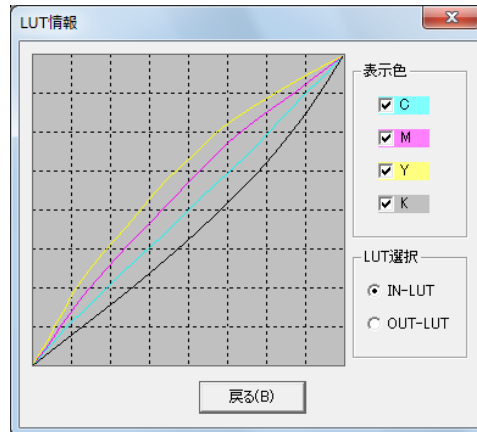
7. 必要に応じて、調整するCMYK色補正プロファイルを編集します。

詳細は、「プロファイル調整の編集」の以下の説明を参照してください。

・「LUT情報の表示」（P.117）
・「プロファイル調整の編集」（P.117）
・「グリッドを指定」（P.118）
・「純色再現保証」（P.119）

8. をクリックし、ファイルを保存します。

補足　［ファイル］→［名前を付けて保存］を選択しても、ファイルを保存できます。

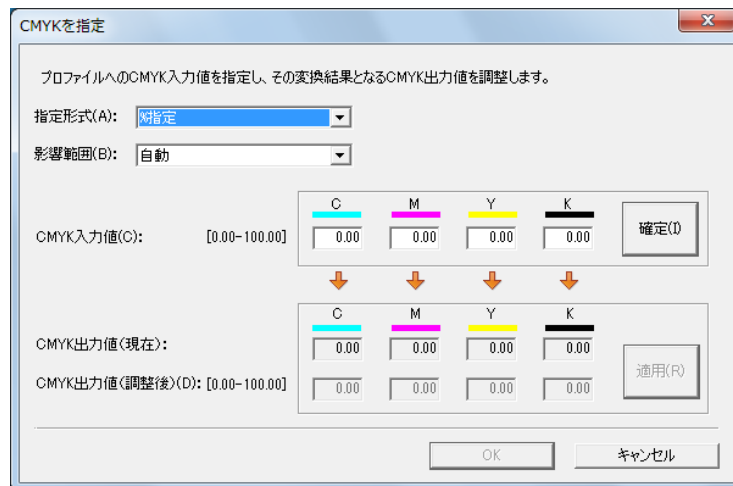
LUT情報の表示

［LUT情報の表示］をクリックします。

プロファイル内に格納されている、IN-LUT、およびOUT-LUTのカーブが表示されます。
IN-LUTを選択すると入力デバイスの階調特性カーブが、OUT-LUTを選択すると出力デバイスの階調特性カーブが表示されます。

プロファイル調整の編集

■CMYKを指定

［プロファイル調整］ウィンドウの　をクリックします。

CMYK入力値、CMYK出力値を確定させて、［OK］をクリックすると、すべての設定がプロファイルに反映されます。

補足　［調整］→［CMYKを指定］を選択しても、［CMYKを指定］ウィンドウを表示できます。

●指定形式

CMYK値の入力形式を選択します。

%指定

CMYK値を%で入力します。

8bit整数指定

CMYK値を0～255の整数で入力します。

●影響範囲

調整の影響範囲、周辺への影響のおよぼし方を選択します。

・自動
変更量に応じて、[グリッド距離1]、[グリッド距離2]、または [グリッド距離3] のいずれかが自動で選択されます。

・グリッド距離1、グリッド距離2、グリッド距離3
入力したCMYK入力値近くの、狭い領域に対して変更を適用したい場合は [グリッド距離1] を、中間の領域に対して適用したい場合は [グリッド領域2] を、広い領域に対して変更を適用したい場合は、[グリッド距離3] を選択します。

●CMYK入力値

CMYKの入力値を入力し、[確定] をクリックします。

●CMYK出力値(現在)

現在のCMYK出力値が表示されます。

●CMYK出力値(調整後)

CMYKの出力値を入力し、[適用] をクリックします。

- 白に近い値を [CMYK入力値] に入力すると、調整が行われないことがあります。
- 入力した値によっては、調整後の正しい変換結果を確認できないことがあります。この場合、もう一度 [確定] をクリックすると、正しい調整後のプロファイルの変換結果を確認できます。

■グリッドを指定

[プロファイル調整] ウィンドウの [調整] → [グリッドを指定] を選択します。

●指定形式

CMYK値の入力形式を選択します。

%指定

CMYK値を%で入力します。

8bit整数指定

CMYK値を0～255の整数で入力します。

●グリッドID

特定のグリッド(通常モード:0～8、高精度モード:0～16)を入力します。

●CMYK入力値

CMYKの入力値を入力し、[確定] をクリックします。

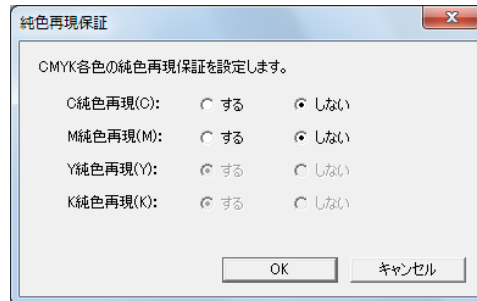
- CMYK出力値（現在）

現在のCMYK出力値が表示されます。

- CMYK出力値（調整後）

CMYKの出力値を入力し、［適用］をクリックします。

■ 純色再現保証

［プロファイル調整］ウィンドウの［調整］→［純色再現保証］を選択します。

- C純色再現/M純色再現/Y純色再現/K純色再現

CMYK各色の純色再現保証をする場合は、［する］を選択します。

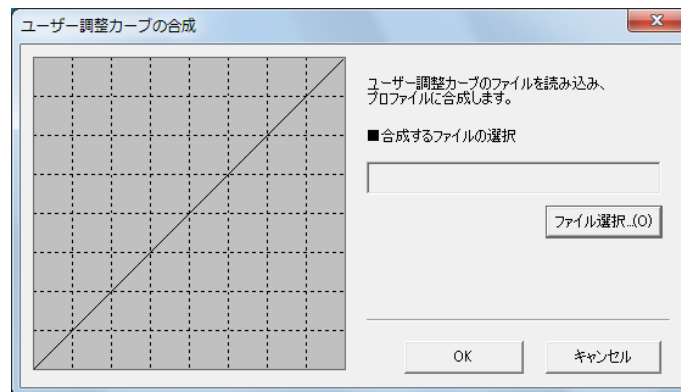
プロファイル作成時に純色再現設定で［しない］を選択したプロファイルに対して、純色再現保証が指定できます。

- 一度［する］に設定した項目は、もとに戻せません。（［しない］に指定しなおすことはできません）
- ［する］に設定すると、プロファイルによっては精度が低下する場合があります。

純色再現設定については、「純色再現設定」（P.96）を参照してください。

■ ユーザー調整カーブの合成

ユーザー調整カーブのファイルとプロファイルを合成します。

［プロファイル調整］ウィンドウの［調整］→［ユーザー調整カーブの合成］を選択します。

- 合成するファイルの選択

［ファイル選択］をクリックして、合成するファイル（.uac）を選択します。

Print Serverで作成したユーザー調整カーブは、以下のフォルダーに保存されています。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥ColorProfile¥UserAdjust¥DPC5000d_1

2.4.7　CMYKプロファイルの設定

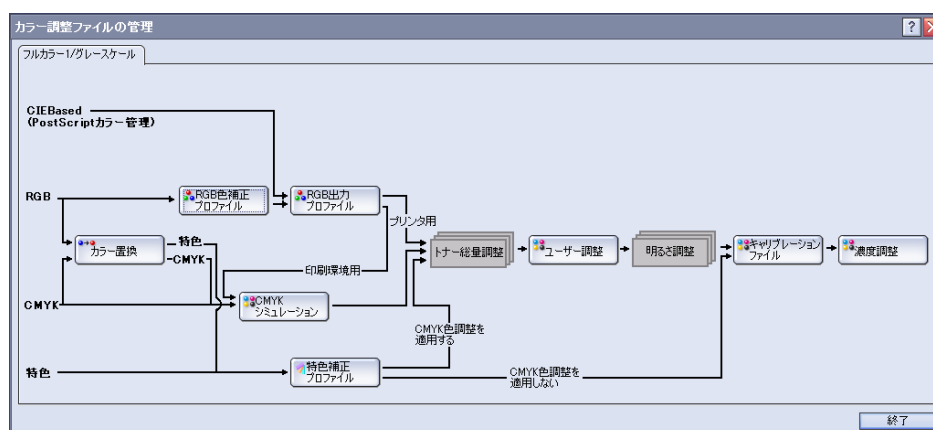
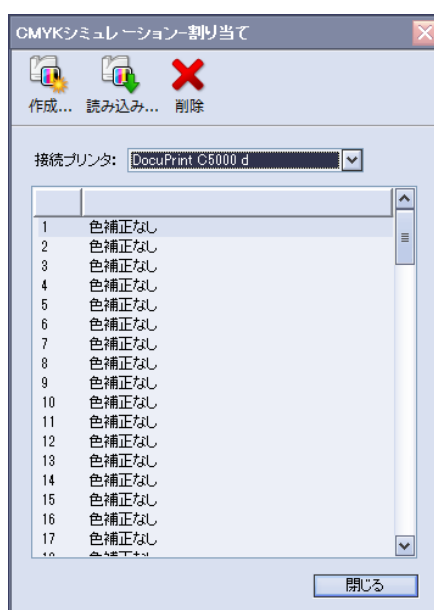
CMYKプロファイルの読み込み/割り当て

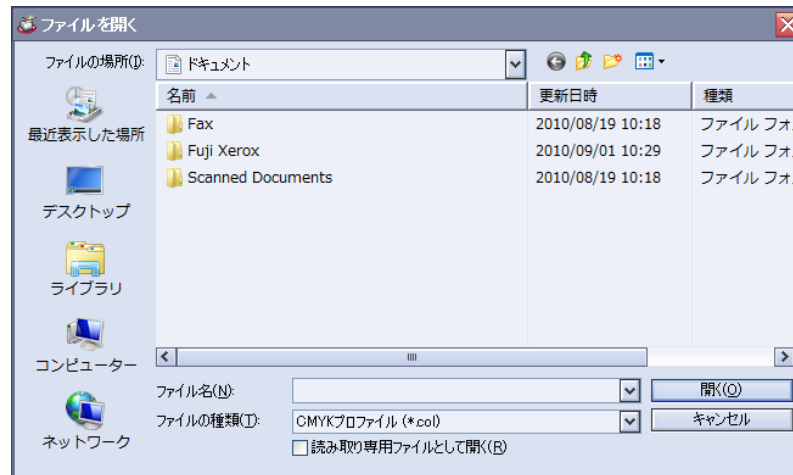
プリントに適用するCMYKプロファイルの読み込みと割り当てを行います。
読み込んだCMYKプロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［CMYKシミュレーション］をクリックします。

3. ［読み込み］をクリックします。

補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、Print Serverのファイルか、クライアントコンピューターのファイルのどちらから読み込むかを選択する、［読み込み元］ダイアログボックスが表示されます。

4. 読み込むCMYKプロファイルを選択し、［開く］をクリックします。

プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

- ［CMYKシミュレーション-割り当て］ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号にプロファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスが表示されます。［はい］を選択すると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

5. 1～100の中から割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからプロファイルを選択します。

参照　カラープロファイルの種類については、「 CMYKプロファイル」（P.83）を参照してください。

6. ［閉じる］をクリックします。

補足　割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK 設定）］＞［CMYK 色補正］にチェックマークを付けて、［CMYK シミュレーション］からプロファイルを選択します。

詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー詳細（CMYK設定）」（P.235）を参照してください。

CMYKプロファイルの削除

1. ［CMYKシミュレーション-割り当て］ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

割り当てられているプロファイルを削除した場合は、「色補正なし」が割り当てられます。

2.5 特色補正プロファイルを設定する

特色を補正するプロファイルの管理について説明します。

特色補正プロファイルの読み込み/割り当て

プリントに適用する特色補正プロファイルの読み込みと割り当てを行います。

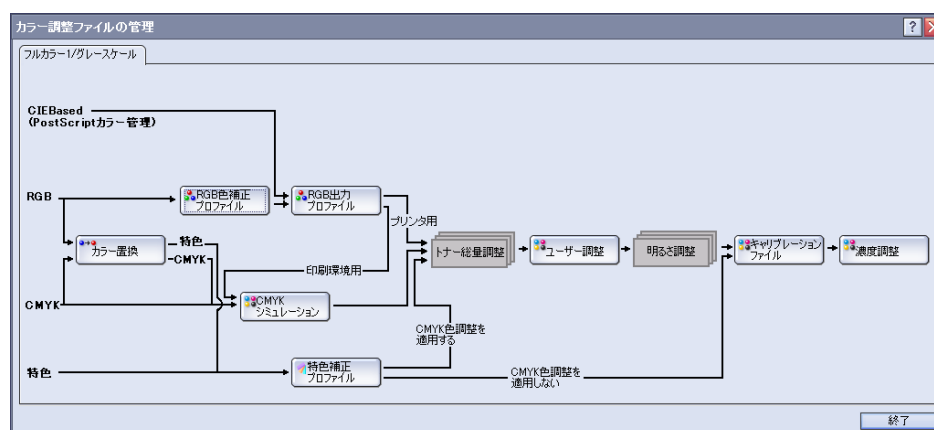
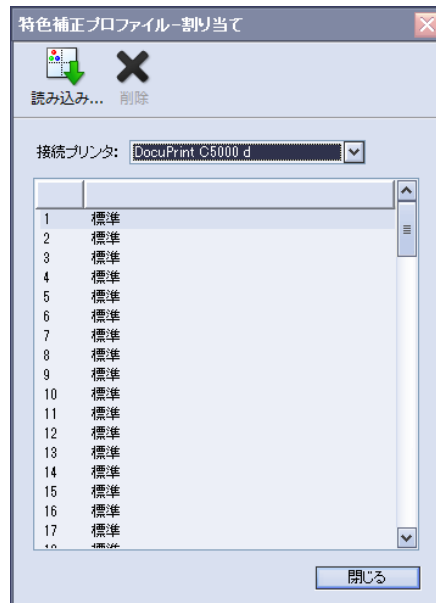
読み込んだ特色補正プロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

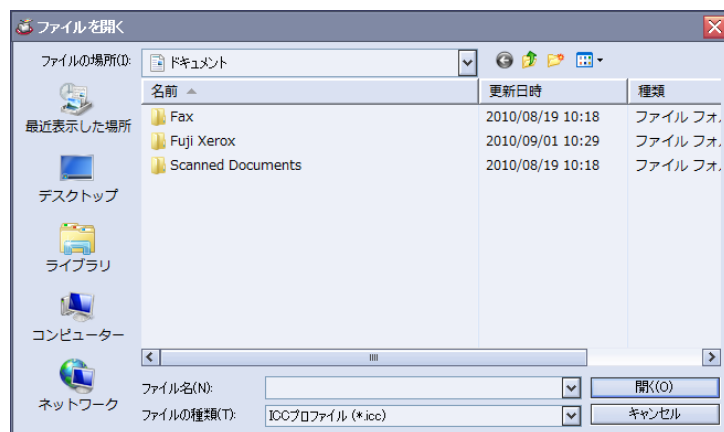
標準で用意されている特色補正プロファイル以外にも、個別に読み込んで登録することができます。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［特色補正プロファイル］をクリックします。

3. ［読み込み］をクリックします。

補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、Print Serverのファイルか、クライアントコンピューターのファイルのどちらから読み込むかを選択する、［読み込み元］ダイアログボックスが表示されます。

4. 読み込む特色補正プロファイルを選択し、［開く］をクリックします。

- ［特色補正プロファイル-割り当て］ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号にプロファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスが表示されます。［はい］を選択すると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 標準で用意されているプロファイル名、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

5. 1～100の中から割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからプロファイルを選択します。

6. ［閉じる］をクリックします。

補足　割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（特色設定）］>［特色補正プロファイル］からプロファイルを選択します。

参照　詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー詳細（特色設定）」（P.236）を参照してください。

特色補正プロファイルの削除

1. ［特色補正プロファイル - 割り当て］ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択して［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで［はい］をクリックします。

割り当てられているプロファイルを削除した場合は、「標準」が割り当てられます。

2.6　ユーザー調整カーブを設定する

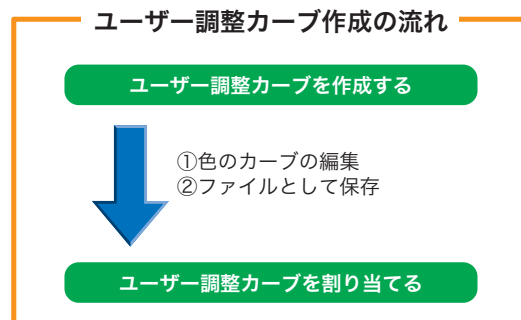
ユーザー調整カーブの調整ファイルを作成する手順について説明します。

ユーザー調整カーブ

ユーザー調整カーブは、CMYKそれぞれの再現カーブを調整して、全体的な色味を調整する場合に使用します。

たとえば「皮膚の色の調整」とか「シアンが全体的に濃いめ」といった調整ファイルを作成し、微妙な調整を切り替えて使用できます。

作成した調整ファイルは、1～100に割り当てます。

- ユーザー調整カーブを使用してK100%の濃度を下げる場合は、プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［白抜き文字の強調］を［しない］にしてください。
- キャリブレーションは、ユーザー調整カーブの適用後に行われるので、キャリブレーションを実施することで、ほぼ一定の調整効果が得られるようになります。

ユーザー調整カーブの作成

プリントに適用するユーザー調整カーブの調整ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

読み込んだ調整ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

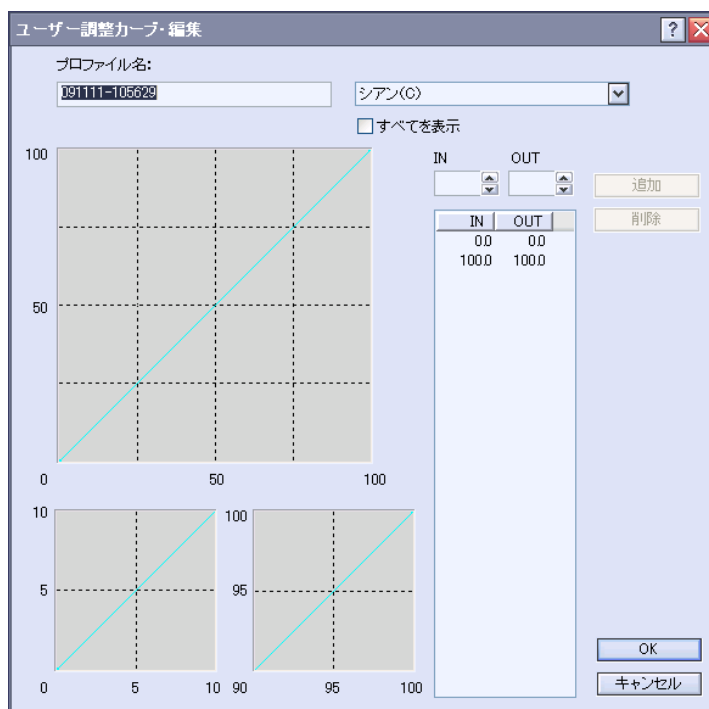
操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

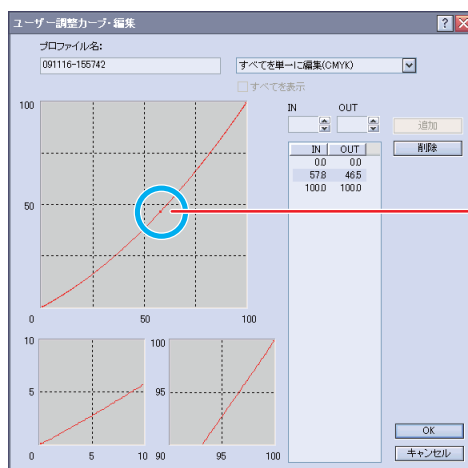
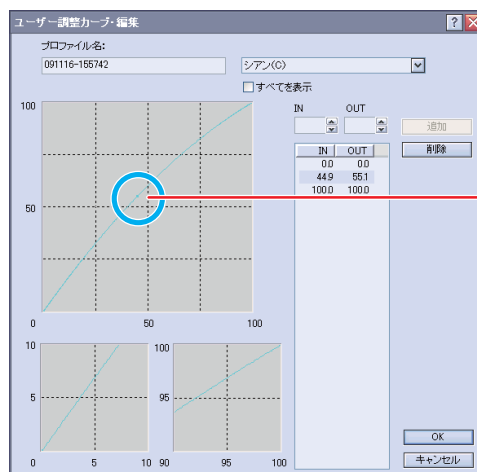
2. ［ユーザー調整］をクリックします。

3. 1～100の中から登録する番号を選択して［新規作成］をクリックします。

4. カーブ上のポイントをマウスでドラッグ、またはINとOUTに直接値を入力して追加する、を繰り返して編集します。

［シアン（C)］、［マゼンタ（M)］、［イエロー（Y)］、［ブラック（K)］、または［すべてを単一に編集（CMYK)］から選択します。

● すべてを表示

すべてのカーブを確認するときに選択します。この場合は、選択している色だけを編集できます。

◆設定例1：画面全体を明るくするとき

◆設定例2：青みを強くするとき

- グラフ上のポイントをマウスでドラッグして編集できます。
- 数値は、0～100%までの0.1%刻みの横軸（IN）に対して、縦軸（OUT）の数値を入力できます。
- グラフ上の任意の場所をクリックするか、またはIN/OUTに数値入力して［追加］をクリックすると、ポイントが設定されます。設定したポイントはコントロールポイントとしてリストに追加されます。
- OUT値はリスト上で変更できます。
- カーブ、またはリスト上でコントロールポイントを選択して、［削除］をクリックすると、コントロールポイントが削除されます。

- 縦軸の数値は、0.1%刻みで入力できますが、0.1%の差は、プリントの差に反映されないことがあります。
- ［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス下部には、IN：0～10とOUT：0～10、IN：90～100とOUT：90～100が拡大表示されます。

5. ［プロファイル名］に新しい調整ファイルの名前を入力し、［OK］をクリックします。
6. 選択した番号に調整ファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

ユーザー調整カーブの割り当て

［ユーザー調整カーブ - 割り当て］ダイアログボックスで、割り当てる調整ファイルを選択し、［閉じる］をクリックします。

割り当てた調整ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］>［ユーザー調整］から調整ファイルを選択します。

詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー」（P.230）を参照してください。

ユーザー調整カーブの複製

1. ［ユーザー調整カーブ - 割り当て］ダイアログボックスで、複製する調整ファイルを選択し、［複製］をクリックします。
2. ［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスで編集したあと、［OK］をクリックします。

ユーザー調整カーブの編集

1. ［ユーザー調整カーブ - 割り当て］ダイアログボックスで、編集する調整ファイルを選択し、［編集］をクリックします。
2. ［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

ユーザー調整カーブの名前変更

1. ［ユーザー調整カーブ - 割り当て］ダイアログボックスで、名前を変更する調整ファイルを選択し、［名前変更］をクリックします。
2. ［名前変更］ダイアログボックスで新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

ユーザー調整カーブの削除

1. ［ユーザー調整カーブ - 割り当て］ダイアログボックスで、削除する調整ファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

割り当てられているユーザー調整カーブを削除した場合、「無調整」が割り当てられます。

2.7　濃度調整カーブを設定する

濃度調整カーブの調整ファイルを作成する手順について説明します。

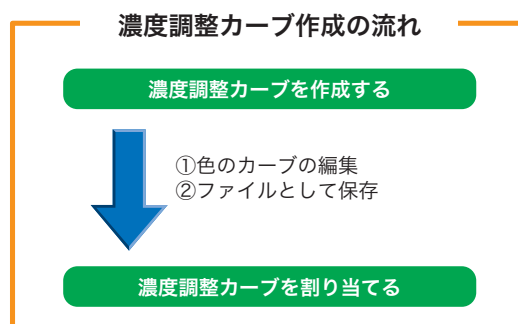
濃度調整カーブ

濃度調整カーブを編集し、割り当てを行うことで、色味を調整します。

印刷シミュレーション、および、キャリブレーションにより、管理された濃度（100%）を超えた、濃度（130%まで）を指定することが可能です。また、ハイライトの出だしを遅らせるためにマイナスの値（－20%まで）を指定することも可能です。

印刷シミュレーションを行っているベタ濃度以上の濃度に調整できます。

濃度調整カーブは、キャリブレーション適用後に適用されます。このため、濃度調整カーブによる調整は、キャリブレーションによる安定性の効果は得られません。色味の調整を行う場合は、ユーザー調整カーブを使用してください。

作成した調整ファイルは、1～100に割り当てます。

濃度調整カーブの作成

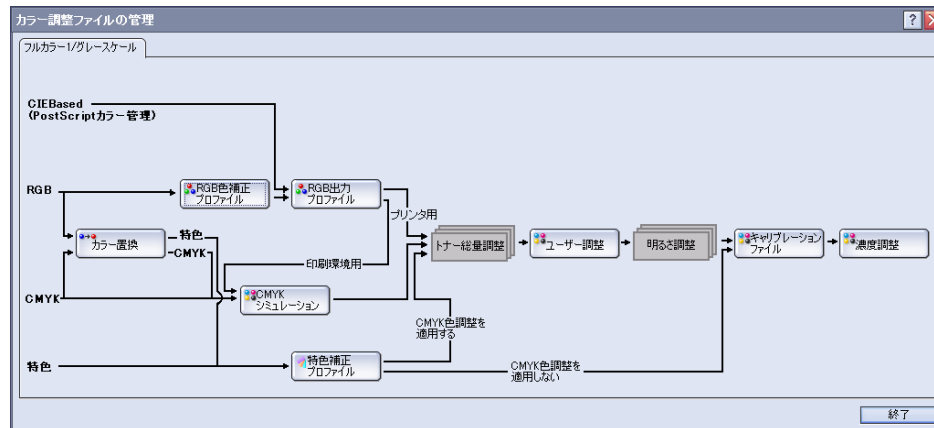
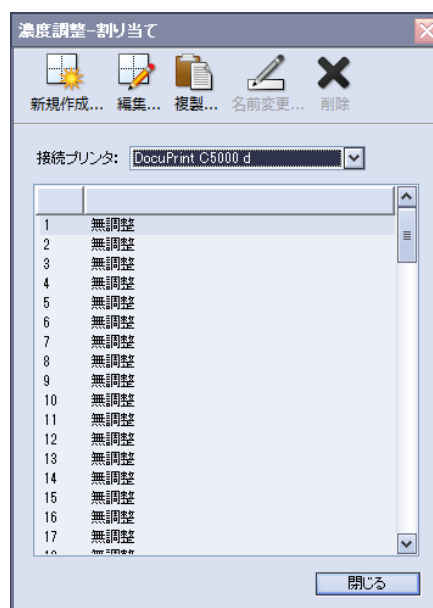
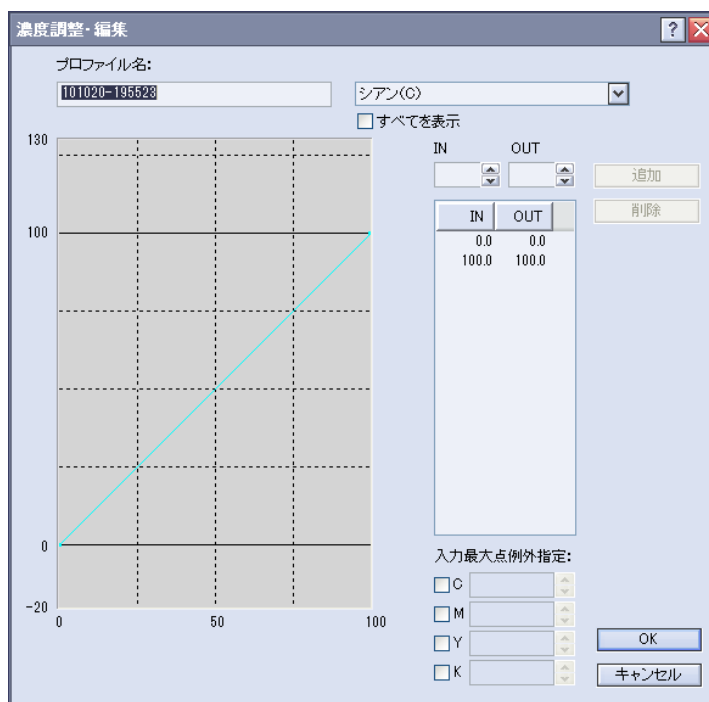
プリントに適用する濃度調整カーブの調整ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

読み込んだ調整ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1. ServerManagerの [カラー調整ファイルの管理] をクリックします。

［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［濃度調整］をクリックします。

3. 1～100の中から登録する番号を選択して［新規作成］をクリックします。

4. カーブ上のポイントをマウスでドラッグ、またはINとOUTに直接値を入力して追加する、を繰り返して編集します。

［シアン（C)］、［マゼンタ（M)］、［イエロー（Y)］、［ブラック（K)］、または［すべてを単一に編集（CMYK)］から選択できます。

● すべてを表示

すべてのカーブを確認するときに選択します。ただし、編集はできません。

● 入力最大点例外指定

CMYK の例外値としての入力最大値を設定する色にチェックマークを付けて、最大値を入力します。入力範囲は、－20.0～＋130.0です。

濃度調整カーブは、文字やロゴなどで使うベタのように、100%の部分だけ濃くする場合などに使用します。このとき、99%まではカーブに従った調整になり、100%はカーブに従わず、［入力最大点例外指定］で設定した調整値が適用されます。

・グラフ上のポイントをマウスでドラッグして編集できます。
・数値は、0～100%までの0.1%刻みの横軸（IN）に対して、縦軸（OUT）の数値を入力できます。
・グラフ上の任意の場所をクリックするか、またはIN/OUTに数値入力して［追加］をクリックすると、ポイントが設定されます。設定したポイントはコントロールポイントとしてリストに追加されます。
・OUT値はリスト上で変更できます。
・カーブ、またはリスト上でコントロールポイントを選択して、［削除］をクリックすると、コントロールポイントが削除されます。

・縦軸の数値は、0.1%刻みで入力できますが、0.1%の差はプリントに反映されないことがあります。
・濃度調整カーブを使用して、K100% の濃度を下げる場合には、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［白抜き文字の強調］を［しない］にしてください。

5. ［プロファイル名］に新しい調整ファイルの名前を入力し、［OK］をクリックします。

6. 選択した番号に調整ファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

濃度調整カーブの割り当て

［濃度調整 - 割り当て］ダイアログボックスで、割り当てる調整ファイルを選択し、［閉じる］をクリックします。

補足　割り当てた調整ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］＞［濃度調整］から調整ファイルを選択します。

参照　詳細は、「4.1.4 カラー」の「 カラー」（P.230）を参照してください。

濃度調整カーブの複製

1. ［濃度調整 - 割り当て］ダイアログボックスで、複製する調整ファイルを選択し、［複製］をクリックします。
2. ［濃度調整 - 編集］ダイアログボックスで編集したあと、［OK］をクリックします。

濃度調整カーブの編集

1. ［濃度調整 - 割り当て］ダイアログボックスで、編集する調整ファイルを選択し、［編集］をクリックします。
2. ［濃度調整 - 編集］ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

補足　ターゲットプロファイルを編集した場合、ターゲットプロファイルが持つもとの色味が変化してしまうので、注意してください。

濃度調整カーブの名前変更

1. ［濃度調整 - 割り当て］ダイアログボックスで、名前を変更する調整ファイルを選択し、［名前変更］をクリックします。
2. ［名前変更］ダイアログボックスで新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

濃度調整カーブの削除

1. ［濃度調整 - 割り当て］ダイアログボックスで、削除する調整ファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで［はい］をクリックします。

割り当てられている濃度調整カーブを削除した場合、「無調整」が割り当てられます。

2.8　特色を設定する

任意の色を特色として登録できます。
登録した特色は、登録操作以降のジョブから特色として使用できます。

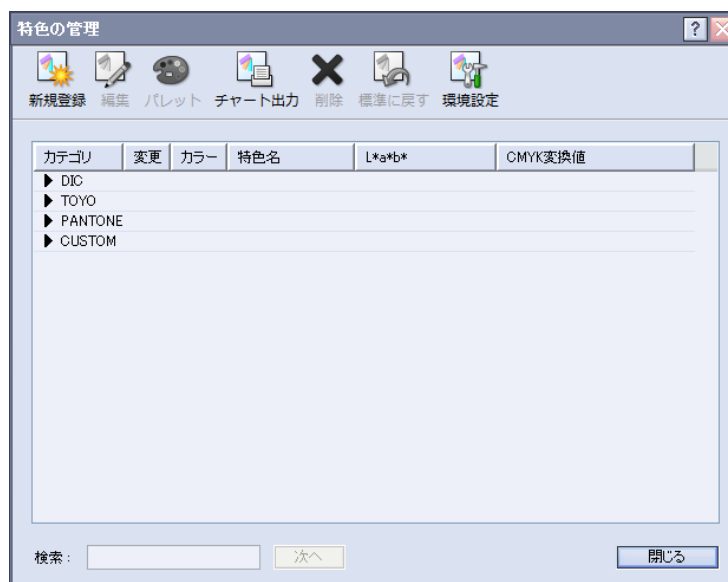
2.8.1　特色の設定

任意の色を特色として設定するには、L*a*b* 値、または CMYK 値を直接入力するか、測色器を使用して L*a*b* 値を読み取り、値を入力します。
リストに登録されている特色の特色名や値を変更できます。また、デフォルトで登録されている特色の値をカスタマイズして再登録できます。

- ジョブのプリント中は登録できません。
- ［新規登録］、［編集］、［削除］、［標準に戻す］は、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、特色の閲覧と検索だけできます。

特色の登録

操作手順

1. ServerManager の［カラー］→［特色の管理］を選択します。
2. ［新規登録］をクリックします。

- ［カテゴリ］には、標準特色辞書の［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］と、ユーザーが任意に作成した特色を登録する［CUSTOM］があり、［カテゴリ］の左側にある黒い三角マークをクリックすると、各カテゴリ内に登録されている特色が表示されます。
- 各特色には［変更］、［カラー］（色見本）、［特色名］、［L*a*b*］、［CMYK 変換値］（［L*a*b*］を設定されている特色補正プロファイルで変換した値）が表示されます。［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリに属する特色がデフォルトから変更されている場合は、［変更］に「*」が表示されます。

特色を検索する場合は、［検索］に任意の文字列を入力して［次へ］をクリックすると、該当する特色が選択され、［次へ］をクリックするごとに順番に以下の候補が選択されます。文字列を空欄にして検索すると、すべての特色が表示されます。

3. ［特色名］を入力し、［L*a*b*］、または［CMYK］の値を直接入力するか、測色器を使用して読み取ったL*a*b*値を［L*a*b*］に自動入力させます。

入力した値の目安になるカラープレビューがダイアログボックス右上に表示されます。

測色器を使って特色を登録する場合は、［測色器を使用］をクリックします。測色ソフトウエアが起動するので、Print Serverに測色器を接続していることを確認して測色を行います。

測色方法については、「2.2.3 i1_Readerと測色器」（P.62）を参照してください。

4. ［登録］をクリックします。

- ［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリ内にある特色を上書き登録した場合は、［変更］に「*」が表示され、背景が薄い色付きになります。これらの特色に関しては、［標準に戻す］をクリックすることでデフォルトに戻すことができます。
- ［CUSTOM］カテゴリ内の特色を上書き登録した場合は、もとの値には戻せません。

5. ［閉じる］をクリックします。

補足　［特色の管理］ダイアログボックスで［新規登録］、［削除］、［標準に戻す］などの処理を行うと、ダイアログボックス内の表示は更新されますが、実際に登録内容が更新されるのは、［閉じる］をクリックして［特色の管理］ダイアログボックスが終了されたときです。

特色の編集

1. ［特色の管理］ダイアログボックスで、編集する特色を選択し、［編集］をクリックします。
2. ［特色の管理-編集］ダイアログボックスで、登録と同様に項目を編集します。
   編集前と編集後のカラープレビューがダイアログボックス右上に表示されるので、編集の目安としてください。

特色の削除

1. ［特色の管理］ダイアログボックスの［CUSTOM］カテゴリ内で、削除する特色を選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリ内にある特色は削除できません。

環境設定

特色の管理におけるカラーモード、特色補正プロファイル、インテントの初期値が設定できます。

操作手順

1. ［特色の管理］ダイアログボックスで、［環境設定］をクリックします。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● カラーモード

カラーモードが表示されます。

補足　［特色の管理］ダイアログボックスで、［チャート出力］や［パレット］を実行した場合は、選択したプロファイルを使用してプリントされます。

● 特色補正プロファイル

カラーモードごとにプロファイルが設定できます。

参照　特色補正プロファイルについては、「2.5 特色補正プロファイルを設定する」(P.122)を参照してください。

● インテント

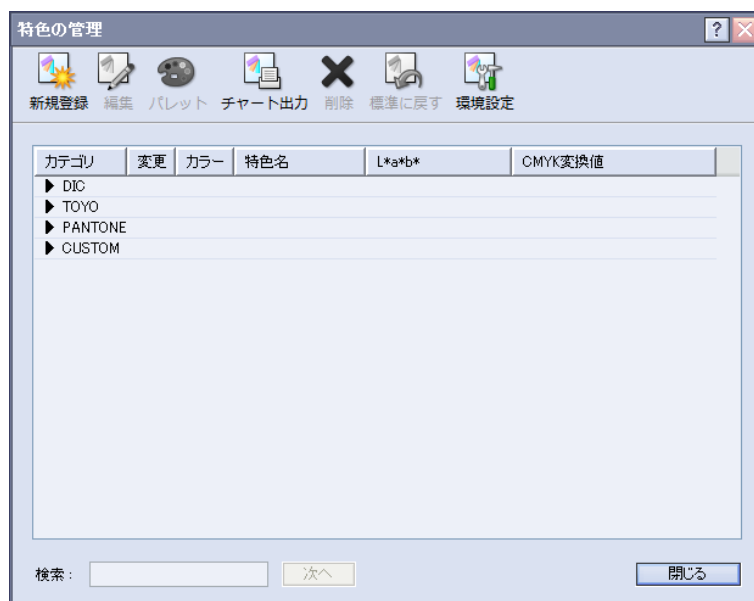
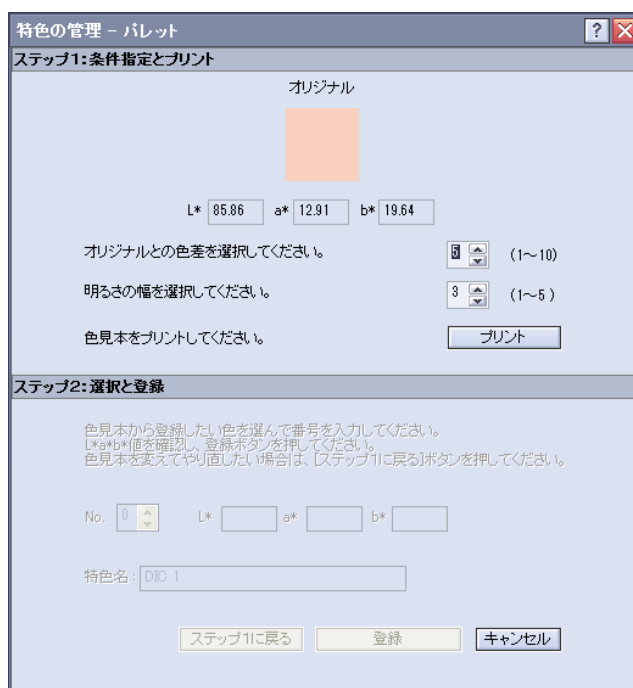
・パーセプチャル　・サチュレーション　・相対カラリメトリック　・絶対カラリメトリック

2.8.2　特色パレット

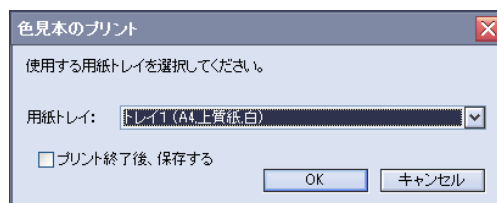
Print Serverに登録されている特色の色味を調整して新しい特色として登録することができます。選択している特色に対して、色差と明るさを微調整した色をプリントして確認し、希望の色を特色として登録できます。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］を選択します。

2. ［カテゴリ］からカラーカテゴリーを選択したあと、プリントする特色を 1 つ選択して［パレット］をクリックします。

3. ［オリジナルとの色差を選択してください。］に、1～10の範囲で値を入力します。

4. ［明るさの幅を選択してください。］に、1～5の範囲で値を入力します。

5. ［プリント］をクリックします。

6. 各項目を設定し、[OK] をクリックします。

● **用紙トレイ**

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

● **プリント終了後、保存する**

チェックマークを付けると、ジョブとして保存できます。

7. プリントされた色見本を確認し、登録する色見本の番号を決めます。

	L*	a*	b*
9	88.86	12.91	19.64
10	88.86	17.91	19.64
11	88.86	16.46	23.19
12	88.86	12.91	24.64
13	88.86	9.36	23.19
14	88.86	7.91	19.64
15	88.86	9.36	16.09
16	88.86	12.91	14.64
17	88.86	16.46	16.09

	L*	a*	b*
1	85.86	17.91	19.64
2	85.86	16.46	23.19
3	85.86	12.91	24.64
4	85.86	9.36	23.19
5	85.86	7.91	19.64
6	85.86	9.36	16.09
7	85.86	12.91	14.64
8	85.86	16.46	16.09

	L*	a*	b*
18	82.86	12.91	19.64
19	82.86	17.91	19.64
20	82.86	16.46	23.19
21	82.86	12.91	24.64
22	82.86	9.36	23.19
23	82.86	7.91	19.64
24	82.86	9.36	16.09
25	82.86	12.91	14.64
26	82.86	16.46	16.09

以下の情報が印字されます。

- プリント日
- ページ番号
- プリンター名
- カラーモード
- 特色補正プロファイル名
- 色見本

色見本は以下のプリントオプションの設定でプリントされます。

- [カラー] > [カラーモード]:[環境設定] ダイアログボックスの設定値
- [カラー] > [ユーザー調整]:しない
- [カラー] > [濃度調整]:しない
- [カラー] > [明るさ調整]:0
- [カラー] > [カラー詳細 (共通設定)] > [トナー総量調整]:標準
- [カラー] > [カラー詳細 (特色設定)] > [コンポジット特色補正]:有効
- [カラー] > [カラー詳細 (特色設定)] > [特色補正プロファイル]:[環境設定] ダイアログボックスの設定値
- [カラー] > [カラー詳細 (特色設定)] > [特色インテント]:[環境設定] ダイアログボックスの設定値
- [画質] > [キャリブレーション]:自動

8. 登録する色見本の番号を［No.］に入力します。

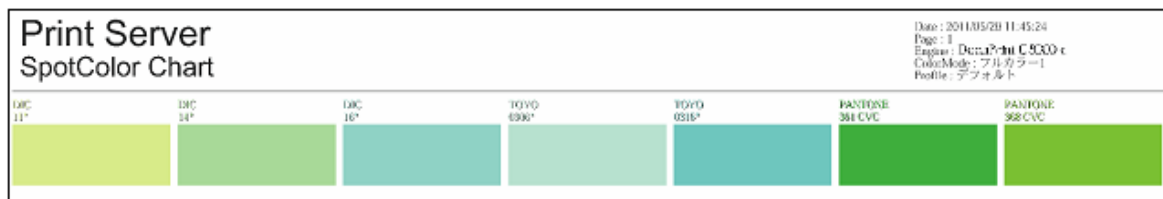
9. ［特色名］を入力して［登録］をクリックします。

プリントされた色見本に希望の色がない場合は、［ステップ１に戻る］をクリックして手順３に戻り、色差、明るさの幅を選択し直すか、手順１からやり直してください。

10. ［はい］をクリックします。

・［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリ内にある特色を上書き登録した場合は、［特色の管理］ダイアログボックスの［変更］に「*」が表示され、背景が薄い色付きになります。これらの特色に関しては、［標準に戻す］をクリックすることでデフォルトに戻すことができます。
・［CUSTOM］カテゴリ内の特色を上書き登録した場合は、値が設定したものに上書きされて登録されます。

2.8.3 特色チャートのプリント

Print Serverに登録されている特色を任意に選択して、色見本をプリントできます。

チャートはA4（色見本は5×10）、またはA3（色見本は7×15）サイズです。B4以下のサイズではA4サイズでプリントされます。A3以上のサイズではA3サイズでプリントされます。

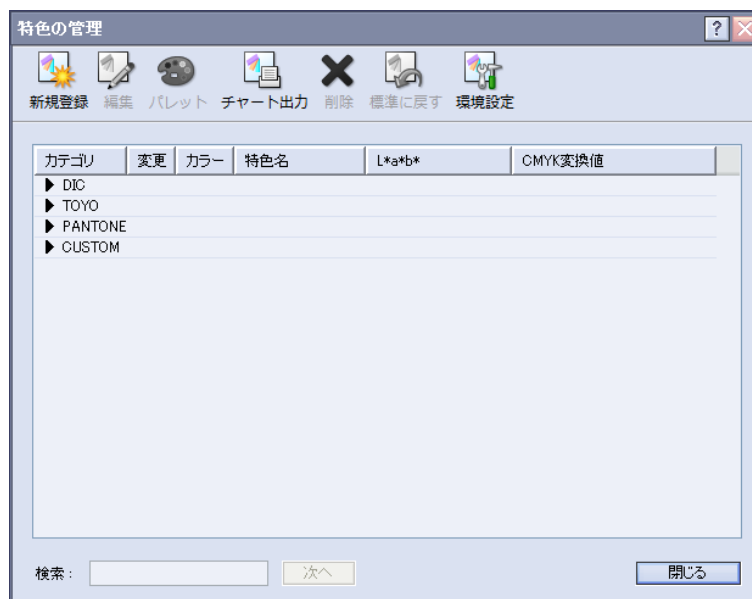
以下の情報が印字されます。

- プリント日
- ページ番号
- プリンター名
- カラーモード
- 特色補正プロファイル名
- 特色名
- 色見本

補足
色見本は以下のプリントオプションの設定でプリントされます。

- ［カラー］＞［カラーモード］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［ユーザー調整］：しない
- ［カラー］＞［濃度調整］：しない
- ［カラー］＞［明るさ調整］：0
- ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定）］＞［トナー総量調整］：標準
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［コンポジット特色補正］：有効
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色補正プロファイル］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色インテント］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［画質］＞［キャリブレーション］：自動

操作手順

1. ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］を選択します。
2. ［チャート出力］をクリックします。

3.［カテゴリ］からカラーカテゴリーを選択したあと、プリントする特色を選択します。

特色は、〈Shift〉キー＋クリックで連続選択、〈Ctrl〉キー＋クリックで任意選択ができます。

4.［追加］をクリックします。

● 全て追加

クリックすると、［カテゴリ］のすべての特色が追加されます。

● チャート出力リスト

追加した特色を1つだけ選択して［上へ］［下へ］をクリックすると、並び順を変更できます。

追加を取り消す場合は、［チャート出力リスト］から追加した特色を選択し、［戻す］をクリックします。特色は、〈Shift〉キー＋クリックで連続選択、〈Ctrl〉キー＋クリックで任意選択ができます。

● 全て戻す

クリックすると、［チャート出力リスト］のすべての特色が削除されます。

- 用紙トレイ
  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。
- プリント終了後、保存する
  チェックマークを付けると、ジョブとして保存できます。

5. 各項目を設定し、［プリント］をクリックします。

2.9 カラーを置き換える

カラー置き換え機能を使用すると、ジョブ内の特定のRGB、CMYK値を特定のCMYK、または特色に変換できます。

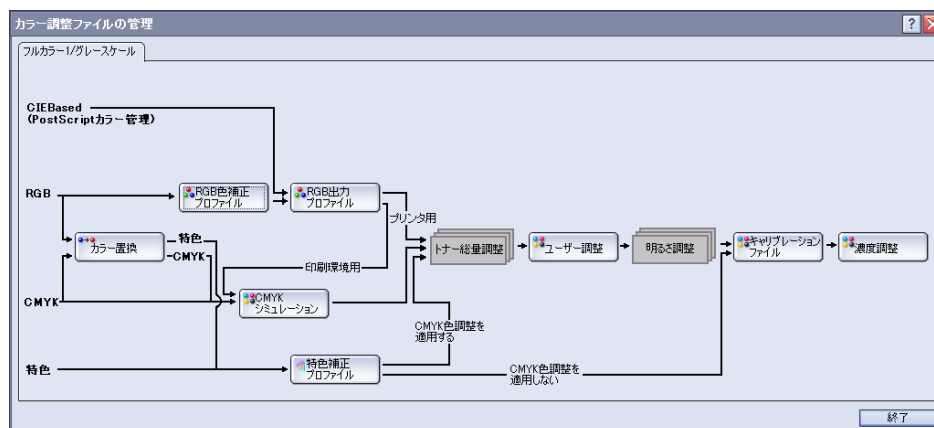
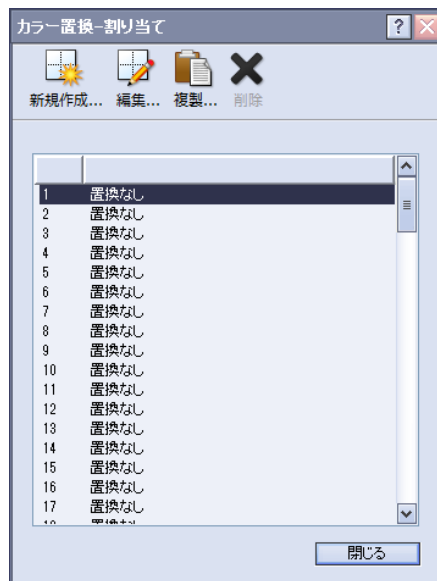
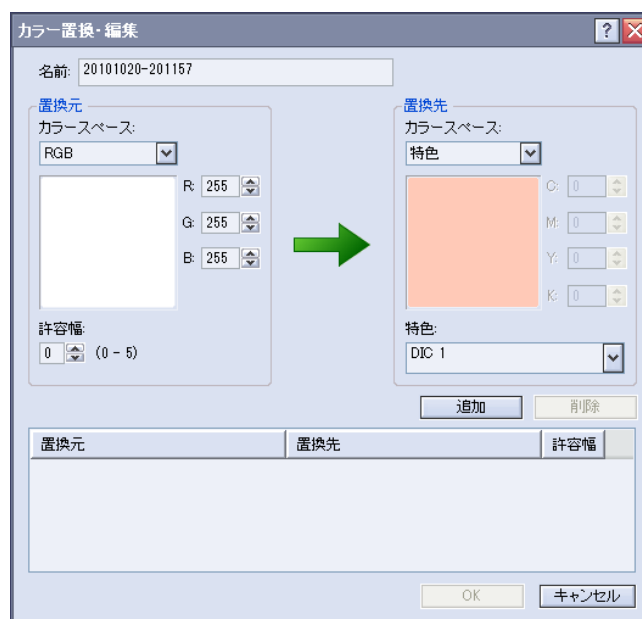
カラー置換設定ファイルの作成

プリントに適用するカラー置換設定ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。
読み込んだカラー置換設定ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

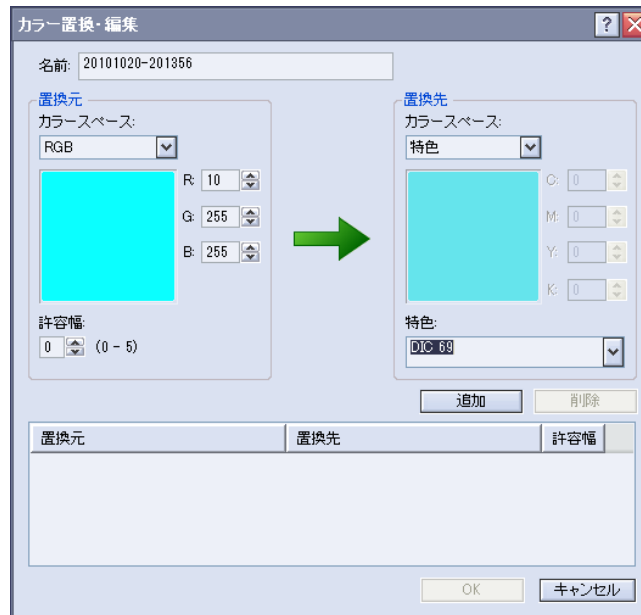
   補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［カラー置換］をクリックします。

3. 1～100の中から登録する番号を選択して［新規作成］をクリックします。

4. ［置換元］の［カラースペース］から［RGB］、または［CMYK］を選択し、各色の値を入力します。数値は、[RGB]の場合は0～255の範囲で、[CMYK]の場合は0～100の範囲で入力します。

設定した色がプレビュー表示されます。

● 許容幅

置き換え処理をするときに、各値の一致を見るときの幅を入力します。入力範囲は、0～5です。

補足　［RGB］から［CMYK］、または［CMYK］から［RGB］に切り替えた場合は、切り替えられたカラースペースの値に変換されます。

5. ［置換先］の［カラースペース］から［CMYK］、または［特色］を選択します。
   - ［CMYK］の場合は、各色の値を入力します。
   - ［特色］の場合は、［特色］から特色を選択します。

設定した色がプレビュー表示されます。

補足　［特色］メニューには、Print Serverに登録されている色が色見本とともに表示されます。

6. ［追加］をクリックします。

補足　複数の色の置き換えを同時にすることもできます。

7. ［名前］に新しいカラー置換設定ファイルの名前を入力し、［OK］をクリックします。

8. 選択した番号に設定ファイルを割り当てるかを確認するダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

カラー置換設定ファイルの割り当て

［カラー置換 - 割り当て］ダイアログボックスで、割り当てるカラー置換ファイルを選択し、［閉じる］をクリックします。

補足　割り当てたカラー置換設定ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（共通設定）］>［カラー置換］から設定ファイルを選択します。

参照　詳細は、「4.1.4 カラー」（P.229）を参照してください。

カラー置換設定ファイルの編集

1. ［カラー置換 - 割り当て］ダイアログボックスで、編集するカラー置換設定ファイルを選択し、［編集］をクリックします。
2. ［カラー置換-編集］ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

カラー置換設定ファイルの複製

1. ［カラー置換 - 割り当て］ダイアログボックスで、複製するカラー置換設定ファイルを選択し、［複製］をクリックします。
2. ［カラー置換-編集］ダイアログボックスで編集したあと、［OK］をクリックします。

カラー置換設定ファイルの削除

1. ［カラー置換 - 割り当て］ダイアログボックスで、削除するカラー置換設定ファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで［はい］をクリックします。

割り当てられているカラー置換設定ファイルを削除した場合、「置換なし」が割り当てられます。

ServerManagerでできるジョブ操作

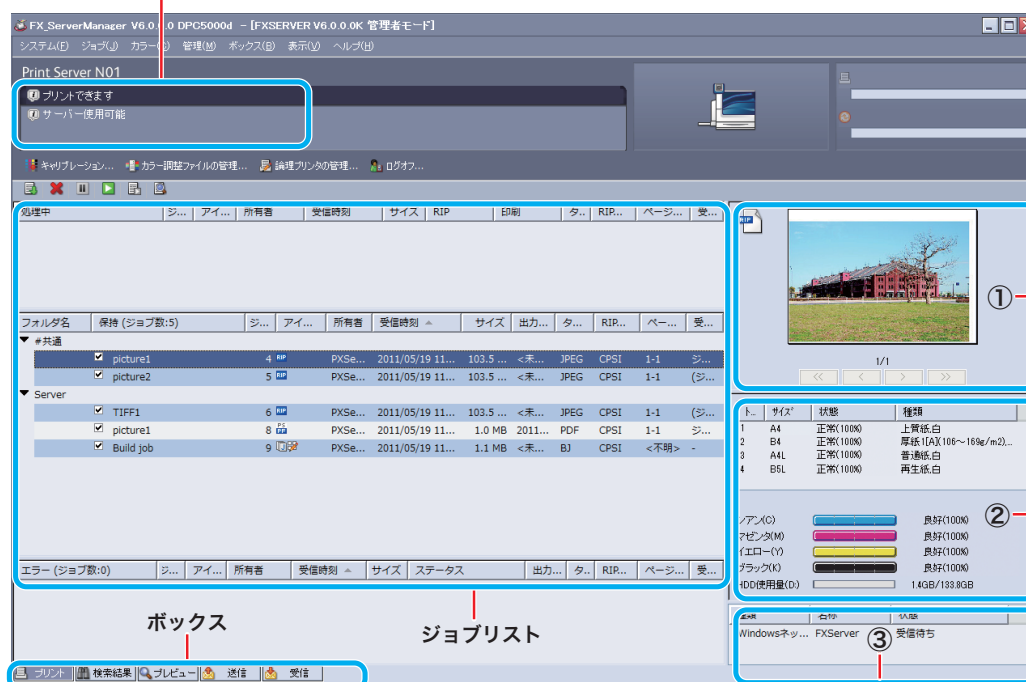
ServerManagerから行うジョブの操作（ビルドジョブやRaster Image Viewerなど）、ファイルの送受信について説明しています。

3.1 ServerManagerについて

ServerManagerに表示される項目について説明します。
ここではPrint Serverで使用できる機能を含めて説明しています。

3.1.1 ServerManagerのウィンドウ

上部にはPrint Serverやプリンターの状態を示すステータスメッセージが表示されます。
Print Serverには、「ボックス」があり、クリックするとそれぞれの「ジョブリスト」表示に切り替わります。
[プリント] ボックスには、処理中、保持、およびエラーの3つがあります。

参照 メニューやボタンについては、「3.1.3 ServerManager のメニュー」(P.157)、および「機能ボタン」(P.155) を参照してください。

ボックス

上段の「処理中リスト」はすべてのボックスで共通です。それ以外のリストは、ボックスごとに異なります。

●プリント

ServerManagerの基本の画面です。「保持リスト」と「エラーリスト」が表示されます。

●検索結果

ジョブの検索結果が表示されます。

参照 ジョブ検索については、「6.1.5 ジョブ検索」(P.328) を参照してください。

●プレビュー

TIFF保存、PDF保存で作成されたTIFF画像のリストがジョブごとに表示されます。

●送信

時刻指定送信で送信待ちのメールと送信エラーになったメールのリストが表示されます。

●受信

受信したメールのリストが表示されます。

ジョブリスト

通常、ジョブリストに表示されるジョブの文字色は黒ですが、ジョブの状態によって黒以外の文字が使われるものもあります。一度もプリントしたことのないジョブは背景色が変更されます。

ジョブの状態には、以下のものがあります。

●処理中リスト

現在、Print Serverでプリント処理されているジョブの一覧が表示されます。

処理中ジョブのうち、プリント中のものは青い文字で表示されます。

●保持リスト

［プリント］ボックスで表示されます。プリント処理が終わったものなど、Print Serverに保持されているジョブの一覧とジョブ数が表示されます。

保持リストにあるジョブは、任意のフォルダーを作成して管理することができます。

フォルダーでジョブを管理する方法については、「ジョブフォルダーの管理」（P.151）を参照してください。

●エラーリスト

［プリント］ボックスで表示されます。プリント処理で、エラーが発生したジョブの一覧とジョブ数が表示されます。

エラージョブのうち、用紙切れなどプリントオプションの設定を変更する必要がないエラーが発生しているものは黒い文字で、プリントオプションの設定を変更すると、再プリントできるものはマゼンタ色の文字で表示されます。また、クライアントコンピューターでファイルを作成し直す必要があるジョブなどは、赤い文字で表示されます。

ジョブリストに表示される項目は、以下のとおりです。

項目	説明	
フォルダー名	保持リストのジョブが格納されているフォルダーのフォルダー名が表示されます。	
（ジョブ名）	ジョブのファイル名が表示されます。	
アイコン		ビルドジョブが設定されている場合に表示されます。
		セキュリティプリントが設定されている場合に表示されます。
		フォームとして登録済みの場合に表示されます。
		ジョブを受信中の場合に表示されます。
		RIP済みデータを保持している場合に表示されます。
		PSプリフライトレポートを保持している場合に表示されます。
		RIP済みTIFFファイルを保持している場合に表示されます。
		RIP済みPDFファイルを保持している場合に表示されます。
		サムネール編集でページ情報が設定されている場合に表示されます。
		ビルドジョブを構成している個々のジョブに表示されます。（検索結果ボックスのみ）
ジョブID	ジョブIDが表示されます。	

項目	説明	
ジョブステータスマーク	処理中	プリントしている場合に表示されます。
		プリンターでエラーが発生している場合に表示されます。
	エラー	E：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
		W：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
		N：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。
所有者	ジョブを送信した所有者名が表示されます。所有者は、クライアントコンピューターごとに異なります。	
	Macintosh	Macintoshクライアントの所有者名が表示されます。
	Windows	Windowsクライアントへのログイン名が表示されます。
	ホットフォルダ	ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合は、「不明」と表示されます。
	Lpr	ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合は、「lprユーザー」と表示されます。
	DropUtility	Macintoshクライアントの所有者名、またはWindowsクライアントへのログイン名が表示されます。
	WebManager	アップロードプリントの場合は、WebManager のログイン名が表示されます。 WebManager にログインしていない場合は、「Web ユーザー」と表示されます。
	ジョブの読み込み	ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合はログイン名が表示されます。
受信時刻	Print Serverがクライアントコンピューターからジョブを受信した時刻が表示されます。	
サイズ	受信したジョブのファイルサイズが表示されます。	
RIP（処理中のみ）	RIPの処理状態が表示されます。処理状態には、以下のものがあります。 •「処理待ち」、「処理済みサイズ」（APPEジョブ場合、「RIP済みページ数」）	
印刷（処理中のみ）	プリントの処理状態が表示されます。処理状態には、以下のものがあります。 •「データ転送待ち」、「（＊/＊）ページ転送中」、「＊ページ目転送中」、「プリント待ち」、「プリント中」	
ステータス（エラーのみ）	エラーの種類が表示されます。エラーの種類には、以下のものがあります。 •「PostScriptエラー」、「プリンターエラー」、「受信時エラー」、「RIPエラー」、「コントローラーボードエラー」、「データベースエラー」など	
出力日時	プリンターがファイルの最後の用紙を排出した日時が表示されます。一度もプリントしていない場合は、「未出力」と表示されます。	
タイプ	ジョブのファイルタイプが表示されます。	
RIPの種類	RIPの種類には、以下のものがあります。 •「CPSI」、「APPE」	
ページ・部数	受信したデータのページ数と部数が表示されます。	
受信プロトコル	ジョブの受信プロトコルが表示されます。	

- TCP/IP（lpr）からのプリント時、ServerManager の［管理］→［論理プリンタの管理］を選択し、［TCP/IP］の設定で［lpr のコントロールファイルを無視する］が設定されている場合は、PostScriptファイル内の%%Title欄の記述内容がジョブ名になります。
- リストに表示される項目の順序を変更できます。また、保持リストとエラーリストでは、各項目をキーにして、ジョブをソートして表示できます。詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「3.2.1 ServerManagerのウィンドウ」を参照してください。

ジョブフォルダーの管理

■作成

デフォルトで、「#共通」フォルダーが作成されています。

補足　フォルダーは、管理者モードのときに操作できます。

1. ［ボックス］→［フォルダー］→［作成］を選択します。
2. ［作成］ダイアログボックスで、［名前］を入力し、［OK］をクリックします。

●名前

31バイト以内で入力します。100個まで登録できます。

■名前の変更

1. 保持リストから名前を変更するフォルダーを選択します。

補足　「#共通」フォルダーの名前は、変更できません。

2. ［ボックス］→［フォルダー］→［名前の変更］を選択します。
3. ［名前の変更］ダイアログボックスで、新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

■削除

1. 保持リストから削除するフォルダーを選択します。
2. ［ボックス］→［フォルダー］→［削除］を選択します。

補足
- 複数選択ができます。
- 「#共通」フォルダーは削除できません。

3. フォルダーにジョブがある場合は、確認のダイアログボックスが表示されるので、［OK］をクリックします。

・フォルダーにジョブがない場合は、フォルダーだけが削除されます。
・フォルダーにジョブがある場合は、フォルダーとフォルダーの中のジョブが削除されます。

■展開する/たたむ

フォルダー内のジョブ名の表示の設定ができます。

［ボックス］→［すべてのフォルダーを展開する］を選択すると、すべてのフォルダー内のジョブが表示され、［すべてのフォルダーをたたむ］を選択すると、フォルダー内のジョブ名が表示されなくなります。

- 展開する/たたむは、一般ユーザーモードでも操作できます。
- 次回起動時に同じ設定で表示されます。
- ［ジョブ］→［すべて選択］を選択した場合、ジョブ名が表示されているジョブだけが選択されます。（フォルダーがたたまれ、表示されていないジョブは選択されません）

■ボックス表示の切り替え

表示するボックスを選択できます。

［ボックス］→［ボックス表示の切り替え］で、ボックスを選択すると、選択したボックスが表示されます。

ステータスメッセージ

Print Server、プリンターの状態のメッセージとプリンター構成のイメージ、およびジョブの進捗状態（上段：プリント状態、下段：RIP状態）が表示されます。

メッセージの先頭とプリンター構成のイメージにはアイコンが表示されます。アイコンの種類は、以下のとおりです。

アイコン	説明
	情報メッセージであることを示します。プリンター構成のイメージには表示されません。
	エラーがあることを示します。
	警告があることを示します。

表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ		状態
サーバー状態	サーバー使用可能	プリント処理ができる状態です。
	サーバーにフォントをダウンロードしています	市販フォントのダウンロード中です。
	サーバーのキャリブレーションをしています	キャリブレーション中です。
	サーバーの両面印刷を微調整しています	両面印刷の微調整を行っています。
	サーバーの印刷処理を停止しています	クライアントコンピューターからのジョブは受け付けます。 RIP処理は行いません。
	サーバーのシステムを再設定しています	システム情報の再設定を行っています。（環境設定の変更、ユーザー調整、キャリブレーションの変更、設定のバックアップ / リストア、フォントリストア、フォントダウンロードモード開始 / 終了時のRIP再起動中など）
	サーバーのディスク空き容量不足です	ディスクの空き容量が不足し、処理が継続できない状態です。
	サーバーのフォントをバックアップしています	フォントバックアップ中です。
プリンター状態	サイクルアップ中	プリンターのウォームアップ中です。
	節電中です	節電中です。
	診断モード中です	診断モードです。
	初期化処理しています	初期化処理中です。
	停止中です	停止中です。
	プリントできます	待機中です。
	お待ちください	待機中です。
	プリンター操作中です	プリンターの操作パネルが操作中です。
	通信エラーが発生しました	プリンターの電源が入っていないか、Print Server とプリンターのネットワーク通信ができない状態です。
	プリンターでエラーが発生しました	エラーが発生しています。 参照 エラーメッセージについては、「6.3 エラージョブメッセージについて」（P.333）を参照してください。
	(＊/＊＊) 枚目をプリントしています	プリント中です。 ＊：プリント中のページ番号 ＊＊：総ページ数

メッセージ		状態
プリンター状態	(＊/＊＊）部目の（＊＊＊/＊＊＊＊）枚目をプリントしています	複数部設定でプリント中です。 ＊：プリント中の部 ＊＊：設定部数 ＊＊＊：プリント中のページ番号 ＊＊＊＊：総ページ数

①プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウには、以下の項目が表示されます。
[表示] → [プレビュー] を選択すると、表示/非表示の切り替えができます。

■プレビュー画像

ジョブリストで選択されたジョブのプレビュー画像が表示されます。プレビュー画像をダブルクリックすると、プレビューウィンドウに表示されている画像が別のダイアログボックスに拡大表示されます。

ジョブにプレビュー画像がない場合や、セキュリティプリントが設定されているジョブ（ログオフ、および一般ユーザーモード時）は、以下のように表示されます。

■プレビュー画像がない場合　■セキュリティプリントが指定されている場合

ジョブリストでジョブが選択されていない場合は、RIP中のジョブのプレビュー画像が表示されます。

プレビューの保存方法を設定できます。『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

■保持データ

ジョブがデータを保持している場合は、プレビュー画像の左横にアイコンが表示されます。アイコンには、以下の4種類があります。

アイコン	説明
	PSプリフライトレポートを保持しています。
	RIP済みデータを保持しています。
	TIFFファイルを保持しています。

■ページめくりボタン

- プレビューの作成/保存方法が［全ページ保存する］の場合で、選択したジョブが複数ページのときは、[<]、または［>］をクリックすると、ページが前後します。
- ［«］をクリックすると、最初のページが表示されます。
- ［»］をクリックすると、最後のページが表示されます。

②マシン消耗品状態ウィンドウ

マシン消耗品状態ウィンドウには、以下の項目が表示されます。
[表示] → [マシン状態] を選択すると、表示/非表示の切り替えができます。

■トレイ情報

各トレイにセットされている用紙サイズ、トレイの状態、用紙の種類、用紙の色が表示されます。
「用紙切れ」、「故障」、「正しくセットされていません」は、赤い文字で表示されます。

・正常（100%）　・正常（75%）　・正常（50%）　・予備を用意（25%）
・用紙切れ　・故障　・正しくセットされていません

■トナー量

各トナーの状態が25%刻みのバーグラフで表示されます。

・良好（100%）　・良好（75%）　・良好（50%）　・予備を用意（25%）　・要交換

■ハードディスク使用量

Print Server の作業用フォルダーがあるディスクのスプールフォルダーを含んだ全容量とディスク使用量がバーグラフで表示されます。

③ネットワーク状態ウィンドウ

ネットワーク状態ウィンドウには、以下の項目が表示されます。
[表示] → [ネットワーク状態] を選択すると、表示/非表示の切り替えができます。

各ネットワークの環境設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1 Print Serverの設定をする」を参照してください。

■種類

利用できるネットワークの種類が表示されます。表示されるネットワークの種類には、以下のものがあります。

・AppleTalk　・Windowsネットワーク　・TCP/IP　・ホットフォルダ

■名称

ホットフォルダはフォルダー名、それ以外はプリンター名が表示されます。

■状態

プリンターの受信状態が受信中のものは青い文字で、エラーが発生しているものは赤い文字で表示されます。
表示される状態には、以下のものがあります。

・起動していません　・受信待ち　・受信中　・サーバーと接続できません
・正常に起動していません

機能ボタン

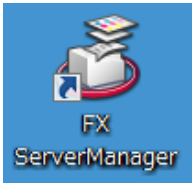
ServerManagerのメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。

①	キャリブレーション
②	カラー調整ファイルの管理
③	論理プリンタの管理
④	ログイン/ログオフ（ログイン状態によって、ボタンの形状が変化します）
⑤	ジョブ読み込み
⑥	ジョブ削除（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても削除できます）
⑦	（プリント）停止（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても停止できます）
⑧	（プリント）処理開始（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても処理開始できます）
⑨	続きをプリント（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても続きをプリントできます）
⑩	ジョブ検索

3.1.2　クライアントコンピューターからの接続

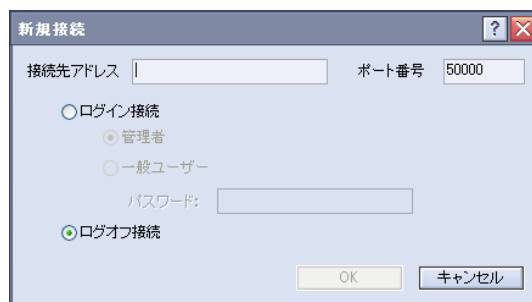
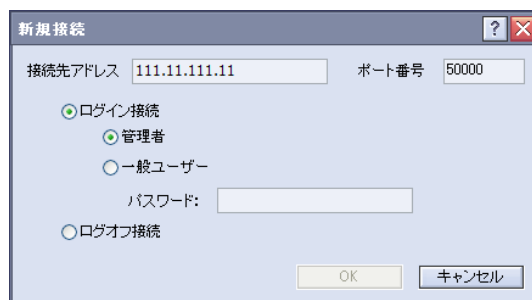
新規接続

操作手順

1. デスクトップの「FX_ServerManager」アイコンをダブルクリックします。

補足　［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［FX ServerManager］を選択しても、ServerManagerを起動できます。

ServerManagerが起動します。

2. ［システム］→［新規接続］を選択します。

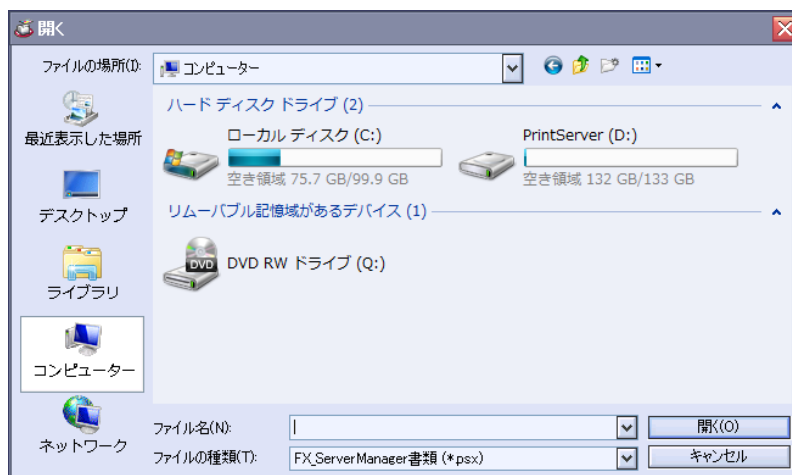
3. 接続先アドレスとポート番号を入力し、ログイン種別を選択します。

4. [ログイン接続] を選択したときは、ログイン名を選択し、パスワードを入力します。

5. [OK] をクリックします。

Print Serverに接続されます。

接続設定ファイルの操作

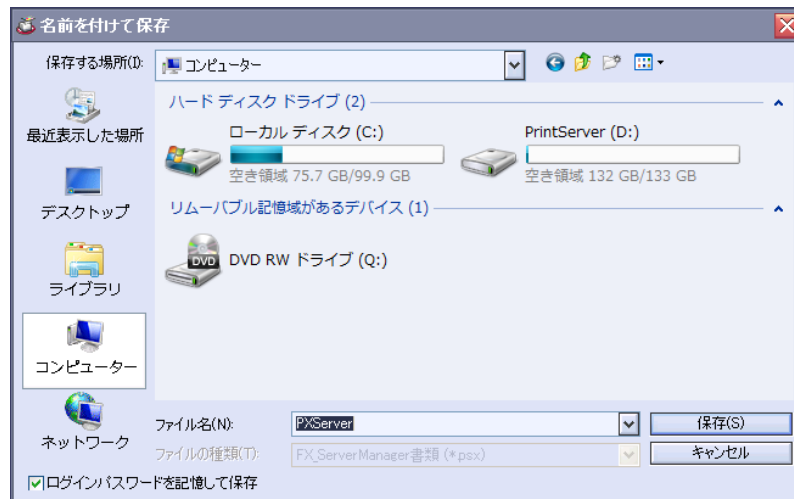
接続設定をファイル（拡張子は「.psx」）として保存し、終了したときと同じ状態で接続が再開されます。

● 開く

保存した設定ファイルを読み込んで、接続が再開されます。

● 閉じる

接続を終了します。

● 上書き保存

現在の状態が接続設定ファイルに上書き保存されます。

ログインパスワードを記憶して保存

チェックマークを付けると、パスワードを入力せずに接続が再開されます。チェックマークを外すと、再開時にパスワードの入力が必要になります。

● 名前をつけて保存

現在の状態が新しい接続設定ファイルに保存されます。

3.1.3　ServerManagerのメニュー

ServerManagerにあるメニュー項目について説明します。

○：選択できる項目

×：選択できない項目

△：閲覧だけできる項目

APPEジョブや、セキュリティプリントが設定されているジョブには、制限があります。

システム

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
新規接続	○	○	○	×	×	×	3.1.2
開く	○	○	○	×	×	×	
閉じる	○	○	○	×	×	×	
上書き保存	○	○	○	×	×	×	
名前を付けて保存	○	○	○	×	×	×	
スタートアップページの印刷	×	○	○	×	○	○	6.1.3
印刷処理を停止/印刷処理を再開	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド セットアップ編』

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
ジョブ履歴	表示/保存/印刷	×	×	○	×	×	○	6.1.1
	設定	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
通信履歴		×	×	×	×	×	○	3.5.4
エラー履歴の収集		×	×	○	×	×	○	6.1.4
長さの単位		○	○	○	○	○	○	4.2.1
オプションメモの設定		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
プリントジョブの設定		×	△	○	×	△	○	
初期設定	作業用フォルダーの設定	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.4
	プリンター設定	×	×	×	×	×	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
	サーバーの通信設定	×	△	○	×	△	○	4.2.1
	クライアントの通信設定	○	○	○	×	×	×	
	ライセンスの設定	×	×	×	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
	その他の設定	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.3
バックアップ	ボックスをバックアップ	×	×	×	×	×	○	3.1.4
	ボックスをリストア	×	×	×	×	×	○	
	設定をバックアップ	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド導入編』1.3
	設定をリストア	×	×	○	×	×	○	
	フォントをバックアップ	×	×	○	×	×	○	6.1.2
	フォントをリストア	×	×	○	×	×	○	
サーバー		×	○	○	×	○	○	—
ログイン/ログオフ		○	○	○	○	○	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.3
終了		○	○	○	○	○	○	—

ジョブ

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
ジョブ編集		×	○	○	×	○	○	4.1
ジョブ複製		×	○	○	×	○	○	3.1.5
ジョブ削除		×	○	○	×	○	○	
停止		×	○	○	×	○	○	
処理開始		×	○	○	×	○	○	
続きをプリント		×	○	○	×	○	○	
すべて選択		×	○	○	×	○	○	
ジョブ保存		×	○	○	×	○	○	
ジョブ読み込み		×	○	○	×	○	○	
フォルダー移動		×	○	○	×	○	○	
RIP済みデータを削除		×	○	○	×	○	○	
RIP済みデータを作成		×	○	○	×	○	○	
ジョブ検索		×	○	○	×	○	○	6.1.5
検索リストのクリア		×	○	○	×	○	○	
小冊子作成		×	○	○	×	○	○	1.2.1
差込印刷		×	○	○	×	○	○	1.2.4
2アップ		×	○	○	×	○	○	1.2.2
リピートプリント		×	○	○	×	○	○	1.2.3
ビルドジョブ		×	×	×	×	○	○	3.3
サムネール	サムネール編集	×	×	×	×	○	○	3.2
	サムネール編集情報を削除	×	○	○	×	○	○	
拡大プレビュー		×	○	○	×	○	○	3.1.5
Raster Image Viewer		×	×	×	×	○	○	3.4
PSプリフライトレポート		×	○	○	×	○	○	1.1.4
キャリブレーションの確認印刷		×	○	○	×	○	○	3.1.5
送信		×	×	×	×	○	○	3.5
ジョブ情報の収集		×	×	×	×	○	○	3.1.5
プレビューボックス		×	×	×	×	○	○	—
送信ボックス		×	×	×	×	○	○	3.5
受信ボックス		×	×	×	×	○	○	

カラー

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
キャリブレーション	×	×	○	×	×	○	2.2.2
キャリブレーションの通知設定	×	×	×	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
カラー調整ファイルの管理	×	△	○	×	△	○	2.2、2.3、2.4、2.5、2.6、2.7、2.9
特色の管理	×	△	○	×	△	○	2.8

管理

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
プリントオプションテンプレートの管理	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.1
論理プリンタの管理	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2
フォントの管理 一覧表示／一覧印刷	×	○	○	×	○	○	6.1.2
フォントの管理 一覧表示／一覧印刷を除く	×	×	○	×	×	○	
フォーム管理	×	○	○	×	○	○	1.2.4
ウォーターマーク管理	×	△	○	×	△	○	4.2.2
ページ番号設定ファイルの管理	×	△	○	×	△	○	4.2.3
保存・接続先の管理	×	×	×	×	△	○	3.5.7
ユーザー管理	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.3

ボックス

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
メール受信	×	×	×	×	×	○	3.5.3
アドレス帳	×	×	×	×	×	○	3.5.6

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
フォルダー		×	×	○	×	×	○	3.1.1
すべてのフォルダーを展開する		○	○	○	○	○	○	
すべてのフォルダーをたたむ		○	○	○	○	○	○	
ボックス表示の切り替え	プリント/検索リスト	○	○	○	○	○	○	
	プレビュー/送信/受信	×	×	×	○	○	○	
ボックスの設定		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.2

表示

各ウィンドウの表示切り替えや、Print Serverの状態を表示できます。

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
プレビュー	○	○	○	○	○	○	3.1.1
マシン状態	○	○	○	○	○	○	
ネットワーク状態	○	○	○	○	○	○	
ステータス一覧	○	○	○	×	×	×	3.1.6
標準に戻す	○	○	○	○	○	○	
最新の情報に更新	○	○	○	○	○	○	

ヘルプ

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
ヘルプ	○	○	○	○	○	○	3.1.7
バージョン情報	○	○	○	○	○	○	

3.1.4　システムメニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」（P.157）の一覧から該当のページを参照してください。

■ボックスをバックアップ

ボックス単位でジョブが圧縮保存されます。

パスワードの設定ができます。
パスワードとして入力できるのは、1バイト文字だけで、5～31バイトの範囲です。

■ボックスをリストア

［ボックスをバックアップ］によって保存されたジョブを読み込みます。

ボックス単位のファイルを複数選択できます。

保存ファイルにパスワードが設定されている場合、［パスワードの入力］ダイアログボックスが表示されます。

3.1.5　ジョブメニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」（P.157）の一覧から該当のページを参照してください。

ジョブの状態	［ジョブ］メニュー / ポップアップメニューで使用できる項目
処理中	［ジョブ編集］、［すべて選択］、［ジョブ削除］、［停止］、［拡大プレビュー］
保持 / エラー	［ジョブ編集］、［ジョブ複製］、［ジョブ保存］、［すべて選択］、［ジョブ削除］、［RIP 済みデータを削除］、［RIP済みデータを作成］、［処理開始］、［続きをプリント］、［PSプリフライトレポート］、［キャリブレーションの確認印刷］、［小冊子作成］、［差込印刷］、［2 アップ］、［リピートプリント］、［ビルドジョブ］、［サムネール編集］、［サムネール編集情報を削除］、［拡大プレビュー］、［Raster Image Viewer］、［ファイル転送］、［メール送信］、［エラー履歴の収集］、［フォルダー移動］（保持リストのみ）
ジョブの検索結果	［ジョブ編集］、［ジョブ検索］、［ジョブ複製］、［ジョブ保存］、［すべて選択］、［ジョブ削除］、［RIP 済みデータを削除］、［RIP済みデータを作成］、［処理開始］、［続きをプリント］、［PSプリフライトレポート］、［キャリブレーションの確認印刷］、［小冊子作成］、［検索リストのクリア］、［差込印刷］、［2アップ］、［リピートプリント］、［ビルドジョブ］、［サムネール編集］、［サムネール編集情報を削除］、［拡大プレビュー］、［Raster Image Viewer］、［ファイル転送］、［メール送信］、［エラー履歴の収集］

補足
- ジョブを選択し、右クリックをしても［ジョブ］メニューを表示することができます。
- 一般ユーザーモードでログインしている場合、セキュリティープリントが設定されているジョブに対して、［停止］以外の項目を実行するには、パスワードの入力が必要です。

■ジョブ複製

ジョブが複製され、保持リストに表示されます。

このメニューは、保持、またはエラーリストにあるフォルダー、またはジョブを選択した場合にだけ使用できます。

- RIP済みデータ、およびプリフライトレポートは複製されません。
- プリントオプションの［出力方法］＞［差込印刷］が［フォームとして登録］のジョブを複製すると、複製されたものは［しない］に変更されます。
- 選択したジョブにセキュリティプリントが設定されている場合は、そのパスワードも複製されます。

■ジョブ保存

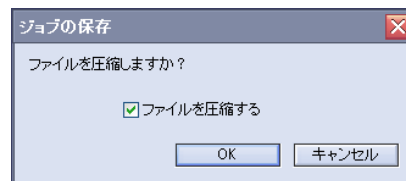
フォルダー、またはジョブが保存されます。

このメニューは、保持、またはエラーリストにあるフォルダー、またはジョブを選択した場合にだけ使用できます。

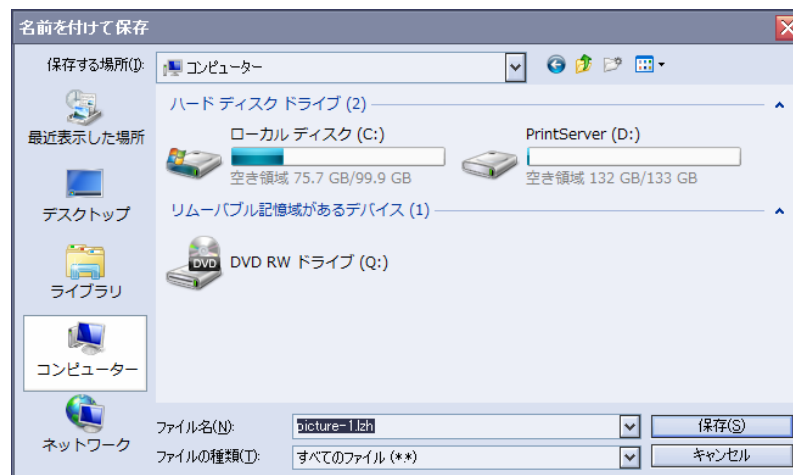
- RIP済みデータ、およびプリフライトレポートは保存されません。
- プリントオプションの［セキュリティ］＞［ジョブ終了をメールで通知］の設定は、保存されません。
- 選択したジョブにセキュリティプリントが設定されている場合は、そのパスワードも保存されます。
- Windowsでファイル名として使用できない文字（*￥/:?"<>|）は、自動で"_"に置き換えられます。

◆1つのジョブを選択した場合

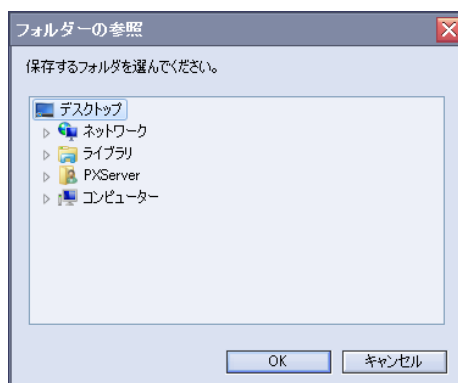
操作手順

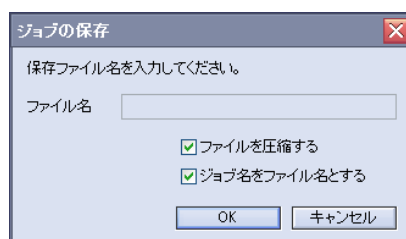
1. ［OK］をクリックします。

●ファイルを圧縮する

チェックマークを付けると、ジョブを圧縮して保存できます。保存されるファイルの拡張子は、圧縮しなかった場合は「.jbf」、圧縮した場合は「.lzh」です。

2. 保存する場所とファイル名を入力して、［保存］をクリックします。

◆複数のジョブを選択した場合、またはフォルダーを選択した場合

操作手順

1. 保存する場所を選択し、[OK]をクリックします。

選択したフォルダーの中に、年月日 - 時分秒の形式でフォルダー（例 :20090901-103255）が作成されます。

2. [OK]をクリックします。

●ファイルを圧縮する

チェックマークを付けると、ジョブを圧縮して保存できます。保存されるファイルの拡張子は、圧縮しなかった場合は「.jbf」、圧縮した場合は「.lzh」です。

●ジョブ名をファイル名とする

・チェックマークを付けると、ジョブ名がファイル名になります。ファイル名が重複する場合は、ファイル名に「_＊」（＊は1から）が付いて保存されます。
・ファイル名を入力する場合は、チェックマークを外し、[ファイル名]にファイル名を入力します。入力したファイル名に「_＊」（＊は1から）が付いて保存されます。

■ジョブ読み込み

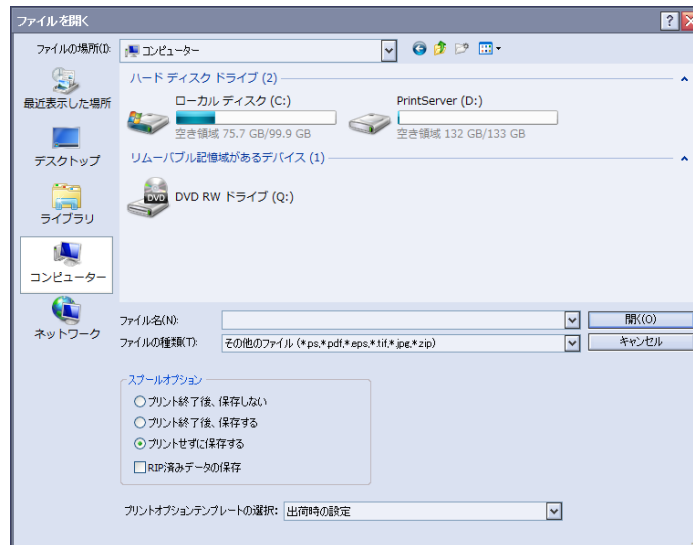
ジョブが読み込まれます。

操作手順

1. 保持リストから、読み込むファイルを保存するためのフォルダーを選択します。

補足　フォルダーが選択されていない場合は、「# 共通」フォルダーに保存されます。

2. 読み込むファイルを選択します。

3. 各項目を設定して、[開く] をクリックします。

保持リストにジョブが表示されます。

- プリントオプションテンプレートはジョブファイルには適用されません。
- [スプールオプション] と [プリントオプションテンプレートの選択] は前回の設定が選択されています。
- [スプールオプション]の設定とプリントオプションテンプレートのスプールオプションの設定が異なる場合は、[スプールオプション] の設定が優先されます。
- クライアントで、31バイトを超えるファイル名のPostScript/PDF/EPS/TIFF/JPGファイルを読み込んだ場合、ジョブ名は31バイトに省略して表示されます。

●ファイルの種類

読み込み可能なファイル

表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- JBF/JOB/BBF/LZH/PostScript/PDF/EPS/TIFF/JPG/ZIP
  BBF（ビルドジョブファイル）は、Print ServerのServerManagerでだけ表示されます。

ジョブファイル

表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- JBF/JOB/BBF/LZH
  BBF（ビルドジョブファイル）は、Print ServerのServerManagerでだけ表示されます。

その他のファイル

表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- PostScript/PDF/EPS/TIFF/JPG/ZIP

すべてのファイル

すべてのファイルフォーマットが表示されます。

●スプールオプション

送信されたジョブのプリント方法を選択します。

プリント終了後、保存しない

プリントしたあと、ジョブが削除されます。

プリント終了後、保存する

プリントしたあと、Print Serverにジョブが保存されます。

プリントせずに保存する

プリントしないで、Print Serverにジョブが保存されます。

●RIP済みデータの保存

チェックマークを付けると、RIP後のデータがPrint Serverに保存されます。

［スプールオプション］が［プリント終了後、保存する］、または［プリントせずに保存する］の場合にだけ有効です。

［スプールオプション］が［保存しない］の場合、RIP済みデータは保存されません。

●プリントオプションテンプレートの選択

読み込み時に適用するプリントオプションテンプレートを一覧から選択します。

■すべて選択

リストのすべてのジョブが選択されます。

このメニューは、すべてのリストで使用できます。

■ジョブ削除

ジョブが削除されます。

このメニューは、すべてのリストで使用できます。

補足

- プリント待ちのジョブは削除できません。
- プリントオプションの［出力方法］＞［その他の設定（出力方法）］＞［ジョブ削除を許可する］が［しない］に設定されているジョブは、削除されません。
- 一般ユーザーモードでは、セキュリティプリントが設定されているジョブを受信中に削除した場合は、受信終了後にジョブがエラーリストに移動します。

■RIP済みデータを削除

RIP済みデータを持っているジョブのRIP済みデータが削除されます。元データ、および中間PDFファイルは削除されません。

このメニューは、保持、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

■RIP済みデータを作成

RIP済みデータを持っていないジョブのRIP済みデータが作成され、ジョブが保持リストに移動します。

複数のジョブを選択し、その中ですでにRIP済みデータを持っているジョブがある場合は、RIP済みデータを持たないジョブだけRIP済みデータが作成されます。

このメニューは、保持、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

この機能は、以下のプリントオプションの設定内容にかかわらず処理が行われます。

- ［出力方法］＞［RIP済みデータの保存］
- ［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］

■停止

処理中のジョブが停止し、保持リストの最下段に移動します。

このメニューは、処理中リストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

受信中のジョブは、受信が終了するまで停止できません。

■処理開始

ジョブが処理中リストの最下段に移動します。

保持、またはエラーリストにあるジョブを処理中リストにドラッグ＆ドロップして移動しても、再プリントできます。

このメニューは、保持、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

プリントオプションの［出力方法］＞［スプールオプション］が［プリント終了後、保存する］に設定されているジョブは、ジョブの先頭にチェックマークが自動で付きます。

- このチェックマーク付けたたまま再プリントすると、プリント終了後、ジョブは保持リストに戻ります。
- チェックマークを外して再プリントすると、プリント終了後、ジョブは保持リストに残りません。

■続きをプリント

プリント停止指示やエラーでプリントが停止しているジョブが続きからプリントされます。

- 1枚もプリントしないで停止、またはエラーになったジョブは、対象になりません。
- プリントオプションを変更すると、無効になります。
- 合紙挿入の場合、合紙の直後に停止した場合は、合紙からプリントされます。
- 用紙挿入（先頭）が設定されたジョブで、先頭の白紙がプリントされただけで停止したジョブは、対象になりません。
- 用紙挿入（最後）が設定されたジョブで、最後の白紙がプリントされる直前に停止したジョブは、対象になりません。
- 複数部数が指定されているジョブの場合は、残り部数の先頭ページからプリントされます。

■キャリブレーションの確認印刷

キャリブレーションを適用する場合と適用しない場合の違いを確認するためのプリント（2枚）ができます。

以下の設定は無視され、デフォルトの値が適用されます。

- [用紙/ページ] > [部数]
- [出力方法] > [スプールオプション]
- [プリフライト] > [RIP後のデータをファイルに保存] > [TIFFで保存する]、[PDFで保存する]
- [その他（セキュリティ）] > [ジョブ終了をメールで通知する]
- [ジョブ] → [差込印刷]

■拡大プレビュー

プレビューウィンドウに表示されている画像が別のダイアログボックスに拡大表示されます。

■ジョブ情報の収集

エラー解析のために、ジョブ、ログ、およびジョブの設定情報が収集されます。収集されるジョブとログは、以下のとおりです。

・選択されているジョブのspoolフォルダー

・以下のフォルダー

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Log

・イベントログ

以下の設定情報を収集できます。

・ユーザー調整カーブ　・キャリブレーションファイル　・濃度調整カーブ

・特色補正プロファイル　・フォーム管理

収集したジョブ、ログ、およびジョブの設定情報は、LHA形式の圧縮ファイルとして保存されます。ファイル名、および保存先は任意に設定できます。

■フォルダー移動

保持リストにあるジョブを、別のフォルダーに移動することができます。ジョブをドラッグ＆ドロップしても、別のフォルダーに移動することができます。複数選択もできます。

3.1.6　表示メニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」（P.157）の一覧から該当のページを参照してください。

●標準に戻す

デフォルトの表示状態に戻ります。

●最新の情報に更新

情報が最新に更新されます。

3.1.7　ヘルプメニュー

■ヘルプ

表示された画面からマニュアル（ユーザーズガイド）を表示させることができます。

デフォルトブラウザーをInternet Explorerに設定してください。また、対応しているInternet Explorerのバージョンは、7.0と8.0です。
デフォルトブラウザーとしてInternet Explorer以外のブラウザーが設定されていたり、Internet Explorerが対応していないバージョンの場合、マニュアル（ユーザーズガイド）を表示できないことがあります。

●クライアントコンピューターで表示させるには

Print Serverの以下のフォルダーを、フォルダーごとクライアントのインストールフォルダーに複製してください。

複製するファイル

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥Help

クライアントのインストールフォルダー（デフォルトの場合）

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥ServerManager¥DPC5000d¥60

■バージョン情報

製品情報が表示されます。

3.2　サムネールでジョブを編集する

サムネール編集を使うと、ジョブをページ単位で編集できます。

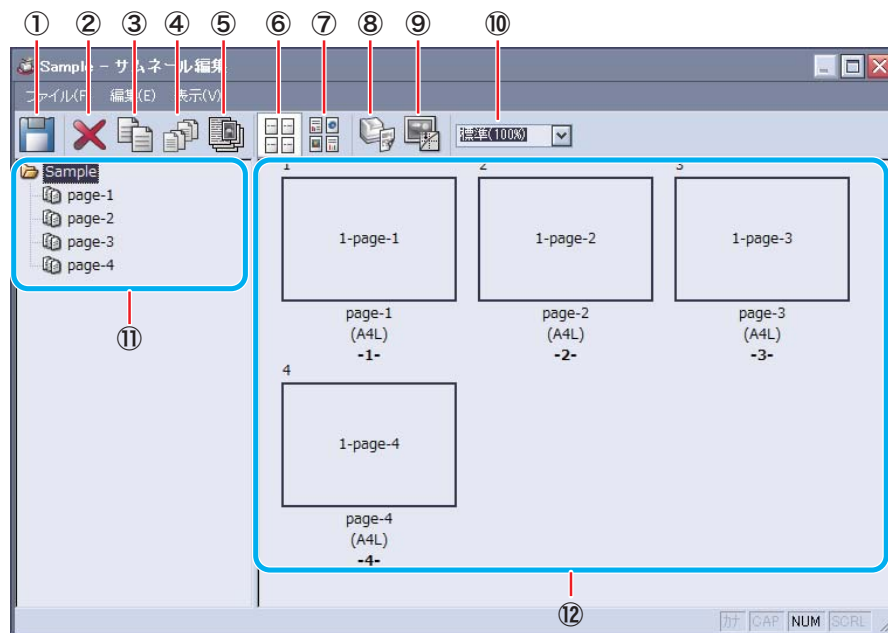
操作手順

1. ServerManagerの保持リストからジョブを選択します。

   検索結果リスト、エラーリストからも選択できます。

2. ［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］を選択します。

- ページ情報の作成を確認するダイアログボックスが表示された場合は、[OK] をクリックしてください。
- ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［プレビュー作成/保存］の設定は無視され、すべてのページのサムネールが作成されます。
- プリントオプションの［特殊ページ］＞［合紙/例外ページ］の設定は無視されます。
- プリントオプションの［RIP］＞［RIPの種類］が［CPSI］のジョブにだけ可能です。[APPE] のジョブを選択した場合は、[CPSI] に変更するかを確認するダイアログボックスが表示されます。

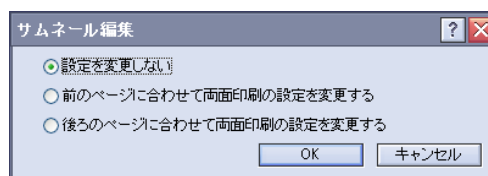
3. 必要に応じて、編集します。

サムネール編集のメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。

①	保存
②	ページの削除
③	ページの複製
④	ブランクシートの挿入（ビルドジョブのサムネール編集だけ表示されます）
⑤	ブランクシートの編集（ビルドジョブのサムネール編集だけ表示されます）
⑥	ページモード
⑦	プレビューモード
⑧	プリント
⑨	RasterImageViewer

⑩	表示倍率設定
⑪	ツリー表示フレーム ＜ビルドジョブの場合＞ ・連結されたジョブがジョブ単位で表示されます。 ・ツリーの先頭は、ビルドジョブ名です。 ・ジョブをドラッグ＆ドロップして、ジョブの順序を入れ替えることができます。 ・複数選択もできます。 ・〈Ctrl〉キーを押しながらドラッグ＆ドロップすると、選択ジョブが複製されて移動します。 ＜ビルドジョブ以外のジョブの場合＞ ・ジョブ名が表示されます。 ・ツリー表示フレームに表示されているジョブ名を選択すると、すべてのページが選択されます。
⑫	サムネール表示フレーム ・ビルドジョブ、またはジョブがページ単位でサムネール表示されます。 ・ページを選択して、ドラッグ＆ドロップしてページを移動したり、置き換えたりできます。 ・複数選択もできます。 ・〈Ctrl〉キーを押しながらドラッグ＆ドロップすると、選択ページが複製されて移動します。 ビルドジョブ以外のジョブの場合、プリントオプションの［用紙 / ページ］＞［原稿ページ範囲］の設定は適用されず、すべてのページがサムネールで表示されます。

●ページの置き換え

選択したページをほかのページの上にドラッグ＆ドロップすると、ページが置き換えられます。この場合、プリントオプションは、置き換えられるページの設定になります。

ビルドジョブのサムネール編集のとき、挿入するページの両面印刷設定が前後のページの設定と異なる場合は、両面印刷の設定を選択し、［OK］をクリックします。

設定を変更しない

設定を変更しません。

前のページに合わせて両面印刷の設定を変更する

両面印刷の設定を前のページの設定に合わせます。

後ろのページに合わせて両面印刷の設定を変更する

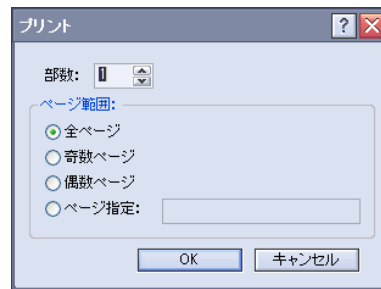
両面印刷の設定を後ろのページの設定に合わせます。

■ファイル

●保存

変更内容が保存されます。

●プリント

［部数］と［ページ範囲］を設定して［OK］をクリックすると、プリントが開始されます。

- サムネール編集で設定した［ページ範囲］は、プリントオプション、またはビルドジョブオプションの［用紙/ページ］＞［原稿ページ範囲］に反映されます。
- データが保存されていない場合は、保存を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、［保存］、および［プリント］のダイアログボックスが表示されます。

●終了

サムネール編集が終了します。

データが保存されていない場合は、保存を確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックすると、編集した内容が保存されて終了します。

■編集

●元に戻す

直前に行った操作がもとの状態に戻ります。

●やり直す

もとに戻した操作をやり直します。

●切り取り

選択したページをクリップボードに切り取ります。複数選択ができます。

●コピー

選択したページがクリップボードに複製されます。複数選択ができます。

●貼り付け

クリップボードに切り取り/複製したページをビルドジョブの最終ページの後ろに貼り付けます。

●すべて選択

サムネールをすべて選択状態にします。

●ページの削除

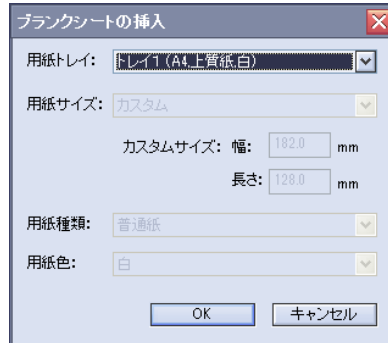
選択したサムネールが削除されます。複数選択ができます。
削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

●ページの複製

選択したページが複製されます。複数選択ができます。
複製したページは、ビルドジョブの最後尾に追加されます。

●ブランクシートの挿入

ビルドジョブの場合、用紙と用紙との間に合紙を挿入できます。合紙を挿入するページの1つ前のページを選択し、［用紙トレイ］を選択して、［OK］をクリックします。

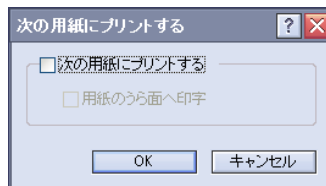
挿入されたブランクシートは新しいジョブとして追加され、最大で999ページまで追加できますが、両面のおもて面とうら面の間では、［ブランクシートの挿入］は選択できません。ただし、作成済みのブランクシートを両面のおもて面とうら面の間に移動させることはできます。この場合、両面のジョブのページは、片面ずつ別の用紙にプリントされ、間にブランクシートが入ります。

用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。
［手差しトレイ］を選択した場合は、［用紙サイズ］を入力し、［用紙種類］、［色］を選択します。

●ブランクシートの編集

挿入した合紙を選択し、［用紙トレイ］を選択して、［OK］をクリックします。

●次の用紙にプリントする

用紙を設定し、［OK］をクリックすると、用紙を変えてプリントできます。

次の用紙にプリントする

チェックマークを付けると、個々のページに対して用紙が変更されます。

用紙のうら面へ印字

［次の用紙にプリントする］にチェックマークが付いている場合に、チェックマークを付けると、用紙のうら面に印字されます。

●RasterImageViewer

1つのページを選択し、［RasterImageViewer］を選択すると、Raster Image Viewerのウィンドウが表示されます。

Raster Image Viewerについては、「3.4 Raster Image Viewerを使用する」（P.186）を参照してください。

●ビルドジョブオプションの編集

ビルドジョブの場合に［ビルドジョブオプションの編集］を選択すると、［ビルドジョブオプションの編集］ダイアログボックスが表示され、設定変更ができます。

詳細は、「3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション」（P.178）を参照してください。

● ジョブ編集

ビルドジョブの場合

選択されているページの［ジョブ編集］ダイアログボックスが表示され、個々のジョブのプリントオプションの設定が変更できます。

参照　詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。

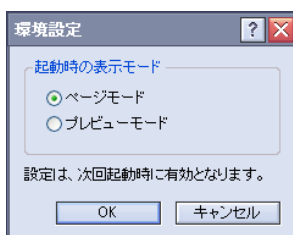
ビルドジョブ以外のジョブの場合

［ジョブ編集］ダイアログボックスが表示され、個々のジョブのプリントオプションの設定が変更できます。

参照　詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。

■ 表示

● 環境設定

表示モードを選択し、[OK] をクリックすると、最初に表示されるサムネールの表示モードが切り替わります。

補足　設定は、次回起動時から有効です。

● サムネール画像作成

サムネールの画像が作成されます。

［サムネール画像作成］ダイアログボックスが表示されるので、［OK］をクリックすると、データの保存とサムネール画像の作成が開始されます。

● ページモード

表示モードをページモードに切り替えます。ページモードでは、サムネール表示にプレビューは表示されません。

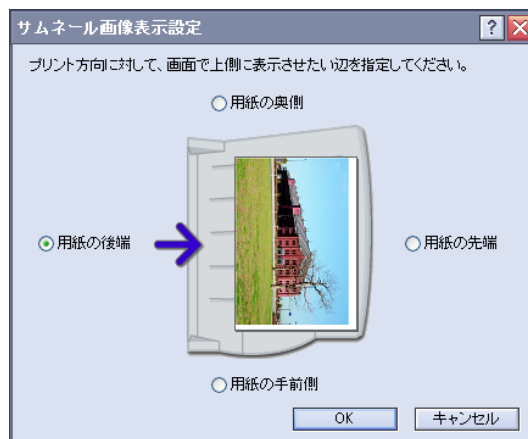
補足　ブランクシートジョブは、「ブランクシート」と表示されます。

● プレビューモード

表示モードをプレビューモードに切り替えます。サムネール表示にプレビューが表示されます。

補足
- プレビューデータを持たない場合は、サムネールに「プレビューなし」と表示されます。
- ブランクシートジョブは、ブランクシートが表示されます。

● サムネール画像表示設定

サムネール画面で上側に表示させる辺を選択し、[OK] をクリックすると、プレビューの表示位置が変更されます。

● 表示倍率指定

サムネールを表示する倍率を選択します。

・50%　・75%　・標準（100%）　・150%
・200%　・250%　・300%

表示倍率を直接入力することもできます。
入力範囲は、50～300%です。

サムネール編集情報の削除

[サムネール編集] ダイアログボックスで編集した内容を削除し、編集前の状態に戻します。

1. ServerManagerの保持リストから削除するジョブを選択します。
   検索結果リスト、エラーリストからも選択できます。
2. [ジョブ] → [サムネール] → [サムネール編集情報を削除] を選択します。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

3.3　ジョブを連結する（ビルドジョブ）

ビルドジョブを使うと、異なるアプリケーションで作成した複数のファイルを、1 つのジョブとしてまとめてプリントできます。たとえば、表紙を Illustrator、本文を Word で作成した場合でも、これらを 1 つのジョブとしてプリントできます。

ServerManager でそれぞれのジョブを連結し、連結順の変更、ジョブの追加/削除、それぞれのジョブのプレビューなどができます。また、プリントオプションを連結したジョブ全体とそれぞれのジョブに対して設定できます。

連結したジョブは保存されるので、再プリントや編集もできます。

- ビルドジョブは、クライアントコンピューターからは、作成できません。
- ビルドジョブではイメージの自動回転は行われません。ビルドジョブをプリントするときは、設定されているサイズの用紙をトレイにセットしてください。
- ジョブの種類によって、設定できないプリントオプションがあります。

3.3.1　ビルドジョブの作成

操作手順

1. ServerManager の保持リストからビルドジョブを作成するジョブを選択します。

   保持リストの別々のフォルダーからも選択できます。検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。

2. ［ジョブ］→［ビルドジョブ］→［作成］を選択します。

   補足　プリントオプションの［RIP］＞［RIP の種類］が［CPSI］のジョブにだけ可能です。［APPE］のジョブを選択した場合は、［CPSI］に変更するかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3. ［名前］と［所有者名］を入力し、［ビルドジョブ編集］をクリックします。

● 名前

デフォルト：［ジョブ］→［ビルドジョブ］→［作成］を選択した日時から「＊-＊-XXX（年月日-時分秒-リストから選択された中での先頭のジョブ名）」

ビルドジョブ名を入力します。255バイト以内で入力します。

● 所有者名

デフォルト：リストから選択された中での先頭のジョブの所有者

ビルドジョブの所有者名を入力します。

● ビルドジョブ編集

入力されたビルドジョブ名と所有者名でビルドジョブが作成され、［ビルドジョブ編集］ダイアログボックスが表示されます。

参照 詳細は、「ビルドジョブ編集」（P.176）を参照してください。

● サムネール編集

入力されたビルドジョブ名と所有者名でビルドジョブが作成され、[サムネール編集] ダイアログボックスが表示されます。

参照 詳細は、「3.2 サムネールでジョブを編集する」（P.169）を参照してください。

ビルドジョブ編集

① ［ジョブ連結］リスト

連結されている個々のジョブが一覧で表示されます。表示されている順番で、ジョブが連結されます。
ジョブをドラッグ＆ドロップして、ジョブの順番を入れ替えることができます。

②プレビューエリア

選択しているジョブのプレビュー画像が表示されます。

③画面下部のジョブリスト

ServerManager のプリントボックス内のジョブのうち、ビルドジョブに追加できるジョブが一覧で表示されます。
ジョブを選択してダブルクリックすると、ジョブ連結リストの最後尾に選択したジョブが追加されます。

上へ/下へ

選択したジョブが1つ上、または下に移動します。

削除

選択したジョブが削除されます。複数選択ができます。

複製

選択したジョブが複製されます。複数選択ができます。

ビルドジョブオプションの編集

ビルドジョブのプリントオプションの設定ができます。（[ビルドジョブオプションの編集］ダイアログボックスが表示されます）

プリントオプションについては、「3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション」（P.178）、または「ビルドジョブ固有の設定項目」（P.185）を参照してください。

ジョブ編集

ビルドジョブを構成する個々のジョブのプリントオプションの設定ができます。（［ジョブ編集］ダイアログボックスが表示されます）

通常のジョブ編集機能のほかに、先頭ページの用紙を変える設定ができます。

ジョブ編集については、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）、または「ビルドジョブ固有の設定項目」（P.185）を参照してください。

追加

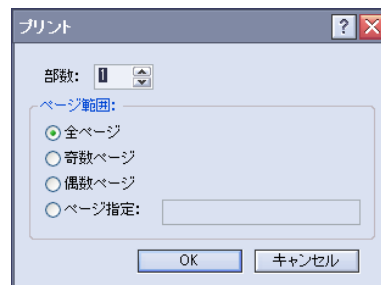
連結ジョブの最後尾に選択したジョブが追加されます。複数選択ができます。

画面下部のジョブリストからジョブをドラッグ＆ドロップして、［ジョブ連結］リストの目的の場所に追加することもできます。

一般ユーザーモードで、セキュリティプリントが設定されているジョブを選択した場合は、表示されたダイアログボックスでパスワードを入力してください。

プリント

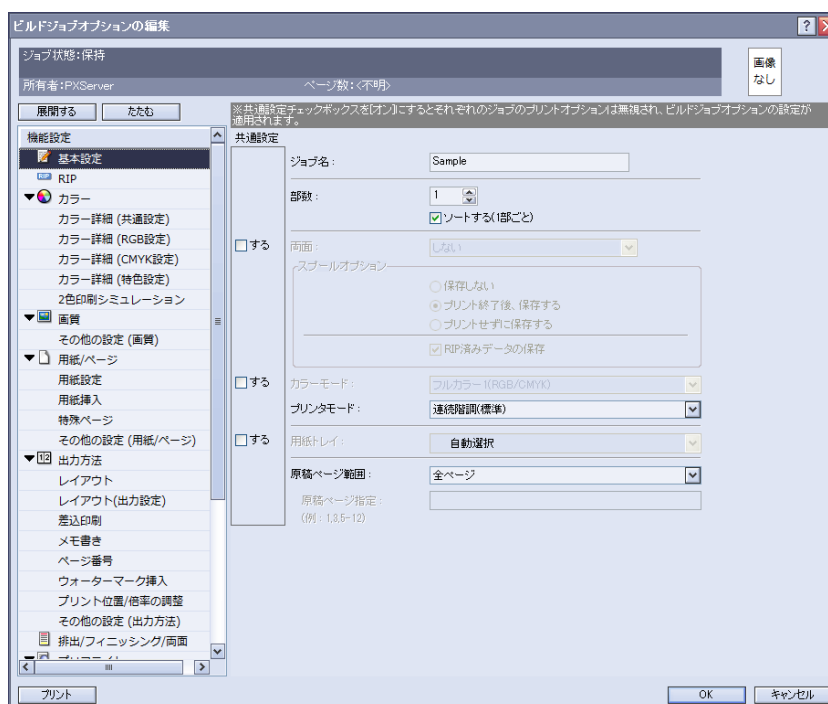
設定した内容でジョブがプリントされます。

［部数］と［ページ範囲］を設定し、［OK］をクリックします。

閉じる

設定した内容が保存され、ビルドジョブの作成、編集が終了します。

3.3.2　ビルドジョブのプリントオプション

ビルドジョブに対してプリントオプションの設定と変更ができます。

ビルドジョブの新規作成時には、ビルドジョブで設定できるプリントオプションのデフォルト値として、先頭のジョブの設定値が使用されます。

ServerManager の［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］の［編集］→［ビルドジョブオプションの編集］でダイアログボックスを表示すると、［プリント］は表示されません。

プリントオプションで設定できる項目の説明は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。

● 共通設定

それぞれのジョブに適用可能なプリントオプション項目を共通の設定にできる場合は、左側にチェックボックスが表示されます。チェックマークを付けると、その項目は共通の設定になります。

［画質］>［プリンタモード］など、共通の設定にだけできる項目、またはビルドジョブで設定できない項目には、チェックボックスは表示されません。

各プリントオプションの適用

プリントオプションには、ビルドジョブ全体で共通の設定にできる項目とできない項目があります。

個々のジョブの設定を変更する場合は、［ジョブ編集］ダイアログボックスで行います。

各プリントオプションの適用については、以下の表を参照してください。「適用」欄の見方は、以下のとおりです。

○：ビルドジョブ全体で共通の設定項目

◎：個々のジョブの設定にできる項目（［ビルドジョブオプションの編集］ダイアログボックスで、［共通設定］にチェックマークを付けると、ビルドジョブ全体で共通の設定になります）

●：設定できない項目

「*」が記載されている項目は、小冊子作成が選択されている場合、個々のジョブの設定は無視され、強制的に共通の設定が適用されます。

●基本設定

プリントオプション	適用	備考
ジョブ名	◎	
部数	○	
両面	◎	
スプールオプション	●	［プリント終了後、保存する］で動作します。
RIP済みデータの保存	●	［RIP済みデータを保存する］で動作します。
カラーモード	◎	
プリンタモード	○	
用紙トレイ	◎	＊
原稿ページ範囲	○	・個々のジョブで設定されたページ範囲の合計から、ページ範囲を指定できます。 ・個々のジョブのページ範囲は、ビルドジョブに追加したときの設定のままで、変更はできません。

●RIP

プリントオプション	適用	備考
RIPの種類	●	［CPSI］で動作します。

●カラー、カラー詳細（共通設定）

プリントオプション	適用	備考
カラーモード	◎	
ラスター色補正モード	◎	
ユーザー調整	◎	＊
濃度調整	◎	＊
明るさ調整	◎	＊
トナー総量調整	◎	
カラー置換	◎	

●カラー詳細（RGB設定）

プリントオプション	適用	備考
RGB色補正	◎	
RGBガンマ補正	◎	
RGBホワイトポイント	◎	
写真画質の自動補正	◎	
写真の種類	◎	
分割画像を合成	◎	
明度	◎	
コントラスト	◎	
彩度	◎	
自動ホワイトバランス調整	◎	
人肌補正	◎	
RGB出力プロファイル	◎	
RGB出力インテント	◎	

●カラー（CMYK設定）

プリントオプション	適用	備考
CMYK色補正	◎	
CMYKシミュレーション	◎	
PDF/Xの出力インテントを使用する	◎	

●カラー詳細（特色設定）、2色印刷シミュレーション

プリントオプション	適用	備考
コンポジット特色補正	◎	
特色補正プロファイル	◎	
特色補正インテント	◎	
2色印刷シミュレーション	◎	

●画質

プリントオプション		適用	備考
プリンタモード		○	
コンポジットオーバープリント		◎	
白のオブジェクトをノックアウトする		◎	
Kオーバープリント		◎	
画像/文字	原稿タイプ	○	
	キャリブレーション	○	
シャープネス調整		◎	

●その他の設定（画質）

プリントオプション	適用	備考
色分版の合成	◎	・ビルドジョブの中で設定の変更はできません。 ・色分版の合成を行わずにRIP処理されたジョブに対して、色分版の合成を行うように設定を変更し、そのまま再RIPを行わずにそのジョブをビルドジョブに加えた場合、ジョブはエラーになります。
特色透過率	◎	
トラッピングの自動処理	◎	
トラップ指定を無視する	◎	
Image Enhancement/白抜き文字の強調	○	
スムージング	◎	
EPS（JPEG圧縮）のカラー出力	◎	
画像品質	◎	
細線調整	◎	
グラデーション	◎	
RGB黒をKに置換	◎	
RGBグレーをKに置換	◎	
ノイズの軽減	◎	

●用紙/ページ

プリントオプション	適用	備考
部数	○	
用紙トレイ	◎	＊
原稿ページ範囲	○	個々のジョブで設定されたページ範囲の合計から、ページ範囲を指定できます。 個々のジョブのページ範囲は、ビルドジョブに追加したときの設定のままで、変更はできません。
レコード分割	●	［しない］で動作します。
レコード指定	●	［レコード分割しない］で動作します。
用紙サイズの変更	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
カスタムサイズ	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
用紙サイズに合わせる	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
用紙の中心にプリント	◎	
原稿の向き	◎	

●用紙設定

プリントオプション	適用	備考
手差し手動両面を除く	○	＊
手差し手動両面	○	

●用紙挿入

プリントオプション	適用	備考
指定単位（部/レコード）ごとに挿入	○	
ジョブの先頭に挿入	○	
ジョブの最後に挿入	○	

●特殊ページ

プリントオプション	適用	備考
おもて表紙を付ける	○	
うら表紙を付ける	○	
合紙と例外ページ	●	設定を無視して［しない］で動作します。

●その他の設定（用紙/ページ）

プリントオプション	適用	備考
PDF のトリミング領域をページサイズとする	◎	

●出力方法

プリントオプション	適用	備考
両面	◎	
出力画像を180度回転する	◎	
スプールオプション	●	［プリント終了後、保存する］で動作します。
RIP済みデータの保存	●	［RIP済みデータを保存する］で動作します。
受信終了後に RIP 処理を開始する	●	設定を無視して［しない］で動作します。
鏡像する	◎	

●レイアウト

プリントオプション	適用	備考
小冊子	○	・表紙付け、ブランクシート、用紙変えの設定は無視されます。 ・小冊子作成の選択/非選択にかかわらず、サムネール編集での表紙付け、ブランクシート、用紙替えの設定は可能です。
リピート	○	

●差込印刷、メモ書き、ページ番号、ウォーターマーク挿入、プリント位置/倍率の調整

プリントオプション	適用	備考
差込印刷	◎	
	●	フォームの登録の設定はできません。
メモ書き	◎	
ページ番号	○	
ウォーターマーク挿入	◎	・ウォーターマークの登録はできません。 ・ブランクシート、印字しない表紙にウォーターマークは付きません。
プリント位置/倍率の調整	◎	

●その他の設定（出力方法）

プリントオプション	適用	備考
ジョブ削除を許可する	○	
RIP完了後、印刷を開始する	○	
余白が大きすぎる場合、処置を中止する	○	
フォントがない場合、処理を中止する	○	
メール情報をプリントする（E-mailプリントのみ）	●	設定を無視して［しない］で動作します。

●排出/フィニッシング/両面

プリントオプション	適用	備考
両面	◎	
排出先	○	
オフセット排出	○	
ソートする（1部ごと）	○	
最終ページから印刷	○	
ホチキス	○	
パンチ	○	
紙折り	○	

●プリフライト

プリントオプション	適用	備考
プリフライトの指定	●	設定を無視して［しない］で動作します。
RIP 後のデータをファイルに保存	●	設定を無視して［しない］で動作します。
RGB画像警告	◎	
特色警告	◎	
インキ総量警告	◎	
ヘアライン警告	◎	
オーバープリント警告	◎	
QRコードを検出する	◎	

●グラフィックス

プリントオプション	適用	備考
プリント方向	◎	
イメージのタイトル	◎	

●その他（セキュリティ）

プリントオプション	適用	備考
セキュリティプリントをする	○	
ジョブ終了をメールで通知する	●	設定を無視して［しない］で動作します。

●ユーザー情報

プリントオプション	適用	備考
ユーザー名	●	
コメント	◎	
カバーページをプリントする	○	

現在の設定

機能設定ツリーの［現在の設定］をクリックすると、現在のビルドジョブのプリントオプションが一覧で表示されます。

ジョブ情報

機能設定ツリーの［ジョブ情報］をクリックすると、以下の情報が表示されます。

ジョブ名

ビルドジョブ名を編集できます。

ファイル名

表示されません。

用紙サイズ

表示されません。

ページ数

ビルドジョブの全ページ数が表示されます。

所有者

ビルドジョブの所有者名が表示されます。

ファイルタイプ

BJと表示されます。BJはビルドジョブの略です。

受信日時

作成日時が表示されます。

出力日時

最新の出力日時が表示されます。

ファイルサイズ

合計のファイルサイズが表示されます。

アプリケーション

表示されません。

受信論理プリンタ

表示されません。

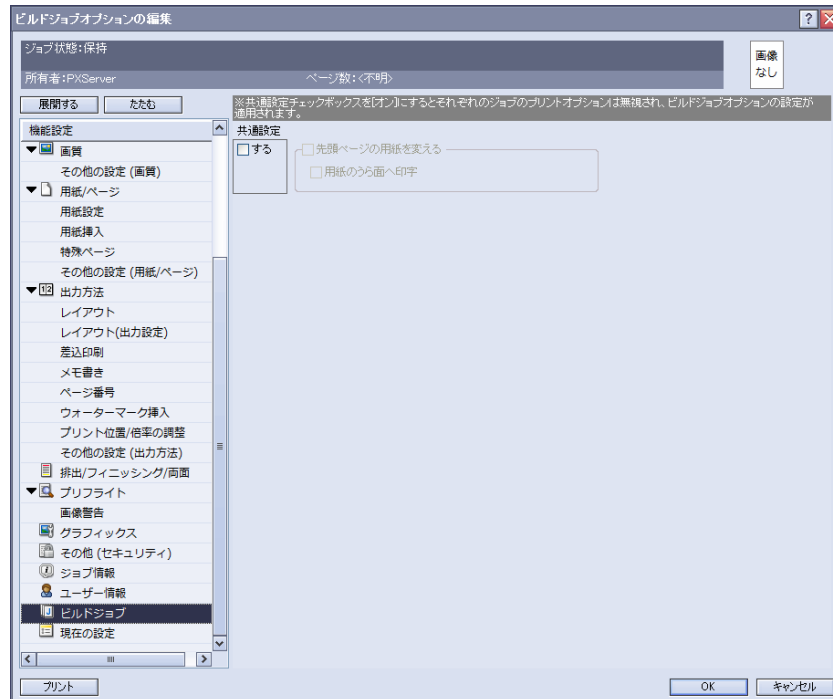
テンプレート

最後に適用されたプリントオプションテンプレートの名称が表示されます。

ステータス

ジョブの処理状況、エラーメッセージが表示されます。

ビルドジョブ固有の設定項目

機能設定ツリーの［ビルドジョブ］をクリックすると、以下の設定ができます。

●先頭ページの用紙を変える

チェックマークを付けると、それぞれのジョブの先頭ページの用紙が変更されます。ただし、片面印刷の場合、プリントオプションの［用紙 / ページ］＞［特殊ページ］の［おもて表紙を付ける］にチェックマークを付けた場合は、用紙は変更されません。

この設定にかかわらず、用紙が変更される条件は、以下のとおりです。

・用紙トレイが異なる

・用紙トレイが［自動選択］、または［手差しトレイ］で、用紙サイズ、用紙種類、用紙色のどれかが異なる

補足　ジョブの先頭ページで、サムネール編集の［編集］→［次の用紙にプリントする］の設定を変更すると、連動して変更されます。

●用紙のうら面へ印字

［先頭ページの用紙を変える］にチェックマークが付いている場合に、チェックマークを付けると、先頭ページが用紙のうら面に印字されます。

3.4 Raster Image Viewerを使用する

Raster Image Viewerとは、Print Serverに保持されているジョブのプレビュー画像を表示させて、調整前と調整後のイメージを確認しながらジョブを編集する機能です。ユーザー調整カーブと明るさの調整ができます。

Raster Image Viewerは、クライアントコンピューターからは起動できません。

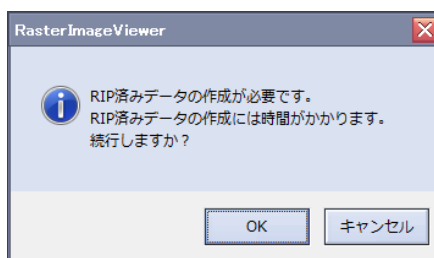
3.4.1 Raster Image Viewerの起動方法

操作手順

1. ServerManagerの保持リスト、またはエラーリストからプレビューを表示させるジョブを選択します。

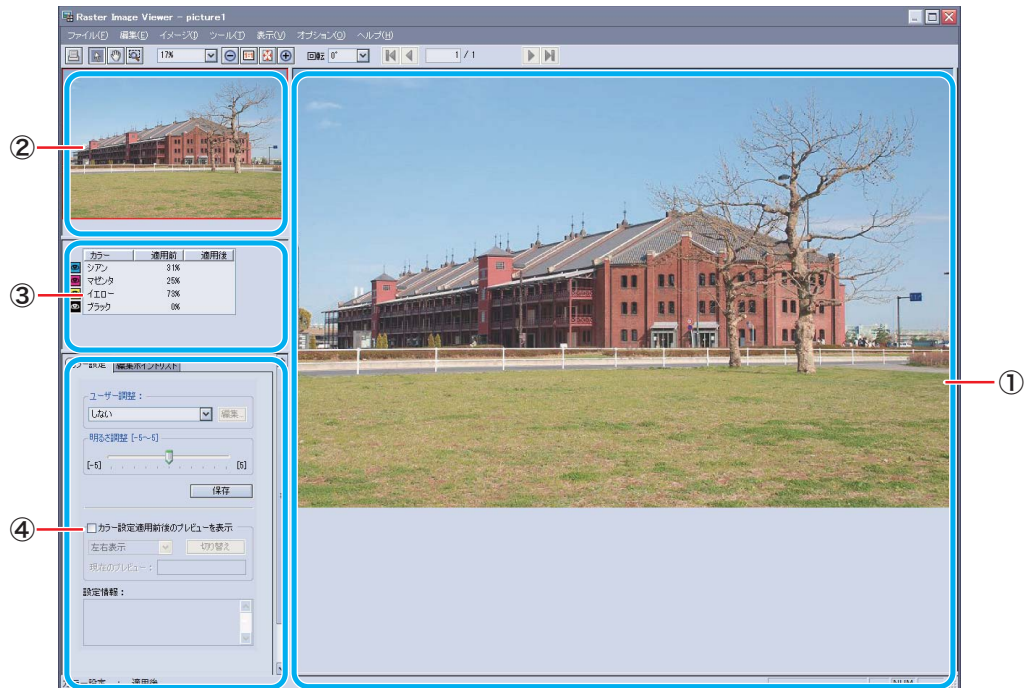
   検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。

2. ［ジョブ］→［Raster Image Viewer］を選択します。

3. プレビュー表示対象ジョブがRIP済みデータを保持していない場合は、RIP済みデータを作成するダイアログボックスが表示されるので、［OK］をクリックします。

   Raster Image Viewerが起動します。

ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］を選択して表示される、［サムネール編集］ダイアログボックスから［編集］→［RasterImageViewer］を選択しても、Raster Image Viewerを起動できます。

3.4.2 Raster Image Viewerのウィンドウ

Raster Image Viewerは、以下のウィンドウから構成されます。

Raster Image Viewerウィンドウ

Raster Image Viewerのメインウィンドウです。

メニューやボタンについては、「機能ボタン」(P.193)、および「3.4.3 Raster Image Viewerのメニュー」(P.194)、を参照してください。

①プレビューウィンドウ

プレビュー表示対象ジョブのプレビュー画像が表示されます。

■プレビュー画像

ユーザー調整カーブ、明るさ調整、CMYKシミュレーション、プリンタープロファイル、およびモニタープロファイルが反映された画像が表示されます。

モニタープロファイルは、使用しているモニターに適用されているものがある場合は、それを取得して適用し、ない場合は固定のもの（sRGB）を適用します。

プリンタープロファイルは、標準のものが適用されます。

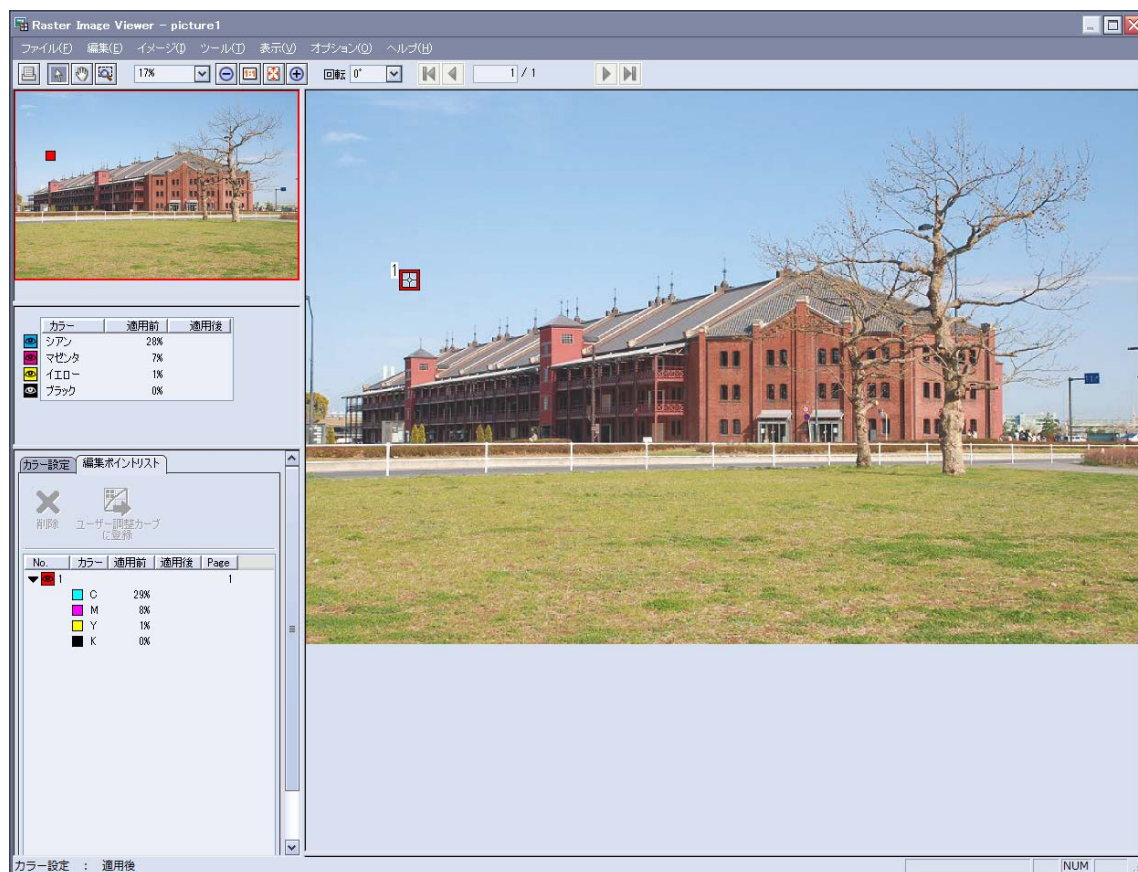
- プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］の［Image Enhancement/白抜き文字の強調］と［用紙/ページ］の［原稿ページ範囲］の設定もプレビューウィンドウで再現されます。
- ［サムネール編集］ダイアログボックスからRaster Image Viewerを起動した場合、プリントオプションの［用紙/ページ］＞［原稿ページ範囲］の設定は無視され、［サムネール編集］ダイアログボックスで表示されるプレビュー画像が表示されます。

■編集ポイントリストへの登録

プレビューウィンドウの任意の点を編集ポイントリストに登録することで、その濃度値を常に確認することができます。編集ポイントリストに編集ポイントを登録するには、プレビューウィンドウの任意の点をポインタツールで右クリックし、表示されたメニューで［編集ポイントリストに登録］を選択します。

以下の方法でも編集ポイントリストに登録できます。

・プレビューウィンドウの任意の点をポインタツールで指定して、〈Ctrl〉キーを押しながら〈E〉を押します。

・プレビューウィンドウの任意の点をダブルクリックします。

編集ポイントリストに登録されると、プレビューウィンドウとナビゲーターウィンドウの該当箇所に、アイコンが表示されます。

②ナビゲーターウィンドウ

現在表示中のプレビュー画像の全体画像が表示され、プレビューウィンドウで表示されている画像の位置を示す枠が表示されます。

プレビュー画像が枠よりも大きい場合、ナビゲーターウィンドウに表示されている枠内の任意の箇所をクリックして、手のひらのカーソルで枠をドラッグすることにより、表示部分を移動させることができます。

ナビゲーターウィンドウにもカラー設定の調整結果が反映されます。

③イメージ分解ウィンドウ

プレビュー画像の濃度表示や表示方法の切り替えを行います。

カラー	適用前	適用後
シアン	37%	
マゼンタ	32%	
イエロー	26%	
ブラック	9%	

●プロセス版分解

各プロセスカラーの左にあるアイコンをクリックすると、それぞれ表示/非表示を切り替えできます。

●プロセス版濃度表示

カーソルがあるプレビュー画像の任意点の各プロセス版のユーザー調整カーブと、明るさ調整の適用前後の濃度値が表示されます。

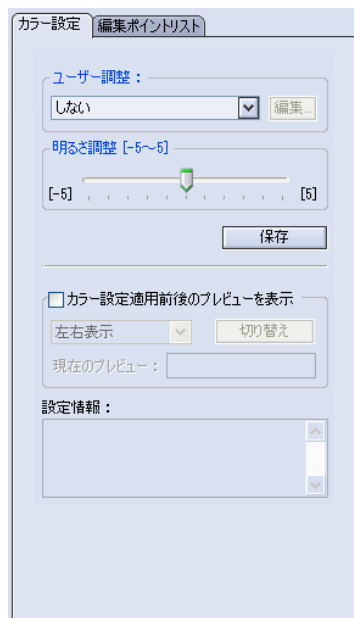
2画像表示の場合、どちらの画像でも表示可能です。

- ［カラー設定］タブで選択されている［ユーザー調整］が［しない］、［明るさ調整］が「0」の場合は、適用後の濃度は表示されません。
- 表示される濃度値には、濃度調整カーブとキャリブレーションは適用されていません。

④カラー設定ウィンドウ

カラー設定ウィンドウは、［カラー設定］タブと［編集ポイントリスト］タブから構成されます。

■［カラー設定］タブ

プレビュー画像に適用するユーザー調整カーブの編集、明るさ調整の変更、およびプレビュー画像の表示方法を設定できます。

ジョブごとにユーザー調整や明るさ調整が設定されているビルドジョブを変更したときは、以下のようになります。

- ビルドジョブで共通の設定になっている場合は、すべてのページにその変更が反映されます。
- ビルドジョブで共通の設定になっていない場合は、そのジョブに属するページだけに変更内容が反映されます。

●ユーザー調整

デフォルト：プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに設定されているユーザー調整カーブ

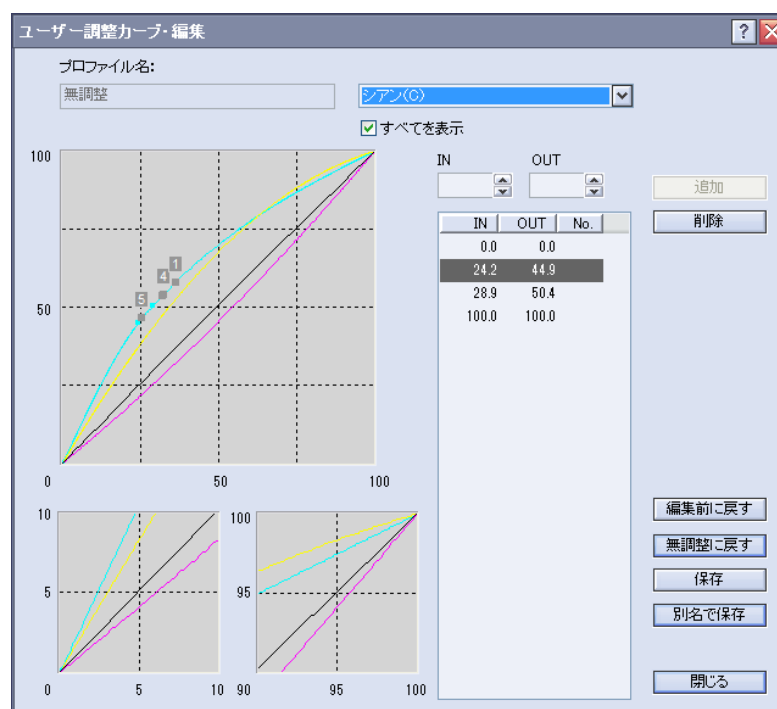
プレビュー画像に適用するユーザー調整カーブを選択します。

任意のユーザー調整カーブが選択されている場合に［編集］をクリックすると、選択されている［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスが表示され、カーブを編集できます。

新規にユーザー調整カーブを作成するときは、プルダウンメニューから［無調整］を選択し、［編集］をクリックします。

参照 ユーザー調整カーブについては、「2.6 ユーザー調整カーブを設定する」（P.125）を参照してください。

◆［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスについて

ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリック、または［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択して表示される［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで、［ユーザー調整］→［編集］をクリックして表示されるダイアログボックスとRaster Image Viewerから表示されるダイアログボックスとの違いについて説明します。

編集前に戻す

編集中のユーザー調整カーブが編集前の状態に戻ります。

無調整に戻す

編集中のユーザー調整カーブを直線形にし、無調整カーブと同じ状態に戻ります。

保存

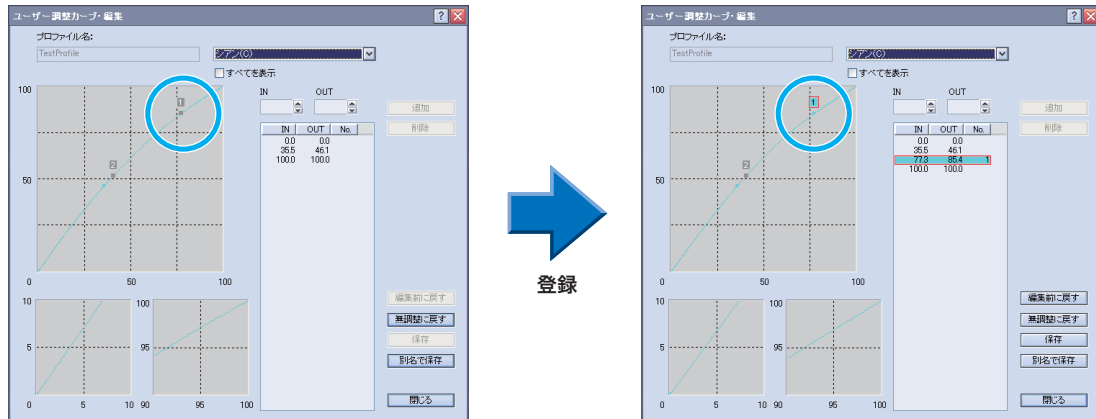
編集中のユーザー調整カーブが上書き保存されます。

別名で保存

編集中のユーザー調整カーブが別名で保存されます。

閉じる

編集を保存せずに［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを閉じます。

◆編集ポイントと［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス

- プレビューウィンドウの任意の点が編集ポイントリストに登録されているとき、［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを起動すると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、編集ポイントの番号が表示されます。
- 編集ポイントリストからユーザー調整カーブに登録する編集ポイントを選択して、［ユーザー調整カーブに登録］をクリックすると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、ユーザー調整カーブと同じ色のコントロールポイントが追加されます。

- コントロールポイントは、現在編集対象外の色のカーブ上にも同時に追加されます。
- ［すべてを単一に編集（CMYK）］を選択している場合には、コントロールポイントの追加はできません。

●明るさ調整

デフォルト：プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに設定されている値

プレビュー画像全体の明るさを調整します。

●保存

カラー設定ウィンドウで設定した内容がプレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに反映され、保存されます。

●カラー設定適用前後のプレビューを表示

カラー設定を適用する前と後のプレビューの表示方法を設定します。

チェックマークを付けると、以下の表示形式が選択できます。チェックマークが外れている場合は、カラー設定適用後のプレビュー画像が表示されます。

2画像表示時は、常に2つのプレビュー画像は同じ場所を表示し、一方のプレビュー画像に対して、拡大縮小や表示位置の移動を行うと、もう一方も連動して表示が切り替わります。

左右表示

左右に並べて表示されます。左側に適用後、右側に適用前のプレビュー画像が表示されます。

上下表示

上下に並べて表示されます。上側に適用後、下側に適用前のプレビュー画像が表示されます。

切り替え表示

［切り替え］をクリックするごとに適用前後のプレビュー画像が切り替わります。画像の状態は［現在のプレビュー］に表示されます。

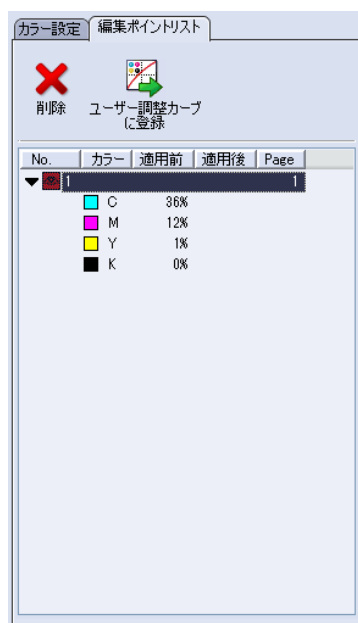
■左右表示の例

●設定情報

プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションの設定により、Raster Image Viewerのカラー設定の一部、またはすべてが変更できない場合に表示されます。

■［編集ポイントリスト］タブ

プレビュー画像の任意点を複数選択して、濃度値を一覧で管理できます。10個まで登録できます。
そのときのユーザー調整カーブや明るさ調整の設定に応じて、濃度値が更新されます。
Raster Image Viewerのウィンドウを閉じると、編集ポイントリストに登録した内容は、すべて消去されます。

詳細は、「編集ポイントリストへの登録」（P.188）を参照してください。

●削除

一覧から削除する編集ポイントの番号を選択して、［削除］をクリックすると、編集ポイントが削除されます。
複数選択もできます。

●ユーザー調整カーブに登録

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを表示しているとき、編集ポイントリストからユーザー調整カーブに登録する編集ポイントを選択して、［ユーザー調整カーブに登録］をクリックすると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、同じ色のコントロールポイントが追加されます。

詳細は、「編集ポイントと［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス」（P.191）を参照してください。

●プロセス版濃度表示

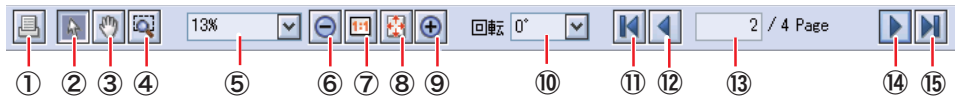
編集ポイントの各プロセス版のユーザー調整カーブと、明るさ調整の適用前後の濃度値が表示されます。

プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションで、［カラー］ > ［ユーザー調整］が［しない］、［明るさ調整］が［0］の場合は、適用後の濃度は表示されません。

●Page

編集ポイントが登録されているページ番号が表示されます。

機能ボタン

Raster Image Viewerのメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。

①	確認プリント
②	ポインタツール
③	手のひらツール
④	虫めがねツール
⑤	倍率指定 1～1600%の範囲で直接入力することもできます。
⑥	縮小
⑦	ピクセル等倍
⑧	全体表示
⑨	拡大
⑩	回転
⑪	最初のページ
⑫	前のページ
⑬	ページ指定
⑭	次のページ
⑮	最後のページ

3.4.3　Raster Image Viewerのメニュー

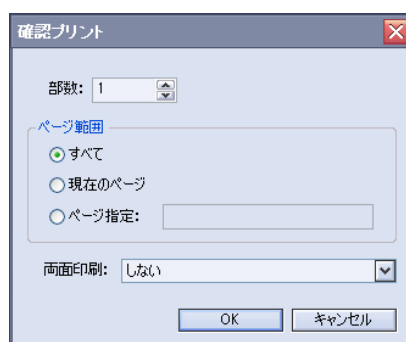
Raster Image Viewerにあるメニュー項目について説明します。

■ファイル

●カラー設定の保存

カラー設定ウィンドウで設定した内容がプレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに反映され、保存されます。

●確認プリント

プレビュー表示対象ジョブの色の確認用のプリントができます。[部数]、[ページ範囲]、[両面印刷] を設定し、[OK] をクリックすると、プリントが開始されます。

以下のプリントオプションは、Raster Image Viewerの［確認プリント］ダイアログボックス、およびカラー設定ウィンドウの項目が適用されます。

- ［基本設定］ > ［原稿ページ範囲］、［部数］
- ［カラー］ > ［ユーザー調整］、［明るさ調整］
- ［用紙/ページ］ > ［原稿ページ範囲］、［部数］
- ［出力方法］ > ［両面］
- ［排出/フィニッシング/両面］ > ［両面］

以下のプリントオプションの設定は無視され、デフォルトの値が適用されます。

- ［基本設定］ > ［スプールオプション］、［RIP済みデータの保存］、［ソートする（1部ごと）］
- ［用紙/ページ］ > ［用紙挿入］
- ［出力方法］ > ［スプールオプション］、［RIP済みデータの保存］、［受信終了後にRIP処理を開始する］、［その他の設定（出力方法）］
- ［レイアウト-小冊子］ > ［分冊］、［中とじ/中折り］
- ［レイアウト（出力設定）］ > ［出力範囲］、［手差しのおもて面/うら面設定］
- ［プリント位置/倍率の調整］ > ［片面/おもて面］、または［うら面］の［幅方向］と［長さ方向］でプラス方向を設定したとき
- ［排出/フィニッシング/両面］ > ［両面］以外すべて
- ［プリフライト］ > ［PSプリフライト］ > ［RIP後のデータをファイルに保存］ > ［TIFFで保存する］、［PDFで保存する］
- ［その他（セキュリティ）］ >すべて
- ［ユーザー情報］ > ［カバーページをプリントする］、［出力テキスト］

上記以外のプリントオプションは、プレビュー表示対象ジョブに設定されている値が適用されます。

●終了してプリント

Raster Image Viewerを終了し、プレビュー表示対象ジョブがプリントされます。

サムネール編集からRaster Image Viewerウィンドウを開いた場合、この機能は使用できません。

●終了

Raster Image Viewerを終了します。

■編集

●ユーザー調整カーブの編集

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスが表示されます。

［カラー設定］タブの［ユーザー調整］が［しない］以外のときに設定できます。

■イメージ

●移動

プレビュー表示されるページが変更されます。

最初のページ

プレビュー表示対象ジョブの最初のページが表示されます。

前のページ

現在表示されているページの1つ前のページが表示されます。

次のページ

現在表示されているページの次のページが表示されます。

最後のページ

プレビュー表示対象ジョブの最後のページが表示されます。

ページ指定

［ページ指定］ダイアログボックスが表示され、入力されたページに移動します。

- ビルドジョブの総ページ数は、ブランクシート数を引いたページ数が表示されます。
- 用紙サイズがA2L、またはB3Lの場合、ページ番号を入力するとページの先端画像が表示されます。[次のページ]、[前のページ］を選択した場合は、先端、後端の画像が順に表示されます。

●ズーム

プレビュー画像の表示倍率が変更されます。

拡大

プレビューが拡大されます。最大倍率は1600%です。

縮小

プレビューが縮小されます。最小倍率は1%です。

ピクセル等倍

プレビュー画像の1ピクセルがモニターの1ピクセルとして表示されます。

全体表示

メニューを選択したときのプレビュー表示領域内で、プレビュー画像が全体表示されます。

倍率指定

［倍率指定］ダイアログボックスが表示されます。メニューから倍率を選択するか、1～1600%の範囲で直接入力します。

●回転

プレビュー画像の回転角度を選択します。

- 0°
- 90°
- 180°
- 270°

●色分解

プレビュー画像を構成する各色版の表示/非表示を切り替えます。

シアン

シアン（C）版の表示/非表示を切り替えます。

マゼンタ

マゼンタ（M）版の表示/非表示を切り替えます。

イエロー

イエロー（Y）版の表示/非表示を切り替えます。

ブラック

ブラック（K）版の表示/非表示を切り替えます。

すべてを選択

すべての色版が表示されます。

選択を反転

各色版で、表示されている版は非表示に、表示されていない版は表示に設定します。

■ツール

カーソルの機能を設定します。

●ポインタツール

カーソルがあるプレビュー画像の任意点の各プロセス版のユーザー調整カーブと明るさ調整の適用前後の濃度がイメージ分解ウィンドウに表示されます。

●手のひらツール

プレビュー画像が表示領域にすべて表示されていない場合に、マウスをドラッグした分だけその方向にプレビュー画像の表示部分が移動します。

●虫めがねツール

プレビュー画像をクリックした位置がプレビューウインドウの中心になるように移動して、拡大表示されます。また、ドラッグした範囲を表示領域いっぱいに拡大表示させることもできます。

■表示

●ツールバー

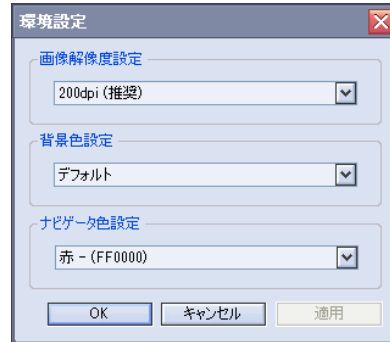
ツールバーの表示/非表示を切り替えます。

●ステータスバー

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

■オプション

●環境設定

各項目を設定し、[OK] をクリックすると、Raster Image Viewerのデフォルト設定を変更できます。

画像解像度設定

プレビュー画像の解像度を選択します。

・200dpi（推奨）　・300dpi　・600dpi

背景色設定

プレビューウィンドウとナビゲーターウィンドウの背景色を選択します。

・デフォルト　・グレー　・白　・黒

ナビゲータ色設定

ナビゲーターウィンドウの表示枠の色を選択します。

・赤　・橙　・黄　・緑
・水　・青　・紫　・桃
・黒　・白

■ヘルプ

●バージョン情報

Raster Image Viewerのバージョン情報が表示されます。

3.5　ファイルを送受信する、転送する

ボックス機能を使用してファイルの送受信ができます。メールの送受信には、SMTP送信、POP3受信が使用されます。

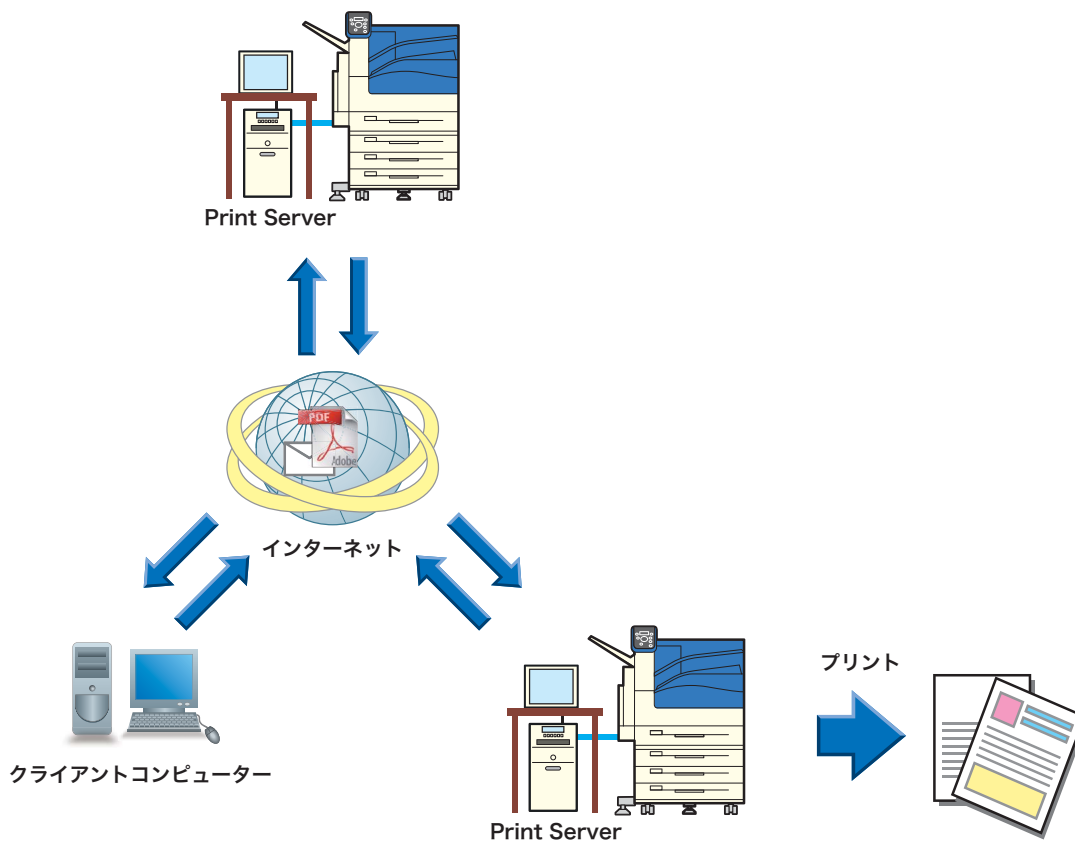
●送信できるファイルフォーマット

・TIFF　・PDF　・JPEG　・ジョブファイル

受信したメールの添付ファイルは、自動プリントする、またはしないを選択できます。また、受信後にプリントすることもできます。

●プリント可能なファイルフォーマット

・PDF　・PostScript　・EPS　・TIFF　・JPEG　・ジョブファイル

ジョブファイルはPrint Serverから送信された場合にだけプリントできます。

・Print Server同士ではファイルの送受信ができますが、クライアントコンピューターからは、Print Serverへのファイル送信だけが可能です。
・他機種のPrint Serverにメール送信すると、正常にプリントできないことがあります。

参照　PDFファイルの処理方法については、「3.5.1 ボックスの設定」（P.199）を参照してください。

3.5.1　ボックスの設定

ボックス機能を使用するためには、メール送受信の環境設定が必要です。設定の前に、以下の項目をネットワーク管理者に依頼、または確認してください。

- Print Serverのメールアドレスの登録
- POP3ユーザー名
- POP3ユーザーパスワード
- POP3サーバーアドレス
- SMTPサーバーアドレス
- POP3サーバーのポート番号
- POP、またはAPOPの選択
- SMTPサーバーのポート番号
- POP before SMTP
- SMTP認証する場合は、SMTPユーザー名とパスワード
- メールサーバーのタイムアウト時間（1～10分）

操作手順

1. ServerManagerの［ボックス］→［ボックスの設定］を選択します。
2. 通信の環境設定のタブを切り替えて設定し、［OK］をクリックします。

詳細は、以下の各タブの説明を参照してください。

- 「［基本設定］タブ」（P.200）
- 「［送信］タブ」（P.201）
- 「［受信］タブ」（P.202）
- 「［その他］タブ」（P.204）

［基本設定］タブ

あらかじめ、SMTPとPOP3サーバーの設定を確認しておきます。

■表示名

メールアドレスに対応する、お使いの機種の名前を31バイト以内で入力します。

■メールアドレス

お使いの機種のメールアドレスを255バイト以内で入力します。

■ログイン情報

ログインに関する情報を設定します。

●ユーザー名

POP3サーバーへのログインユーザー名を64バイト以内で入力します。

●パスワード

POP3サーバーへのログインパスワードを64バイト以内で入力します。

■サーバー情報

送受信サーバーの設定をします。

●受信メールサーバー（POP3）

POP3サーバーアドレスをIPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名で、128バイト以内で入力します。

●送信メールサーバー（SMTP）

SMTPサーバーアドレスをIPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名で、128バイト以内で入力します。

■サーバーのポート番号

●受信サーバー（POP3）

POP3サーバーのポート番号を入力します。入力範囲は、0～65,535です。
プロトコルをPOP、APOPから選択します。

このサーバーは暗号化された接続（SSL）が必要

チェックマークを付けると、Print Serverで送受信するデータが暗号化されます。

●送信サーバー（SMTP）

SMTPサーバーのポート番号を入力します。入力範囲は、0～65,535です。

このサーバーは暗号化された接続（SSL）が必要

チェックマークを付けると、Print Serverで送受信するデータが暗号化されます。

■POP before SMTP

チェックマークを付けると、送信メールサーバー（SMTP）に接続する前に受信メールサーバー（POP3）にログインされます。

■SMTP認証

チェックマークを付けると、送信メールサーバー（SMTP）への接続で認証が必要になり、SMTPサーバーへのログインに関する情報を設定します。

●ユーザー名

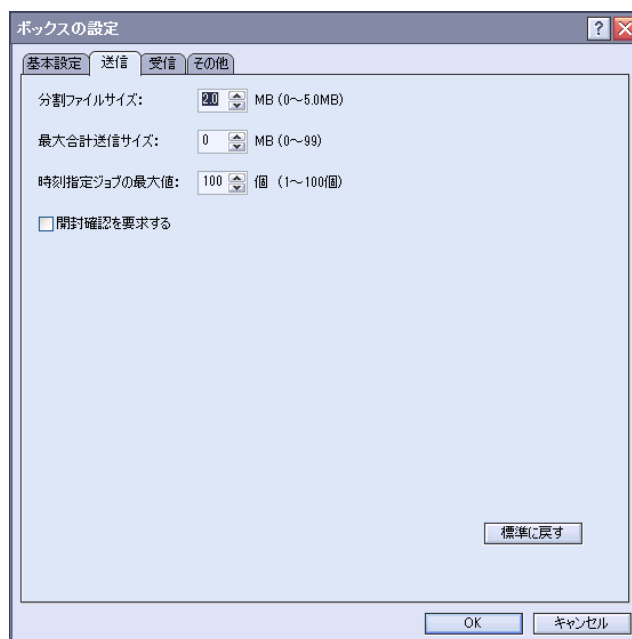
SMTPサーバーへのログインユーザー名を64バイト以内で入力します。

●パスワード

SMTPサーバーへのログインパスワードを64バイト以内で入力します。

■メールサーバーのタイムアウト

POP3/SMTPサーバーへの接続タイムアウト時間を設定します。入力した時間でPOP3/SMTPサーバーとの接続を解除します。入力範囲は、1～10分です。

［送信］タブ

■分割ファイルサイズ

お使いの環境で送信メールのサイズ制限がある場合に、制限に合わせてファイルを分割して複数のメールとして送信できます。分割して送信されたファイルは、送信先サーバーで自動的に合成されます。

分割して送信する場合の1ファイルあたりのサイズを設定できます。入力範囲は、0.0～5.0MBです。[0] MBに設定すると分割されません。

■最大合計送信サイズ

お使いの環境で送信メールのサイズ制限がある場合に、制限に合わせて送信できるファイルの合計サイズを設定します。入力範囲は、0～99です。[0] MBに設定すると送信は制限されません。

設定したサイズを超える場合は、エラーメッセージが表示され、送信が中止されます。

■時刻指定ジョブの最大値

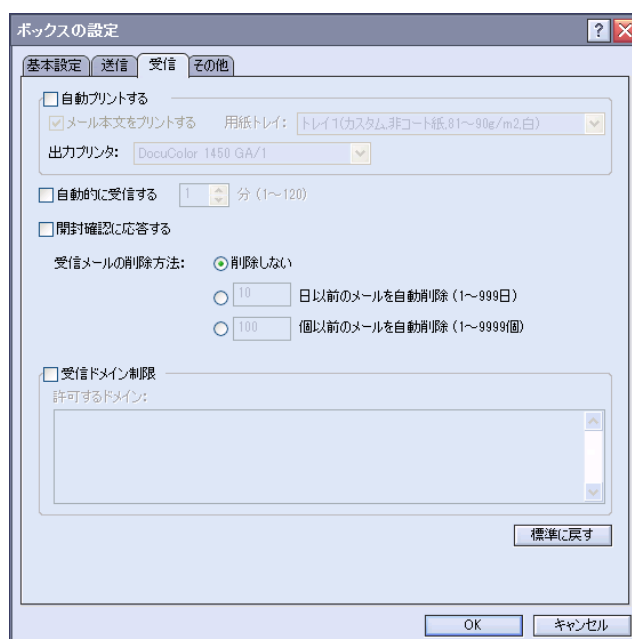
時刻指定してメールを送信できるジョブの数を設定します。入力範囲は、1～100個です。最大値を超える場合は、送信できません。

■開封確認を要求する

チェックマークを付けると、開封確認を要求できます。

■標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

[受信] タブ

■自動プリントする

チェックマークを付けると、メールで受信したファイルが自動でプリントされます。

■メール本文をプリントする

チェックマークを付けると、メール本文がプリントされます。

チェックマークを外すと、本文はプリントされませんが、受信ボックスに保存されます。

[自動プリントする] にチェックマークが付いている場合に設定できます。

■用紙トレイ

メール本文をプリントする場合、プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

■自動的に受信する

チェックマークを付けると、メールが自動で受信されます。

チェックマークを付けたときは、メールサーバーへのメール確認間隔を入力します。入力範囲は、1～120分です。

■開封確認に応答する

チェックマークを付けると、メールの開封確認に応答します。

■受信メールの削除方法

受信メールの削除方法について選択します。

●削除しない

メールが削除されません。

●＊日以前のメールを自動削除

入力した日数以前に受信したメールが自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。

●＊個以前のメールを自動削除

受信メールが入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

■受信ドメイン制限

チェックマークを付けると、受信を許可するドメインを制限できます。許可されたドメイン以外のメールは、受信拒否されます。

受信ドメインを制限する場合は、［許可するドメイン］にドメイン名を入力します。

・ドメインごとの文字数は128バイト以内で、ドメインとドメインの間は改行、またはカンマ「,」を入力します。

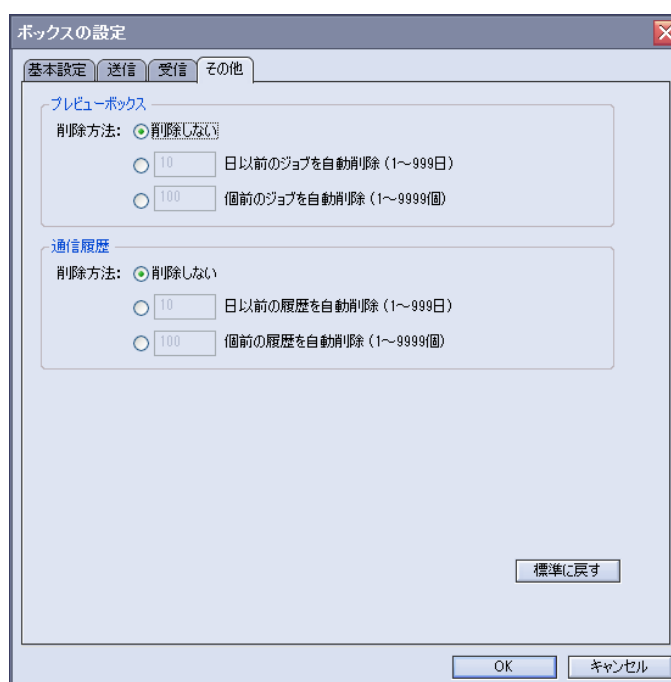
・最大50ドメインまで設定できます。

受信拒否されたメールは、［通信履歴］ダイアログボックスの［受信］タブに「受信エラー（201）」と表示されます。そこで、送信元のメールアドレスも確認できます。

受信拒否されたメールは、POP3サーバーから削除されます。

■標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

［その他］タブ

■プレビューボックス

プレビューボックスに表示されるジョブの削除方法を設定します。

●削除しない

ジョブが削除されません。

●＊日以前のジョブを自動削除

入力した日数以前に作成されたジョブが自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。

●＊個前のジョブを自動削除

ジョブが入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

■通信履歴

通信履歴に表示される履歴の削除方法を設定します。

●削除しない

履歴が削除されません。

●＊日以前の履歴を自動削除

入力した日数以前の履歴が自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。

●＊個前の履歴を自動削除

履歴が入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

3.5.2　ファイルの送信（メール添付）

操作手順

1. ServerManagerから送信するファイル（ジョブ）を選択します。

   または、［プリント］ボックスをクリックして、目的のファイル（ジョブ）があるボックスに切り替えます。

   同一ボックス内で複数選択できます。

2. ［ジョブ］→［送信］→［メール送信］を選択します。

3. 必要に応じて各項目を設定し、［送信］をクリックします。

メールの送信は、すべての選択ファイルのアップロードが正常終了された場合に行われます。

メールを送信すると、［通信履歴］の［送信］タブ内に送信履歴が保存されます。

参照　通信履歴については、「3.5.4 通信履歴の確認」（P.209）を参照してください。

● メール送信先

メール送信先を入力します。宛先とグループを合わせて100件まで入力できます。

宛先を直接入力する場合は、メールアドレスごとの文字数は128バイト以内で、メールアドレスとメールアドレスの間はカンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。

アドレス帳を使用する場合は、［アドレス帳］をクリックし、［アドレス帳］ダイアログボックスで選択します。

参照　アドレス帳については、「3.5.6 アドレス帳の管理」（P.213）を参照してください。

● 件名

デフォルト：［メール送信］ダイアログボックスを表示させたときの日時

件名を31バイト以内で入力します。

● 本文

本文を512バイト以内で入力します。

● 送信ファイルを圧縮する

チェックマークを外すと、送信ファイルが圧縮されません。

● 時刻指定送信

チェックマークを付けると、入力した時刻にメールが送信されます。時刻は24時間表示方式です。

20:00:59に「20:00」と入力した場合は、すぐに送信されます。

● 開封確認を要求する

デフォルト：［環境設定］での設定と同じ

チェックマークを付けると、メールの開封確認に応答します。

● 送信後に元ファイルを削除する

チェックマークを付けると、送信後に元ファイルが削除されます。

3.5.3 ファイルの受信

［ボックスの設定］ダイアログボックスの［受信］タブで、［自動的に受信する］にチェックマークを付けた場合は、自動で受信されます。

他機種のPrint Serverやクライアントコンピューターからもメールの添付ファイルを受信することができます。

受信したメールの添付ファイルのうち、プリント可能なファイルフォーマットは、PDF、PostScript、EPS、TIFF、JPEG、ジョブファイルです。(ジョブファイルは、Print Serverから送信された場合にだけプリントできます)

・添付ファイルが複数ある場合は、すべてプリントされます。ただし、未対応のファイルはプリントされません。
・受信したメールが転送メールの場合、エラーメールになることがあります。
・メール本文をプリントするかどうかを設定できます。詳細は、「受信」(P.210)を参照してください。

［ボックスの設定］ダイアログボックスについては、「3.5.1 ボックスの設定」(P.199)を参照してください。

ServerManagerの［ボックス］→［メール受信］を選択すると、受信が開始され、受信が終了された順に［受信］ボックスに保存されます。

受信したメールを自動プリントする場合は、プリントオプションテンプレートの設定の値が適用されます。プリントされる用紙サイズについては、「プリントされる用紙サイズ」(P.206)を参照してください。

参照
プリントオプションテンプレートの設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.1 プリントオプションテンプレートの設定」を参照してください。

プリントされる用紙サイズ

◆メール送信機能が使用できるPrint Serverから受信した場合

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされている場合は、設定された用紙サイズにプリントされます。
・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合は、以下の優先順位でプリントされます。

1. 受信ジョブの用紙サイズよりも大きいサイズの中で最小の用紙サイズを選択し、等倍で用紙の中心にプリントされます。
2. 受信ジョブの用紙サイズよりも小さいサイズの中で最大の用紙サイズを選択し、用紙サイズに合わせて縮小してプリントされます。

◆クライアントコンピューターから受信した場合

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされている場合は、設定された用紙サイズにプリントされます。
・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合は、エラージョブになります。

クライアントコンピューターからのジョブで用紙サイズの設定がない場合は、［論理プリンタの管理］の受信ボックスの設定値でプリントされます。

メール本文プリントのフォーマット

以下の項目が印字されます。

- **差出人**
  表示名と実アドレスが表示されます。
- **送信日時**
  送信日時（年/月/日 時:分:秒）が表示されます。
- **宛先**
  すべての宛先の表示名と実アドレスが表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。
- **件名**
  件名が表示されます。
- **メール本文**
  メール本文が表示されます。
- **添付ファイル**
  添付ファイルがある場合は、ファイルフォーマットを示すアイコンとファイル名が表示されます。

プロパティの確認

受信メールのヘッダー情報と本文、添付ファイルの名前とステータスが確認できます。

操作手順

1. ServerManagerの［受信］ボックスで、確認するジョブを選択します。

   補足　確認できるジョブは、1つだけです。

2. ［ジョブ］→［受信ボックス］→［プロパティ］を選択します。

3. 内容を確認したら、［閉じる］をクリックします。

● メール情報

差出人

表示名と実アドレスが表示されます。

送信日時

送信日時（年/月/日 時:分:秒）が表示されます。

宛先

すべての宛先の表示名と実アドレスが表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。

件名

件名が表示されます。

メール本文

メール本文が512バイト以内で表示されます。対応フォーマット以外は、空欄になります。

● 添付ファイル情報

番号

ファイルの番号が表示されます。

添付ファイル名

添付ファイルの名前が表示されます。

● ステータス

添付ファイルのサポート状態が表示されます。

・OK　：サポートファイル
・未サポート　：未サポートファイル
・未サポートエンコード　：未サポートのエンコード

3.5.4　通信履歴の確認

送受信の結果を確認できます。
送信レポート、受信レポート、ファイル転送レポートとしてのプリント、保存（CSV形式）ができます。

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［通信履歴］を選択します。
2. 目的に応じて、［送信］、［受信］、および［ファイル転送］タブを選択し、内容を確認します。

■送信

●宛先
宛先が表示されます。

●件名
件名が表示されます。

●送信開始時刻
送信開始時刻が表示されます。送信待ちの場合は、空欄になります。

●所要時間
送信開始から送信終了までの時間が表示されます。送信待ち、送信中の場合は、空欄になります。

●個数
添付されたファイル数が表示されます。

●通信結果
通信結果は、状態の変化に応じて表示が変わります。

送信待ち
送信待ちの状態です。

送信中
送信開始から送信終了までの状態です。

送信済み
送信終了状態です。

送信エラー（XXX）
送信中にエラーが発生した状態です。（XXXにはエラーの内容が入ります）

プリント済み

開封確認が設定されたジョブで、送信先でプリントが正常終了された状態です。

プリントエラー（XXX）

開封確認が設定されたジョブで、送信先でプリントエラーが発生した状態です。（XXX にはエラーの内容が入ります）

プリントキャンセル

プリントの途中でキャンセルされた状態です。

取り消し

送信待ちのジョブを削除、または送信処理中のジョブをキャンセルした状態です。

■受信

●差出人

送信元の名前（メールヘッダーのFromフィールドを使用）が表示されます。

●件名

件名が表示されます。

●受信開始時刻

受信開始時刻が表示されます。

●所要時間

受信開始から受信終了までの時間が表示されます。プリント処理時間は含まれません。

●ページ数/個数

添付したファイルのページ数（ボックス機能が使用できるPrint Serverから受信した場合）、個数（クライアントコンピューターから受信した場合）が表示されます。

●通信結果

受信済み

受信終了状態です。

受信中

受信開始から受信終了までの状態です。

プリント済み

プリント終了状態です。

プリント中

プリント開始からプリント終了までの状態です。

プリントキャンセル

ServerManagerでジョブがキャンセルされた状態です。

プリントエラー

ServerManagerでジョブがエラーになった状態です。

受信エラー（XXX）

受信中にエラーが発生した状態です。（XXXにはエラーの内容が入ります）

■ファイル転送

●保存先

保存先の名前が表示されます。

●ファイル名

ファイル名が表示されます。

●転送開始時刻

転送開始時刻が表示されます。

●所要時間

転送開始から転送終了までの時間が表示されます。

●通信結果

転送済み

転送終了状態です。

転送中

転送開始から転送終了までの状態です。

転送エラー（XXX）

転送中にエラーが発生した状態です。（XXXにはエラーの内容が入ります）

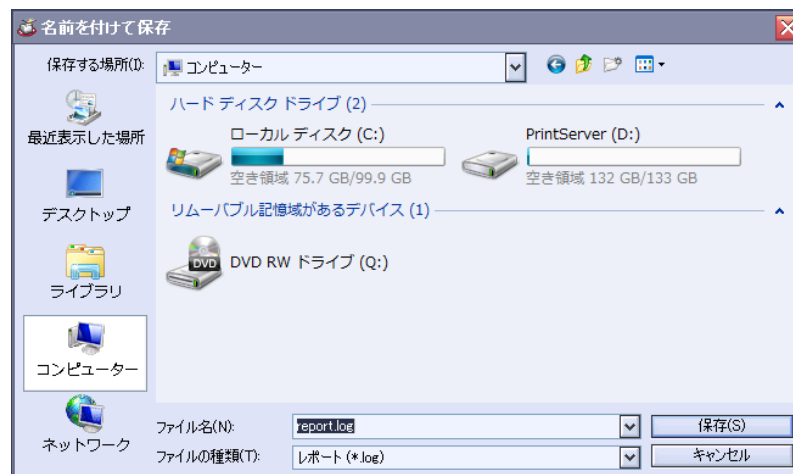
エラーの内容については、「6.3.6 メール送受信、ファイル転送時エラー」（P.350）を参照してください。

通信履歴の保存

操作手順

1. ［通信履歴］ダイアログボックスの［ファイル］→［保存］を選択します。

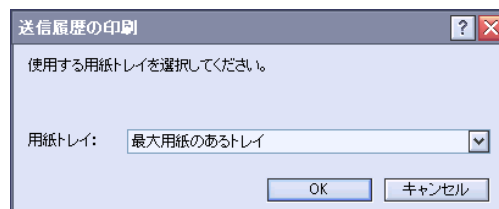
複数のジョブが選択できます。

2. 保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

通信履歴のプリント

操作手順

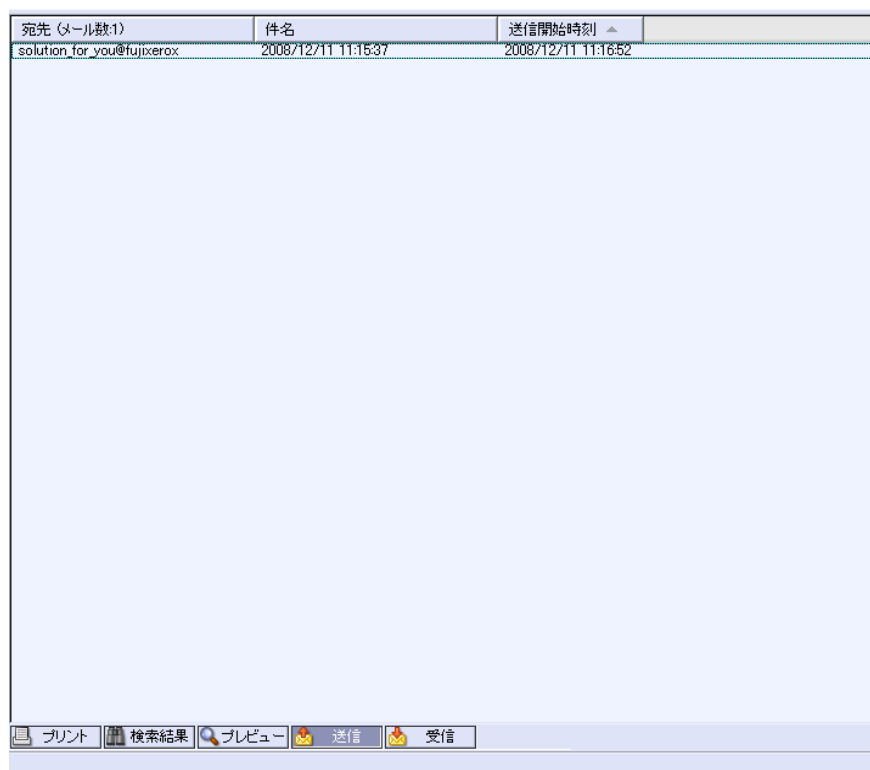
1. ［通信履歴］ダイアログボックスの［ファイル］→［印刷］を選択します。

   複数のジョブが選択できます。

2. ［用紙トレイ］からプリントする用紙トレイを選択し、［OK］をクリックします。

3.5.5　送信ジョブの管理

時刻指定で送信したジョブは、ServerManagerの［送信ボックス］に保存されています。
設定した時刻を待たずに送信、およびジョブの送信のキャンセルができます。

操作手順

1. ServerManagerの［送信］ボックスをクリックします。

- 宛先

  宛先が表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。

- 件名

  件名が表示されます。

● 送信開始時刻

送信開始時刻が表示されます。送信エラーのメールの場合は、赤字で表示されます。

● ステータス

ジョブの処理状況や、エラーメッセージが表示されます。

2. 設定した時刻を待たずにジョブをただちに送信する場合は、ジョブを選択して、[ジョブ] → [送信ボックス] → [直ちに送信] を選択します。

ジョブの送信をキャンセルして [送信] ボックスから削除する場合は、ジョブを選択して [ジョブ] → [ジョブ削除] を選択します。

複数のジョブが選択できます。

3.5.6　アドレス帳の管理

アドレス帳の作成

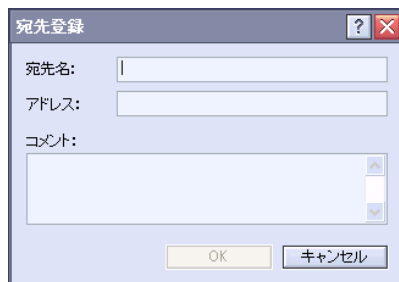
アドレス帳には、以下の内容が登録できます。

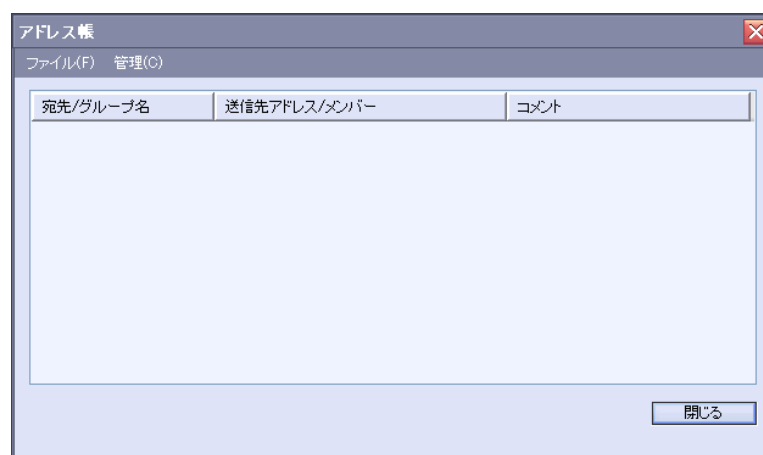
● 宛先

・宛先名（表示名）　・送信先アドレス　・コメント

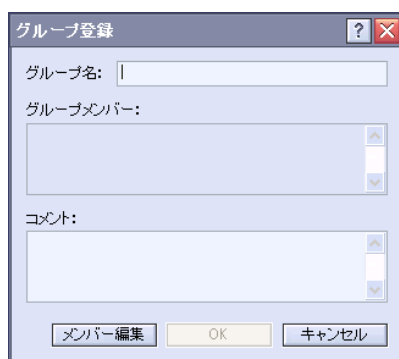
● グループリスト

・グループ名（表示名）　・グループメンバー（複数の宛先名）　・コメント

操作手順

1. ServerManagerの [ボックス] → [アドレス帳] を選択します。

2. 宛先、またはグループを登録します。

◆ 宛先を登録する場合

1. [管理] → [宛先登録] を選択します。

2. ［宛先名］を31バイト以内で入力します。

3. ［アドレス］を128バイト以内で入力します。
4. 必要に応じて、［コメント］を128バイト以内で入力します。
5. ［OK］をクリックします。

◆グループを登録する場合

・1つのグループに登録できるメンバーは100以内です。
・グループを登録する場合は、あらかじめ宛先登録をしておく必要があります。

1. ［管理］→［グループ登録］を選択します。
2. ［グループ名］を31バイト以内で入力します。

3. ［メンバー編集］をクリックします。
4. ［宛先一覧］から登録する宛先を選択し、［追加］をクリックします。
複数の宛先が選択できます。

［メンバー一覧］に選択した宛先が表示されます。
［メンバー一覧］の宛先を削除する場合は、宛先を選択して、［削除］をクリックします。

5. ［OK］をクリックします。
［メンバー編集］ダイアログボックスが閉じます。
［グループ登録］ダイアログボックスの［グループメンバー］に追加した宛先が表示されます。

6. 必要に応じて、［コメント］を128バイト以内で入力します。

7. ［OK］をクリックします。

アドレス帳の宛先の登録

操作手順

1. ［メール送信］ダイアログボックスで［アドレス帳］をクリックします。

2. [宛先/グループ一覧] から登録する宛先、またはグループ名を選択し、[追加] をクリックします。

複数の宛先、またはグループ名が選択できます。

[送信先] に選択した宛先、またはグループ名が表示されます。[メール送信] ダイアログボックスの [メール送信先] に直接入力した送信先もここに表示されます。

[送信先] の宛先、またはグループ名を削除する場合は、宛先、またはグループ名を選択して、[削除] をクリックします。複数の宛先、またはグループ名が選択できます。

● 宛先/グループ名

宛先名、グループ名の順に表示されます。グループ名は、ボールド文字で表示されます。

● 送信先アドレス/メンバー

送信先のメールアドレスが表示されます。グループメンバーのアドレスは、セミコロン「;」で区切って表示されます。

3. 送信先の入力が終了したら、[OK] をクリックします。

アドレス帳の編集

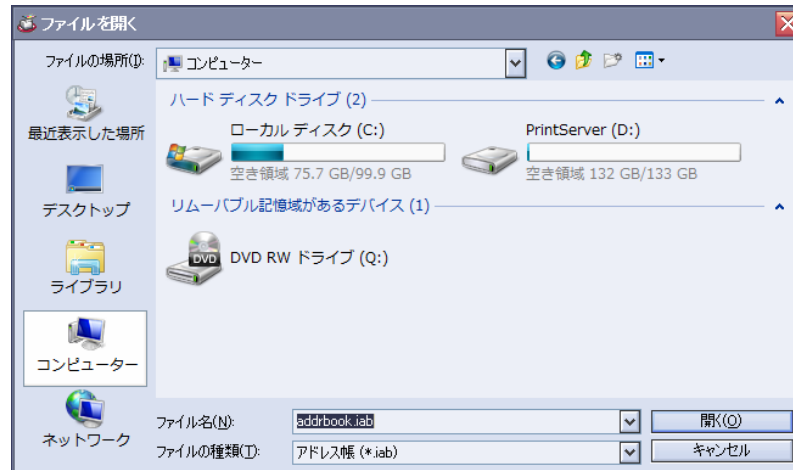
1. [アドレス帳] ダイアログボックスで、編集する宛先、またはグループを選択し、[管理] → [編集] を選択します。
2. [宛先編集]、または [グループ編集] ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

アドレス帳の削除

1. [アドレス帳] ダイアログボックスで、削除する宛先、またはグループを選択し、[管理] → [削除] を選択します。
2. 確認のダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

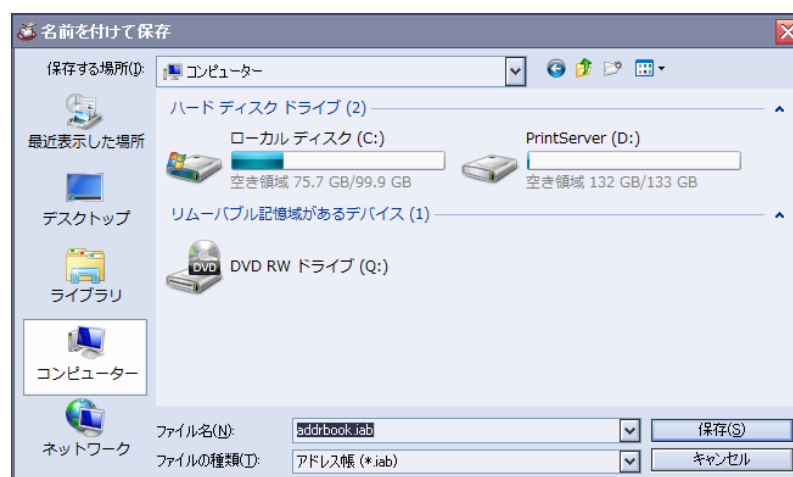
アドレス帳の読み込み

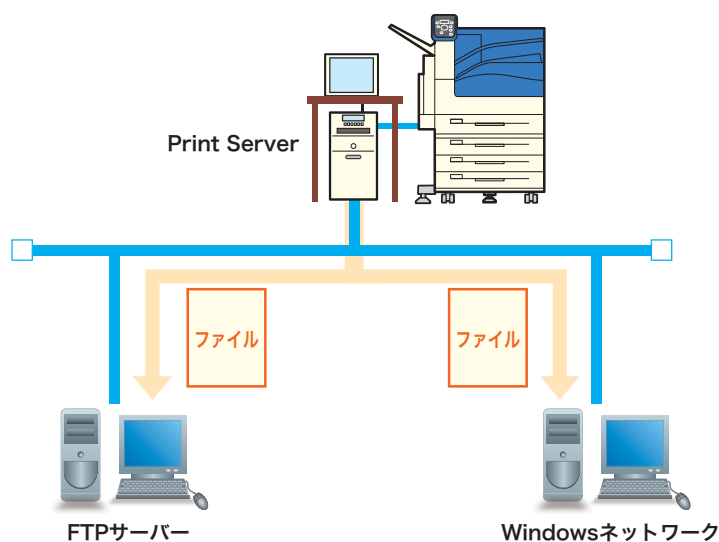
操作手順

1. ［アドレス帳］ダイアログボックスの［ファイル］→［アドレス帳の読み込み］を選択します。
2. 読み込むアドレス帳を選択し、［開く］をクリックします。

アドレス帳の保存

アドレス帳は、CSV形式で保存されます。

操作手順

1. ［アドレス帳］ダイアログボックスの［ファイル］→［アドレス帳を名前を付けて保存］を選択します。
2. 保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

3.5.7　ファイルの転送

ファイルを外部サーバー（FTP サーバーや Windows ネットワーク）に転送できます。また、その転送先アドレスをアップロード後にメールで通知できます。

操作手順

1. ServerManagerから転送するファイル（ジョブ）を選択します。

   ［プリント］ボックスをクリックし、目的のファイル（ジョブ）があるボックスに切り替えます。

   同一ボックス内で複数選択できます。

2. ［ジョブ］→［送信］→［ファイル転送］を選択します。

3. 必要に応じて各項目を設定し、［開始］をクリックします。

メールの送信は、すべての選択ファイルのアップロードが正常終了された場合に行われます。

メールを送信すると、［通信履歴］の［送信］タブ内に送信履歴が保存され、［通信履歴］の［ファイル転送］タブ内に転送履歴が保存されます。

参照　通信履歴については、「3.5.4 通信履歴の確認」（P.209）を参照してください。

● 保存先

［保存先設定］をクリックして、ファイル転送先を登録されている保存先から選択します。

● 保存先をメールする

チェックマークを付けると、ファイル転送先がメールで通知されます。

● メール送信先

メール送信先を入力します。宛先とグループを合わせて100件まで入力できます。

宛先を直接入力する場合は、メールアドレスごとの文字数は128バイト以内で、メールアドレスとメールアドレスの間はカンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。

アドレス帳を使用する場合は、［アドレス帳］をクリックし、［アドレス帳］ダイアログボックスで選択します。

参照　アドレス帳については、「3.5.6 アドレス帳の管理」（P.213）を参照してください。

● 件名

デフォルト：［ファイル転送］でダイアログボックスを表示させたときの日時

件名を31バイト以内で入力します。

● 本文

本文を512バイト以内で入力します。

● 送信ファイルを圧縮する

チェックマークを付けると、送信ファイルが圧縮されます。

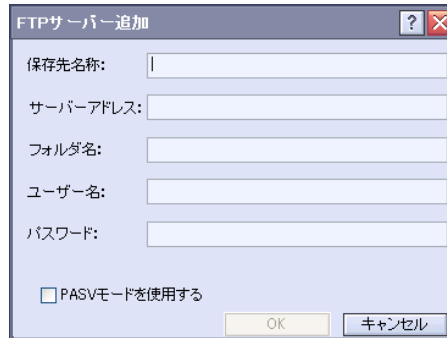
● 転送後に元ファイルを削除する

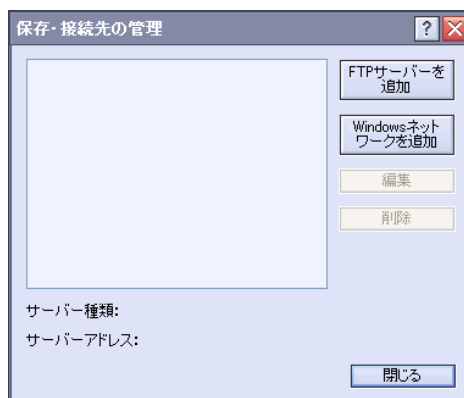
チェックマークを付けると、ファイル転送後にもとのファイルが削除されます。

補足 本文には、ファイル転送先のURLとサーバーの種類が自動で追記されます。
- 例：FTPサーバーの場合
  サーバー種類：FTPサーバー
  URL：ftp://＊.＊.＊.＊/public/Sample.pdf
- 例：Windowsネットワークの場合
  サーバー種類：Windowsネットワーク
  URL：¥＊.＊.＊.＊¥public¥Sample.pdf
  ドメイン名：WORKGROUP

FTPサーバーの追加

操作手順

1. ［ファイル転送］ダイアログボックスで、［保存先設定］をクリックします。

補足 ServerManagerの［管理］→［保存・接続先の管理］を選択しても、［保存先設定］ダイアログボックスを表示することができます。

2. ［FTPサーバーを追加］をクリックします。

3. 必要に応じて各項目を設定し、[OK] をクリックします。

● 保存先名称

保存先の名称を31バイト以内で入力します。

● サーバーアドレス

FTPサーバーアドレスを＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式、またはDNS名で128バイト以内で入力します。

● フォルダ名

フォルダー名を256バイト以内で入力します。

補足　フォルダー名として入力できるのは、1バイト文字だけです。

● ユーザー名

ユーザー名を64バイト以内で入力します。

● パスワード

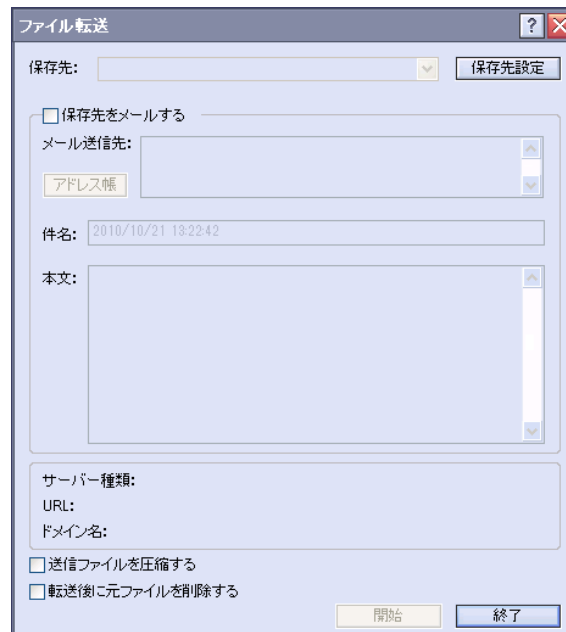
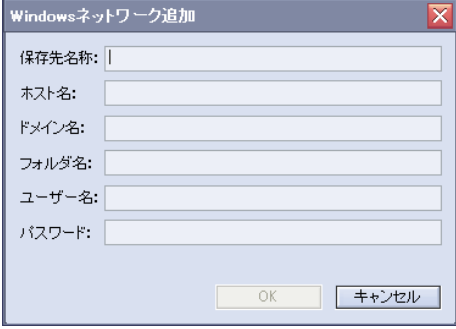
パスワードを64バイト以内で入力します。

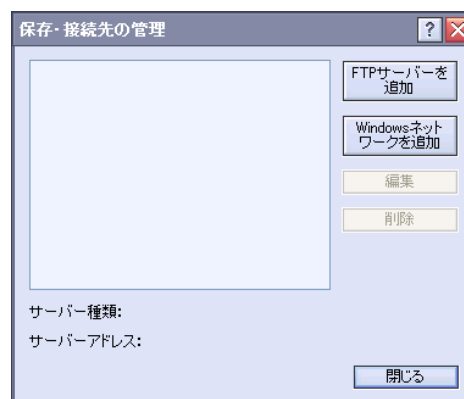
● PASVモードを使用する

チェックマークを付けると、PASVモードが使用されます。

Windowsネットワークの追加

操作手順

1. ［ファイル転送］ダイアログボックスで、［保存先設定］をクリックします。

補足　ServerManagerの［管理］→［保存・接続先の管理］を選択しても、［保存先設定］ダイアログボックスを表示することができます。

2. ［Windowsネットワークを追加］をクリックします。

3. 必要に応じて各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● 保存先名称
保存先の名称を31バイト以内で入力します。

● ホスト名
Windowsネットワークホスト名を63バイト以内で入力します。

● ドメイン名
ドメイン名、またはワークグループ名を255バイト以内で入力します。

● フォルダ名
フォルダー名を256バイト以内で入力します。

● ユーザー名
ユーザー名を64バイト以内で入力します。

● パスワード
パスワードを64バイト以内で入力します。

保存先の編集

1. ［保存・接続先の管理］ダイアログボックスで、編集する保存先を選択し、［編集］をクリックします。
2. ［XXX編集］（XXXには保存先が入ります）ダイアログボックスで、追加と同様に項目を編集します。

保存先の削除

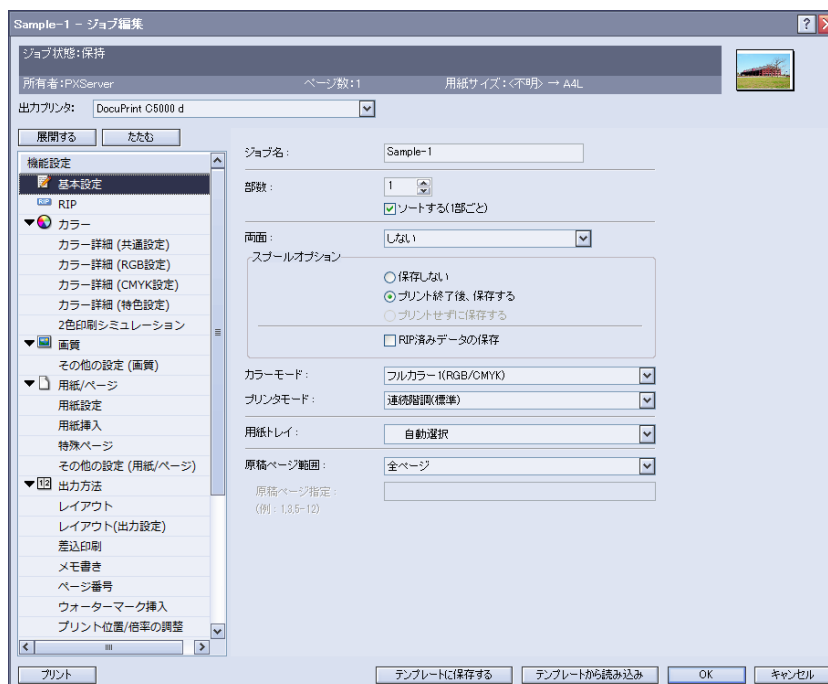
［保存・接続先の管理］ダイアログボックスで、削除する保存先を選択し、［削除］をクリックします。

プリントの設定

プリントオプション項目（[ジョブ編集] ダイアログボックス）、その他のプリント時の設定について説明しています。

4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）

プリントオプションの項目を［ジョブ編集］ダイアログボックスを例に説明します。

- ［ジョブ編集］ダイアログボックスの初期画面は、［基本設定］が表示されます。
- 各項目に記載されているプリントオプションのデフォルト値は、プリンタードライバー、DropUtility、またはプリントオプションテンプレートの［出荷時の設定］の値です。
- 処理中リスト内のジョブに対しては、設定内容の表示だけで編集はできません。
- ジョブの種類によって、設定できないプリントオプションがあります。

●機能設定ツリー

項目をクリックすると、右側にプリントオプションの設定画面が表示されます。

［現在の設定］をクリックすると、右側にプリントオプションの現在の設定がツリー表示されます。

機能設定ツリーが展開されている場合、スクロールバーをスクロールすると、［現在の設定］が表示されます。

●展開する/たたむ

機能設定ツリーに表示させる項目数を変更できます。

●プリント

編集したジョブをすぐにプリントできます。

ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］から［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［プリント］は表示されません。

●テンプレートに保存する

現在のプリントオプション設定がジョブテンプレートとして保存されます。表示されるダイアログボックスで名前を入力します。

- ［テンプレートに保存する］は管理者モードのときに操作できます。
- ServerManager の［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］から［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［テンプレートに保存する］は表示されません。

● テンプレートから読み込み

［プリントオプションテンプレートの管理］ダイアログボックスが表示され、プリントオプションが設定されているテンプレートを読み込めます。テンプレートを読み込むと、プリントオプションテンプレートの［テンプレートを優先］の［する］にチェックマークを付けていなくても、プリントオプションで設定した値は無効になります。

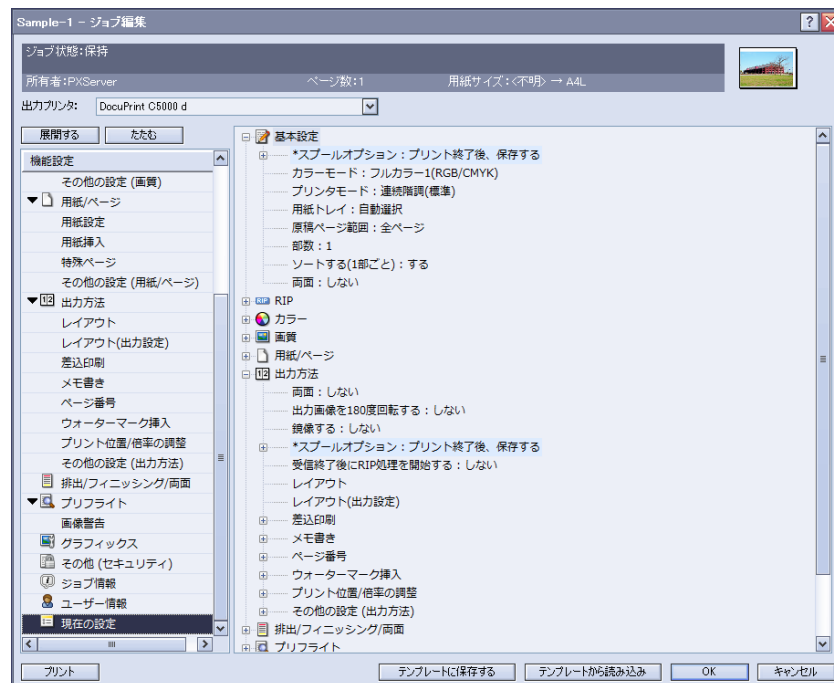
ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］から［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［テンプレートから読み込み］は表示されません。

参照　プリントオプションテンプレートについては、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.1 プリントオプションテンプレートの設定」を参照してください。

■ ジョブの複数選択時

ジョブを複数選択した場合は、各プリントオプションの先頭にチェックボックスが表示されます。チェックマークを付けると、複数のジョブに対して一括で編集できます。

4.1.1　現在の設定

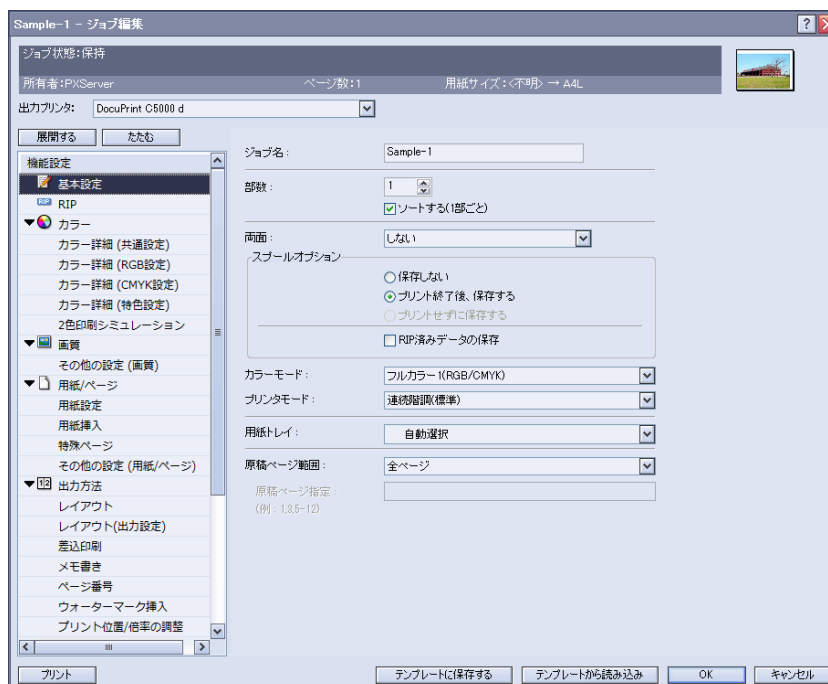
プリントオプションの現在の設定がツリー表示されます。

● 右側のツリー

・［+］をクリックすると、現在ジョブに設定されている各項目が展開表示されます。

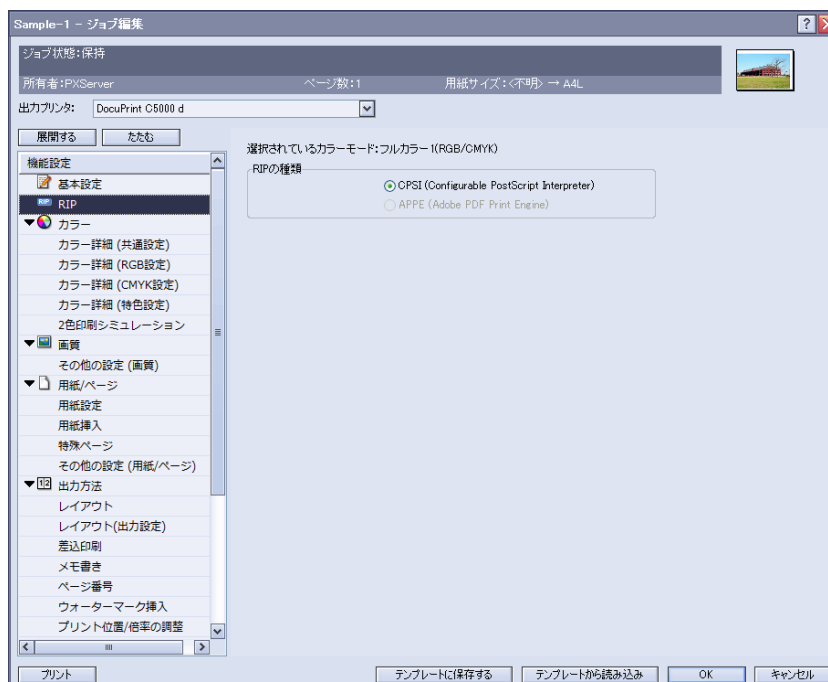
・デフォルトと異なる設定項目は、自動的にツリーが展開表示され、「*」が表示されます。

・項目をダブルクリックすると、プリントオプションの設定画面が表示されます。

4.1.2　基本設定

［基本設定］には、よく使う設定項目が表示されます。

各項目の詳細は、それぞれのプリントオプションの説明を参照してください。

4.1.3　RIP

［RIP］には、RIPの種類が表示されます。

● CPSI（Configurable PostScript Interpreter）

CPSIを使用してRIP処理します。

● APPE（Adobe PDF Print Engine）

APPEを使用してRIP処理します。

- プリントしたときに、透過設定されているオブジェクトが正しくプリントされない場合、アプリケーションでいったんPDFに変換して、APPEを選択してプリントすると、正しくプリントされることがあります。
- この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、APPEを使用できません。ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。

CPSIとAPPEについては、『ユーザーズガイド導入編』の「Print Serverの機能紹介」を参照してください。

4.1.4　カラー

色の調整に関する情報が表示されます。

［カラーモード］の設定によって、設定できる項目が異なります。以下の表を参照してください。

○：設定できる項目

×：設定できない項目

＊：［RIP］＞［RIPの種類］に［APPE］を選択している場合に設定できない項目

■ カラー詳細（共通設定）

項目	フルカラー1	グレースケール
トナー総量調整	○	○
カラー置換＊	○	×

■ カラー詳細（RGB設定）

項目		フルカラー 1	グレースケール
RGB色補正	RGB色補正	○	×
	RGBガンマ補正	○	×
	RGBホワイトポイント＊	○	×
	写真画像の自動補正＊	○	×
	写真の種類＊	○	×
	分割画像を合成＊	○	×
	自動ホワイトバランス調整＊	○	×
	人肌補正＊	○	×
	明度＊	○	×
	コントラスト＊	○	×
	彩度＊	○	×
RGB出力プロファイル		○	○
RGB出力インテント		○	○

■ カラー詳細（CMYK設定）

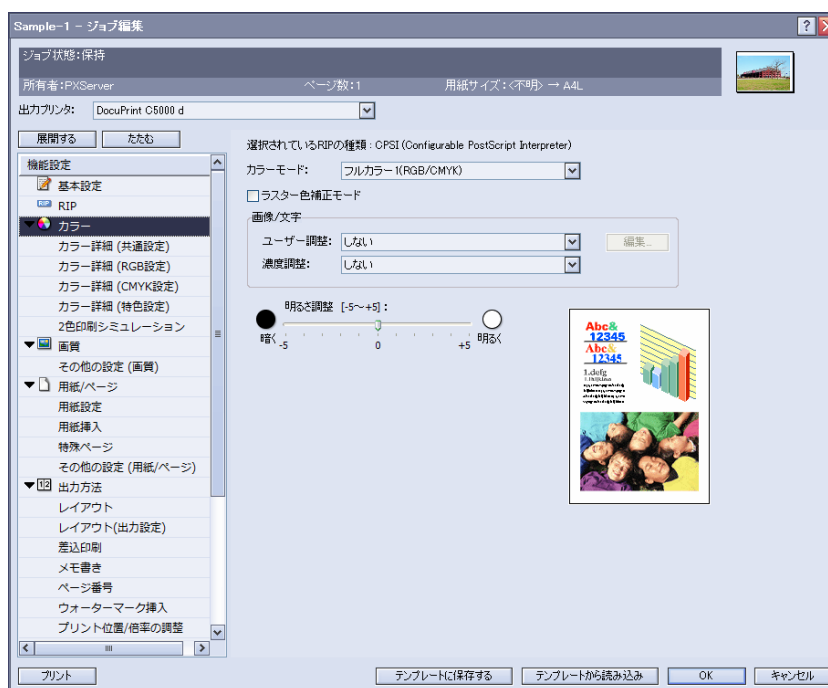
項目		フルカラー 1	グレースケール
CMYK色補正	CMYK色補正	○	○
	CMYKシミュレーション	○	○
PDF/Xの出力インテントを使用する		○	×

■カラー詳細（特色設定）

項目	フルカラー 1	グレースケール
コンポジット特色補正	○	×
特色補正プロファイル	○	×
特色補正インテント	○	×

■2色印刷シミュレーション

項目	フルカラー 1	グレースケール
2色印刷シミュレーション＊	○	×

カラー

●カラーモード

カラーモードを選択します。

・フルカラー 1（RGB/CMYK）　　　　・グレースケール（K）

ファイルのイメージがグレースケールの場合は、［フルカラー 1（RGB/CMYK）］と［グレースケール（K)］のどちらでもグレースケールで再現されますが、［グレースケール（K)］のほうが速く処理されます。

●ラスター色補正モード

チェックマークを付けると、コンポジットモードのジョブで、RIP 後のラスター画像に対して色補正が行われます。DeviceN 画像や Separation カラースペースの画像オブジェクトがある場合に、これらのオブジェクトにも色補正を適用できます。

RGB画像、およびCIE画像の色補正は適切に行われません。RGB画像、およびCIE画像に対しても適切な色補正をする場合は、印刷環境用のRGB出力プロファイルを登録して使用してください。

●ユーザー調整

プリントするときに使用するユーザー調整カーブを［しない］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。［しない］以外の場合は、［編集］をクリックすると、ユーザー調整カーブを編集できます。

1～100には、Print Serverで割り当てた調整ファイル名が表示されます。

ビルドジョブの場合、［編集］は表示されません。

ユーザー調整カーブの割り当てについては、「2.6 ユーザー調整カーブを設定する」（P.125）を参照してください。

●濃度調整

プリントするときに使用する濃度調整カーブを［しない］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

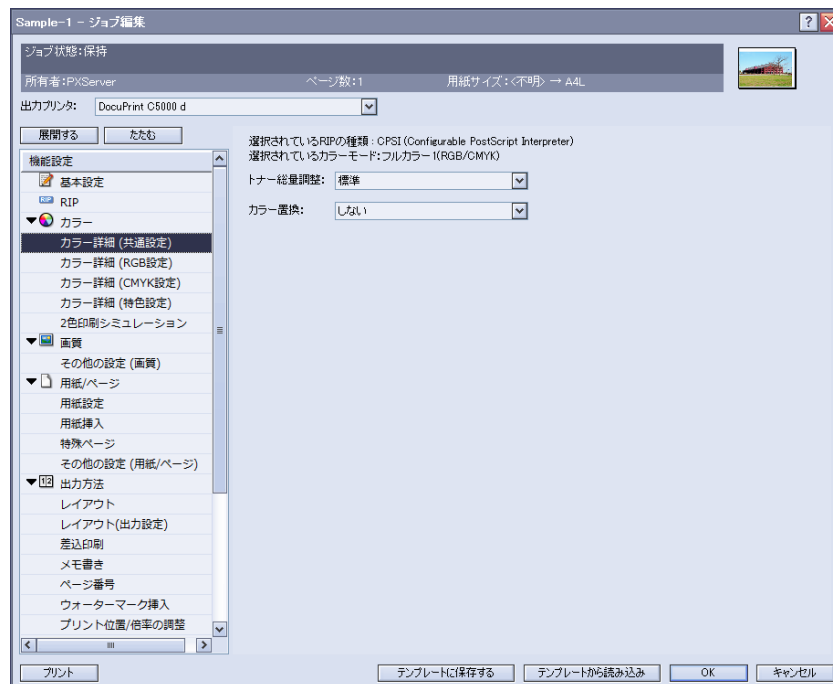
1～100には、Print Serverで割り当てた調整ファイル名が表示されます。

濃度調整カーブの割り当てについては、「2.7 濃度調整カーブを設定する」（P.130）を参照してください。

●明るさ調整

出力画像全体の明るさを［暗く（-5）］～［明るく（+5）］の11段階から選択します。

ターゲットプロファイルを編集した場合、ターゲットプロファイルが持つもとの色味が変化してしまうので、注意してください。

カラー詳細（共通設定）

●トナー総量調整

シャドー部のトナー量の制限を［標準］～［薄く（-5）］の6項目から選択します。

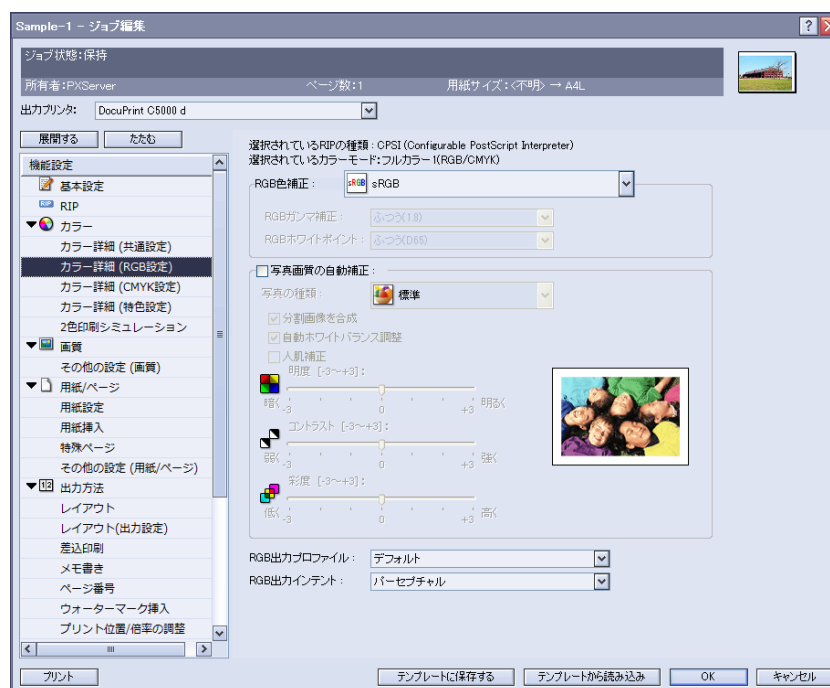
●カラー置換

ジョブ内の特定のRGB、CMYK値を特定のCMYK、または特色に変換するカラー置換設定ファイルを［しない］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

［カラーモード］が［フルカラー１（RGB/CMYK）］の場合に選択します。

1～100には、Print Serverで割り当てた設定ファイル名が表示されます。

設定ファイルの割り当てについては、「2.9 カラーを置き換える」（P.143）を参照してください。

カラー詳細（RGB設定）

●RGB色補正

ファイル中のRGB画像に対して、色補正するモードを選択します。

・しない
・する
・sRGB
・AdobeRGB（1998）
・＊（＊は1～100）

［する］の場合は、［RGBガンマ補正］と［RGBホワイトポイント］、［1］～［100］の場合は、［RGBガンマ補正］を設定できます。

［カラーモード］が［フルカラー１（RGB/CMYK）］の場合に選択します。

1～100には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

RGB色補正プロファイルの割り当てについては、「2.3.1 RGB色補正プロファイルの設定」（P.75）を参照してください。

● RGBガンマ補正

モニターの表示にプリントの色を近づけるため、モニターの明るさの状態を選択します。

・デフォルト　・より明るい（1.0）　・明るい（1.4）　・ふつう（1.8）
・暗い（2.2）　・より暗い（2.6）

RGB、またはCIE RGB画像に対してガンマ調整されます。
[カラーモード] が [フルカラー 1（RGB/CMYK)]、[RGB色補正] が [する]、または [1] ～ [100] の場合に選択できます。

- [RGB色補正] が [する] の場合、[デフォルト] にすると [ふつう（1.8）] が適用されます。
- [RGB色補正] が [1] ～ [100] の場合、[デフォルト] にするとユーザープロファイルのガンマ設定が適用されます。

● RGBホワイトポイント

モニターの表示色とプリントの色を近づけるため、モニターのホワイトポイントを選択します。
[カラーモード] が [フルカラー 1（RGB/CMYK)]、[RGB色補正] が [する] の場合に選択します。

やや黄色い（D50 Proofing）

モニターの皮膚の色や赤の色調が黄色に近すぎたり、青が紫に近すぎたり、または緑色が黄色に近すぎたりして見える場合に選択します。

ふつう（D65）

やや青い（9300）

モニターの皮膚の色や赤の色調がマゼンタに近すぎたり、空色などの青がシアンに近すぎたり、または緑色が濃すぎたりして見える場合に選択します。

● 写真画質の自動補正

チェックマークを付けると、プリントするページ内の写真画像が設定した特性に応じて自動で補正されます。
[カラーモード] が [フルカラー 1（RGB/CMYK)]、[RGB色補正] が [sRGB] の場合に選択します。

● 写真の種類

[写真画質の自動補正] にチェックマークを付けたときは、種類を選択します。

標準

写真画像が明度やコントラスト、および彩度に応じて自動で補正されます。

人物

標準よりも明るめに補正されます。暗めに撮影された写真画像を明るく補正する場合に適しています。

風景

標準よりも鮮やかさを重視して補正されます。

現場写真

標準よりもコントラストを重視した補正を行います。画像内にある文字を強調してプリントする場合に適しています。

● 分割画像を合成

チェックマークを付けると、プリンターに分割して送られてきた画像を合成して写真画質の自動補正が行われます。
[カラーモード] が [フルカラー 1（RGB/CMYK)]、[写真画質の自動補正] が [sRGB] の場合に選択します。

● 自動ホワイトバランス調整

チェックマークを外すと、ホワイトバランスによる補正が強すぎて、写真の色調が変わりすぎてしまうことを防ぎます。
[カラーモード] が [フルカラー 1（RGB/CMYK)]、[写真画質の自動補正] が [sRGB] の場合に選択します。

●人肌補正

デフォルト： ［写真の種類］で［標準］、［風景］、［現場写真］を選択した場合はチェックマークなし
［写真の種類］で［人物］を選択した場合はチェックマークあり

チェックマークを付けると、写真の中に人肌の部分が多い場合に、人肌部分を重視した補正に切り替わります。

チェックマークを外すと、全体の色調を重視した補正になります。

［カラーモード］が［フルカラー1（RGB/CMYK）］、［写真画質の自動補正］が［sRGB］の場合に選択します。

●明度

写真の明度を［暗く（-3）］～［明るく（+3）］の7段階から選択します。

［カラーモード］が［フルカラー1（RGB/CMYK）］、［写真画質の自動補正］が［sRGB］の場合に選択します。

●コントラスト

写真のコントラストを［弱く（-3）］～［強く（+3）］の7段階から選択します。

［カラーモード］が［フルカラー1（RGB/CMYK）］、［写真画質の自動補正］が［sRGB］の場合に選択します。

●彩度

写真の彩度を［低く（-3）］～［高く（+3）］の7段階から選択します。

［カラーモード］が［フルカラー1（RGB/CMYK）］、［写真画質の自動補正］が［sRGB］の場合に選択します。

●RGB出力プロファイル

ファイル中のRGB、CIEbased、L*a*b*、およびXYZなどの画像の色変換用のRGB出力プロファイルを［デフォルト］、または［*］（*は1～100）から選択します。

1～100には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

- ［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合、読み込んだRGB出力プロファイルを適用すると、プロセスカラーでプリントされます。
- Photoshopで［ポストスクリプトカラーマネージメント］をオンにしたCMYKデータやプロファイルを埋め込んだCMYKデータはCIEカラー扱いになり、RGB出力プロファイルの設定が適用されます。

RGB出力プロファイルの割り当てについては、「2.3.2 RGB出力プロファイルの設定」（P.78）を参照してください。

●RGB出力インテント

［RGB出力プロファイル］で設定したユーザープロファイルで使用する、変換モードを選択します。

パーセプチャル

カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

サチュレーション

カラー画像の色相や彩度のバランスをとりながら再現できるように処理されます。

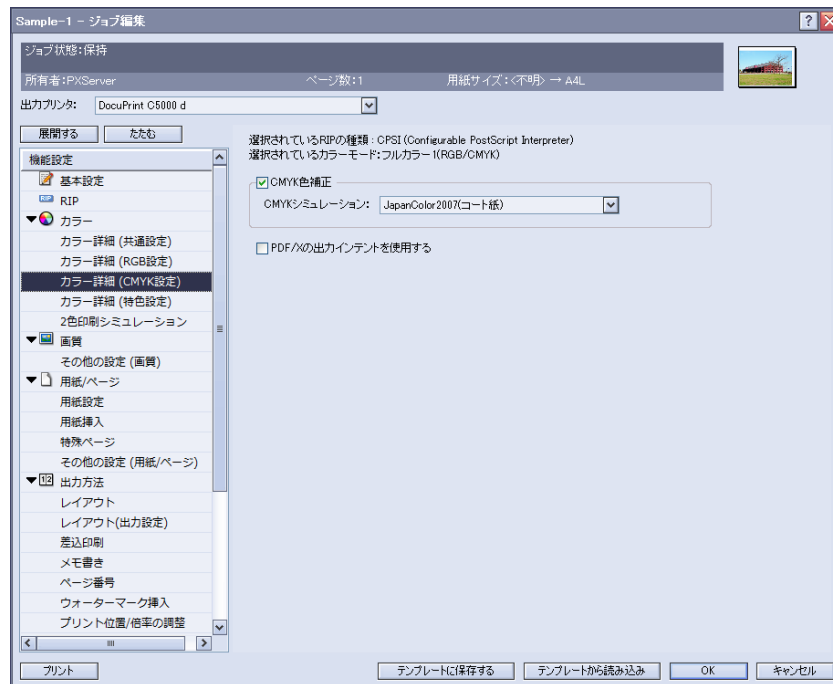
相対カラリメトリック

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためにプリンターで再現できない色については、もっとも近い色に再現できるように処理されます。

絶対カラリメトリック

入力データの白と用紙の白の調整を行わない、絶対的なモードです。

適用するICCプロファイルによっては、白いデータ部分でも、色が付いてプリントされることがあります。

カラー詳細（CMYK設定）

●CMYK色補正

チェックマークを付けると、[CMYKシミュレーション] でプロファイルが選択できます。ファイル中のCMYK画像に対して色補正をするかどうかを設定します。

●CMYKシミュレーション

プリントするときに使用するプロファイルを選択します。
［CMYK色補正］にチェックマークを付けた場合に選択します。

JapanColor2007（アート紙）

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2007」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007（コート紙）

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2007」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007（マット紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2007」のマットコート紙（ISO 規格用紙タイプ 2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001（アート紙）

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2001」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001（コート紙）

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color色再現印刷2001」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001（マット紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のマットコート紙（ISO 規格用紙タイプ 2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2002（新聞）

新聞用Japan Color2002（JCN2002）をシミュレーションできるプロファイルです。

雑誌広告基準カラー V2（2004）

雑誌広告基準カラー（JMPAカラー）Version2をシミュレーションできるプロファイルです。

＊（＊は1～100）

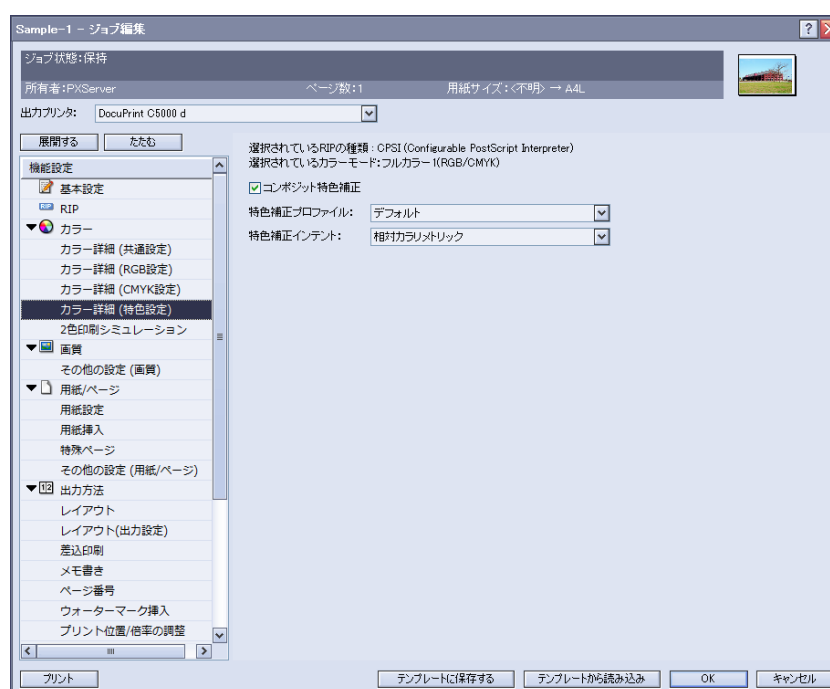
1～100には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

参照 CMYKプロファイルの割り当てについては、「2.4.7 CMYKプロファイルの設定」（P.120）を参照してください。

● PDF/Xの出力インテントを使用する

チェックマークを付けると、処理対象のPDFファイルに出力インテントの指定がある場合、その指定を適用してプリントされます。（[CMYKシミュレーション］の指定は無視されます）

［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］の場合に選択します。

カラー詳細（特色設定）

● コンポジット特色補正

チェックマークを付けると、コンポジットカラーのジョブの場合に、アプリケーションで使用している特色インキとプリントの色に近づけます。

チェックマークを外すと、アプリケーションに内蔵されているCMYK値でプリントされます。

登録した特色がPrint Serverに登録されていない場合は、「特色未登録エラー」が発生します。対応している特色は、DIC、TOYO、PANTONEです。

- コンポジット特色補正は、分版ジョブには影響しません。分版合成で特色版が含まれる場合は、［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［色分版の合成］を［自動］にしてください。特色版の分版合成が行われるとともに、コンポジット特色補正と同様の色補正処理が行われます。
- PhotoshopのダブルトーンのEPSファイルをQuarkXPressなどのアプリケーションのレイアウトに配置すると、QuarkXPressからのコンポジットプリントではCIEカラーでプリントされるので、コンポジット特色補正は適用されません。QuarkXPressから分版出力を行うと、特色版でプリントされるので、分版合成機能の特色版合成機能によって、特色補正が適用されます。

●特色補正プロファイル

特色を補正するプロファイルを選択します。

デフォルト

RGB出力プロファイルを使用する

［カラーモード］が［フルカラー１（RGB/CMYK)］の場合に選択します。

＊（＊は1～100）

1～100には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

特色補正プロファイルの割り当てについては、「2.5 特色補正プロファイルを設定する」（P.122）を参照してください。

●特色補正インテント

［特色補正プロファイル］で設定したユーザープロファイルで使用する、変換モードを選択します。

パーセプチャル

カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

サチュレーション

カラー画像の色相や彩度のバランスをとりながら再現できるように処理されます。

相対カラリメトリック

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためにプリンターで再現できない色については、もっとも近い色に再現できるように処理されます。

絶対カラリメトリック

入力データの白と用紙の白の調整を行わない、絶対的なモードです。適用するICCプロファイルによっては、白いデータ部分でも、色が付いてプリントされることがあります。

2色印刷シミュレーション

2色印刷のシミュレーションについては、「1.1.2 2色印刷シミュレーション」(P.16)を参照してください。

4.1.5　画質

原稿タイプや各種警告機能などの設定が表示されます。
［カラー］＞［カラーモード］の設定によって、設定できる項目が異なります。以下の表を参照してください。

○：設定できる項目
△：設定できるが、無視される項目

項目		フルカラー 1	グレースケール
プリンタモード		○	○
コンポジットオーバープリント		○	△
	白のオブジェクトはノックアウトする	○	○
Kオーバープリント		○	○
画像/文字	原稿タイプ	○	○
	キャリブレーション	○	○
シャープネス調整		○	○
その他の設定（画質）	色分版の合成	○	△
	特色透過率	○	△
	トラッピングの自動処理	○	△
	トラップ指定を無視する	○	△
	Image Enhancement/白抜き文字の強調	○	○
	スムージング	○	○
	EPS（JPEG圧縮）のカラー出力	○	○
	画像品質	○	○
	細線調整	○	○
	グラデーション	○	○
	RGB黒をKに置換	○	○
	RGBグレーをKに置換	○	○

●プリンタモード

プリンターモードを選択します。

連続階調（標準）

連続階調（各色600dpi、8ビット）でプリントされます。

連続階調（アンチエイリアス）

文字や図形の斜めの線がジャギーになるのを目立たせないように、エッジ部分を補正してプリントされます。

RIP処理は1200dpiで行い、CMYK版すべてが600dpiでプリントされます。

●コンポジットオーバープリント

アプリケーションで設定した「オーバープリント」指定（「ノセ」指定）を有効にしてプリントされます。

分版出力時のオーバープリントとは異なり、DeviceCMYKの図形や文字に有効で、DeviceRGB/CIEカラーオブジェクトに対しては無効です。

しない

DeviceCMYK画像はオーバープリントされません。ただし、DeviceN画像やSeparationカラースペースの画像オブジェクトがある場合に、アプリケーション「オーバープリント」指定（「ノセ」指定）を設定した場合は、オーバープリントされます。

簡易

プロセスカラーのオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。その他の項目を選択した場合よりも高速でのプリントが可能ですが、色補正処理が限定的な処理になります。

プロセスカラー

プロセスカラーのオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。

プロセスカラー＋特色

プロセスカラーと特色のオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。

［簡易］の場合は、重なり部分の色処理が個々のオブジェクトを別々に色処理後に合成した結果になります。また、地色に色が付くプロファイルを使用しても地色に色は付きません。

アプリケーションの指定を無視

コンポジットモードでオーバープリント指定できるアプリケーション（Illustrator など）で作成し、オーバープリント指定したデータに対して、オーバープリント指定を無視してプリントされます。

分版出力時は無効です。

●白のオブジェクトをノックアウトする

チェックマークを付けると、白色のオブジェクトはノックアウトされます。（オーバープリントされません）

［コンポジットオーバープリント］を［簡易］、［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］にした場合に有効です。

●Kオーバープリント

チェックマークを付けると、ブラック100％で文字やグラフィックがプリントされます。

チェックマークを外すと、抜き合わせでプリントされます。

この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。

●原稿タイプ-画像/文字

画像/文字の出力スクリーン線数を選択します。

・150dot　・200dot（写真）　・300dot（地図）

●キャリブレーション-画像/文字

画像/文字用のキャリブレーションファイルを［自動］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

1～100には、キャリブレーション作成時や［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで、該当番号に割り当てたキャリブレーションファイル名が表示されます。

［自動］の場合、キャリブレーション作成時や［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスの［割り当て］で、トレイと原稿タイプに割り当てられたキャリブレーションファイルが使用されます。

参照　キャリブレーションファイルの割り当てについては、「2.2.4 キャリブレーションファイルの割り当て」（P.70）を参照してください。

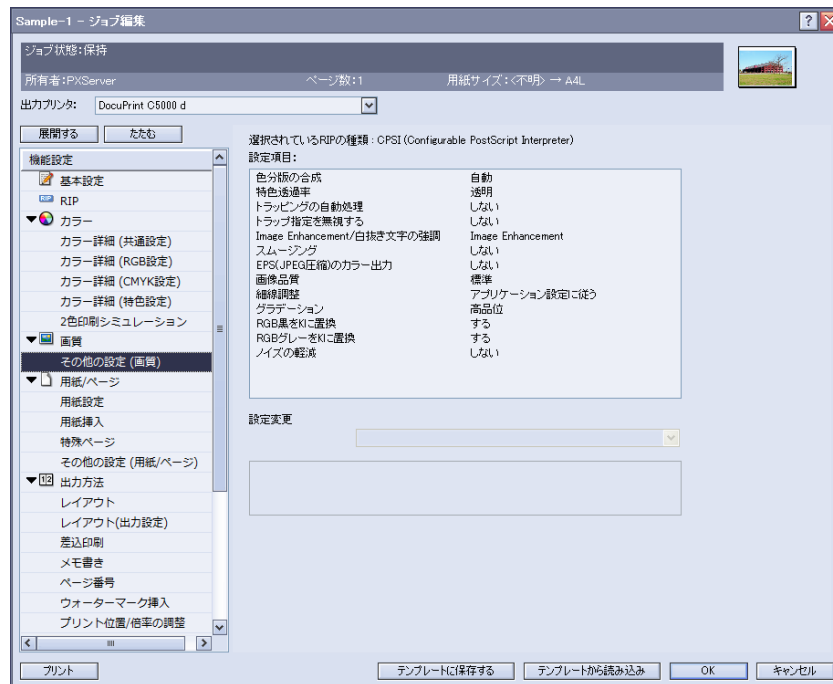
●シャープネス調整

シャープネスを［弱く（-3）］～［強く（+6）］の10段階から選択します。

シャープネス調整領域

シャープネス調整を適用する領域を、［全面］、または［画像のみ］から選択します。

文字や線画が画像として認識されている場合、［画像のみ］を選択するとシャープネス調整が適用されます。

その他の設定（画質）

●色分版の合成

参照　色分版の合成については、「1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成）」（P.14）を参照してください。

●特色透過率

分版出力時、または［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー＋特色］の場合に選択できます。

・不透明　　・半透明　　・透明

特色インキの透明度を選択することで、特色と重なった部分のカラーマッチング精度を向上させます。

●トラッピングの自動処理

［する］の場合、アプリケーションにトラッピング機能がない場合でも、文字や図形に対して自動でトラッピング処理を行うことができます。

- トラッピングの自動処理は、製版時のトラッピングをシミュレーションする機能ではありません。プリントの図形や文字の重なり部分に白い隙間が目立つような場合に、プリントの見栄えを向上させるための機能です。
- ［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合は無効です。
- 分版合成モードのジョブに対しては無効です。
- 差込印刷のフォームとデータの重なり合いへのトラッピング処理は行われません。
- スムージング処理は、トラッピング処理の結果に対して行われます。
- メモ書き機能で印字されるカラーパッチやコメントがイメージの上に描画される場合にも、カラーパッチやコメントがトラッピングされます。
- この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、トラッピングの自動処理はできません。ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。

●トラップ指定を無視する

［する］の場合、トラップ指定を無視してプリントされます。

●Image Enhancement/白抜き文字の強調

画像のエンハンス処理について選択します。通常は、［Image Enhancement］にします。

Image Enhancement

K100%の文字や図形のエッジが滑らかにプリントされます。

白抜き文字の強調

白抜き文字のエッジのトナー量を調節して、白抜き部分への流れ込みが少なくなります。K100% の文字や線画の太りを抑えることができます。

しない

黒のグラデーションで 99 ～ 100% の部分に段差が目立つ場合や、ユーザー調整カーブや濃度調整カーブでK100%の濃度が下げられてプリントされます。

［Image Enhancement/白抜き文字の強調］は、Raster Image Viewerのプレビューウィンドウにも反映されます。

●スムージング

［する］の場合、Kの線や文字にアンチエイリアス効果がかかります。

- この機能は、［プリンタモード］が［連続階調（標準）］の場合に有効です。
- ［Image Enhancement/ 白抜き文字の強調］を［Image Enhancement］にして文字や線の輪郭の品質を向上させる場合は、スムージングを［しない］にしてください。［Image Enhancement/ 白抜き文字の強調］が［しない］のとき、文字や線の輪郭をなめらかに見せる場合は、スムージングを［する］にしてください。

●EPS（JPEG圧縮）のカラー出力

［する］の場合、EPS（JPEG圧縮）ファイルがカラーでプリントされます。

分版合成時、または［コンポジットオーバープリント］を［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］にした場合に有効です。

●画像品質

入力データの画像をプリントするために、拡大する場合の補間方法を切り替えます。画像の品質を［標準］、または［高品位］から選択します。

インターネットからのダウンロード画像など、低解像度の画像を使用している場合に有効です。解像度が200dpi以下の画像を含まない場合は、［標準］を選択することをお勧めします。

●細線調整

データに含まれる細線の線幅と間隔の調整方法を選択します。

・アプリケーション設定に従う　・しない　・する

●グラデーション

グラデーションの品質を［標準］、［高品位］から選択します。

入力されたファイルにPS Level2でのグラデーション記述が存在している場合は、PS Level3での記述に置き換えることで、グラデーション品質を向上させます。プリントエラーなどのトラブルが発生しない限り、［高品位］にしてください。

●RGB黒をKに置換

デフォルト：Windowsクライアント：する、Macintoshクライアント：しない

［する］の場合、RGB黒がブラック100%に置き換えてプリントされます。RGBモードで作られたCMYK混色の黒を純粋な黒トナー（C=M=Y=0%、K=100%）に置き換えてプリントするので、ぼやけて見えるCMYK混色の黒をKだけのはっきりとした黒にできます。

この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。

●RGBグレーをKに置換

デフォルト：Windowsクライアント：する、Macintoshクライアント：しない

［する］の場合、RGBグレーがK単色のグレーに置き換えてプリントされます。RGBモードで作られたCMYK混色のグレーを純粋な黒トナー（C=M=Y=0%、K= ＊ %）に置き換えてプリントするので、ぼやけて見えるCMYK混色のグレーをKだけのはっきりとしたグレーにできます。

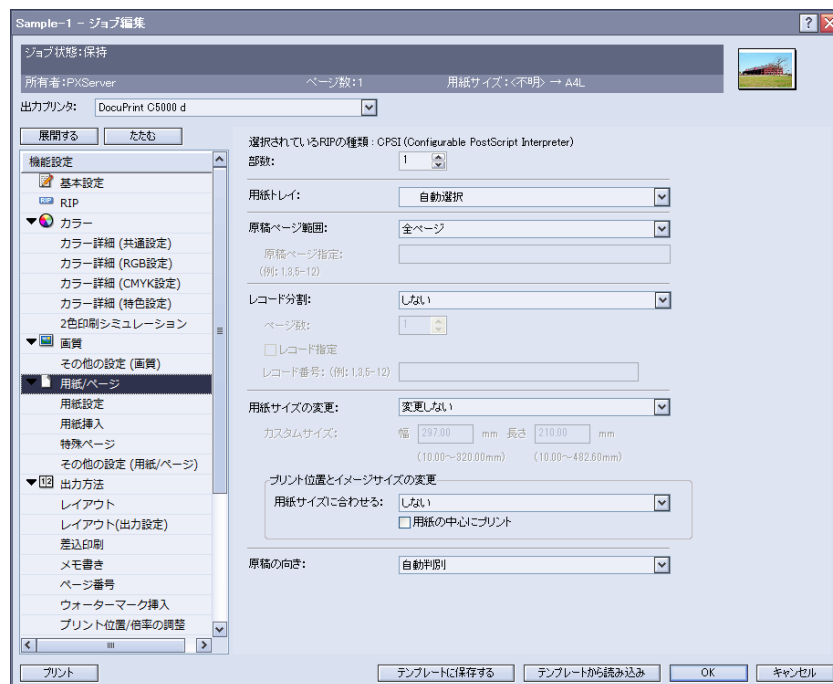
この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。

●ノイズの軽減

写真の青空部分や人肌のざらつきをなくしたり、グラデーションの階調段差の目立つ箇所の補正ができます。補正箇所を選択します。

・しない　　・全面　　・写真のみ

4.1.6　用紙/ページ

［用紙/ページ］には、部数や用紙サイズなど、ページ設定の情報が表示されます。

●部数

プリントする部数を入力します。入力範囲は、1～999です。

DropUtility、または WebManager からのアップロードプリントで、［ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う］を設定しても、送信するファイル内で［部数］が設定されていない PostScript ファイルなど、ファイルによっては、Print Serverのプリントオプションテンプレートの［部数］で設定した値は反映されません。

部数を指定する

PostScriptファイルで指定した部数を無視して、プリントオプションで指定した部数でプリントされます。

PostScriptファイルの場合にだけ表示されます。

● 用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

・自動選択　・トレイ1　・トレイ2　・トレイ3
・トレイ4　・トレイ6　・手差しトレイ

補足 ［自動選択］を選択した場合の注意事項
- 選択される用紙トレイの優先順位は、以下のとおりです。
トレイ1＞トレイ2＞トレイ3＞トレイ4＞トレイ6
- プリントオプションで用紙サイズと用紙種類を設定している場合は、設定が一致するトレイから給紙されます。また、空のトレイは、優先順位が最下位になります。
- 選択した用紙サイズのトレイが装着、またはセットされていないとき、用紙サイズが代用されない場合は、RIP処理を中止し、エラージョブとして処理されます。
- 用紙サイズを設定していない場合は、プリントオプションテンプレートの設定の［用紙サイズ］が適用されます。
- ［トレイ2］、［トレイ3］、［トレイ4］は、3トレイモジュール（オプション）が装着されている場合に表示されます。
- ［トレイ6］は、大容量給紙トレイ1段（オプション）が装着されている場合に表示されます。

● 原稿ページ範囲

原稿のページ範囲を選択します。

・全ページ　・奇数ページ　・偶数ページ　・原稿ページ指定

原稿ページ指定

［原稿ページ範囲］が［原稿ページ指定］の場合は、ページ範囲を入力します。

ページの区切りはカンマ「,」で、連続したページはハイフン「-」で入力します。「-5」は「1～5ページまで」、「5-」は「5ページ以降」です。

● レコード分割

ジョブがレコード単位で扱われます。

しない

レコード分割をしません。

ページ数を指定

入力されたページ数ごとに区切り、レコードで分割します。

総ページ数に対して、入力されたページ数で割り切れない場合は、最後の端数ページが1つのレコードとして扱われます。

総ページ数に対して、入力されたページ数が同数以上の場合は、レコード分割されません。

入力ファイルから取得

［差し込み印刷］が設定されているジョブにだけ有効で、その他のジョブで設定した場合は、エラージョブになります。

［差し込み印刷］が設定されているジョブの場合、［差し込み印刷］で設定されているフォームのページ数ごとに分割して排出されます。

レコード区切り情報が抽出できなかった場合は、ジョブはエラーになり、エラーリストに移動します。

● ページ数

［レコード分割］が［ページ数を指定］の場合は、1レコードのページ数を入力します。入力範囲は、1～9,999です。

補足 ［レコード分割］が［入力ファイルから取得］の場合は、取得したページ数が表示されます。

● レコード指定

出力するレコードの範囲を指定する場合にチェックマークを付けます。

●レコード番号

［レコード指定］にチェックマークを付けた場合に入力します。

レコードの区切りはカンマ「,」で、連続したレコードはハイフン「-」で入力します。「-5」は「1～5レコードまで」、「5-」は「5レコード以降」です。

●用紙サイズの変更

用紙サイズを変更するときに選択します。

- 変更しない
- A6L
- A6
- A5L
- A5
- A4L
- A4
- A3
- A2L
- B6
- B5L
- B5
- B4
- B3L
- 8×10L
- 8×10
- 8.5×11L
- 8.5×11
- 8.5×13
- 8.5×14
- 11×17
- 12×18
- SRA3
- はがき
- 往復はがき
- 4連はがきL
- 4連はがき
- 封筒長形3号
- 封筒角型2号
- 封筒C4
- 封筒C5
- A6ブックレット
- A5ブックレット
- A4ブックレット
- B6ブックレット
- B5ブックレット
- 8.5×11ブックレット
- カスタム

- ［変更しない］は、クライアントコンピューターでは表示されません。
- A2L、またはB3Lを選択した場合は、1ページ分のイメージが、それぞれA3、またはB4の用紙2枚に分割されてプリントされます。
- ［RIP］＞［RIP の種類］に［APPE］を選択している場合は、分割用紙サイズ（A2L、B3L）ではプリントできません。

カスタムサイズ

［用紙サイズの変更］が［カスタム］の場合は、用紙サイズを入力します。入力範囲は、幅10.00～320.00mm/長さ10.00～482.60mmです。

補足　プリンターで使用可能な範囲のサイズを入力してください。

参照　カスタムサイズの単位は、「長さの単位」（P.271）で設定します。デフォルトは、［mm］です。

●用紙サイズに合わせる

プリントするときに用紙サイズに合わせて拡大、または縮小するかを選択します。

- しない
- 拡大縮小
- 縮小のみ

●用紙の中心にプリント

チェックマークを付けると、イメージが用紙の中央に合わせてプリントされます。

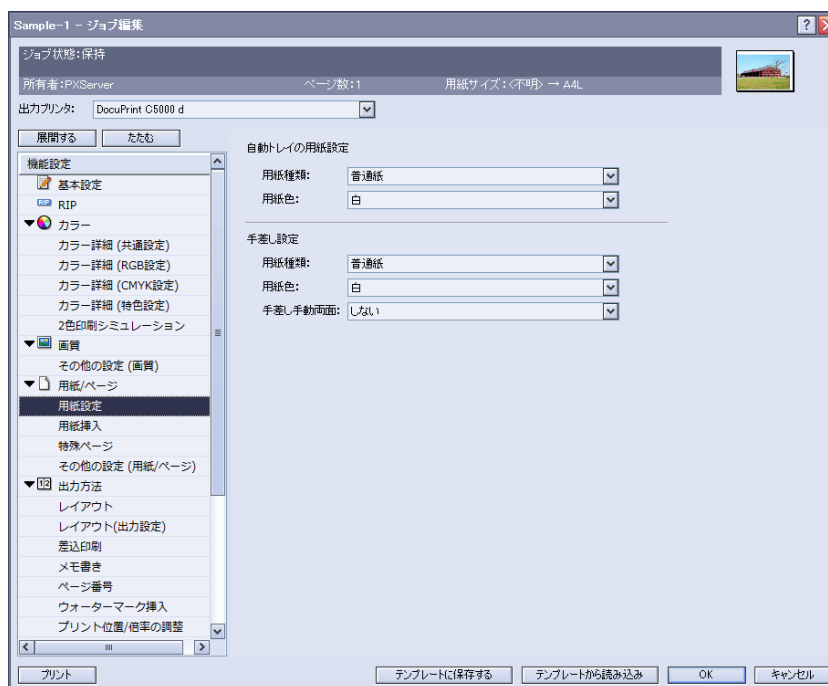
補足　グラフィックファイル以外のファイルタイプでは、［用紙サイズに合わせる］を［拡大縮小］、または［縮小のみ］にすると、無効になります。

●原稿の向き

プリントするときの原稿の向きを選択します。［ページ番号］、［ウォーターマーク挿入］、［プリント位置/倍率の調整］の［調整の基準］、［排出/フィニッシング/両面］の［ホチキス］に反映されます。

- 自動判別
- たて原稿
- よこ原稿

補足　PostScriptの設定と設定が異なる場合、この設定が優先されます。

用紙設定

■自動トレイの用紙設定

自動トレイの用紙設定は、［用紙トレイ］の設定が［自動選択］の場合に適用されます。

●用紙種類

プリントに使用する用紙の種類を選択します。

- 上質紙
- 普通紙
- うら紙
- 再生紙
- うす紙（55～59g/㎡）
- 厚紙1（106～169g/㎡）
- 厚紙1（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙1［A］（106～169g/㎡）
- 厚紙1［A］（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙1［B］（106～169g/㎡）
- 厚紙1［B］（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙1［C］（106～169g/㎡）
- 厚紙1［C］（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙1［S］（106～169g/㎡）
- 厚紙1［S］（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙2（170～256g/㎡）
- 厚紙2（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［A］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［B］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［B］（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［C］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［C］（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［D］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［D］（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙2［S］（170～256g/㎡）
- 厚紙2［S］（170～256g/㎡）うら面
- OHPフィルム
- ラベル紙
- コート紙1（106～169g/㎡）
- コート紙1（106～169g/㎡）うら面
- コート紙2（170～256g/㎡）
- コート紙2（170～256g/㎡）うら面
- ユーザー定義1～5

●用紙色

プリントに使用する用紙の色を選択します。

- 白
- 青
- 黄
- 緑
- ピンク
- アイボリー
- グレー
- クリーム
- 山吹
- 赤
- オレンジ
- 透明
- ユーザ定義色

■手差し設定

●用紙種類

プリントに使用する用紙の種類を選択します。

- 上質紙
- 普通紙
- うら紙
- 再生紙
- うす紙（55～59g/㎡）
- 厚紙1（106～169g/㎡）
- 厚紙1（106～169g/㎡）うら面
- 厚紙2（170～256g/㎡）
- 厚紙2（170～256g/㎡）うら面
- 厚紙3（257～280g/㎡）
- 厚紙3（257～280g/㎡）うら面
- OHPフィルム
- ラベル紙
- コート紙1（106～169g/㎡）
- コート紙1（106～169g/㎡）うら面
- コート紙2（170～256g/㎡）
- コート紙2（170～256g/㎡）うら面
- ユーザー定義1～5

●用紙色

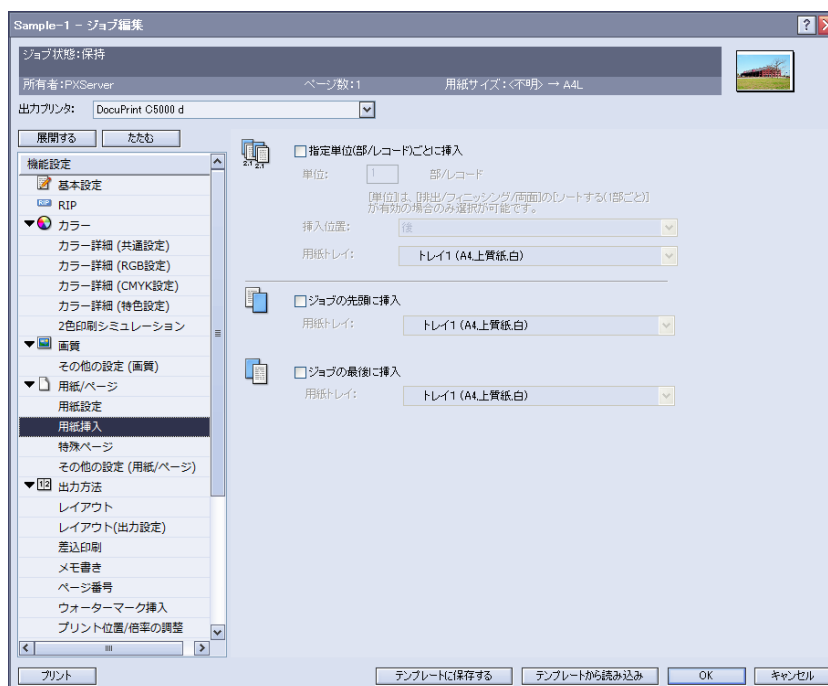
プリントに使用する用紙の色を選択します。

- 白
- 青
- 黄
- 緑
- ピンク
- アイボリー
- グレー
- クリーム
- 山吹
- 赤
- オレンジ
- 透明
- ユーザ定義色

●手差し手動両面

手差しトレイから手動で両面印刷する場合の印字面と、とじ方を設定します。

- しない
- おもて面（長辺とじ）
- おもて面（短辺とじ）
- うら面（長辺とじ）
- うら面（短辺とじ）

用紙挿入

●指定単位（部/レコード）ごとに挿入

チェックマークを付けると、用紙が挿入されてプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

単位

ジョブを複数プリントするときに、用紙を挿入するタイミングを入力します。

［排出/フィニッシング/両面］＞［ソートする（1部ごと）］にチェックマークを付けた場合は、設定した部数がプリントされるごとに用紙が挿入されます。チェックマークが外れている場合は、ページの切り替わりで用紙が挿入されます。

［レコード指定］にチェックマークを付けた場合は、レコード単位で用紙が挿入されます。

挿入位置

用紙を挿入する位置を選択します。ジョブの［前］、または［後］から選択します。

用紙トレイ

挿入用の用紙トレイを選択します。

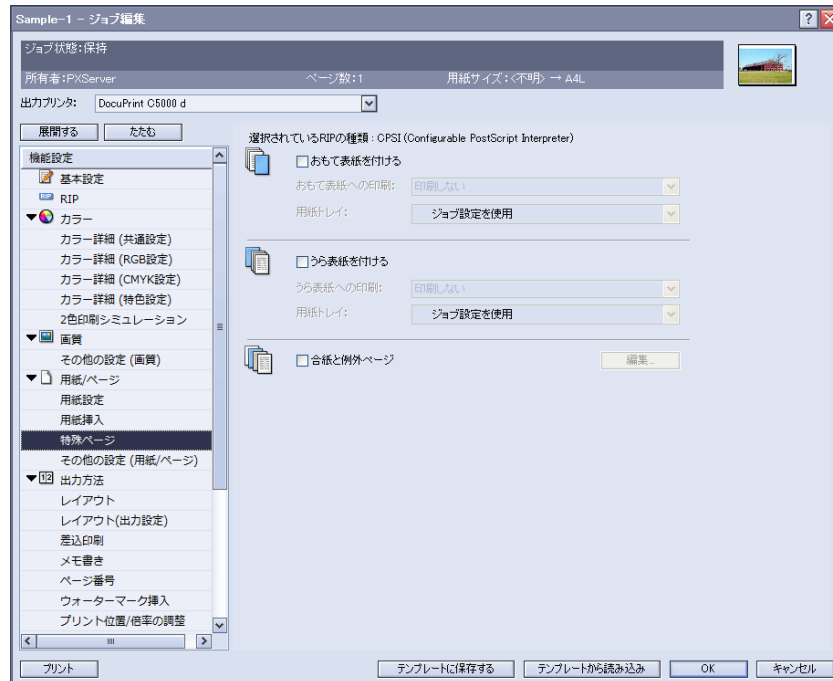
●ジョブの先頭に挿入、ジョブの最後に挿入

チェックマークを付けると、ジョブの先頭、または最後に用紙が挿入されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

用紙トレイ

挿入用の用紙トレイを選択します。

特殊ページ

表紙付け、合紙挿入、例外ページの設定ができます。

補足　この機能は、ブランクシートには適用されません。先頭ページがブランクシートの場合は、次のページに特殊ページの設定が適用されます。

■おもて表紙を付ける

チェックマークを付けると、おもて表紙が使用されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

●おもて表紙への印刷

印刷しない

表紙用の用紙には、ジョブがプリントされません。

内側へ印刷する

表紙用の用紙のおもて面には何もプリントされず、うら面にジョブの最初のページがプリントされます。

外側へ印刷する

表紙用の用紙のおもて面にジョブの最初のページがプリントされ、うら面には何もプリントされません。

両面に印刷する

表紙用の用紙の両面にジョブの最初の2ページがプリントされます。

●用紙トレイ

おもて表紙として使用する用紙トレイを選択します。［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

手差しトレイが選択された場合、用紙サイズはジョブの先頭ページの指定を使用します。ただし、分割出力用の用紙サイズの場合、複数枚がプリントされずに1枚だけプリントされます。

■うら表紙を付ける

チェックマークを付けると、うら表紙が使用されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

●うら表紙への印刷

印刷しない

表紙用の用紙には、ジョブがプリントされません。

内側へ印刷する

表紙用の用紙のおもて面にジョブの最後のページがプリントされ、うら面には何もプリントされません。

外側へ印刷する

表紙用の用紙のおもて面には何もプリントされず、うら面にジョブの最後のページがプリントされます。

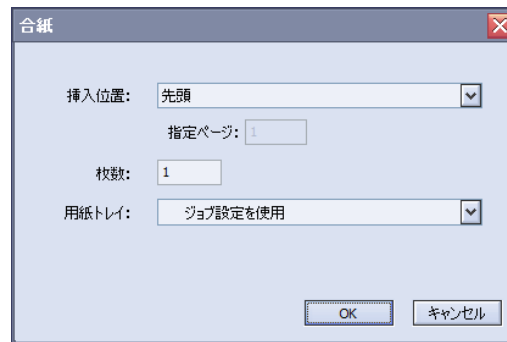
両面に印刷する

表紙用の用紙の両面にジョブの最後の2ページがプリントされます。

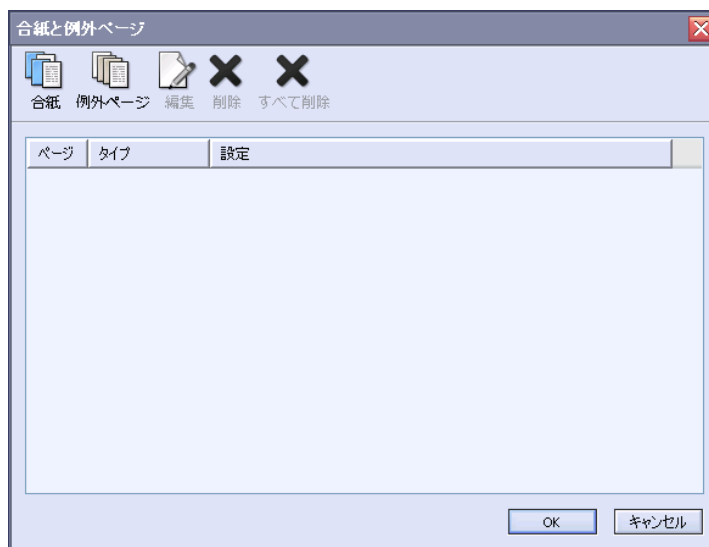
●用紙トレイ

うら表紙として使用する用紙トレイを選択します。［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

■合紙と例外ページ

チェックマークを付けると、以下の設定ができます。

・合紙

・例外ページ（ジョブの設定とは異なる設定をページ単位に行う）

設定を変更する場合は、［編集］をクリックして、［合紙と例外ページ］ダイアログボックスで設定します。

●合紙

合紙の設定ができます。

挿入位置

［先頭］、または［指定位置の後］から選択します。

指定ページ

［挿入位置］が［指定位置の後］の場合に、合紙を挿入するページを入力します。

枚数

合紙を挿入する枚数を入力します。入力範囲は、1～9,999です。

用紙トレイ

合紙として使用する用紙トレイを選択します。［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

●例外ページ

例外ページの設定ができます。

ページ範囲

例外ページとして扱うページを入力します。

ページの区切りはカンマ「,」で、連続したページはハイフン「-」で入力します。「-5」は「1 ～ 5 ページまで」、「5-」は「5ページ以降」です。

用紙トレイ

例外ページとして使用する用紙トレイを選択します。［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

両面印刷

・ジョブ設定を使用　・しない　・長辺とじ　・短辺とじ

［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されている設定が使用されます。

プリント位置の調整

・ジョブ設定を使用　・用紙基準　・原稿基準

［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されている設定が使用されます。

片面/おもて面、裏面

［プリント位置の調整］が［用紙基準］、［原稿基準］の場合は、［幅方向］と［長さ方向］を入力します。入力範囲は、－244.00～＋244.00mmです。

［幅方向］と［長さ方向］で入力した値は、プレビューには反映されない場合があります。

●編集

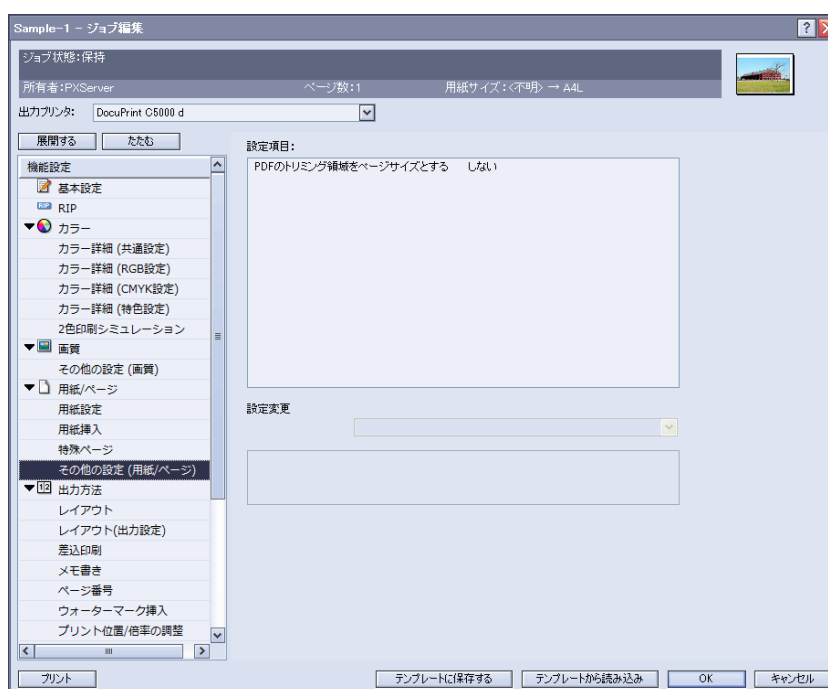
選択した設定を編集します。

●削除

選択した設定が削除されます

●すべてを削除

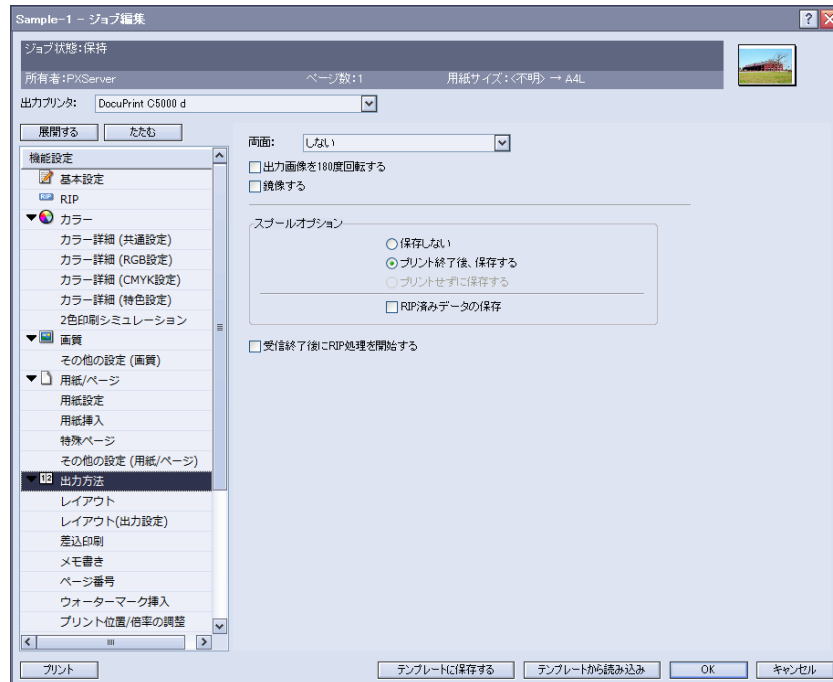
すべての設定が削除されます。

その他の設定（用紙/ページ）

●PDFのトリミング領域をページサイズとする

［する］の場合、PDFのトリミング領域がページサイズになってプリントされます。
［しない］の場合、PDFのページサイズのままプリントされます。

この機能は、［用紙トレイ］が［自動選択］の場合にだけ有効です。

4.1.7　出力方法

［出力方法］には、スプールやプリントなどに関する設定が表示されます。

●両面

両面印刷の方法を選択します。

しない

長辺とじ

用紙の長辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

縦向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされ、横向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが180°回転されます。

短辺とじ

用紙の短辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

縦向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが 180° 回転され、横向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされます。

●出力画像を180度回転する

チェックマークを付けると、イメージが180°回転します。

●鏡像する

チェックマークを付けると、イメージが左右方向に鏡像化されます。

●スプールオプション

送信されたジョブのプリント方法を選択します。

保存しない

プリントしたあと、ジョブが削除されます。

プリント終了後、保存する

プリントしたあと、Print Serverにジョブが保存されます。

プリントせずに保存する

プリントしないで、Print Serverにジョブが保存されます。

●RIP済みデータの保存

チェックマークを付けると、RIP後のデータがPrint Serverに保存されます。

［スプールオプション］が［プリント終了後、保存する］、または［プリントせずに保存する］の場合にだけ有効です。

・［スプールオプション］で［保存しない］が選択されていると、RIP済みデータは保存されません。
・［RIP済みデータの保存］と［プリフライト］>［RIP後のデータをファイルに保存］>［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］の両方を選択している場合、TIFF（またはPDF）ファイルだけが作成され、RIP済みデータは作成されません。

●受信終了後にRIP処理を開始する

チェックマークを付けると、データをすべて受信し終わってからRIP処理が開始されます。

チェックマークを外すと、受信しながらRIP処理が行われます。

チェックマークが外れている場合、RIP中のほかのデータがあると、そのデータのRIP処理が終わるまで、次のRIP処理は行われません。

レイアウト

小冊子作成、リピートプリントの設定ができます。

レイアウトについては、「1.2.1 小冊子作成」（P.30）、「1.2.3 リピートプリント」（P.36）を参照してください。

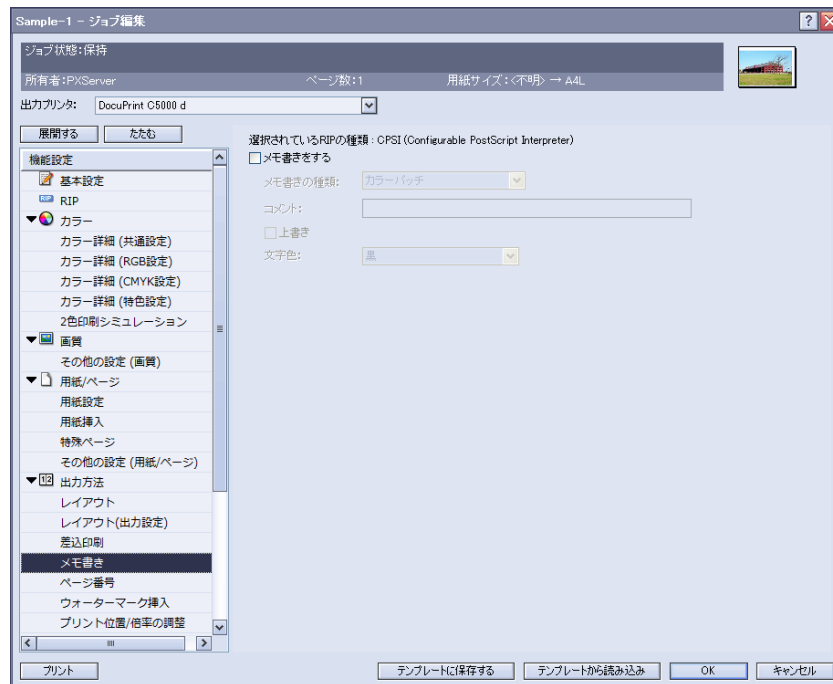
レイアウト（出力設定）

［レイアウト］で、［小冊子］を選択すると設定できます。

レイアウト（出力設定）については、「1.2.1 小冊子作成」（P.30）を参照してください。

差込印刷

差込印刷については、「1.2.4 差込印刷」（P.39）を参照してください。

メモ書き

■メモ書きをする

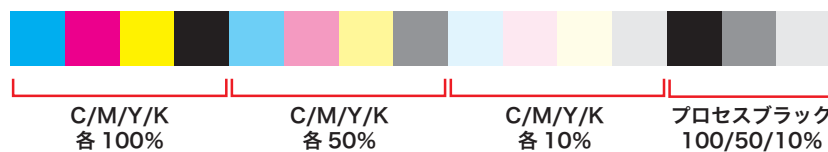
チェックマークを付けると、ジョブにカラーパッチやコメントなどを重ねてプリントできます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

●メモ書きの種類

メモ書きされる種類を選択します。

カラーパッチ

CMYK、およびプロセスブラックについて、100%、50%、10%の3種類、計15パッチが各1×1cmの大きさで印字されます。

■カラーパッチ（1×1cm、計15パッチ）

パッチの設定を変更できます。詳細は、「7.1.9 メモ書きの変更」（P.362）を参照してください。

オプションメモ

プリントオプションの設定がプリントされます。

・メモとして印字する項目は変更できます。詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「オプションメモの設定」を参照してください。
・使用するフォントなどを変更できます。詳細は、「7.1.9 メモ書きの変更」（P.362）を参照してください。

コメント

［コメント］に入力した文字列が印字されます。

カスタム＊（＊は1～10）

独自の形式のメモ書きを設定できます。デフォルトでは、「custommemo＊.ps」（＊は1～10を示す）の各PostScriptファイルの設定により、ジョブごとに日付やカンプ番号などの要素がプリントされます。

参照 各PostScriptファイルによってプリントされる要素や設定の方法は、「7.1.9 メモ書きの変更」（P.362）を参照してください。

［カスタム1］を選択してRIPカウンターをメモ書きに出力する場合、複数部数、または複数ページのファイルでは、すべてのページに同じ番号がプリントされます。RIPカウンターの値は、RIP処理のたびに、またキャンセル、エラー、およびWindowsからのフォントダウンロードのときにも、カウントアップされます。

この番号は、カンプ番号を想定したものです。複数部のプリントを行い、出力先と遠隔地、または複数部署で校正するような場合、編集や修正によるバージョンの不整合が発生しないように、この番号で確認できます。

● コメント

［メモ書きの種類］が［コメント］の場合に、印字する文字列を64バイト以内で入力します。

● 上書き

チェックマークを付けると、ジョブの上にメモが重なってプリントされます。

チェックマークを外すと、メモの上にジョブが重なってプリントされます。

● 文字色

メモ書きの文字色を選択します。［メモ書きの種類］が［カラーパッチ］以外の場合に選択できます。

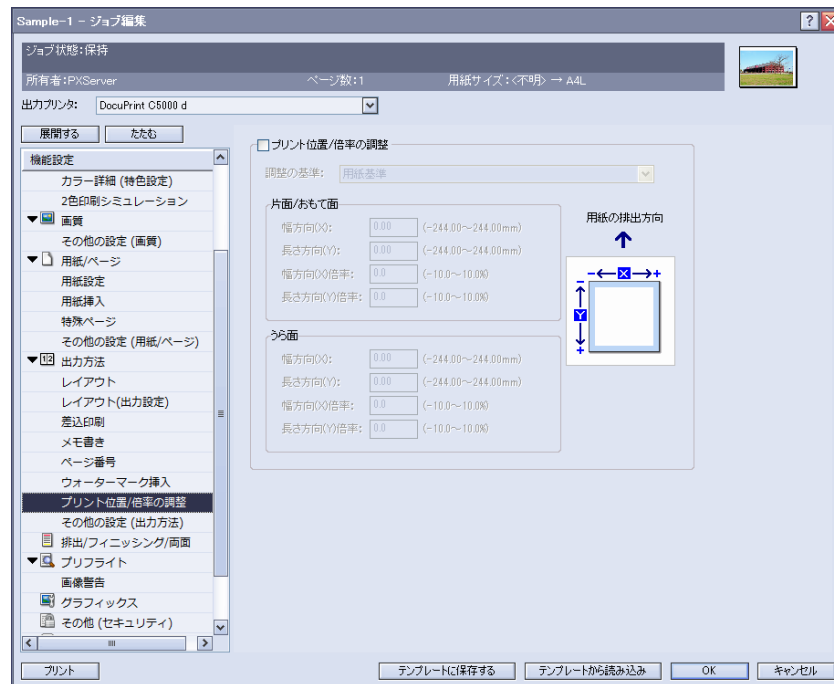
- 黒
- 白
- 赤
- 緑
- 青
- シアン
- マゼンタ
- イエロー

ページ番号

参照 ページ番号については、「4.2.3 ページ番号設定ファイルの設定」（P.276）を参照してください。

ウォーターマーク挿入

ウォーターマーク挿入については、「4.2.2 ウォーターマークの設定」（P.272）を参照してください。

プリント位置/倍率の調整

■プリント位置/倍率の調整

チェックマークを付けると、プリント位置/倍率を調整できます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

●調整の基準

調整をする場合の基準を選択します。

用紙基準

原稿の向きにかかわらず用紙の排出方向が基準とされます。

原稿基準

原稿の左上を基準として用紙の排出方向にかかわらず同じ位置に移動します。

●片面/おもて面、うら面

調整をする場合の調整量を入力します。

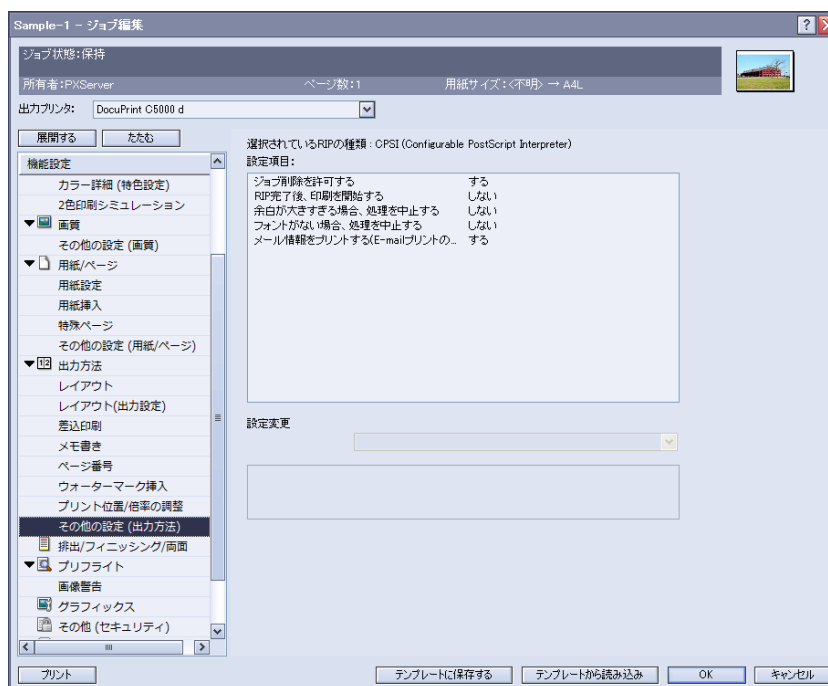
- ウォーターマークを設定している場合、ウォーターマークのプリント開始位置はマイナス方向には移動されません。
- リピートプリントをした場合、プリント開始位置はマイナス方向には移動されません。また、倍率の設定は無効になります。

幅方向、長さ方向

入力範囲は、－244.00～＋244.00mmです。

幅方向倍率、長さ方向倍率

入力範囲は、－10.0～＋10.0%です。

その他の設定（出力方法）

●ジョブ削除を許可する

［しない］の場合、Print Serverでのジョブの削除が許可されません。

●RIP完了後、印刷を開始する

プリント開始のタイミングを設定します。

［する］の場合、すべてのRIP処理完了後にプリントデータの送信が開始されます。

［しない］の場合、ただちにプリントデータの送信が開始されます。

●余白が大きすぎる場合、処理を中止する

［する］の場合、プリントデータのページサイズが用紙サイズよりも幅方向、長さ方向ともに20mm以上小さい場合に、プリントが中止されてジョブがエラーリストに移動します。

［しない］の場合、そのままプリントされます。

●フォントがない場合、処理を中止する

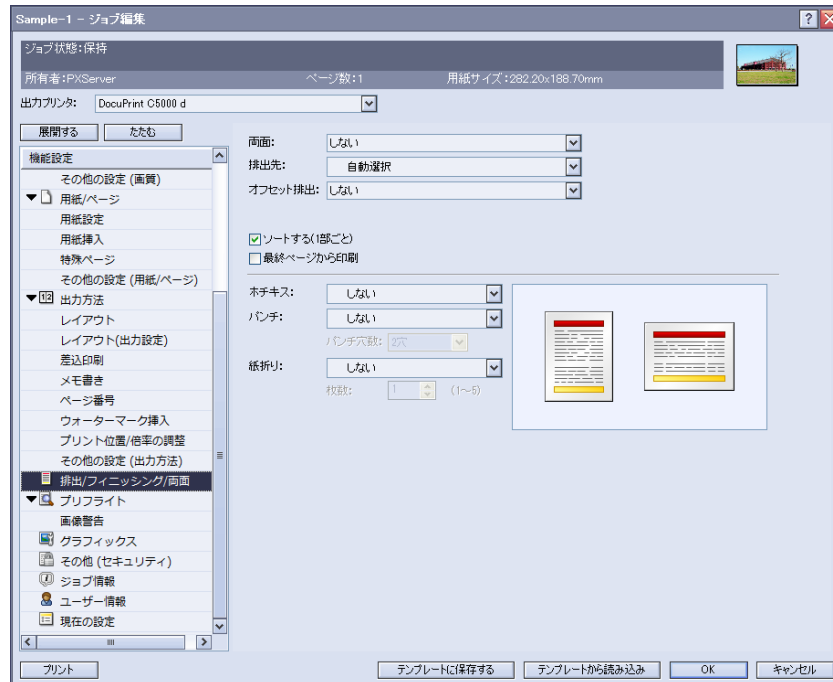
［する］の場合、PostScript ファイルのプリント時に該当するフォントがない場合に、プリントが中止されてジョブがエラーリストに移動します。

［しない］の場合、代替フォントでプリントされます。

●メール情報をプリントする（E-mailプリントのみ）

［する］の場合、メールのヘッダー情報がプリントされます。

4.1.8　排出/フィニッシング/両面

［排出/フィニッシング/両面］には、用紙の排出に関する設定が表示されます。

● 両面

両面印刷の方法を選択します。

しない

長辺とじ

用紙の長辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

縦向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされ、横向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが180°回転されます。

短辺とじ

用紙の短辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

縦向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが 180° 回転され、横向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされます。

● 排出先

プリントされた用紙の排出先を選択します。

- 自動選択
- インナー排出トレイ
- サイドトレイ
- フィニッシャートレイ
- フィニッシャー排出トレイ

- オプション装置のインナー排出トレイが装着されている場合にだけ、インナー排出トレイに排出できます。
- オプション装置のサイドトレイが装着されている場合にだけ、サイドトレイに排出できます。
- オプション装置のフィニッシャーが装着されている場合にだけ、フィニッシャートレイ、またはフィニッシャー排出トレイに排出できます。

●オフセット排出

排出される用紙をずらす方法を選択します。

しない

オフセット排出をしません。

1部ごと（レコードごと）

1部ごとにずらして排出されます。

ジョブごと

ジョブ単位でずらして排出されます。

●ソートする（1部ごと）

チェックマークを付けると、複数ページのファイルを複数部数プリントするときに、部単位でまとめてプリントされます。

●最終ページから印刷

チェックマークを付けると、最後のページからプリントされます。

●ホチキス

ホチキスどめする位置を選択します。

- しない
- 左上1ヵ所
- 右上1ヵ所
- 左下1ヵ所
- 右下1ヵ所
- 上2ヵ所
- 下2ヵ所
- 左2ヵ所
- 右2ヵ所
- 中とじ
- 中とじ（開始面が内側）
- 中とじ（開始面が外側）
- 上4ヵ所
- 下4ヵ所
- 左4ヵ所
- 右4ヵ所

補足
- オプション装置のフィニッシャーを装着している場合にだけ、ホチキスどめができます。
- オプション装置の中とじフィニッシャー C1が装着されている場合にだけ、[中とじ]、[中とじ（開始面が内側）]、または［中とじ（開始面が外側）］でホチキスどめができます。
- ［中とじ（開始面が内側）］、または［中とじ（開始面が外側）］の場合、［最終ページから印刷］は設定できません。

●パンチ

パンチする位置を選択します。

- しない
- 左
- 右
- 上
- 下

補足　オプション装置のフィニッシャー C1、または中とじフィニッシャー C1 を装着している場合にだけ、パンチができます。

パンチ穴数

［パンチ］が［しない］以外の場合、パンチの穴数を選択します。

- 2穴
- 4穴
- 3穴

補足　オプション装置のフィニッシャー C1、または中とじフィニッシャー C1 を装着している場合にだけ、パンチができます。

●紙折り

紙折りの設定を選択します。

- しない
- 二つ折り

補足　オプション装置のフィニッシャーC1、または中とじフィニッシャーC1が装着されている場合にだけ、紙折りができます。

枚数

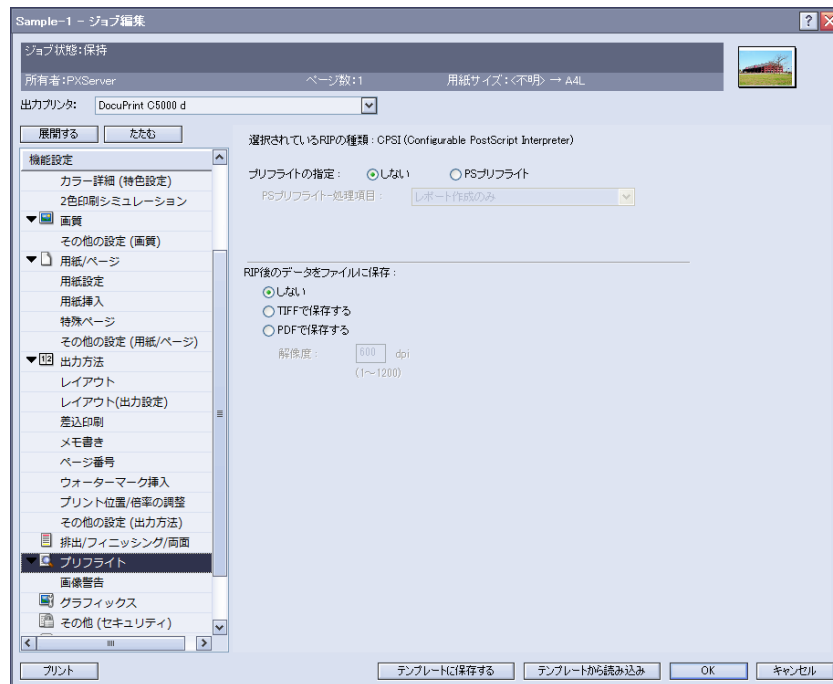
紙折りの枚数を入力します。入力範囲は、1～5です。

［紙折り］が［二つ折り］の場合に入力します。

ジョブの総ページ数、［部数］、および［ソートする（1部ごと）］の設定によって、入力した枚数で紙折りがされないことがあります。

4.1.9　プリフライト

［プリフライト］には、プリント前にジョブを確認するための機能の設定が表示されます。

プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスやWebManagerでは、さらにPSプリフライトレポートについて、しない/レポート作成/レポート印刷の選択ができます。
PSプリフライトレポートについては、「PSプリフライト」（P.26）を参照してください。

■プリフライトの指定

プリフライトの指定については、「1.1.4 プリフライト」（P.25）を参照してください。

■RIP後のデータをファイルに保存

［TIFF で保存する］、または［PDF で保存する］を選択すると、ジョブの RIP 後のイメージが TIFF、または PDF ファイルとしてPrint Server に保存されます。

保存されたファイルは、プリント結果をプレビューで確認する場合に使用することができます。

保存したファイルは、WebManagerを使用してブラウザーから取り出します。

Windows クライアントからは共有フォルダを使用して、Macintosh クライアントからは AppleShare を使用して、ファイルを取り出すこともできます。

- ［出力方法］＞［RIP 済みデータの保存］と［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］の両方を選択している場合、TIFF（またはPDF）ファイルだけが作成され、RIP済みデータは作成されません。
- ［レイアウト］＞［小冊子］が選択されているときは、無効になります。

ファイルの取り出し方法については、「1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認」（P.27）を参照してください。

● TIFFで保存する

TIFF ファイルは、1ページにつき1ファイルが作成され、ファイルが複数ページある場合は、ページ数と同じだけのTIFFファイルが作成されます。

作成されるTIFFファイルのファイル名は、「ジョブ名.p＊.tif」（＊にはページ番号が入ります）です。

●PDFで保存する

この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、RIP確認用PDFファイル保存はできません。ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。

PDFファイルは、1ジョブで1ファイル（ただし1000ページまで）作成されます。

作成されるPDFファイルのファイル名は、は「ジョブ名+_ripped_＊.pdf」（＊にはページ番号が入ります）です。

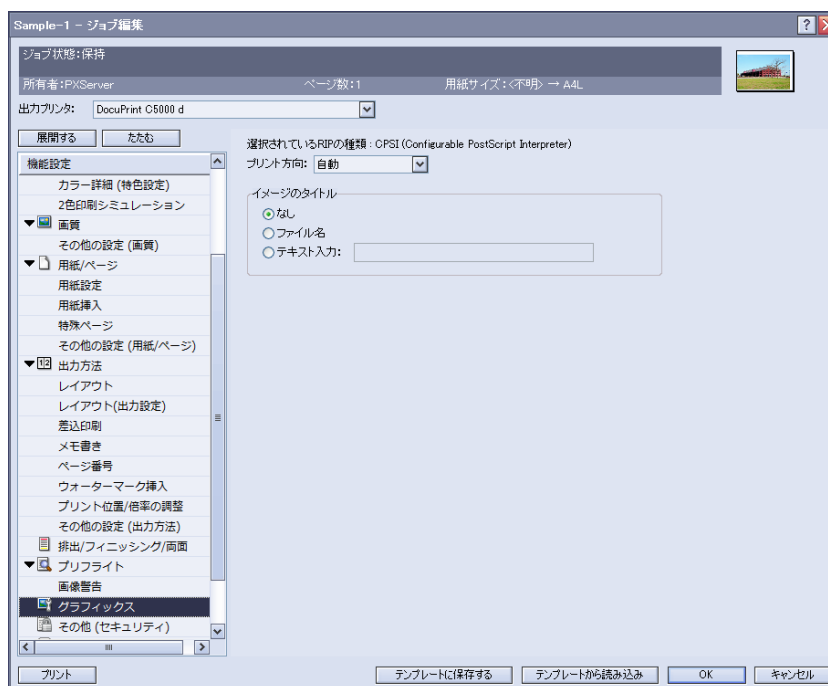
●解像度

解像度を入力します。入力範囲は、1～1,200dpiです。

画像警告

画像警告については、「1.1.3 画像警告機能」（P.19）を参照してください。

4.1.10 グラフィックス

［グラフィックス］は、DropUtility、ServerManager、WebManagerでEPS、TIFF、JPEGファイルをプリントするときに設定できます。プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスからは設定できません。

●プリント方向

イメージの向きを選択します。

自動

イメージの長辺と用紙の長辺を平行にし、イメージが用紙の中心になるようにプリントされます。

縦

イメージの天が用紙の短辺を向くようにし、イメージが用紙の中心になるようにプリントされます。

横

イメージの天が用紙の長辺を向くようにし、イメージが用紙の中心になるようにプリントされます。

●イメージのタイトル

ファイル名、または［テキスト入力］に入力した文字列とイメージを一緒にプリントするかどうかを選択します。

なし

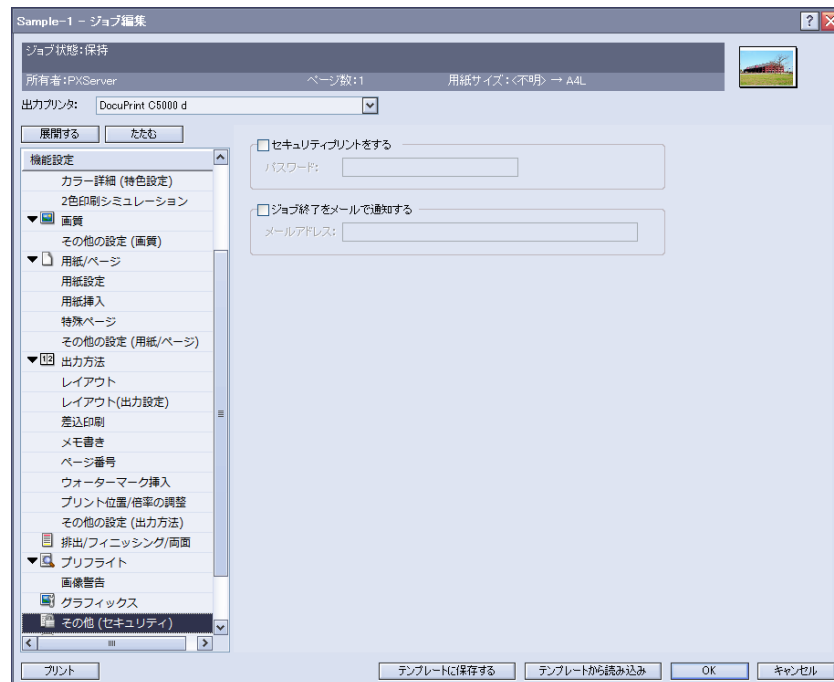
タイトルなしでファイルがプリントされます。

ファイル名

イメージのファイル名がタイトルとしてプリントされます。

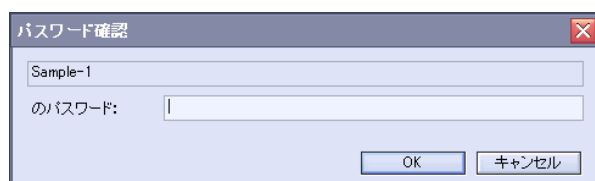
テキスト入力

入力した文字列がタイトルとしてプリントされます。31バイト以内で入力します。

4.1.11 その他（セキュリティ）

●セキュリティプリントをする

セキュリティプリントとは、ファイルにパスワードを設定し、ServerManager や WebManager での第三者によるジョブの操作を制限する機能です。機密性の高いファイルをプリントする場合に設定します。

セキュリティプリントを設定したファイルは、ログオフ時、および一般ユーザーモードでは、ServerManager で選択してもプレビュー表示されません。

また、一般ユーザーモードで、そのファイルに対してジョブの操作をしようとすると、［パスワード確認］ダイアログボックスが表示され、ファイルに設定されているパスワードを入力する必要があります。

ServerManager に管理者モードでログインしている場合は、プレビュー表示されます。また、パスワードを入力せずに操作できます。

チェックマークを付けると、ファイルにパスワードによる保護がかかります。

セキュリティプリントが設定されているファイルは、ServerManager でパスワードを入力しないと操作ができなくなります。ただし、管理者モードでログインした場合は、操作できます。

パスワード

［セキュリティプリントをする］にチェックマークを付けた場合に、パスワードを入力します。

パスワードとして入力できるのは、1バイト文字だけで、5～31バイトの範囲です。

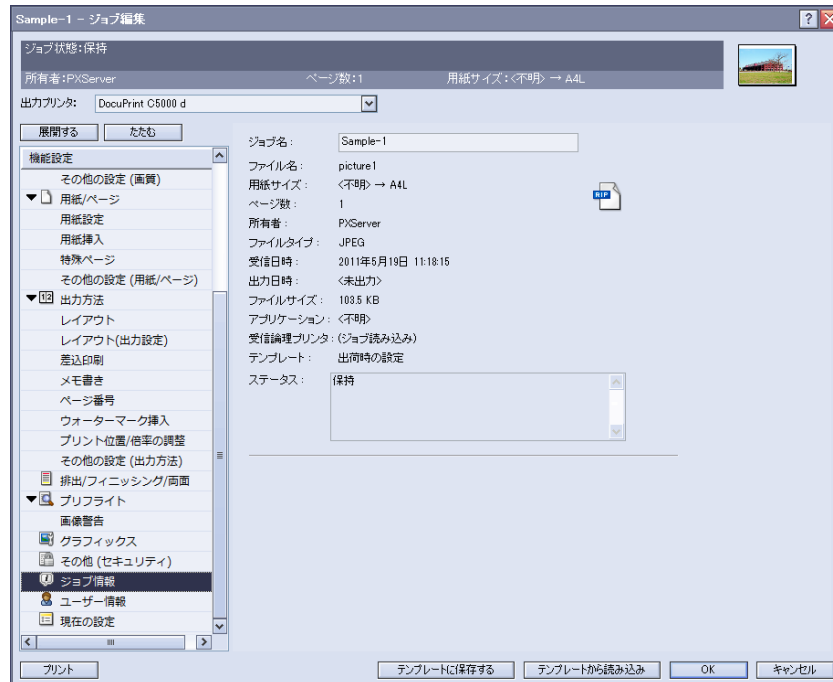
●ジョブ終了をメールで通知する

チェックマークを付けると、ジョブが終了、またはエラーが発生した場合に、設定したアドレスにメールで通知されます。

メールアドレス

［ジョブ終了をメールで通知する］にチェックマークを付けた場合に、メールアドレスを 128 バイト以内で入力します。128バイト以内なら、複数のメールアドレスを入力できます。メールアドレスとメールアドレスの間は、スペース、またはセミコロン「;」で区切ります。

4.1.12 ジョブ情報

［ジョブ情報］には、ジョブ名や受信日時などのプロパティ情報が表示されます。

● ジョブ名

クライアントコンピューターから送信されたジョブのファイル名が表示されます。

ジョブリストに表示されるジョブ名を変更できます。

● ファイル名

ファイル名が表示されます。

● 用紙サイズ

プリントオプションで設定したファイルの用紙サイズが表示されます。

RIP 処理をした場合は、もとの用紙サイズと最後のイメージサイズが「もとの用紙サイズ→最後に RIP 処理したときのイメージサイズ」で表示されます。

用紙サイズが設定されていない場合は、「不明」と表示されます。

● ページ数

ファイルのページ数が表示されます。

● 所有者

ジョブを送信した所有者名が表示されます。所有者は、クライアントコンピューターごとに異なります。

Macintosh

Macintosh クライアントの所有者名が表示されます。

Windows

Windows クライアントへのログイン名が表示されます。

ホットフォルダ

ファイルからユーザー名を取得できる PostScript ファイルの場合は、ユーザー名が表示されます。それ以外の場合は「不明」と表示されます。

Lpr

ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。それ以外の場合は、「lprユーザー」と表示されます。

DropUtility

Macintoshクライアントの所有者名、またはWindowsクライアントへのログイン名が表示されます。

WebManager

アップロードプリントの場合は、WebManagerのログイン名が表示されます。WebManagerにログインしていない場合は「Webユーザー」と表示されます。

ジョブの読み込み

ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。それ以外の場合はログイン名が表示されます。

●ファイルタイプ

ファイルのフォーマットが表示されます。ファイルタイプには、以下の種類があります。

- PostScript
- PDF
- EPS
- TIFF
- JPEG
- ビルドジョブ
- 不明

●受信日時

Print Serverがファイルを受信した日時が表示されます。

●出力日時

ファイルをプリントした日時が表示されます。

●ファイルサイズ

ファイルのファイルサイズが表示されます。

●アプリケーション

ファイルを作成したアプリケーションが表示されます。アプリケーションによっては、プリンタードライバーの名称などが表示される場合があります。

●受信論理プリンタ

ジョブの受信プロトコルが表示されます。

●テンプレート

最後に適用されたプリントオプションテンプレートの名称が表示されます。

●ステータス

ジョブの処理状況や、エラーメッセージが表示されます。

RIPエラー、PostScriptエラーの場合は、右側に表示されている［詳細］をクリックすると、エラーの詳細が記述されたダイアログボックスが表示されます。

エラーメッセージの内容と対処方法については、「6.3 エラージョブメッセージについて」（P.333）を参照してください。

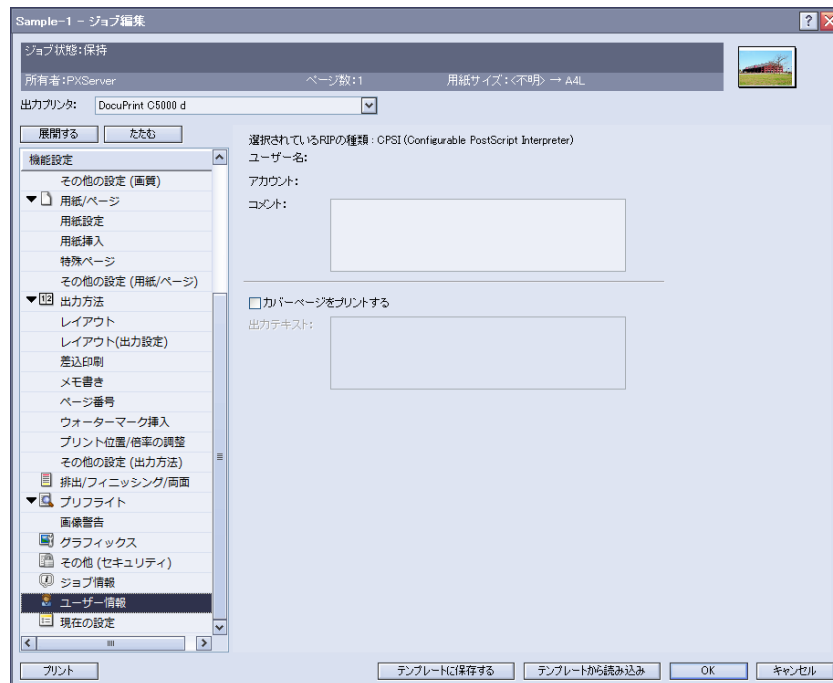
●プレビュー画像

ジョブがプレビューを保存している場合は、右上に1ページ目の画像が表示されます。

● 保持データ

ジョブがデータを保持している場合は、右側にアイコンが表示されます。アイコンには、以下の４種類があります。

アイコン	説明
	PSプリフライトレポートを保持しています。
	RIP済みデータを保持しています。
	TIFFファイルを保持しています。

4.1.13 ユーザー情報

● ユーザー名

プリンタードライバーなどで入力したユーザー名が表示されます。

● アカウント

プリンタードライバーなどで入力したアカウントが表示されます。

● コメント

ジョブに関する追加情報を255バイト以内で入力します。（改行はできません）制御文字以外の文字列を使用します。

コメントは、プリント履歴に記録されます。

● カバーページをプリントする

チェックマークを付けると、ジョブの最後に、[出力テキスト] に入力した文字列が印字されたカバーページがプリントされます。

出力テキスト

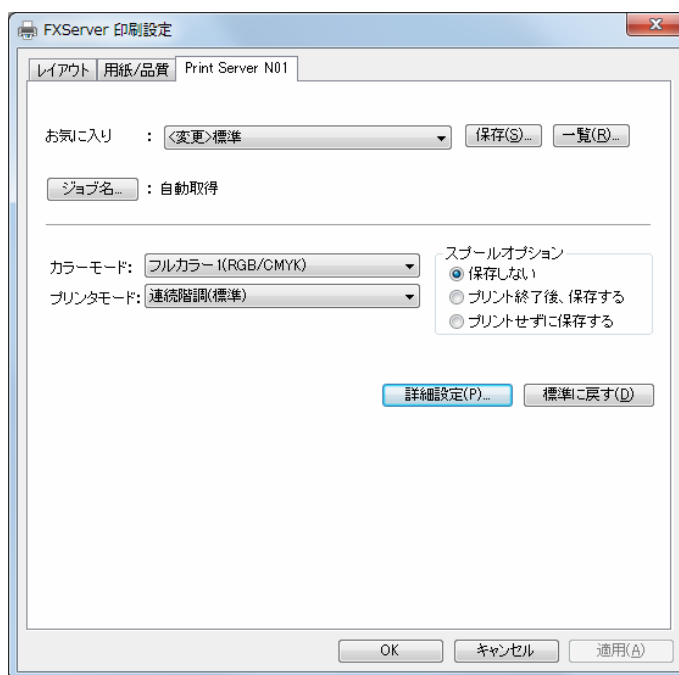
[カバーページをプリントする] にチェックマークを付けた場合に、印字する文字列を512バイト以内（Mac OS Classicでは255バイト以内で改行はできません）で入力します。

4.1.14 プリンタードライバーのプリントオプション項目

プリンタードライバーで表示される独自の項目について説明します。その他のプリントオプションの項目については、該当するページを参照してください。

プリンタードライバーでは設定できないプリントオプション項目（[ジョブ編集] だけで設定可能な項目）があります。

■ Print Server N01 タブ

[Print Server N01] タブには、プリントオプションの中でよく利用される項目が集められています。Macintosh、およびWindowsクライアントのプリンタードライバーで表示されます。[Print Server N01] タブ固有の項目は、以下のとおりです。

● お気に入り

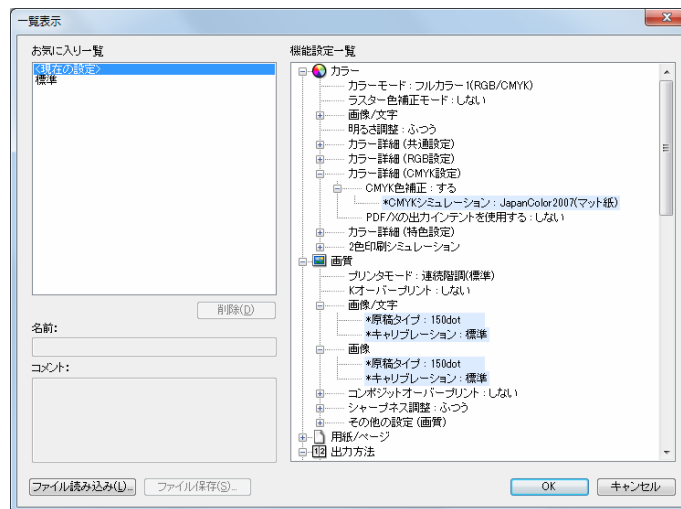
保存

クリックすると、プリント設定をお気に入りとして保存しておくことができます。

[標準] からプリント設定内容を変更すると、「<変更>標準」という名称に変わります。

名前と必要に応じてコメントを入力し、[保存] をクリックします。

一覧

クリックすると、保存されているプリント設定の一覧が表示されます。

- プリント設定を読み込むときは、［ファイル読み込み］をクリックし、読み込むプリント設定を選択します。
- プリント設定を削除するときは、プリント設定を選択し、［削除］をクリックします。ただし、「標準」は削除できません。

●ジョブ名

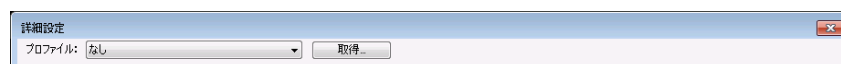
通常は、自動で取得されます。ジョブの名称を指定するときは、クリックしたあと、［ジョブ名を入力する］を選択し、名称を入力します。

●標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

■詳細設定

プリントに関する詳細な設定ができます。（プリントオプションが表示されます）

●プロファイルの取得

［取得］をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名（またはIPアドレス）を入力します。

プロファイルの設定は、WebManager からもダウンロードすることができます。プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManager で設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などをクライアントコンピューターのプリンタードライバーの設定画面に表示できます。詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」（P.308）を参照してください。

4.2 プリント時に使用する各種設定を登録する

プリントする前にあらかじめ登録しておくと便利な項目について説明します。

4.2.1 通信設定、表示単位の変更

クライアントコンピューターからPrint Serverへの接続に関する設定を行います。

サーバーの通信設定

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［サーバーの通信設定］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● ポート番号

クライアントコンピューターから接続するポート番号を入力します。入力範囲は、49152～65535です。

● 最大接続クライアント数

Print Serverに、同時に接続できるクライアントコンピューター数を入力します。入力範囲は、0～20です。

● アドレス制限

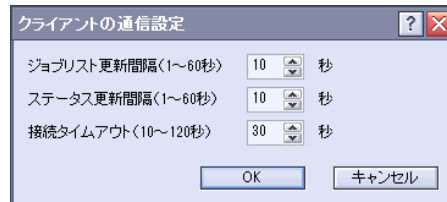
チェックマークを付けると、クライアントコンピューターのServerManagerからの使用が制限されます。チェックマークを付けた場合は、接続を許可するアドレスを入力します。

- チェックマークを付けた場合、アドレスを入力しない（空欄）と、すべてのクライアントコンピューターから接続できません。
- 複数のアドレスを入力する場合は、カンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。
- 設定を有効にするには、Print Serverの再起動が必要です。

クライアントの通信設定

クライアントコンピューターのServerManagerにだけ表示されます。

操作手順

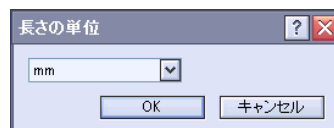
1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［クライアントの通信設定］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● **ジョブリスト更新間隔**
ジョブリストの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。

● **ステータス更新間隔**
ステータスの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。

● **接続タイムアウト**
Print Serverへの接続タイムアウト時間を入力します。入力範囲は、10～120秒です。

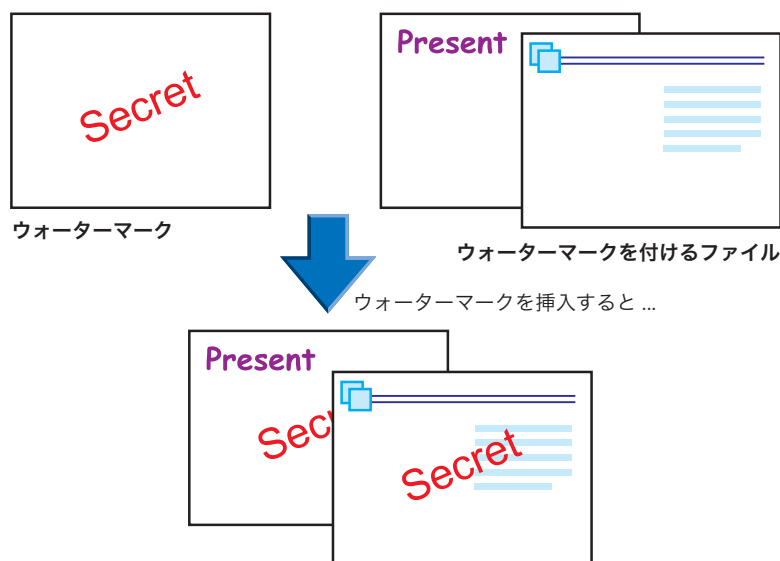
長さの単位

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［長さの単位］を選択します。
2. 長さの単位を選択し、［OK］をクリックします。

・mm　　・pt　　・inch　　・級

補足　プリントオプションの［プリフライト］>［画像警告］>［ヘアライン警告］>［警告幅］は、単位の設定にかかわらず、pt表示です。

4.2.2　ウォーターマークの設定

ウォーターマークとは、ジョブの前面、または背面にプリントされる文字、またはグラフィックです。100個まで登録できます。
ウォーターマークを作成して登録しておくと、簡単な操作だけでウォーターマークを入れてプリントできます。

補足　ウォーターマークは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。

ウォーターマークの作成

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［ウォーターマーク管理］を選択します。

［ウォーターマーク管理］ダイアログボックスが表示されます。

①上段のリスト

ウォーターマークが一覧表示され、番号、ウォーターマーク名、カラーを確認できます。

新規に作成したウォーターマークには、RIP済みデータの作成が必要なことを示す「*」が表示されます。

ウォーターマークをダブルクリックすると、［名前］（変更可能）、［作成に使ったジョブの名前］、［用紙サイズ］、［カラー］の情報が表示されます。

②下段のリスト

ServerManagerの保持、およびエラーリストにあるジョブが表示されます。

APPEのジョブやビルドジョブは表示されません。

③右側のプレビューエリア

上段、および下段のリストで選択されたウォーターマーク、およびジョブの１ページ目のプレビューが表示されます。

利用ジョブの一覧表示

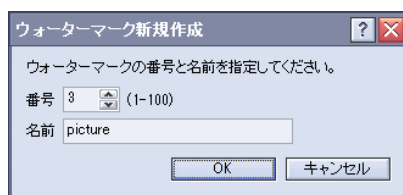
上段のリストで選択したウォーターマークを使用しているジョブの一覧が表示されます。

削除

上段のリストで選択したウォーターマークが削除されます。

2. 下段のリストからウォーターマークとして登録するジョブを選択し、［新規作成］をクリックします。

補足　ジョブを上段のリストの登録する番号にドラッグ＆ドロップしても、ウォーターマークとして登録できます。

3. ［番号］にウォーターマーク番号、［名前］にウォーターマーク名を入力し、［OK］をクリックします。

- **番号**
  入力範囲は1～100です。
- **名前**
  255バイト以内で入力します。

4. ［ウォーターマーク管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

ウォーターマークのRIP済みデータの作成が開始されます。

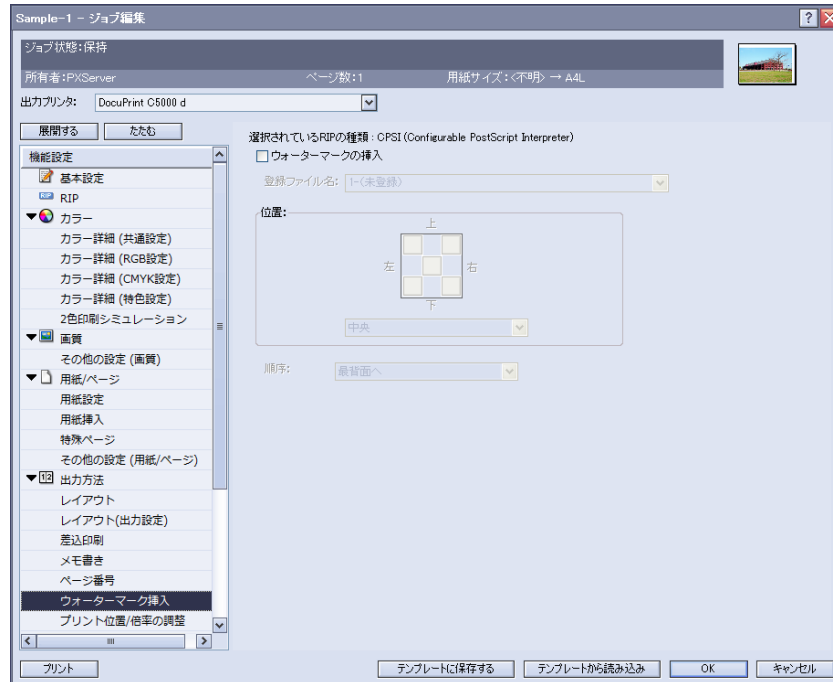
ウォーターマークは、0°、90°、180°、270°の4種類が作成され、挿入するジョブのプリントオプションによって使用するウォーターマークが自動で決まります。

ウォーターマークの設定

操作手順

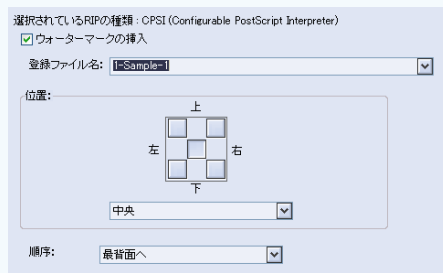
1. プリントオプションを表示させます。

プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［ウォーターマーク挿入］を選択します。

設定項目が表示されます。

参照　各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（ウォーターマーク挿入）」（P.275）を参照してください。

3. ［ウォーターマークの挿入］にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定（ウォーターマーク挿入）

項目		説明
ウォーターマークの挿入		チェックマークを付けると、ウォーターマークを挿入してプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。
	登録ファイル名	登録済みのウォーターマークを選択します。
	位置	ウォーターマークを挿入する位置を選択します。位置のボタンをクリックしても選択できます。 ・左上　・右上　・左下 ・右下　・中央
	順序	ウォーターマークを重ねる順序を選択します。 ・最背面へ　・最前面へ（画像領域は除く）・最前面へ 補足　プリントオプションの［プリント位置/倍率の調整］で「+」の方向に調整しても、ウォーターマークだけ移動されません。

4.2.3 ページ番号設定ファイルの設定

ページ番号を各ページに挿入できます。

ページ番号の位置やサイズを登録しておくと、簡単な操作だけでページ番号を入れてプリントできます。

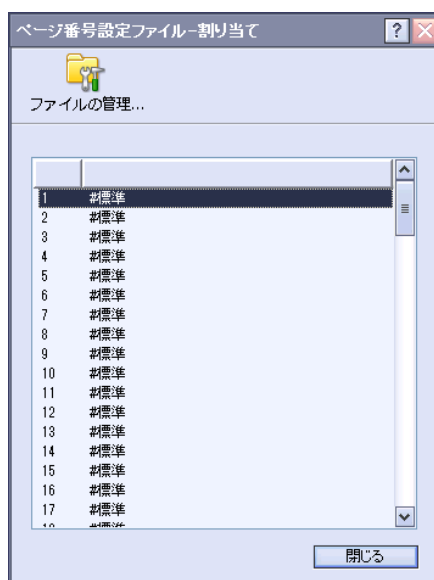
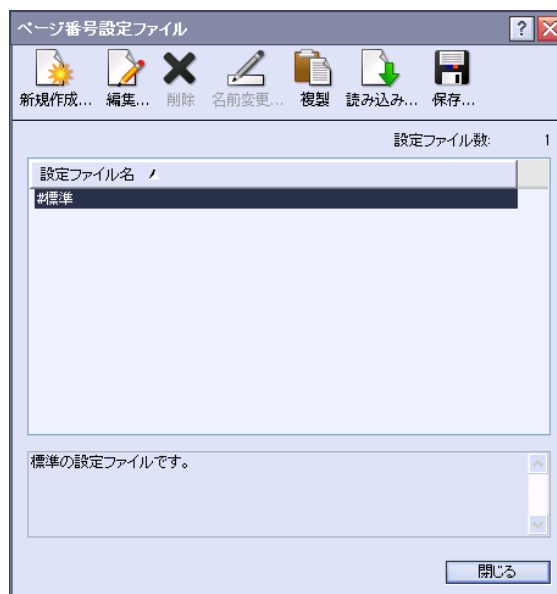
ページ番号設定ファイルは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。

ページ番号設定ファイルの作成

プリントに適用するページ番号設定ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

読み込んだページ番号設定ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［ページ番号設定ファイルの管理］を選択します。
2. ［ファイルの管理］をクリックします。

3. ［新規作成］をクリックします。

4. ［名前］と必要に応じて［コメント］を入力し、［OK］をクリックします。

名前

31バイト以内で入力します。

コメント

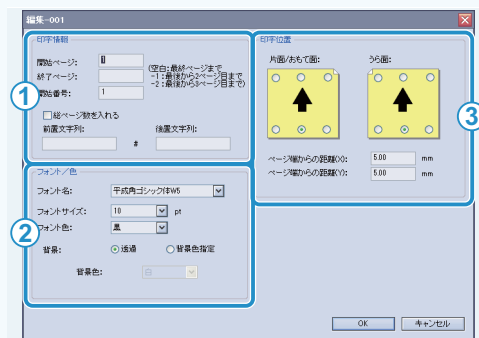
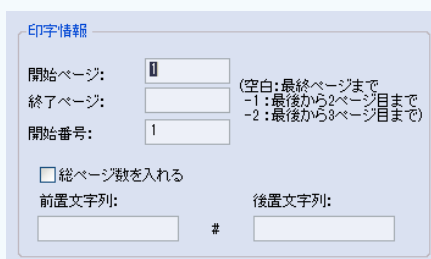
1,024バイト以内で入力します。

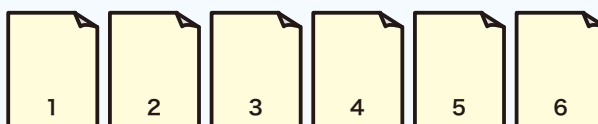
5. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

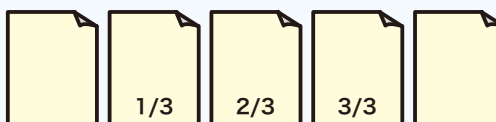
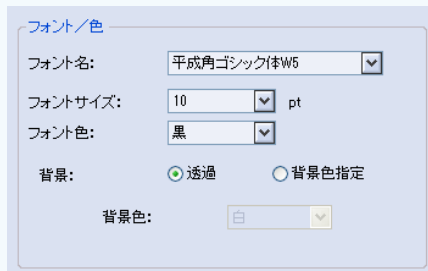
参照　各項目の詳細は、「［編集-XXX］ダイアログボックス　（ページ番号）」（P.278）を参照してください。

[編集-XXX] ダイアログボックス (ページ番号)

[編集 -XXX] ダイアログボックスでは、以下の項目を設定できます。

[XXX] に入る文字列は、ユーザーの設定により異なります。

①印字情報

ページ番号、追加文字列などの印字情報を設定します。

例1) ファイルのページ数6、開始ページ [1]、終了ページ [空白]、開始番号 [1]

例2) ファイルのページ数6、開始ページ [3]、終了ページ [5]、開始番号 [10]

例3) ファイルのページ数5、開始ページ [2]、終了ページ [4]、開始番号 [1]、[総ページ数を入れる] にチェックマークあり

例4) ファイルのページ数5、開始ページ [2]、終了ページ [4]、開始番号 [2]、[総ページ数を入れる] にチェックマークあり

項目	説明
開始ページ	ページ番号の印字を開始するページを入力します。 開始ページ、および終了ページを指定した結果、ページ番号を印字する開始ページと（ページ番号を印字する）終了ページが逆になる場合、ページ番号は印字されません。 補足　設定した値がファイルのページ数よりも大きい場合、ページ番号は印字されません。
終了ページ	ページ番号の印字を終了するページを入力します。 空白の場合はファイルの最終ページまでページ番号が印字されます。 「-1」、「-2」を入力した場合はそれぞれ、ファイルの最後から2ページ目まで、ファイルの最後から3ページ目まで、ページ番号が印字されます。 開始ページ、および終了ページを指定した結果、ページ番号を印字する開始ページと（ページ番号を印字する）終了ページが逆になる場合、ページ番号は印字されません。 補足　設定した値がファイルのページ数よりも大きい場合、ページ番号は印字されません。
開始番号	［開始ページ］に印字するページ番号を入力します。
総ページ数を入れる	チェックマークを付けると、「ページ番号/総ページ数」の形でページ番号が印字されます。総ページ数は、ファイルのページ数ではなく、［終了ページ］に印字されるページ番号と一致するように割り振られます。
前置文字列	ページ番号の前に印字する文字列を62バイト以内で入力します。
後置文字列	ページ番号の後ろに印字する文字列を62バイト以内で入力します。

②フォント/色

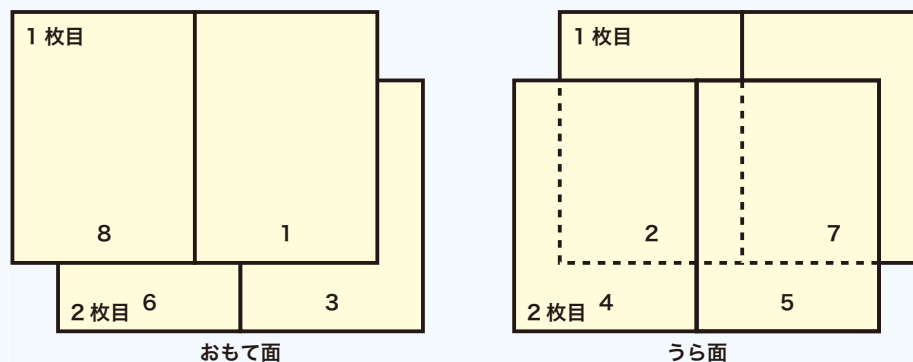
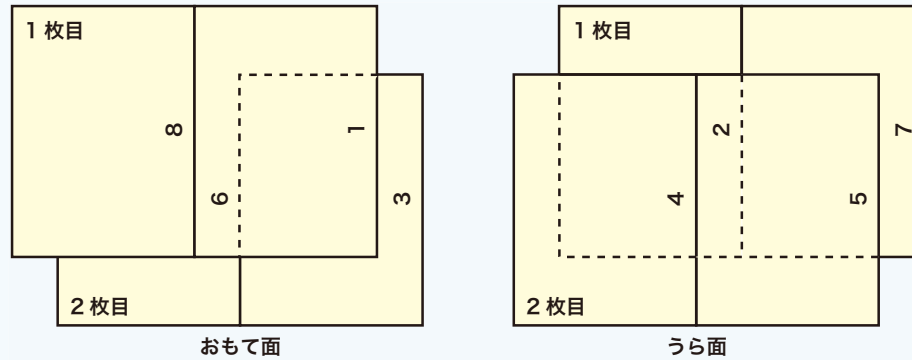
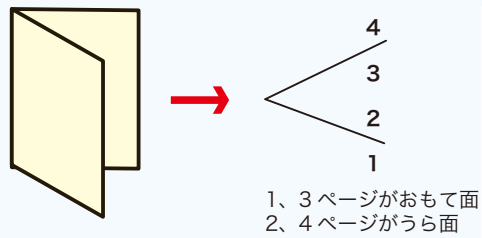
ページ番号に使用するフォントや色を設定します。

項目	説明
フォント名	ページ番号に使用するフォントを選択します。
フォントサイズ	使用するフォントのサイズを6～32の14項目から選択します。
フォント色	ページ番号に使用する色を選択します。 ・白　・黒　・赤　・緑 ・青　・シアン　・マゼンタ　・イエロー 補足　プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は、グレースケールでプリントされます。

項目	説明
背景	ページ番号の背景を選択します。
透過	ファイルにページ番号が印字されます。
背景色指定	［背景色］で選択した色の上にページ番号が印字されます。
背景色	［背景］を［背景指定］にした場合、使用する色を選択します。 ・白　・黒　・赤　・緑 ・青　・シアン　・マゼンタ　・イエロー

③印字位置

ページ番号の印字位置を設定します。

・小冊子作成（左とじ）、仕上がりが縦のファイルに印字する場合

・小冊子作成（左とじ）、仕上がりが横のファイルに印字する場合

・小冊子作成（2×1 中とじ）のファイルに印字する場合

●片面 / おもて面

折りや断裁後に表側になる面に印字するページ番号の位置を選択します。

・左上　・中央上　・右上　・左下
・中央下　・右下

●うら面

折りや断裁後に裏側になる面に印字するページ番号の位置を選択します。

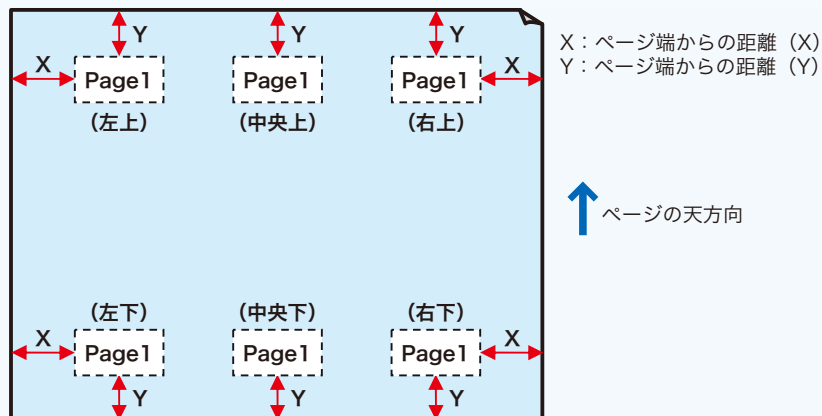
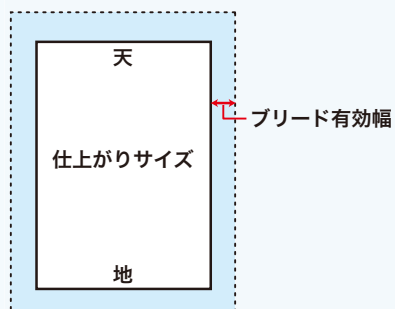
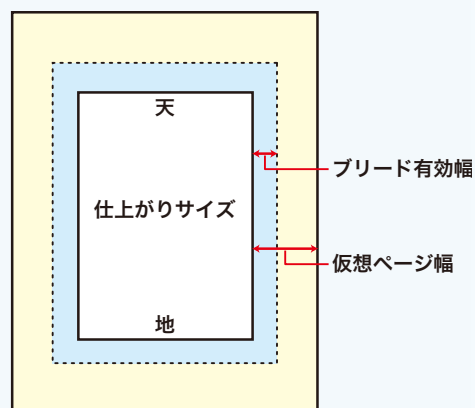
・左上　・中央上　・右上　・左下
・中央下　・右下

ジョブが片面印刷の場合、この設定は無視されます。
印字の仕方はおもて面と同じです。

●ページ端からの距離（X、Y）

ページ番号を印字する位置を用紙サイズの端からの距離で入力します。
［ページ端からの距離（X）］はページ左右の端からの距離を入力します。ページ番号の印字位置が中央上、または中央下の場合、この設定は無視されます。
［ページ端からの距離（Y）］はページの上下の端からの距離を入力します。

ジョブ：A4
出力用紙サイズ：A4

天
仕上がりサイズ
地
ブリード有効幅

ページ番号設定ファイルの割り当て

［ページ番号設定ファイル - 割り当て］ダイアログボックスで、割り当てる設定ファイルを選択し、［閉じる］をクリックします。

ページ番号設定ファイルの編集

1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、編集するページ番号設定ファイルを選択し、［編集］をクリックします。
2. ［編集 -XXX］（XXX にはファイル名が入ります）ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

ページ番号設定ファイルの削除

1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、削除するページ番号設定ファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで［はい］をクリックします。

ページ番号設定ファイルの名前変更

1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、名前を変更するページ番号設定ファイルを選択し、［名前変更］をクリックします。
2. ［名前変更］ダイアログボックスで新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

ページ番号設定ファイルの複製

［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、複製するページ番号設定ファイルを選択し、［複製］をクリックします。

ページ番号設定ファイルの読み込み

1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、［読み込み］をクリックします。
2. ［設定ファイル読み込み］ダイアログボックスで、ファイルを選択し、［開く］をクリックします。

ページ番号設定ファイルの保存

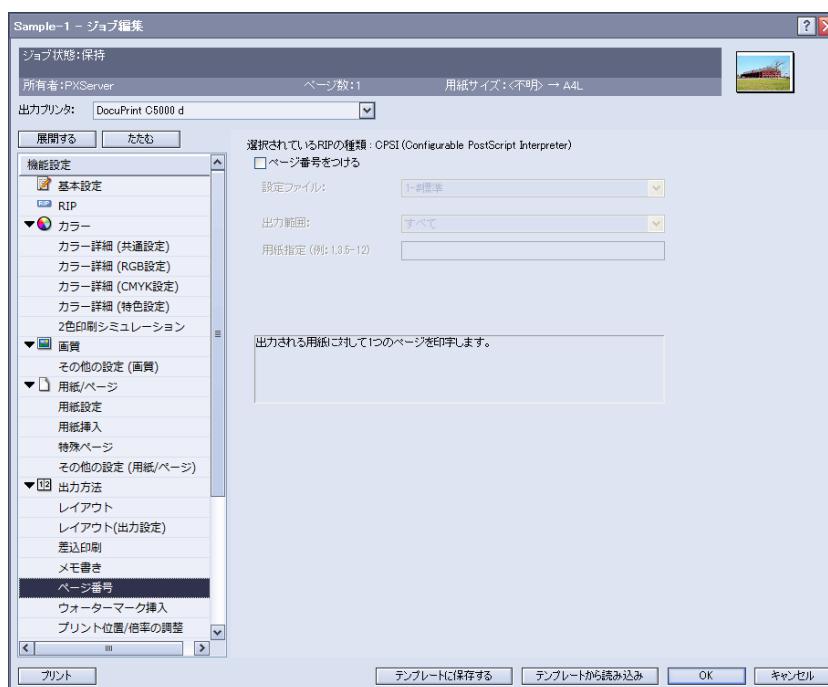
1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、保存するページ番号設定ファイルを選択し、［保存］をクリックします。
2. ［設定ファイル保存］ダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

ページ番号の設定

操作手順

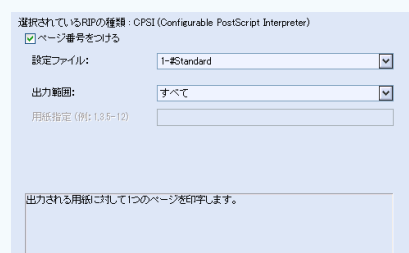
1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManager にあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［ページ番号］を選択します。

   設定項目が表示されます。

   参照　各項目の詳細は、「プリントオプションの設定（ページ番号）」（P.284）を参照してください。

3. ［ページ番号をつける］にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定(ページ番号)

項目			説明
ページ番号をつける			チェックマークを付けると、ページ番号を印字してプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。
	設定ファイル		登録済みのページ番号設定ファイルを選択します。
	出力範囲		プリントする用紙の範囲を［すべて］、［用紙指定］から選択します。
		用紙指定	［出力範囲］が［用紙指定］の場合に入力します。 用紙の区切りはカンマ「,」で、連続した用紙はハイフン「-」で入力します。「-5」は「1～5枚目まで」、「5-」は「5枚目以降」です。

Print Serverのソフトウエア

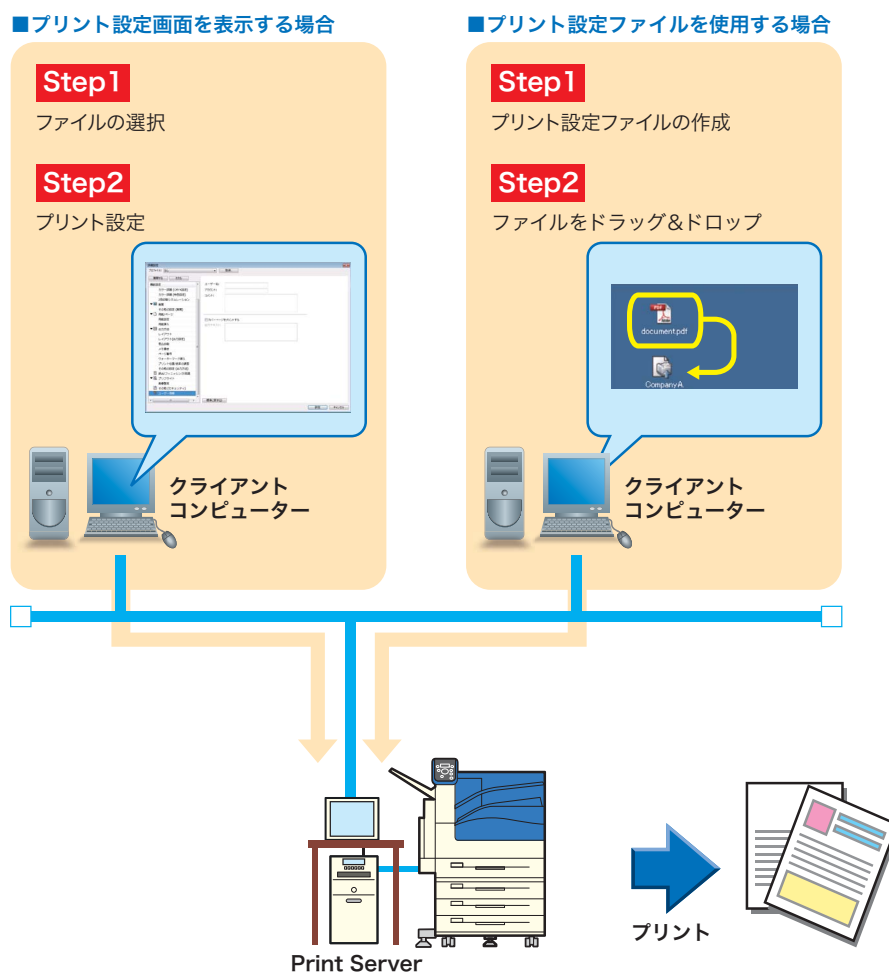
アプリケーションを開かないでプリントできるDropUtility、クライアントコンピューターのWebブラウザーでジョブの管理ができるWebManagerなどについて説明しています。

5.1 DropUtilityについて

DropUtilityとは、ファイルを作成したアプリケーションを開かずにジョブをPrint Serverに送信してプリントするための、クライアントコンピューターで使うソフトウエアです。

ファイルを作成したアプリケーションがなくても、DropUtilityを使用するとプリントできます。また、プリントオプションの設定が同じジョブが複数ある場合は、ジョブごとにプリントの指示をしなくても1回の指示でプリントできるので、時間が短縮できます。

DropUtilityを使用してプリントできるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- PostScript
- EPS
- PDF
- TIFF
- JPEG

Macintoshクライアントと Windowsクライアントでは、起動の手順が異なります。

参照 DropUtilityのインストールについては、『ユーザーズガイド導入編』の「2.4 ソフトウエアをインストールする」を参照してください。

5.1.1　DropUtilityの起動方法（Macintoshクライアント）

Macintoshクライアント用DropUtilityは、Mac OS X専用です。

操作手順

1. ［アプリケーション］フォルダーを開き、［Fuji Xerox］→［Print Server PX］を開きます。

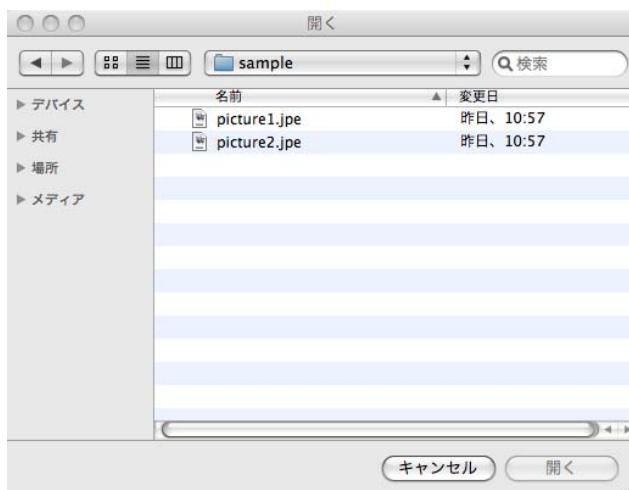
   ［Fuji Xerox］フォルダーは、インストール時に作成されます。

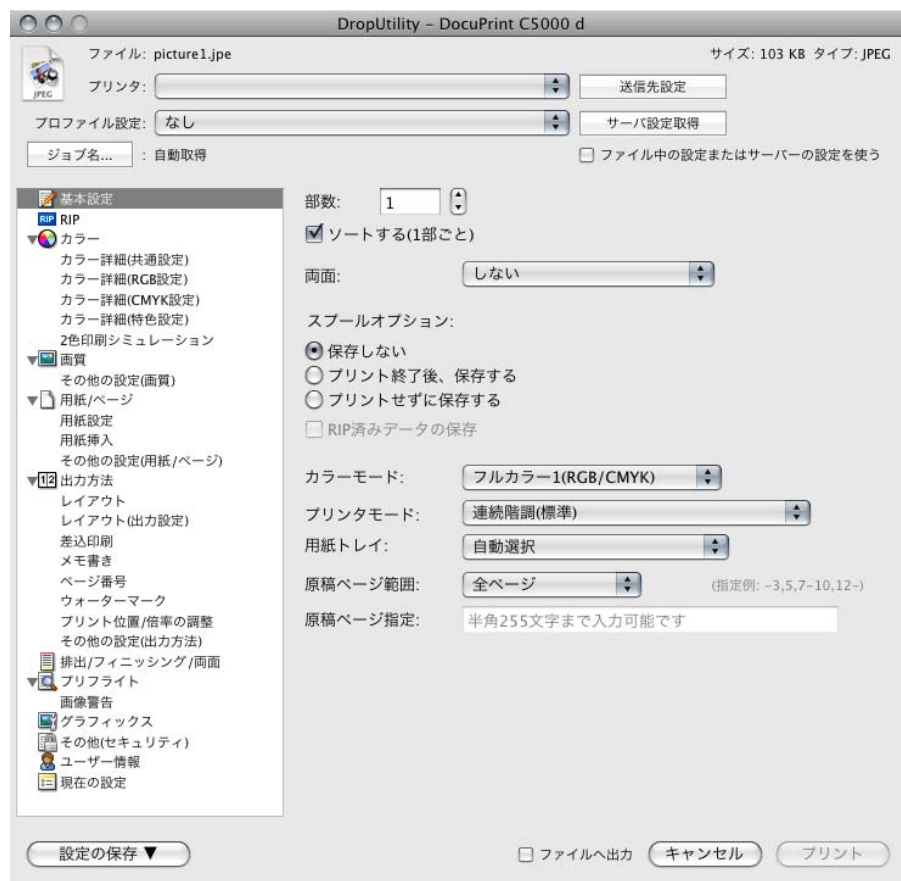
2. ［FX DropUtility for DPC5000d］をダブルクリックします。

   DropUtilityが起動します。

   補足　プリントするファイルを DropUtility のアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップしても、起動することができます。

3. ［ファイル］メニューから［開く］を選択します。

4. ファイルを選択し、［開く］をクリックします。

補足　ファイルタイプは自動的に判別されます。

5. ［プリンタ］から送信先のPrint Serverを選択します。

- ［プリンタ］が選択できない場合は、「5.1.4 送信先の設定」（P.291）で送信先にPrint Serverを登録してください。
- 設定できない項目はグレー表示になっています。

6. 必要に応じて、プロファイルを取得します。

［サーバー設定取得］をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名（またはIPアドレス）を入力し、［取得］をクリックします。

プロファイルの設定は、WebManager からもダウンロードすることができます。プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManagerで設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などをクライアントコンピューターのプリンタードライバーの設定画面に表示できます。詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」（P.308）を参照してください。

7. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。

- プリントオプションの詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。
- DropUtilityの画面については、「5.1.5 DropUtility画面の設定」（P.294）を参照してください。

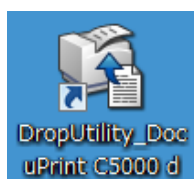
8. ［プリント］をクリックします。

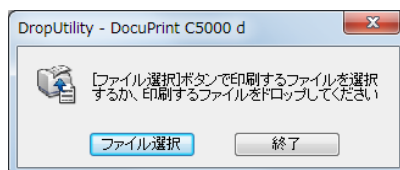
設定した内容で、ファイルがPrint Serverに送信されます。

DropUtility を終了する場合は、［FX DropUtility for DPC5000d］メニューから［FX DropUtility for DPC5000dを終了］を選択します。〈command〉キーを押しながら〈Q〉キーを押しても終了できます。

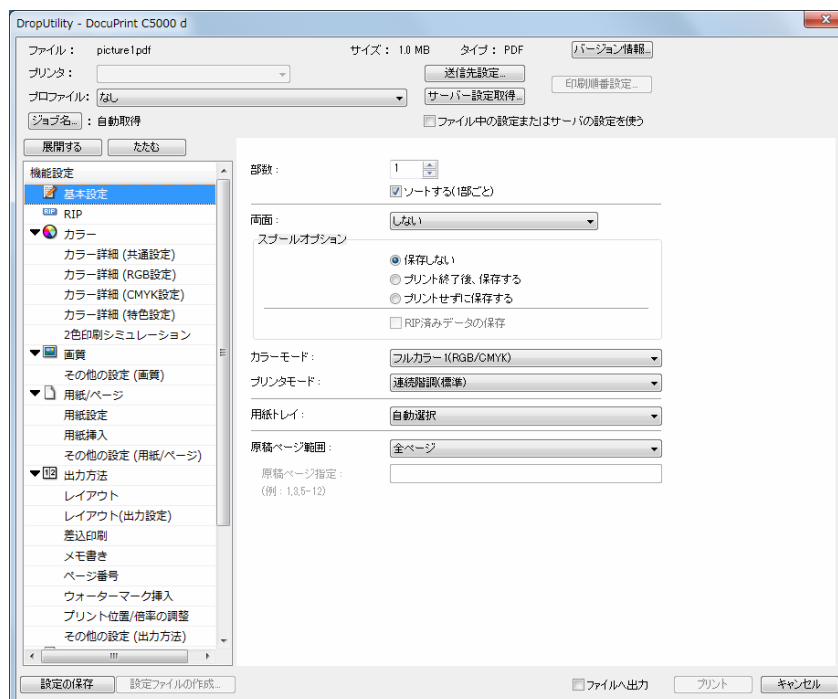
5.1.2　DropUtilityの起動方法（Windowsクライアント）

操作手順

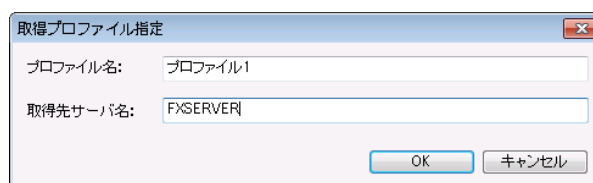
1. デスクトップの「DropUtility_DocuPrint C5000 d」アイコンをダブルクリックします。

補足　［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［DropUtility for DocuPrint C5000 d（V6.0）］を選択しても、DropUtilityを起動できます。

2. ［ファイル選択］をクリックします。

補足　プリントするファイルを DropUtility の起動ダイアログボックスにドラッグ＆ドロップしても起動することができます。

3. ファイルを選択し、［開く］をクリックします。

4. ［プリンタ］から送信先のPrint Serverを選択します。

補足　［プリンタ］が選択できない場合は、「5.1.4 送信先の設定」（P.291）で、送信先に Print Server を登録してください。

5. 必要に応じて、プロファイルを取得します。

［サーバ設定取得］をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名（またはIPアドレス）を入力し、［OK］をクリックします。

プロファイルの設定は、WebManager からもダウンロードすることができます。プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManagerで設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などをクライアントコンピューターのプリンタードライバーの設定画面に表示できます。詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」（P.308）を参照してください。

6. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。

参照
- プリントオプションの詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。
- DropUtilityの画面は、「5.1.5 DropUtility画面の設定」（P.294）を参照してください。

7. ［プリント］をクリックします。

- 設定した内容で、ファイルがPrint Serverに送信されます。
- DropUtilityを終了するときは、ダイアログボックスを閉じて、DropUtilityの起動ダイアログボックスで［終了］をクリックします。

5.1.3　複数のファイルのプリント

複数のファイルをまとめてプリントする場合は、「5.1.1 DropUtility の起動方法（Macintosh クライアント）」（P.287）、または「5.1.2 DropUtilityの起動方法（Windowsクライアント）」（P.289）の手順3で開いた［ファイルを開く］ダイアログボックスで、〈Ctrl〉キー（Macintosh クライアントは〈command〉キー）を押しながらファイルを選択します。

複数のファイルを選択してから［FX DropUtility］アプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップしても、複数のファイルをプリントできます。

●以降のファイルを同じ設定でプリント

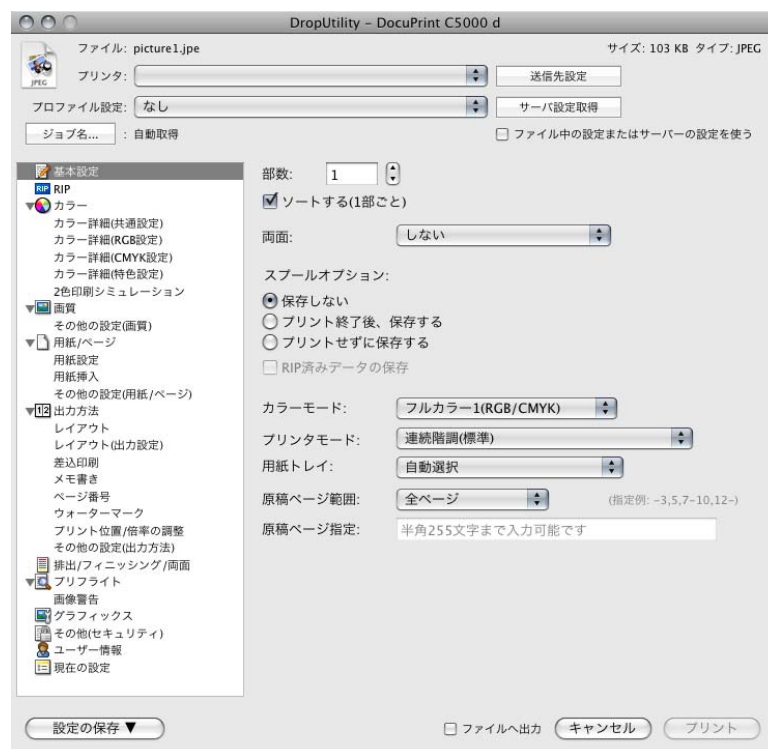
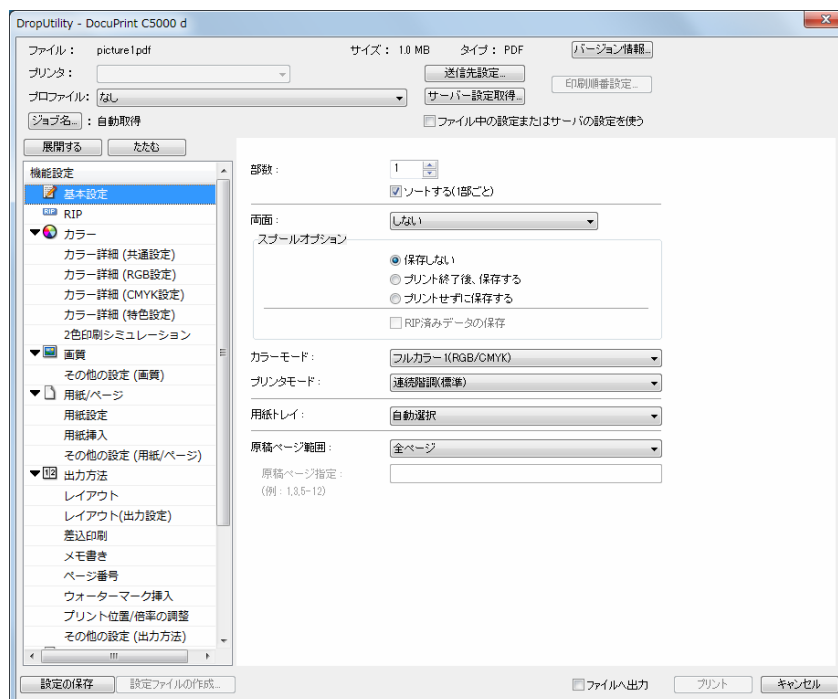
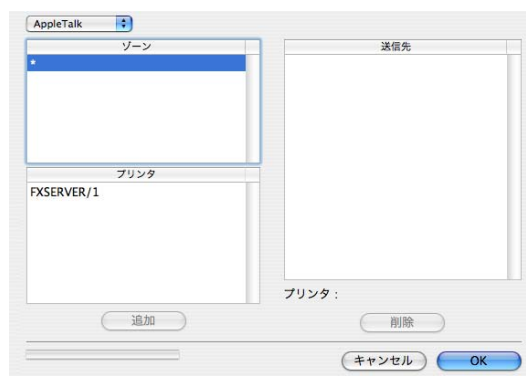
チェックマークを付けると、最初に設定した内容で、選択したすべてのファイルがPrint Serverに送信されます。ファイル数に相当する分のダイアログボックスは表示されません。

チェックマークを外すと、送信するファイルの数だけ、繰り返しダイアログボックスが表示されます。それぞれのファイルタイプに応じて、設定できる項目が異なります。

［ファイル］には、「-」が表示されます。［タイプ］には、ファイルタイプが表示されます。ただし、異なるファイルタイプのファイルを同時に複数選択した場合は、「-」が表示されます。

5.1.4　送信先の設定

DropUtility画面で［送信先設定］をクリックすると、ジョブの送信先の追加、編集、および削除ができます。

■Macintoshクライアント

■Windowsクライアント

Macintoshクライアント

［HTTP］と［AppleTalk］では、手順が異なります。

◆HTTPの場合

1. ［追加］をクリックします。

2. ［送信先追加］ダイアログボックスで、［送信先名称］、［サーバーアドレス］を入力し、［OK］をクリックします。
必要に応じて、プロキシサーバーの設定をします。

補足　［送信先名称］には、送信先を表示させるときの名前を入力してください。DropUtility画面の［プリンタ］の項目に、ここで入力した名前が表示されます。

◆AppleTalkの場合

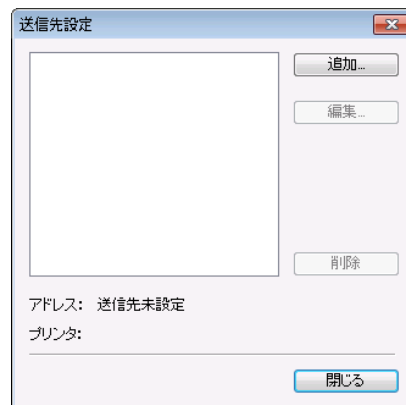
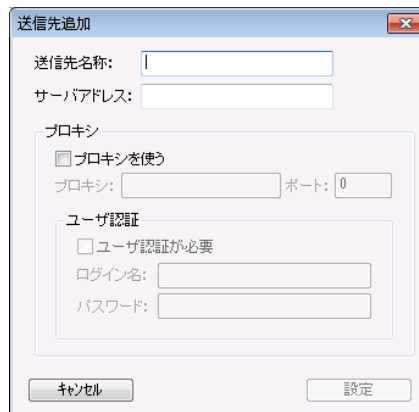
1. ダイアログボックスの［ゾーン］から使用するネットワークゾーンを選択します。

2. プリンターリストから使用するPrint Serverを選択し、[追加]をクリックして[OK]をクリックします。

- [追加]は、プリンターリストでPrint Serverを選択している場合にだけ、クリックできます。
- リスト内の項目をドラッグ&ドロップして、順番を入れ替えることができます。
- Mac OS X 10.6では、AppleTalkは使用できません。

Windowsクライアント

操作手順

1. [送信先設定]をクリックします。
2. [追加]をクリックします。

3. [送信先名称]と[サーバアドレス]を入力し、[設定]をクリックします。

[送信先設定]ダイアログボックスに戻ります。

- プロキシサーバーは、HTTP1.0以降をサポートしている必要があります。
- [送信先名称]には、送信先を表示させるときの名前を入力してください。DropUtility 画面の[プリンタ]の項目に、ここで入力した名前が表示されます。
- [サーバアドレス]には、Print ServerのIPアドレスを入力してください。

●プロキシを使う

チェックマークを付けると、プロキシサーバーが使用されます。プロキシサーバーは、HTTP1.0 以降をサポートしている必要があります。

プロキシ

プロキシサーバーのアドレスを入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

ユーザ認証が必要

チェックマークを付けると、プロキシサーバーに認証が必要になります。

ログイン名

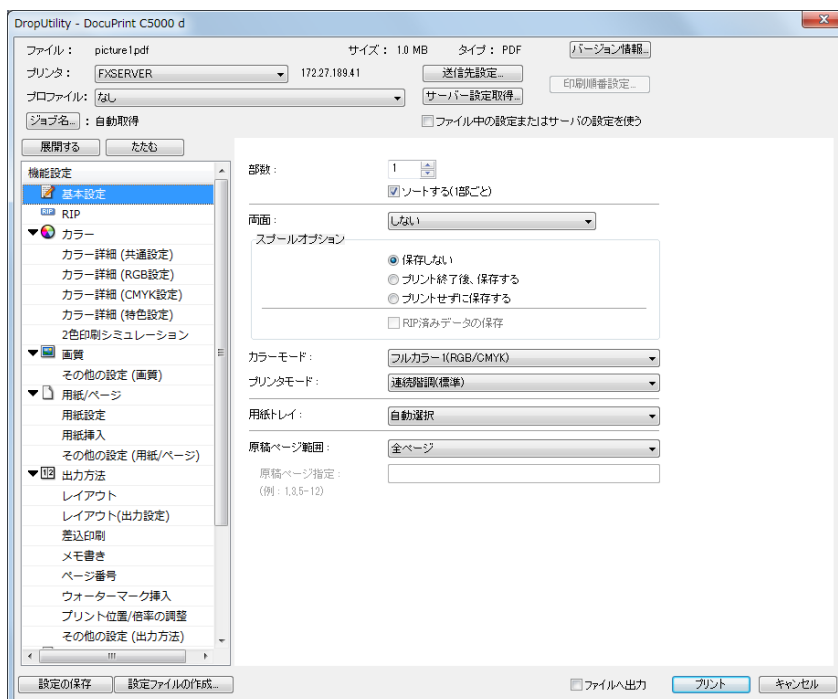
プロキシサーバーでのユーザー認証のログイン名を入力します。

パスワード

プロキシサーバーでのユーザー認証のパスワードを入力します。

4. ［閉じる］をクリックします。

5.1.5 DropUtility画面の設定

■Macintoshクライアント

■Windowsクライアント

設定項目

●プリンタ

選択したプリンターが表示されます。

●プロファイル設定（Macintoshクライアント）、プロファイル（Windowsクライアント）

選択したプロファイルが表示されます。

●ジョブ名

ジョブ名を入力できます。

●印刷順番設定

複数のファイルをまとめてプリントする場合に表示されます。
表示されたダイアログボックスで、プリント順が設定できます。

［追加］（クリックするとファイルを追加できます）、［上へ］、［下へ］をクリックしてプリント順を設定し、［OK］をクリックします。

1回のDropUtilityへのドロップ操作、または選択された複数のファイルのプリントは、1ファイル1ジョブで、指定した順序で送信されます。ただし、受信中に、以下のジョブが間に入ることがあります。

- ほかの論理プリンタからのジョブ
- ほかのクライアントコンピューターからのジョブ
- 別に起動されたDropUtility、またはドロップ操作されたジョブ

●ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う（Macintoshクライアント）、ファイル中の設定またはサーバの設定を使う（Windowsクライアント）

チェックマークを付けると、Print Serverのプリントオプションテンプレートの設定の値でプリントされます。プリントオプションを設定する必要がない場合に、チェックマークを付けます。

●設定の保存

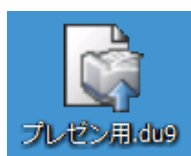
設定した内容が［DropUtility］ダイアログボックスのデフォルトの値として保存されます。

［設定の保存］プルダウンメニューから［設定の保存］を選択（Macintoshクライアント）、または［設定の保存］をクリック（Windowsクライアント）したあとは、［キャンセル］をクリックしても、設定の内容をもとに戻すことはできません。

●設定ファイルの作成（Windowsクライアント）

プリントオプションを登録した設定ファイルを作成できます。表示されたダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

設定ウィンドウを出さずに印刷

チェックマークを付けると、ファイルを以下のアイコンにドラッグ＆ドロップするだけで、［DropUtility］ダイアログボックスが表示されずにプリントできる設定ファイルを作成できます。また、［印刷順番設定ウィンドウを出さずに印刷］にチェックマークを付けると、［印刷順番設定］ダイアログボックスも表示されません。

DropUtilityはPrint Serverにジョブを送信後、自動的に終了します。

- ファイル名の拡張子は、「.du9」です。
- 設定ファイルの設定内容を変更する場合は、［DropUtility］ダイアログボックスで項目を変更し、設定ファイルを再度作成してください。

● ドロップレットの作成（Macintoshクライアント）

［設定の保存］をプルダウンすると、プリントオプションを登録したドロップレットを作成できます。表示されたダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

設定ウィンドウを出さずに直接印刷

チェックマークを付けると、ファイルを以下のアイコンにドラッグ＆ドロップするだけで、プリントオプションの設定ダイアログボックスが表示されずにプリントできるドロップレットを作成できます。また、［印刷順番設定ウィンドウを出さずに印刷］にチェックマークを付けると、［印刷順番設定］ダイアログボックスも表示されません。

DropUtilityはPrint Serverにジョブを送信後、自動的に終了します。

補足　ドロップレットの設定内容を変更する場合は、プリントオプションの設定ダイアログボックスで項目を変更し、ドロップレットを再度作成してください。

● ファイルへ出力

ファイルをプリントする代わりに、ジョブとして保存できます。チェックマークを付けると、［プリント］が［保存］に変わります。

［保存］をクリックして表示されたダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定します。保存されるファイルの拡張子は、「.jbf」です。

● プリント

ジョブがPrint Serverに送信され、プリント処理が行われます。

● キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログボックスを閉じます。

5.2 WebManagerについて

WebManager とは、Print Server と TCP/IP 環境で接続している場合に、クライアントコンピューターのWebブラウザーを利用して、Print Serverの状態を確認したり、ジョブの設定を変更したりするためのソフトウエアです。

クライアントコンピューターからできる主な機能

●ジョブを確認、操作する

Print Serverに送信したジョブの設定を確認したり、Print Serverに保存したジョブを削除することができます。「Administrator」でログインすると、ほかのジョブに対する操作もできます。

プリント履歴をCSVファイル形式でダウンロードすることができます。

●Print Serverやプリンターの状態を確認する

Print Serverの状態、プリンターにセットされている用紙サイズや用紙の残量、およびトナー量などを確認できます。

ユーザー調整カーブ、キャリブレーションデータ、およびカラープロファイルの設定情報なども確認できます。

●WebManagerからファイルをプリントする

WebManager画面からファイル（PostScript、EPS、TIFF、PDF、JPEG）を選択してPrint Serverに送信し、プリントできます。

●プリンタードライバーなどをダウンロードする

クライアントコンピューターで使用するプリンタードライバー、各種ソフトウエアなどをダウンロードすることができます。

●ファイルをダウンロードする

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を設定して保存したファイルをダウンロードすることができます。

対応ブラウザー

Print Server との接続には、Web ブラウザーを利用します。新しくソフトウエアをインストールしたり、ネットワークを設置する必要はありません。

◆Macintoshクライアント

Mac OS Classicブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

・Internet Explorer 5.1.7
・Netscape 7.02

Mac OS Xブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

・Safari 1.3.2（10.3.9）
・Safari 4.0（10.4.11）
・Safari 5.0（10.5以降）
・Firefox 2.0（10.3.9）
・Firefox 3.6（10.4.11）
・Firefox 4.0（10.5以降）

◆Windowsクライアント

ブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

- ・Internet Explorer 8.0
- ・Internet Explorer 9.0（Windows Vista以降）
- ・Firefox 4.0
- ・Safari 5.0

WebManagerの起動方法

ここでは、Windows 7でInternet Explorer 8.0を使用する場合を例に説明します。

1. Internet Explorerを起動します。
2. アドレス欄にPrint ServerのIPアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

5.2.1 ［状態］タブ

［状態］タブには、ServerManagerのマシン消耗品状態ウィンドウと同様の働きをする項目が表示されます。Print Serverの状態、用紙トレイにセットされている用紙サイズや用紙の残量、およびトナー量などが確認できます。

［状態］タブで確認できる項目は、以下のとおりです。

●一般

現在のPrint Serverの状態が表示されます。

●サーバー

プリンターの状態と現在のPrint ServerのHDD残量が表示されます。

●装置

接続している装置の情報を確認できます。装置の状態には、以下のものがあります。

- ・プリントできます
- ・サイクルアップ中
- ・節電モード
- ・電源が入っていません
- ・プリントしています
- ・＊/＊＊（＊はプリント中のページ番号、＊＊は総ページ数）枚目プリント中

●トレイ

各トレイにセットされている用紙の種類、用紙サイズ、用紙の残量、トレイの状態が表示されます。用紙残量は、5段階のアイコンで表示されます。トレイの状態には、以下のものがあります。

・正常（100%）　・正常（75%）　・正常（50%）　・予備を用意（25%）

・用紙切れ　・故障　・正しくセットされていません

●トナー

各トナーの状態が表示されます。

●ネットワーク

Print Serverに設定した、ネットワークプロトコルごとのプリンターの稼働状態や、通信状態が表示されます。表示される状態には、以下のようなものがあります。

・起動していません　・受信待ち　・受信中　・サーバーと接続できません

・正常に起動していません

5.2.2 ［ジョブと履歴］タブ

［ジョブと履歴］タブには、ServerManagerのウィンドウのメニュー、およびジョブリストと同様の働きをする項目が表示されます。［ジョブと履歴］タブで設定できる項目は、以下のとおりです。

操作ボタン

WebManagerの操作ボタンは、ServerManagerで使う［ジョブ］メニューと同様の働きをします。

・選択したジョブや、ジョブの状態によって、使用できるボタンは異なります。
・セキュリティプリントが設定されているジョブは、WebManagerでは操作できません。

操作ボタンの機能については、「3.1.5 ジョブメニュー」（P.162）を参照してください。

ServerManagerのメニューにない項目、またはServerManagerの機能と異なる項目は、以下の2つです。

●プレビュー

選択したジョブのプレビュー画像が別のウィンドウで表示されます。

プレビュー画像が存在しない場合は、プレビュー画像がないことを表すウィンドウが表示されます。

●編集

ServerManagerの編集機能と異なる項目は、以下のとおりです。

・[差込印刷]を[フォームとして登録]にして、[フォーム番号]を選択したフォームが登録済みである場合は、エラーメッセージが表示され、[差込印刷]が[しない]に変更されます。

・以下のエラーメッセージが表示された場合は、RIP済みデータを作成してください。
- 「フォームとして使うにはRIP済みデータを作成する必要があります」
- 「RIP済みデータを削除しました。RIP済みデータの作成を行ってください」

・[セキュリティプリント]、[特殊ページ]の設定はWebManagerからは編集できません。

ジョブの状態に応じて、使用できる操作ボタンは、以下のとおりです。

ジョブの状態	使用できる操作ボタン
処理中	[削除]、[停止]、[編集]、[プレビュー]
保持	[削除]、[RIP済データを削除]、[RIP済データを作成]、[処理開始]、[編集]、[プレビュー]、[PSプリフライト作成]、[PSプリフライト表示]、[PSプリフライト印刷]、[続きをプリント]
プレビュー	[削除]、[名前変更]、[プレビュー]、[ダウンロード]
送信	[削除]、[直ちに送信]
受信	[削除]、[プリントジョブに複製]、[プロパティ]
エラー	[削除]、[RIP済データを削除]、[RIP済データを作成]、[処理開始]、[編集]、[プレビュー]、[PSプリフライト作成]、[PSプリフライト表示]、[PSプリフライト印刷]、[続きをプリント]

APPEジョブでは、以下の操作はできません。
[PSプリフライト作成]、[PSプリフライト表示]、[PSプリフライト印刷]、[続きをプリント]

プリント履歴

左側フレームから[プリント履歴]を選択すると、ジョブの履歴をCSVファイルに出力して、画面に表示、または保存できます。プリンターを共有している場合、部門やユーザーごとにプリント履歴の確認ができるので、管理がしやすくなります。

・Administratorでログインしているときだけの機能です。
・プリント履歴を記録するためには、ServerManagerでの設定が必要です。

・プリント履歴についての詳細は、「6.1.1 プリント履歴」(P.318)を参照してください。
・プリント履歴の設定については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「ジョブ履歴の設定」を参照してください。

リストに表示される項目

右側フレームに表示される項目は、以下のとおりです。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td>フォルダ名</td><td colspan="2">保持リストのジョブが格納されているフォルダーのフォルダー名が表示されます。
フォルダー名をクリックすると、フォルダーに格納されているジョブが表示されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="11">ジョブ名</td><td colspan="2">クライアントコンピューターからプリントされたジョブのファイル名が表示されます。
ジョブ名の前には、以下のマークが付きます。</td></tr>
<tr><td></td><td>ビルドジョブが設定されている場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>セキュリティプリントが設定されている場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>フォームとして登録済みの場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>ジョブを受信中の場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>RIP済みデータを保持している場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>PSプリフライトレポートを保持している場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>RIP済みTIFFファイルを保持している場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>RIP済みPDFファイルを保持している場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>サムネール編集でページ情報が設定されている場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td>*</td><td>複数のマークに該当している場合に表示されます。</td></tr>
<tr><td>RIP（処理中のみ）</td><td colspan="2">RIPの処理状態が表示されます。
•「処理待ち」、「処理済みサイズ」（APPEジョブ場合、「RIP済みページ数」）</td></tr>
<tr><td>印刷（処理中のみ）</td><td colspan="2">プリントの処理状態が表示されます。
•「データ転送待ち」、「（＊/＊）ページ転送中」、「＊ページ目転送中」、「プリント待ち」、「プリント中」</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ステータス（エラーのみ）</td><td colspan="2">エラーの種類が表示されます。
•「PostScriptエラー」、「プリンターエラー」、「受信時エラー」、「RIPエラー」、「コントローラーボードエラー」、「データベースエラー」など
以下のエラーのレベルが表示されます。</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。</td></tr>
<tr><td>W</td><td>プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。</td></tr>
<tr><td>N</td><td>エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">所有者</td><td colspan="2">ジョブを送信した所有者名が表示されます。
所有者は、クライアントコンピューターごとに異なります。</td></tr>
<tr><td>Macintosh</td><td>Macintoshクライアントの所有者名が表示されます。</td></tr>
<tr><td>Windows</td><td>Windowsクライアントへのログイン名が表示されます。</td></tr>
<tr><td>ホットフォルダ</td><td>• ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。
• それ以外の場合は、「不明」と表示されます。</td></tr>
<tr><td>Lpr</td><td>• ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。
• それ以外の場合は、「lprユーザー」と表示されます。</td></tr>
<tr><td>DropUtility</td><td>Macintosh クライアントの所有者名、または Windows クライアントへのログイン名が表示されます。</td></tr>
<tr><td>WebManager</td><td>アップロードプリントの場合は、WebManager のログイン名が表示されます。
WebManagerにログインしていない場合は、「Webユーザー」と表示されます。</td></tr>
</table>

項目	説明	
所有者	ジョブの読み込み	ファイルからユーザー名を取得できる PostScript ファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合はログイン名が表示されます。
受信時刻	Print Serverがクライアントコンピューターからジョブを受信した時刻が表示されます。	
ファイルサイズ	受信したジョブのファイルサイズが表示されます。	
受信プロトコル	ジョブの受信プロトコルが表示されます。	
RIPの種類	RIPの種類が表示されます。	

プリンターエラー、RIP エラー、および受信時エラーについては、「6.3 エラージョブメッセージについて」(P.333) を参照してください。

ファイルのダウンロード

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP 後のデータをファイルに保存］＞［TIFF で保存する］、または［PDFで保存する］を選択して保存したファイルは、［プレビュー］ボックスからダウンロードすることができます。

■Macintoshクライアント

操作手順

1. 左側フレームにある［ジョブと履歴］の［プレビュー］を選択します。

   右側フレームに、プレビューボックスの内容が表示されます。

2. プレビューを表示させるジョブをクリックします。
3. ダウンロードするファイルの前に付いている操作対象のチェックマークを付けます。
4. ［ダウンロード］をクリックします。
5. 表示されたポップアップウィンドウを確認し、［保存］をクリックします。
6. ダウンロード方法は、使用しているブラウザーによって異なります。

◆Safariの場合

ブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。

◆Firefoxの場合

1. ［XXXを開く］(XXXにはファイル名が入ります) ダイアログボックスが表示されるので、［ファイルを保存する］を選択し、［OK］をクリックすると［ダウンロードマネージャ］にファイル名が表示されます。
2. ダウンロードが完了したファイルを任意の場所にドラッグ＆ドロップします。

◆Internet Explorerの場合

［ダウンロードマネージャ］にファイル名が表示されます。ダウンロードが完了したファイルを任意の場所にドラッグ＆ドロップします。

◆Netscapeの場合

1. ［XXXのダウンロード］(XXXにはファイル名が入ります) ダイアログボックスが表示されるので、［このファイルをディスクに保存する］を選択して［OK］をクリックします。
   ［保存先のファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。
2. 保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

■Windowsクライアント

操作手順

1. 左側フレームにある［ジョブと履歴］の［プレビュー］を選択します。

   右側フレームに、プレビューボックスの内容が表示されます。

2. プレビューを表示させるジョブをクリックします。
3. ダウンロードするファイルの前に付いている操作対象のチェックマークを付けます。
4. ［ダウンロード］をクリックします。
5. 表示されたポップアップウィンドウを確認し、［保存］をクリックします。
6. ダウンロード方法は、使用しているブラウザーによって異なります。

   ◆Internet Explorerの場合

   ［ファイルのダウンロード］ダイアログボックスが表示されるので、［保存］をクリックすると、［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

   ◆Firefoxの場合

   ［XXXを開く］（XXXにはファイル名が入ります）ダイアログボックスが表示されるので、［ファイルを保存する］を選択し、［OK］をクリックすると、［保存ファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。

   ◆Safariの場合

   ブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。

7. 保存する場所を選択し、［OK］、または［保存］をクリックします。

5.2.3 ［ログイン］タブ

［ログイン］タブは、WebManagerにログインするときに使用します。

- ［ユーザー名］と［パスワード］は、大文字と小文字を区別します。
- ユーザーレベルは、ユーザー名、パスワードの入力状況に応じて、［ログイン］をクリックしたときに決定します。
- WebManagerにログインするためのユーザー名とパスワードは、ServerManagerで設定します。設定方法については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.3 ユーザーの管理」を参照してください。

5.2.4　［プリファレンス］タブ

［プリファレンス］タブには、ServerManagerで設定したキャリブレーションデータやカラープロファイルなどの設定内容を確認できます。

［プリファレンス］タブで確認できる項目は、以下のとおりです。

■カラー調整

●キャリブレーション

各トレイに割り当てられているキャリブレーションデータとデータの作成日時を、キャリブレーションの種類別に確認できます。

●フルカラー 1、グレースケール

カラープロファイル

以下のカラープロファイルの割り当てが確認できます。

- RGB色補正プロファイル
- RGB出力プロファイル
- CMYKシミュレーション
- 特色補正プロファイル
- カラー置換

●カラープロファイル共通

ユーザー調整カーブ

ユーザー調整に割り当てられている、ユーザー調整カーブのプロファイルを確認できます。

濃度調整

濃度調整に割り当てられている、濃度調整カーブのプロファイルを確認できます。

■差込印刷

以下の差込印刷用に登録されているフォームを確認できます。

・先頭ページのプレビュー　・フォーム番号　・フォーム名　・用紙サイズ
・ページ数　・所有者名　・受信日時　・ステータス

■ウォーターマーク

以下のウォーターマークのフォームを確認できます。

・プレビュー　・ウォーターマーク番号　・ウォーターマーク名

■ページ番号

ページ番号設定ファイルの割り当てが確認できます。

■Internet Service

ジョブリストの自動更新間隔を設定できます。

●自動更新間隔

デフォルト：［30］秒

自動で更新する間隔を設定できます。入力範囲は、0～30秒です。［0］の場合は、自動で更新されません。

●適用

設定が適用されます。

5.2.5　［アップロード］タブ

［アップロード］タブでは、クライアントコンピューターにあるファイルを Print Server に送信してプリントできます。

設定できるプリントオプションの項目は、クライアントコンピューターから設定するプリントオプションや［ジョブ編集］ダイアログボックスに表示される項目と同様です。

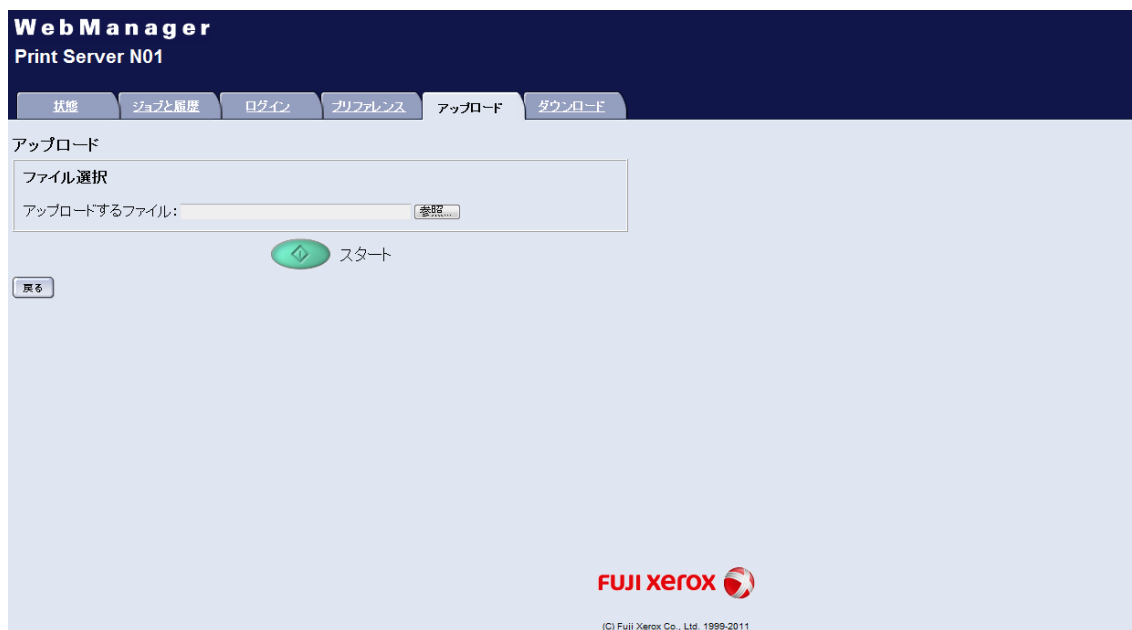
操作手順

1. ［アップロード］タブをクリックします。
2. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。

   ● ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う

   ［有効］にチェックマークを付けると、Print Server のプリントオプションテンプレートの設定の値でプリントされます。プリントオプションを設定する必要がない場合に、チェックマークを付けます。

   参照　プリントオプションの詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.226）を参照してください。

3. ［アップロード］タブの、ウィンドウ内の右上にある［次へ］をクリックします。
4. ［参照］をクリックしてファイルを選択し、［スタート］をクリックします。

5. ［OK］をクリックします。

   Print Serverにファイルが送信され、処理中リストに表示されます。

5.2.6 ［ダウンロード］タブ

［ダウンロード］タブでは、クライアントコンピューターで使用するプリンタードライバーなど、同梱されているDVDと同じ内容のソフトウエアや、Print Serverのカラープロファイル、フォーム、ウォーターマークの割り当て情報などを入手できます。

ソフトウエアのダウンロード

WebManagerを使って、必要なソフトウエアをダウンロードできます。

ソフトウエアのダウンロードについては、『ユーザーズガイド導入編』の「2 クライアントコンピューターの設定」を参照してください。

プロファイル設定のダウンロード

プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManagerで設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などをクライアントコンピューターのプリンタードライバーの設定画面に表示できます。

プロファイルは、クライアントコンピューターのプリンタードライバーで［取得］をクリックしても、ダウンロードすることができます。

Print Serverの設定情報が知りたいときは、クライアントコンピューターで確認できます。

ダウンロードできる設定情報は、以下のとおりです。

- RGB色補正プロファイル
- RGB出力プロファイル
- CMYKシミュレーション
- カラー置換設定ファイル
- ユーザー調整カーブ
- 特色補正プロファイル
- フォーム管理
- 濃度調整カーブ
- キャリブレーションファイル
- ウォーターマーク管理
- ページ番号設定ファイル
- ライセンスの設定
- カスタムペーパー名

■Mac OS Xクライアント

プロファイル設定のダウンロードができるのは、Mac OS Xだけです。

操作手順

1. [共通] をクリックします。

   [共通] に、[プロファイル設定のダウンロード] が表示されます。

2. [プロファイル設定のダウンロード] をクリックします。

   [「プロファイル設定」の利用方法] が表示されます。

3. プロファイル設定のダウンロード方法は、使用しているブラウザーによって異なります。

[profile] フォルダーは、以下のフォルダーにあります。
ハードディスク：ユーザー/（各ユーザー別フォルダ）/ライブラリ/Preferences/Fuji Xerox/Print Server PX/DPC5000d/

◆Safariの場合

1. [プロファイル設定（DocuPrint C5000 d)] をクリックします。
   ブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。
2. [Print Server PX] →［DPC5000d］→［profile］を選択し、開いたフォルダーにダウンロードが完了したファイルをドラッグ&ドロップします。
   [profile] フォルダーにファイルが移動します。

◆Firefoxの場合

1. [プロファイル設定（DocuPrint C5000 d)] をクリックします。
   [XXXを開く]（XXXにはファイル名が入ります）ダイアログボックスが表示されます。
2. [ファイルを保存] をクリックします。
   ブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。
3. [Print Server PX] →［DPC5000d］→［profile］を選択し、開いたフォルダーにダウンロードが完了したファイルをドラッグ&ドロップします。
   [profile] フォルダーにファイルが移動します。

■Windowsクライアント

操作手順

1. [共通] をクリックします。

   [共通] に、[プロファイル設定のダウンロード] が表示されます。

2. [プロファイル設定のダウンロード] をクリックします。

   [「プロファイル設定」の利用方法] が表示されます。

3. プロファイル設定のダウンロード方法は、使用しているブラウザーによって異なります。

補足
- ファイル名の拡張子が「.txt」になっている場合は、「.cps」に変更してください。
- [profile] フォルダーは、以下のフォルダーにあります。XXXは、ドライブ名です。

-Windows XP/Windows Server 2003
XXX:¥WINDOWS¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥DPC5000d
-Windows Vista/Windows Server 2008/Windows 7
XXX:¥Users¥Public¥Documents¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥DPC5000d

◆Internet Explorerの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5000 d)］をクリックします。
   ［ファイルのダウンロード］ダイアログボックスが表示されます。
2. ［保存］をクリックします。
   ［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。
3. Windowsの［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、［OK］をクリックします。
   ダウンロードしたファイルが［profile］フォルダーに保存されます。

◆Firefoxの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5000 d)］をクリックします。
   ［XXXを開く］（XXXにはファイル名が入ります）ダイアログボックスが表示されます。
2. ［ファイルを保存する］を選択し、［OK］をクリックします。
   ［保存ファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。
3. Windowsの［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、［OK］をクリックします。
   ダウンロードしたファイルが［profile］フォルダーに保存されます。

◆Safariの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5000 d)］をクリックします。
   ブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。
2. Windowsの［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、開いたフォルダーにダウンロードが完了したファイルをドラッグ＆ドロップします。
   ［profile］フォルダーにファイルが移動します。

ICCプロファイル

ICCプロファイルは、デバイスの色に関する特性を記述したファイルです。

ICCプロファイルの利用方法については、ICCプロファイルを使用するアプリケーションの説明書を参照してください。

WebManagerからダウンロードできるICCプロファイルが圧縮されているファイル名は、以下のとおりです。

◆Macintoshクライアント

FXPSPXICC.img.hqx

◆Windowクライアント

FXPSPXICC.exe

解凍したファイルを、以下のフォルダーに格納してください。

◆Macintoshクライアントの例

ハードディスク/システムフォルダ/ColorSync特性

補足　Macintoshクライアントでは、ColorSyncのバージョンによって、フォルダーの名前が異なることがあります。

◆Windowsクライアントの例

XXX:¥Windows¥system32¥spool¥drivers¥color

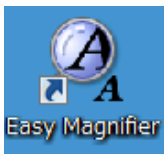
XXXは、ドライブ名です。

ICCプロファイルを使用してプリントする場合は、PhotoshopなどのアプリケーションでPrint Server用のICCプロファイルを選択してください。

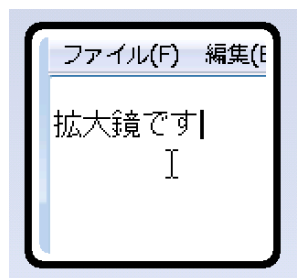
5.3　Easy Magnifierについて

Easy Magnifierは、文字が小さくて操作しづらいときに、画面の一部を拡大して表示する拡大鏡ツールです。

Easy Magnifierのインストールについては、『ユーザーズガイド導入編』の「2.4 ソフトウエアをインストールする」を参照してください。

デスクトップの「Easy Magnifier」アイコンをダブルクリックします。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［Easy Magnifier］を選択しても、Easy Magnifierを起動できます。

Easy Magnifierが起動し、［拡大鏡］ウィンドウと［操作パネル］ウィンドウが表示されます。

［拡大鏡］ウィンドウ

拡大した対象が表示されます。
枠線のサイズは、枠線をドラッグ＆ドロップして変更できます。

［操作パネル］ウィンドウ

- ウィンドウ右上の「×」をクリックしても、［操作パネル］が閉じるだけで、Easy Magnifierは終了しません。
- ［操作パネル］を再度表示させるには、タスクトレイのアイコンをダブルクリックするか、右クリック→［操作パネルを開く］を選択します。

◆①虫眼鏡

拡大倍率を設定できます。設定範囲は、100～900%です。

◆②モード変更

［拡大鏡］ウィンドウの表示方法を選択します。

全画面

ウィンドウ全体が拡大表示されます。

部分拡大（追従）

マウスポインタのある位置が拡大表示されます。マウスポインタの動きに合わせて［拡大鏡］ウィンドウが移動します。

部分拡大

マウスポインタのある位置が［拡大鏡］ウィンドウ内で拡大表示されます。

［拡大鏡］ウィンドウは、ドラッグ＆ドロップして、任意の位置に移動させたり、枠線をドラッグ＆ドロップして、サイズを変更したりできます。

表示位置の設定

［全画面］を選択したとき、マウスを動かして、拡大表示される範囲をクリックします。

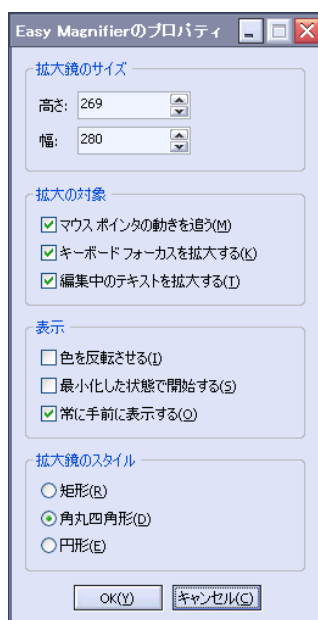
◆③詳細設定

クリックすると、［詳細設定］ウィンドウが表示されます。

◆④終了

クリックすると、Easy Magnifierが終了します。

［全画面］が選択されているときは、〈Esc〉キーでも終了できます。

［詳細設定］ウィンドウ

●拡大鏡のサイズ

［拡大鏡］ウィンドウのサイズを変更できます。

●拡大の対象

モードが［部分拡大（追従)］以外の場合に、設定できます。

チェックマークを付けた項目が、拡大表示する対象として設定されます。複数の項目にチェックマークを付けた場合は、最後にチェックマークを付けた項目が拡大表示する対象となります。

マウスポインタの動きを追う

モードが［部分拡大］の場合に設定できます。

チェックマークを付けると、マウスポインタの動きに合わせて拡大表示される領域が移動します。

キーボードフォーカスを拡大する

チェックマークを付けると、キーボードフォーカスのある位置を中心とした領域が拡大表示されます。

編集中のテキストを拡大する

チェックマークを付けると、入力中の文字のある位置を中心とした領域が拡大表示されます。

●表示

ウィンドウの表示方法を設定できます。

色を反転させる

チェックマークを付けると、［拡大鏡］ウィンドウに表示される拡大画像の色が反転します。

最小化した状態で開始する

チェックマークを付けると、次回起動時に、［操作パネル］ウィンドウが閉じた状態で起動します。

［操作パネル］ウィンドウを表示させるには、タスクトレイのアイコンをダブルクリックするか、右クリック→［操作パネルを開く］を選択します。

常に手前に表示する

チェックマークを付けると、［操作パネル］ウィンドウと［詳細設定］ウィンドウが常にデスクトップの最前面に表示されます。

●拡大鏡のスタイル

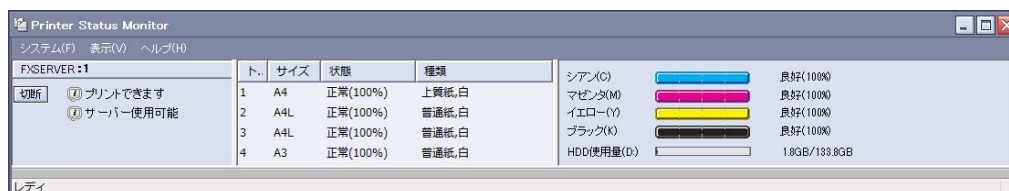
［拡大鏡］ウィンドウの枠線の形を選択します。

・矩形　・角丸四角形　・円形

タスクトレイのアイコン

・ダブルクリックすると、操作パネルが表示されます。すでに表示されているときは、タスクトレイの近くに移動します。
・右クリックすると、メニューを選択できます。

5.4 Printer Status Monitorについて

Printer Status Monitorは、接続した複数台のPrint Serverのジョブの状態や消耗品の状態を確認するためのソフトウエアです。

参照 Printer Status Monitorのインストールについては、『ユーザーズガイド導入編』の「2.4 ソフトウエアをインストールする」を参照してください。

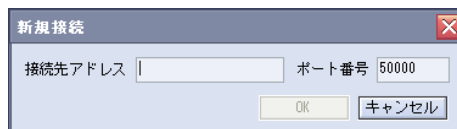
5.4.1 Print Serverへの接続

操作手順

1. デスクトップの「Printer Status Monitor DPC5000d_60」アイコンをダブルクリックします。

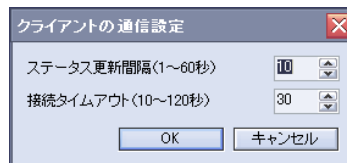
補足 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［Printer Status Monitor DPC5000d_60］を選択しても、Printer Status Monitorを起動できます。

Printer Status Monitorが起動します。

2. ［システム］→［新規接続］を選択します。
3. 接続先アドレスとポート番号を入力し、［OK］をクリックします。

Print Serverに接続されます。

5.4.2 Printer Status Monitorのメニュー

［システム］メニュー

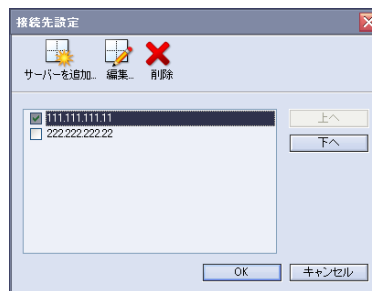
■クライアントの通信設定

●ステータス更新間隔

ステータスの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。

●接続タイムアウト

Print Serverへの接続タイムアウト時間を入力します。入力範囲は、10～120秒です。

■接続先設定

アドレスの左側にチェックマークを付けると、次回起動時に自動的に接続されます。

●サーバーを追加

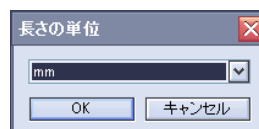
接続するPrint Serverを追加することができます。クリックしたあと、接続先アドレスとポート番号を入力し、［OK］をクリックします。

●編集

接続するPrint Serverの接続先アドレスとポート番号を変更することができます。クリックしたあと、接続先アドレスとポート番号を入力し、［OK］をクリックします。

●削除

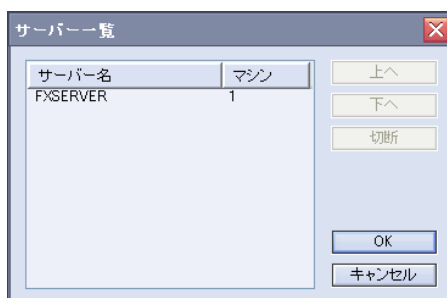
接続先を選択し、クリックすると、接続先が削除されます。

■長さの単位

長さの単位を選択します。

・mm　・pt　・inch　・級

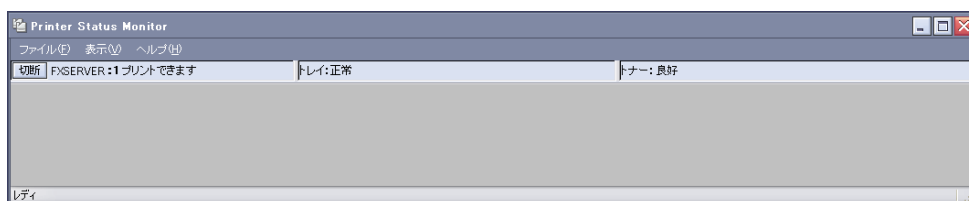
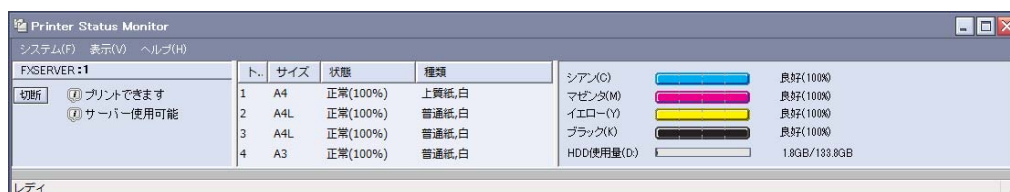
［表示］メニュー

■サーバー一覧

接続中のPrint Serverの一覧が表示されます。

切断

表示されている接続先を選択し、［切断］をクリックすると、選択した接続先との接続が切断されます。

5.4.3　Printer Status Monitorのウィンドウ

■簡易表示モード

■詳細表示モード

モードの切り替え方

起動直後は簡易表示モードで起動します。

詳細表示モードにするには、ウィンドウ下枠のフレームをドラッグ＆ドロップして、下側に移動させます。

マシン状態表示エリア（左側の「プリントできます」が表示されている箇所）をダブルクリックしても、詳細表示モードに切り替わります。

状態表示については、「3.1.1 ServerManagerのウィンドウ」（P.148）を参照してください。

Print Serverの情報とエラー表示

Print Serverで確認することができる情報、エラージョブメッセージについて説明しています。

6.1 Print Serverの情報を確認する

ここではPrint Serverで確認できる情報について説明します。

6.1.1 プリント履歴

ジョブの履歴を表示させたり、プリントすることができます。また、CSVファイルに保存できます。プリンターを共有している場合、部門やユーザーごとにプリント履歴の確認ができるので、管理がしやすくなります。

Print Server N
ジョブ履歴レポート

サーバー名:FXSERVER01
日時:2011/06/02 11:52:30
ページ:1

所有者	ドキュメント名	アカウント	ステータス	受信開始日時	RIP開始時刻	RIP経過時間	印刷開始日時	印刷経過時間	カラーモード	用紙種類	用紙サイズ	両面印刷	部数	ドキュメントページ数	カラーページ数(色)	グレーページ数	カバーページ
Administrator	スタートアップページ		正常終了(プリント)	2011/05/25 14:31:43	[illegible]	00:04	[illegible]	00:15	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
FXServer	picture1		正常終了(RIP)	2011/05/26 13:40:26	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4	しない	1	1	0	0	なし
FXServer	picture1		正常終了(RIP)	2011/05/26 13:40:42	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	[illegible]	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		正常終了(プリント)	2011/05/26 13:48:15	[illegible]	00:01	[illegible]	00:20	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/05/26 13:51:02	[illegible]	00:01	[illegible]	00:15	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
Administrator	プリント履歴レポート		キャンセル	2011/05/26 14:03:06	[illegible]	00:01	[illegible]	02:33	グレースケール(K)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	0	1	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/05/26 14:05:57	[illegible]	00:01	[illegible]	00:12	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
FXServer	picture1(Calオフ)		エラー	2011/05/26 13:40:42	[illegible]	00:00	<不明>	<不明>	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	[illegible]	しない	1	1	0	0	なし
	指定された用紙（カスタム(282x188mm),普通紙,白）に必要なトレイがありません、または用紙サイズがサポート範囲外です(108)																
FXServer	picture1(Calオフ)		正常終了(RIP)	2011/05/26 14:20:32	[illegible]	00:00	[illegible]	00:01	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	[illegible]	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/05/26 14:21:47	[illegible]	00:01	[illegible]	00:15	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		正常終了(プリント)	2011/05/26 14:29:45	[illegible]	00:02	[illegible]	00:18	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A4L	しない	1	1	1	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		正常終了(プリント)	2011/05/26 15:01:27	[illegible]	00:02	[illegible]	00:30	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A3	しない	1	1	1	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/05/26 15:02:17	[illegible]	00:01	[illegible]	00:20	フルカラー1(RGB/CMYK)	再生紙,白	A3	しない	1	1	1	0	なし
FXServer	20		正常終了(RIP)	2011/05/26 15:02:55	[illegible]	00:01	[illegible]	00:02	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A3	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	プリント履歴レポート		キャンセル	2011/05/26 15:59:23	[illegible]	00:01	[illegible]	00:11	グレースケール(K)	普通紙,白	SRA3	しない	1	1	0	1	なし
Administrator	プリント履歴レポート		正常終了(RIP)	2011/05/26 16:00:13	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	グレースケール(K)	普通紙,白	SRA3	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	プリント履歴レポート		正常終了(RIP)	2011/06/02 11:31:10	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	グレースケール(K)	普通紙,白	A4L	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/06/02 11:42:53	[illegible]	00:05	[illegible]	00:16	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4	しない	1	1	0	0	なし
FXServer	27		正常終了(RIP)	2011/06/02 11:43:40	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4L	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/06/02 11:49:26	[illegible]	00:03	[illegible]	00:12	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4	しない	1	1	0	0	なし
Administrator	キャリブレーションチャート		キャンセル	2011/06/02 11:49:50	[illegible]	00:01	[illegible]	00:20	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4	しない	1	1	1	0	なし
FXServer	30		正常終了(RIP)	2011/06/02 11:50:35	[illegible]	00:01	[illegible]	00:01	フルカラー1(RGB/CMYK)	普通紙,白	A4L	しない	1	1	0	0	なし
合計														11	9	2	

- プリント履歴を記録するためには、ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［設定］の［プリント履歴を記録する］にチェックマークが付いていることを確認してください。
- プリント履歴には、エラージョブとしてPrint Serverから自動削除されたジョブも含みます。

プリント履歴の削除方法については、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「ジョブ履歴の設定」を参照してください。

■プリント履歴の内容

ジョブごとに、以下の項目を確認できます。

・所有者	・ドキュメント名	・アカウント	・ステータス
・受信開始日時	・RIP開始日時	・RIP経過時間	・印刷開始日時
・印刷経過時間	・カラーモード	・用紙種類	・用紙サイズ
・両面印刷	・部数	・ドキュメントページ数	・カラーページ数（4色）
・グレーページ数	・カバーページ	・コメント	・エラー内容

補足
- 「所有者」、「アカウント」、および「コメント」には、ファイル送信時に表示されるプリントオプションの［ユーザー情報］タブで設定した項目が表示されます。
- 「エラー」の内容は、プリントオプションの［ジョブ情報］に表示される［ステータス］と同じ内容です。
- 「用紙サイズ」は、プリントした用紙サイズになります。たとえば、ジョブの用紙サイズに A2L を設定した場合はA3に、A4サイズの小冊子作成をした場合はA3です。
- 「ドキュメントページ数」の合計は、「カラーページ数」の合計＋「グレーページ数」の合計です。
- 「グレーページ数」には、PostScriptエラーシートを含みます。

プリント履歴の表示

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［表示］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● ソート方法

日付順

所有者ごと

アカウントごと

補足　［日付順］の日時は、プリント用紙の排出が終了した日時です。また、エラージョブとして Print Server から自動削除されたジョブについては、削除が終了した日時になります。

● 表示範囲

全て

プリントしたジョブすべてのプリント履歴が表示されます。

前回の印刷・保存以降

前回の保存以降のプリント履歴が表示されます。

期間指定

期間を設定してプリント履歴が表示されます。期間の西暦は、4桁の数値を入力します。

プリント履歴の保存

1. ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［保存］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。
3. ファイル名を入力するダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定して［保存］をクリックします。

プリント履歴のプリント

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［印刷］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

プリント履歴のジョブがServerManagerの処理中リストに表示されます。

●ソート方法

日付順

所有者ごと

アカウントごと

［日付順］の日時は、プリント用紙の排出が終了した日時です。また、エラージョブとしてPrint Serverから自動削除されたジョブについては、削除が終了した日時になります。

●印刷範囲

全て

プリントしたジョブすべてのプリント履歴がプリントされます。

前回の印刷・保存以降

前回の保存以降のプリント履歴がプリントされます。

期間指定

期間を設定してプリント履歴がプリントされます。期間の西暦は、4桁の数値を入力します。

●用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

6.1.2　フォント情報

Print Serverにインストールされているすべてのフォント情報に関して、以下の項目を確認、および実行できます。

・フォント一覧の表示、およびプリント

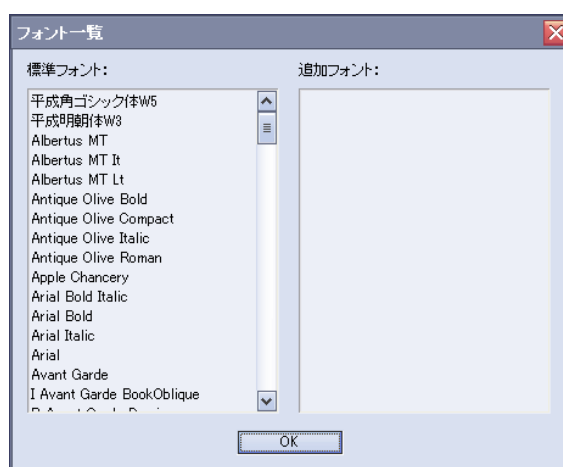
・フォントのバックアップ、およびバックアップしたフォントの復元

・フォントディスクの作成、変更、および削除

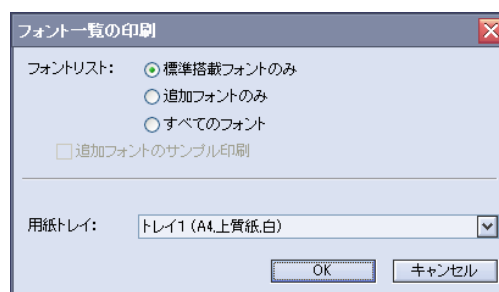
・フォントのダウンロードの開始、および終了

安全のため、フォントを別のメディアにバックアップしておくことをお勧めします。万一トラブルが起きたときに、復旧作業の時間を短縮できます。

フォント一覧の表示

ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［一覧表示］を選択します。

フォント一覧のプリント

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［一覧印刷］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● フォントリスト

標準搭載フォントのみ

標準搭載フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。

追加フォントのみ

すべてのフォント

● 追加フォントのサンプル印刷

チェックマークを付けると、追加フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。

チェックマークを外すと、追加フォントの書体名だけがプリントされます。

［追加フォントのみ］、または［すべてのフォント］の場合に選択できます。

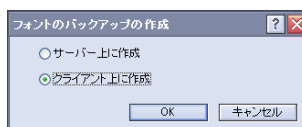
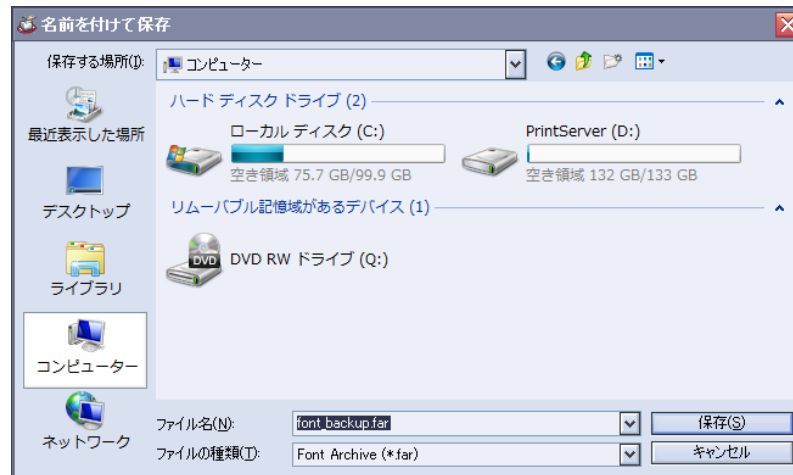
追加したフォントは、インストールをした順ではなく、アルファベット順に表示されます。

● 用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

フォントのバックアップの作成

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［バックアップ］→［フォントをバックアップ］を選択します。
   - ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。
   - クライアントコンピューターから指示した場合は、保存する場所を選択し、［OK］をクリックします。

2. 保存する場所を選択し、［保存］をクリックします。

ファイルの拡張子は、「.far」です。

バックアップファイルは、100MB 単位で分割して保存されます。ファイルが 100MB を超える場合は、バックアップファイルを分割して作成します。

バックアップファイルが分割された場合、ファイル名は、以下のようになります。
例）ファイル名に「font_backup」と入力した場合

- 最初のファイル：font_backup.far
- 2番目のファイル：font_backup1.far
- 3番目のファイル：font_backup2.far

バックアップしたフォントの復元

バックアップしたフォントを復元するには、すべてのバックアップファイルを同じフォルダーに保存してください。

1. ServerManagerの［システム］→［バックアップ］→［フォントをリストア］を選択します。

   ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. 復元するファイルを選択し、［開く］をクリックします。

   ファイルの拡張子は、「.far」です。バックアップファイルが分割されている場合は、最初に作成されたバックアップファイルを選択します。

フォントディスクの追加

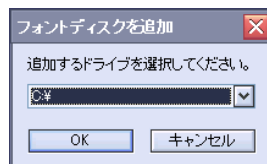
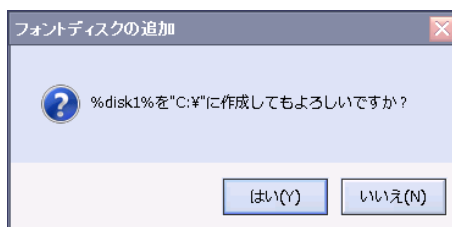
選択したドライブにフォントディスクを作成し、追加できます。

- フォントディスクは、市販フォントのインストール用ディスクスペースです。
- 選択したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントディスクを追加］を選択します。

   ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. フォントディスクを追加するドライブを選択し、［OK］をクリックします。

3. ［はい］をクリックします。

フォントディスクの変更

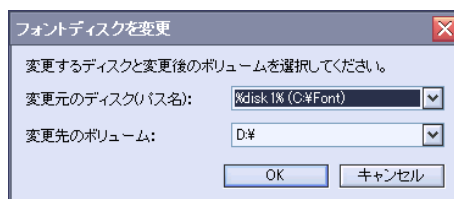
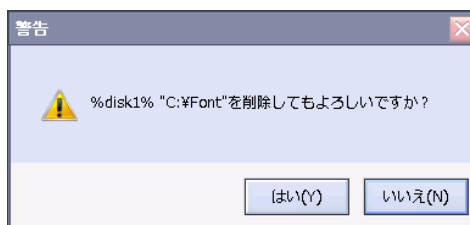
選択したドライブにフォントディスクを作成し、選択されたフォントディスクの内容が複製され、複製終了後にもとのフォントディスクが削除されます。

選択したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントディスクを変更］を選択します。

   ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. フォントディスクを変更するドライブ、変更後に保存するドライブを選択し、［OK］をクリックします。

3. ［はい］をクリックします。

フォントディスクの削除

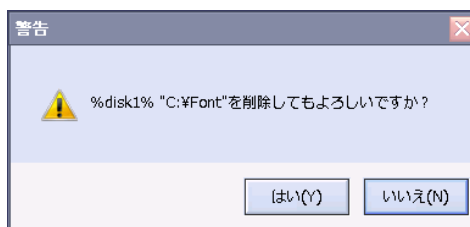
Disk0は削除できません。削除を実行しても、フォントディスク番号は変更されません。

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントディスクを削除］を選択します。

   ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. フォントディスクを削除するドライブを選択し、［OK］をクリックします。

3. ［はい］をクリックします。

フォントのダウンロード

Print Serverにフォントをダウンロードでき、ダウンロード用のプリンター名がAppleTalkに作成されます。
ダウンロードの間、ジョブの受信はされますが、RIP処理は行われません。
フォントダウンロードの開始と終了は、メニューの選択によって切り替わります。

- 市販フォントをインストールする場合は、まず ServerManager の［管理］→［論理プリンタの管理］で、AppleTalk のプリンターを作成してください。そのあと、市販フォントをインストールしてください。AppleTalkのプリンターの作成方法は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1.2 Macintoshクライアント用のプロトコル設定と論理プリンタの作成」を参照してください。
- 新規にフォントをインストールし、［フォント更新］を実行したときに、PostScript エラーが発生した場合は、一度新規に追加したフォントをアンインストールして、再度インストールしてください。
- フォントがインストールできない場合や、フォントの更新時にエラーが発生する場合は、Print Serverのネットワーク環境に応じて、NICの通信速度を10Base-Half、または100Base-Halfに固定した状態でフォントをインストールしてください。
- 欧文フォントのダウンロードには、製品に同梱されているPSTool 2.0Jを使用してください。

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントのダウンロードを開始］を選択します。

［フォントのダウンロードを開始］を選択すると、［フォントのダウンロードを終了］を選択するまで、プリント処理は行われません。

2. セレクタ、またはプリントセンターで、フォントダウンロード用のプリンターに接続します。

   フォントダウンロード用のプリンター名は、「XXX-Font」（XXX は AppleTalk のプリンター名が入ります）です。

3. フォントメーカーのインストール手順に従い、インストールします。

4. インストールが終了したら、ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントのダウンロードを終了］を選択します。

補足　一度に複数のフォントをインストールしようとしても、インストールできなかった場合は、手順1〜4を繰り返してフォントを1つずつインストールしてください。

5. ほかにもインストールするフォントがあるときは、手順1〜4を繰り返します。
フォントメーカーによっては、一度に複数の書体をインストールできる場合もあります。各フォントメーカーのインストール手順に従ってください。

6. フォントのインストールがすべて完了したら、ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントを更新］を選択します。
   - フォントの更新をすると、MacintoshクライアントからのFontQueryに応答できるようになり、インストールされているフォントを使用してプリントできます。
   - Windowsクライアントからのプリントには影響しません。

代替フォントの設定

この機能を使うと、ファイルで使用しているフォントがプリンターにインストールされていないときに置き換えるフォントを設定できます。標準で設定されている代替フォントは、欧文が「Courier」、和文が「平成明朝体W3」です。

- ファイルを編集する前に、オリジナルを複製してバックアップを作成しておくことをお勧めします。
- オリジナルのバックアップファイルをオリジナルと同じフォルダーに保存する場合は、拡張子を「.ps」以外に変更してください。拡張子が「.ps」の場合、編集した内容が反映されないことがあります。
例：オリジナルのファイル名が「aaa.ps」の場合は、「aaa.ps.org」などに変更
- オリジナルがあるフォルダーに、別のフォルダーを格納しないでください。編集した内容が反映されない場合があります。

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［終了］を選択します。
2. 以下のファイルを、メモ帳などのアプリケーションを使って開きます。
D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SubstituteFont.ps
3. 以下の箇所の（　）内を代替するフォント名に書き換えます。

```
%! PS

currentglobal true setglobal

FX_dict /RomanSubstFont (Courier) put
FX_dict /JapaneseSubstFont (HeiseiMin-W3) put
```

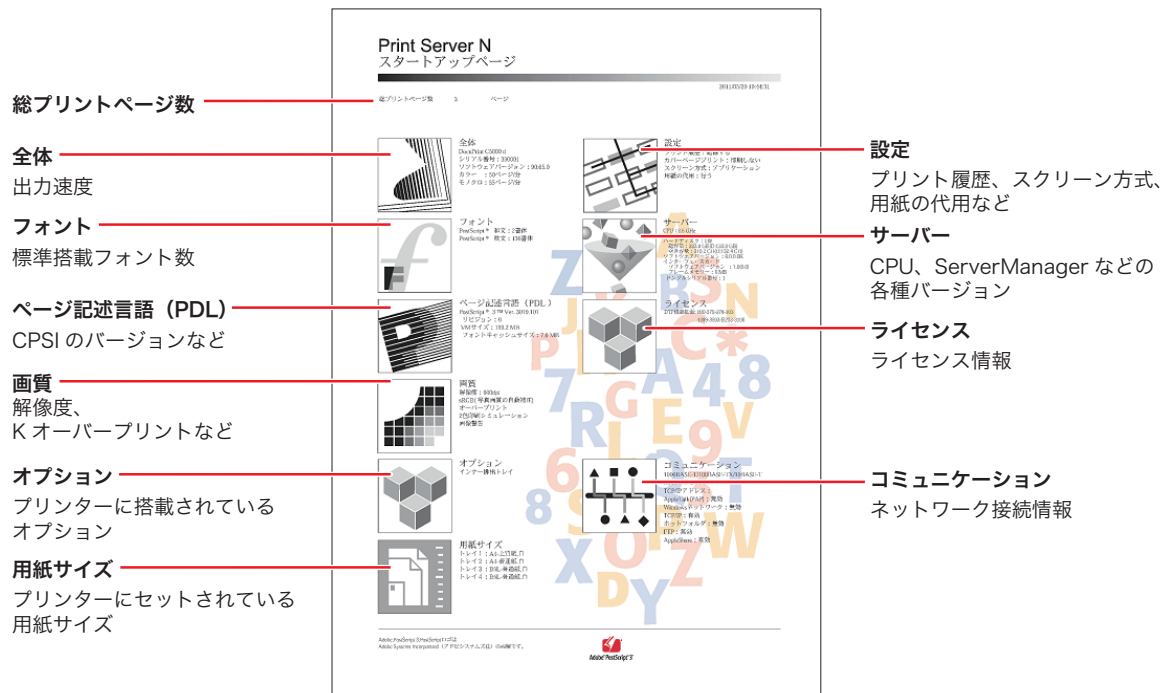
4. 編集したファイルを保存します。
5. Print Serverを再起動します。

フォントの更新

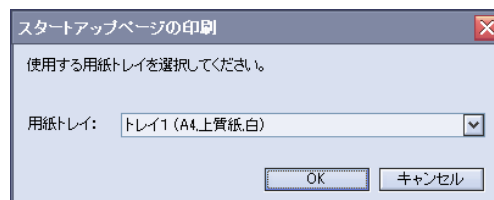
補足　市販のフォントを追加したら、フォントの更新をしてください。フォントの更新をしないと、追加したフォントをPrint Serverが認識できません。

ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントを更新］を選択します。
処理中リストに、「フォントリストの再構築中」と表示されます。

6.1.3　スタートアップページ

スタートアップページで、Print Serverのシステム情報や設定情報を確認できます。
スタートアップページには、以下の項目がプリントされます。

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［スタートアップページの印刷］を選択します。

2. ［OK］をクリックします。

● 用紙トレイ
プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

6.1.4　エラー履歴の収集

ログと設定情報を収集できます。収集できるログは、以下のとおりです。

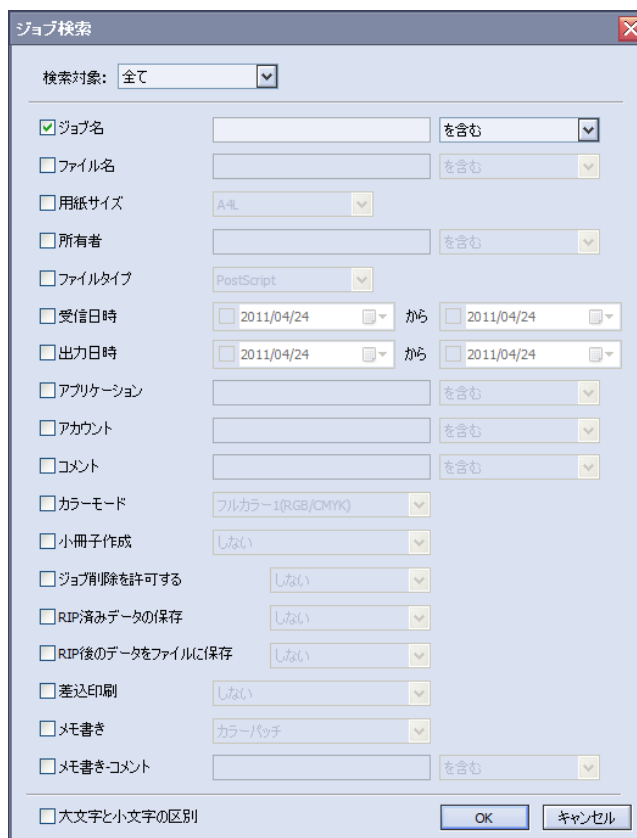
・イベントログ

・以下のフォルダーにあるログ

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Log

収集したログは、LHA形式の圧縮ファイルとして保存されます。ファイル名、および保存先は任意に設定できます。

1. ServerManagerの［システム］→［エラー履歴の収集］を選択します。
2. ファイル名、保存先を設定し、［OK］をクリックします。
   選択したフォルダーに、ログが保存されます。

6.1.5　ジョブ検索

Print Serverのすべてのリストに対して、条件を設定してジョブが検索できます。

検索結果は、ジョブリストの検索結果リストに表示されます。

検索されたジョブは、保持、エラーリストのジョブと同じ操作ができます。

操作手順

1. ServerManagerの［ジョブ検索］をクリックします。

補足　［ジョブ］→［ジョブ検索］を選択しても、［ジョブ検索］ダイアログボックスを表示できます。

2. 検索条件を設定します。

●検索対象

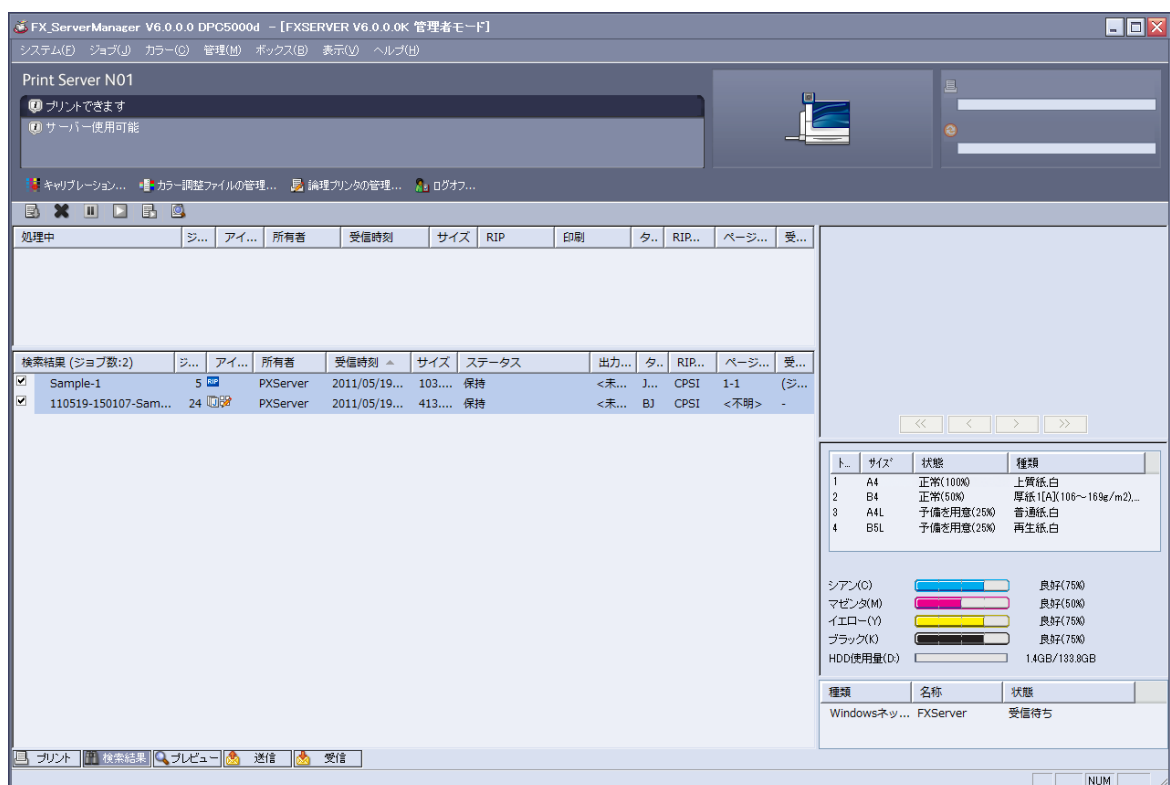
・全て　・ビルドジョブ以外　・ビルドジョブ

●検索項目

チェックマークを付けて、条件を設定します。

- ジョブ名
- ファイル名
- 用紙サイズ
- 所有者
- ファイルタイプ
- 受信日時
- 出力日時
- アプリケーション
- アカウント
- コメント
- カラーモード
- 小冊子作成
- ジョブ削除を許可する
- RIP済みデータの保存
- RIP後のデータをファイルに保存
- 差込印刷
- メモ書き
- メモ書き-コメント
- 大文字と小文字の区別

3. ［OK］をクリックします。

検索結果ボックスに検索されたジョブが表示されます。

検索リストのクリア

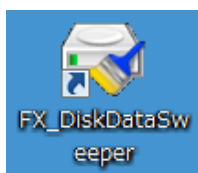
ServerManagerの［ジョブ］→［検索リストのクリア］を選択すると、検索リストがデフォルトにもどります。

6.1.6　データの完全消去

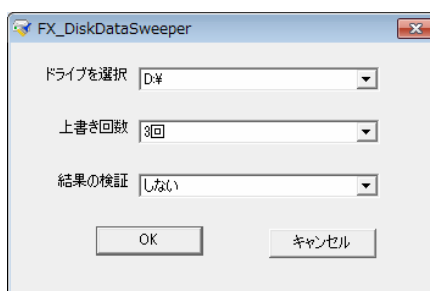
ディスクデータスウィーパーを使用して、データ復元ソフトなどでも復元できないよう、データを完全に消去することができます。

- ディスクデータスウィーパーは、削除済みのデータを完全に消去するものです。ごみ箱の中にあるデータは、完全消去されません。ごみ箱を空にした上で、データの完全消去を実施してください。
- データの完全消去には時間がかかります。また、完全消去中はServerManagerのサービスが停止され、プリントできなくなります。

操作手順

1. Print Serverデスクトップの「FX_DiskDataSweeper」アイコンをダブルクリックします。

ディスクデータスウィーパーが起動します。

補足 ［スタート］→［プログラム］→［Fuji Xerox］→［FX_DiskDataSweeper］を選択しても、ディスクデータスウィーパーを起動できます。

2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

● ドライブを選択

完全消去するドライブを選択します。

ServerManagerのデータはDドライブにあります。ServerManagerで削除したデータだけを完全消去する場合は、［D］を選択してください。
すべての削除データを完全消去する場合は、［すべてのドライブ］を選択してください。

● 上書き回数

データを上書きする回数を選択します。

ディスクデータスウィーパーは、ディスクの空き領域に別のデータを上書きすることで、元データを消去し、復元できないようにします。
［上書き回数］に［3回］を選択した場合、それぞれ異なるデータを3回上書きします。

● 結果の検証

ハードディスクが正しく上書き消去されたかどうかを検証します。

しない

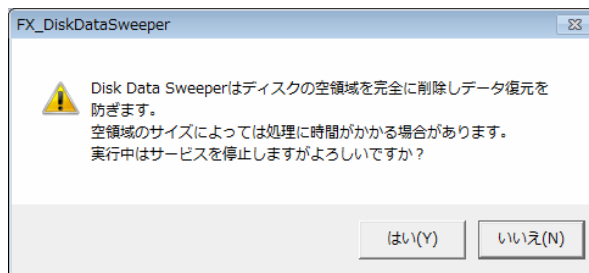
検証しません。

10%検証

上書きしたデータの先頭10%だけを検証します。

全て検証

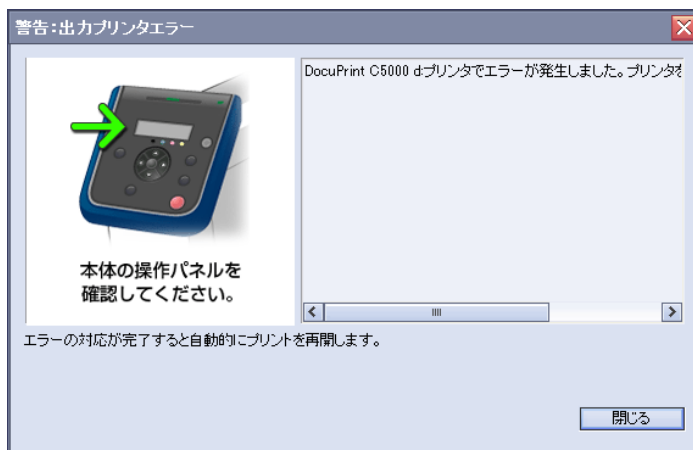
上書きしたすべてのデータを検証します。

3. ［はい］をクリックします。

データの完全消去が開始されます。

- すべてのアプリケーションを終了してから行ってください。また、消去中に対象のドライブにデータの書き込み、削除を行わないでください。
- 消去中にドライブの空き容量が減った場合、上書きに失敗します。逆に、消去中に空き容量が増えた場合、増えた分の上書きをすることができません。

4. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、［OK］をクリックします。

6.2　エラーウィンドウについて

プリンターを使用中に異常が発生すると、ServerManager の画面に、以下のようなエラーウィンドウが表示されます。表示されたウィンドウ内のメッセージに従って、対処してください。

対処方法に従って対処しても、問題が解決しない場合は、弊社のテレフォンセンター、または販売店にご連絡ください。

6.3　エラージョブメッセージについて

エラーになったジョブに表示される、エラーメッセージについて説明します。

メッセージは、ServerManager のエラーリスト中の「ステータス」や、プリントオプションの［ジョブ情報］の［ステータス］に表示されます。

6.3.1　RIPエラー

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
1～6	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
7	CPSI 初期化エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました。必要なファイルが見つかりません	通常の使用では発生しません。	E
8、9	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
10	RIPエラー	RIPエラー	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
11	VMエラー	CPSI のメモリが不足しています	Print Serverを再起動してください。 このエラーが何度も発生する場合は、弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
12	ディスク容量不足	ディスクの容量が不足しています	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
13、14	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
91	PDF印刷エラー	このPDFファイルは印刷を許可されていません	セキュリティーが設定されている PDF ファイルはプリントできません。	E
92～94	PDF変換エラー	PDF ファイルを変換するときにエラーが発生しました	Adobe Reader などからプリントしてください。	E
100	ジョブ入力エラー	ジョブ読み込みに失敗しました	再度、ジョブをPrint Serverに送信してください。 たびたび起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
101	ファイル出力エラー	ディスクへの書き込みに失敗しました	RIP直前データの保存に失敗しました。(通常の運用では使用されていません) 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
レベル	E　：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W　：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N　：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
102	プリントオプションエラー	分版合成はカラーモード「グレースケール」ではできません	プリントオプションの［カラー］>［カラーモード］>［グレースケール（K)］と［画質］>［その他の設定（画質)］>［色分版の合成］を同時に設定してプリントしたために発生しました。(［色分版の合成］は、フルカラーモードのときに利用できる機能です） ［カラー］>［カラーモード］を［グレースケール（K）］以外でプリントしてください。	W
103	プリントオプションエラー	このプリントオプションでは両面印刷できません	両面印刷ができる用紙サイズを設定して再プリントしてください。	W
104	プリンター電源オフ	プリンタの電源が入っていません	プリンターの電源を入れてから、エラーリストに入った該当するジョブを再開してください。	W
106	ラスター画像変換エラー	画像変換に失敗しました	TIFF画像などの変換に失敗しました。	E
107	PostScriptエラー	PostScriptエラーです	ファイルを確認してください。	E
110	プリフライト出力エラー	プリフライトレポートの保存に失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、プリフライトレポートをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
111	TIFFファイル出力エラー	TIFF ファイルの保存に失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、TIFF ファイルをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
112	ディスク容量不足	RIP 中にディスクの空き容量がなくなったため処理を中止しました	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
114	RIP済みデータ入力エラー	RIP 済みデータの読み込みに失敗しました	RIP済みデータを削除して、再プリントしてください。	W
115	RIP済みデータ出力エラー	RIP 済みデータの書き込みに失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、RIP済みデータをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	W
117	ユーザ調整ファイルエラー	ユーザー調整用のファイルが見つかりません	ユーザー調整カーブの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
118	キャリブレーションファイルエラー	キャリブレーション用のファイルが見つかりません	キャリブレーションの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
120	分版合成エラー	色版の数が合わないため分版合成に失敗しました	プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］を［QuarkXPress-3 Style］などにしてプリントしたときに色版の数が合っていません。 ［自動］にして、プリントしてください。	W
121	ディスク容量不足	ジョブデータがディスクに保存されていないため処理できません	ジョブが空きディスク容量不足でディスクに保存できなかった場合、再プリントやプリントオプションの［排出/フィニッシング/両面］＞［ソートする（1部ごと）］などで発生します。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再度、ジョブをPrint Serverに送信してください。	E
122	両面印刷サイズエラー	おもて面とうら面の用紙サイズが異なるため両面印刷できません	改ページの場所を調整するか、片面でプリントしてください。	W
123	プリントオプションエラー	用紙サイズ・プリンタモード・画質モードがフォームと異なります	フォーム、またはその上に重ねるジョブのどちらかのジョブを修正して、再度、差込印刷をしてください。	W
124	TIFFファイル名エラー	TIFFファイル名が重複するため処理できません	TIFFフォルダーから不要なファイルを削除して、再開してください。	E
125	プリントオプションエラー	RIP済みデータの用紙サイズが不適当なため小冊子作成はできません	用紙サイズを確認し、RIP済みデータを削除して再度小冊子作成をしてください。	W
126	プリントオプションエラー	指定された用紙種類では両面印刷できません	両面印刷ができる用紙を使用してください。	W
132	プリントオプションエラー	RGB画像警告はカラーモード「グレースケール」ではできません	RGB画像警告を使用する場合は、プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］を［グレースケール（K）］以外にしてください。	W
133	メモリ不足エラー	メモリの確保に失敗しました	メモリー容量が不足しています。メモリー不足の問題を解決してから再プリントしてください。	E
134	プリントオプションエラー	分版合成しながら差込印刷することはできません	プリントオプションを設定し直してください。	W
139	用紙トレイなし	指定された用紙サイズ（RIP済みデータの用紙サイズ（用紙サイズ）、用紙種類）に必要なトレイがありません	RIP済みデータの用紙サイズをトレイにセットするか、RIP済みデータを削除して、再度RIPし直してください。	W
140	サイズエラー	EPS/TIFF/JPEGでは、用紙サイズを「変更しない」にした場合、手差しトレイは指定できません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、手差しトレイ以外の用紙トレイを指定してください。	W
141	サイズエラー	節電中にトレイの用紙サイズが変更されたため印刷できませんでした	用紙サイズを確認してください。	N
142	サイズエラー	SunRaster/XWDは指定用紙サイズに印刷できません	用紙サイズを確認してください。	W
143	RGB色補正プロファイルエラー	RGB色補正プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。	W
144	RGB出力プロファイルエラー	RGB出力プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
145	フォーム登録 エラー	指定した番号は使われていたため、フォームとして登録することができませんでした	未登録の番号を使用してください。	W
146	差込印刷エラー	差込印刷に使用するフォームが登録されていません	使用するフォームを登録してください。	W
147	差込印刷エラー	分版出力のジョブはフォームとして登録できません	プリントオプションを変更してください。	W
148	プリントオプションエラー	分版出力のジョブは差込印刷できません	プリントオプションを変更してください。	W
149	差込印刷エラー	フォームの RIP 済みデータがないため差込印刷できません	RIP済みデータを作成してください。	W
150	RIP済みデータ入力エラー	フォームの RIP 済みデータの読み込みに失敗しました	再度 RIP 済みデータを読み込んでください。	W
151	プリントオプションエラー	差込印刷できない用紙サイズです	用紙サイズを確認してください。	W
152	RIPエラー	CMYK 色補正に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
153	RIPエラー	トナー制限に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
154	RIPエラー	RGB画像警告に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
155	RIPエラー	ユーザー調整・TRC・キャリブレーションに問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
157	プリントオプションエラー	範囲指定したページがありません	ページ範囲の設定を確認してください。	W
158	差込印刷エラー	指定されたフォームには既にセキュリティ指定のジョブが登録されています	未登録の番号を使用してください。	W
159	プリントオプションエラー	RIP 済みデータの用紙サイズが不適当なため 2 アップできません	用紙サイズを確認し、RIP済みデータを削除して再度 2 アッププリントをしてください。	W
161	プリントオプションエラー	2 色印刷シミュレーションで使用する色版が指定されていません	使用する色版を設定してください。	W
162	差込印刷エラー	指定されたフォームにはセキュリティが指定されています	フォームのセキュリティー設定を解除するか、下地ジョブにも、フォームと同様のセキュリティーの設定をしてください。	W
163	差込印刷エラー	フォームとデータのパスワードが違います	フォームと下地ジョブには、同じパスワードを設定してください。	W
166	プリントオプションエラー	用紙サイズ / イメージサイズが不適当なため小冊子作成できません	用紙サイズ/イメージサイズを確認してください。	W
167	プリントオプションエラー	用紙サイズ / イメージサイズが不適当なため 2 アップできません	用紙サイズ/イメージサイズを確認してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
170	小冊子作成エラー	指定された用紙種類では小冊子作成ができません	用紙種類を変更してください。	W
186	サイズエラー	指定された用紙サイズはサポート範囲外です	設定された用紙サイズが定型サイズ、カスタムサイズ範囲外です。 変更してください。	W
188	パンチ不可	指定された位置にパンチはできません	パンチ位置を確認してください。	W
190	ビルドジョブエラー	指定されたビルドジョブには個々のジョブが含まれていません	空のビルドジョブをプリントしようとしました。 ビルドジョブを確認してください。	E
191	小冊子エラー	コンポジット分解指定のジョブは小冊子作成ができません	プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］が［コンポジット分解］になっていますので、変更してください。	W
193	2アップエラー	画質モード、またはプリンタモードが混在しているため、2アップ印刷ができません	異なる画質モード、またはプリンタモードのジョブを組み合わせて（ビルド）2アップにしています。 画質モード、またはプリンタモードを合わせてください。	W
198	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズは出力イメージサイズよりも小さいためプリントできません	プリントできる用紙サイズを設定してください。	W
199	RIPエラー	RIPエラー	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	E
200	プリントオプションエラー	フォームジョブとデータジョブのRIPサイズが異なるため、差込印刷ができません	小冊子作成のRIPサイズがフォームジョブとデータジョブのサイズを合わせてください。	W
201	用紙トレイなし	イメージサイズ(＊×＊＊mm)以上、用紙の種類の用紙がありません	小冊子作成時のイメージサイズ（RIPサイズ、とじしろ量、ずらし量）を印字できる用紙サイズがトレイにセットされていません。 設定を変更してください。	W
202	イメージサイズエラー	イメージサイズ（＊×＊＊mm）はサポート用紙サイズを超えています	小冊子作成時のイメージサイズ（RIPサイズ、とじしろ量、ずらし量）が機械のサポートしている用紙サイズを超えています。（＊は出力イメージの幅、＊＊は出力イメージの長さ） 設定を変更してください。	W
203	プリントオプションエラー	小冊子作成オプションの設定がフォームとデータで異なります	フォームとデータの小冊子作成オプションの設定を確認してください。	W
206	プリントオプションエラー	小冊子作成オプションが正しくないため、小冊子作成できません	小冊子作成オプションの設定を確認してください。	W
207	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズではリピートできないためプリントできません	用紙サイズ確認してください。	W
208	プリントオプションエラー	連続階調（アンチエイリアス）の時は差込印刷ができません	プリントオプションを変更してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
209	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズはプリンタモード連続階調（アンチエイリアス）で処理できません	A2L、または B3L の用紙サイズが設定されています。 設定を変更してください。	W
211	プリントオプションエラー	連続階調（アンチエイリアス）の時はウォーターマーク挿入ができません	プリントオプションを変更してください。	W
212	プリントオプションエラー	ウォーターマーク挿入できない用紙サイズです	用紙サイズを確認してください。	W
213	プリントオプションエラー	分版出力のジョブはウォーターマーク挿入できません	プリントオプションを変更してください。	W
214	プリントオプションエラー	ウォーターマーク挿入に使用するフォームが登録されていません	ウォーターマーク挿入に使用するフォームを登録してください。	W
215	プリントオプションエラー	カラーモードが異なるため、ウォーターマーク挿入ができません	ウォーターマークのカラーモードを変更してください。	W
219	イメージサイズエラー	イメージサイズが、用紙サイズより幅方向と長さ方向の両方向共に設定値以上小さいためプリントできません	プリントオプションの［出力方法］＞［その他の設定（出力方法）］＞［余白が大きすぎる場合、処理を中止する］が［する］の場合に、プリントするデータのページサイズが用紙サイズよりも幅方向と長さ方向がともに設定値以上小さいことを検知しました。 データを変更する、または［余白が大きすぎる場合、処理を中止する］を［しない］にしてください。	W
220	小冊子エラー	用紙トレイと出力用紙サイズが違うため、小冊子作成ができません	表紙用トレイとプリント用紙サイズが異なっています。 用紙トレイを確認してください。	W
221	小冊子エラー	1 枚目の用紙トレイと 2 枚目以降の用紙トレイのサイズが違うため、小冊子作成ができません	表紙用トレイとプリント用紙サイズが異なっています。 用紙トレイを確認してください。	W
222	差込印刷エラー	フォームのパスワードが違います	フォームに設定されているパスワードを確認してください。	W
223	濃度調整ファイルエラー	濃度調整ファイルが見つかりません	濃度調整ファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
226	RGB ソースプロファイルエラー	RGBソースプロファイルが見つかりません	RGB ソースプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
228	CMYK ソースプロファイルエラー	CMYK ソースプロファイルが見つかりません	CMYK ソースプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
230	トナー総量調整プロファイルエラー	トナー総量調整プロファイルが見つかりません	トナー総量調整プロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
231	プリントオプションエラー	用紙サイズが不適当なためリピートプリントできません	用紙サイズを確認してください。	W
232	小冊子エラー	イメージサイズが出力用紙サイズより大きいため、小冊子作成ができません	用紙サイズを確認してください。	W

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
235	プリフライトプロファイルエラー	プリフライトプロファイルが見つかりません	プリフライトプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
236	フォントなし	指定されたフォントがありません	PostScript ファイル、またはページ番号に設定されたフォントがデータやシステムにありません。 フォントを確認してください。	W
237	差込印刷エラー	指定されたファイルタイプでは差込印刷できません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、差込印刷用フォームとして使用できません。 ファイルタイプを変更してください。	W
238	小冊子作成エラー	指定されたファイルタイプでは小冊子作成ができません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、小冊子作成できません。 ファイルタイプを変更してください。	W
240	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズでは片方を180度回転できません	プリントオプションを変更してください。	W
241	プリントオプションエラー	PDF/PS ではイメージサイズ「変更しない」を指定して、異なるサイズの用紙に合わせることはできません	プリントオプションを変更してください。	W
255	プリントオプションエラー	リピートプリントと小冊子作成は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
260	プリントオプションエラー	小冊子作成とリピートプリントと面付けは同時に 2 つ以上設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
271	プリントオプションエラー	指定された排出先は使用できません	プリントオプションを変更してください。	W
272	レコード分割エラー	レコード区切り情報がありません	プリントオプションを変更してください。	W
273	プリントオプションエラー	レコード分割と小冊子作成は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
274	プリントオプションエラー	レコード分割とリピートプリントは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
276	プリントオプションエラー	レコード分割と 2 アップ印刷は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
277	ページ番号付けエラー	ページ番号付けで使う設定ファイルが見つかりません	［設定ファイルの管理］ダイアログボックスで、ページ番号付け設定ファイルが設定されていることを確認してください。	W
280	特色未登録エラー	ドキュメントに未登録の特色が使用されています	特色を登録してください。	W
281	特色処理エラー	ドキュメント内の特色の数が処理可能数を超えています	使用している特色の数を減らしてください。または、SetOverPrintWrn.psを編集し、扱える特色の数を増やしてください。 「7.1.6 コンポジットオーバープリントの設定」（P.360）を参照してください。	W
282	画像警告プリントオプションエラー	サーバーの環境設定により画像警告プリントオプションは設定できません	［プリントジョブの設定］→［画像警告指定］を［無視しない］にしてください。	W
284	プリントオプションエラー	特色にCMYK色調整を適用とコンポジット特色補正を同時にオフにできません	プリントオプションを変更してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
285	中とじ・中折りエラー	用紙サイズが混在しているため、中とじ・中折りできません	用紙サイズを統一してください。	W
286	出力枚数超過エラー	出力可能な最大枚数を超えました	1ジョブ（ビルドジョブの場合は、連結された1ジョブ単位）でプリントできる最大枚数は、65,535枚です。 プリント枚数が最大枚数を超えないように、プリントオプションを変更してください。	W
287	用紙種類設定エラー	指定した用紙種類と坪量が正しくありません	用紙トレイに対する用紙種類を正しく設定してください。	W
293	ホチキス不可	指定した針数のホチキスはできません	ホチキスの設定を確認してください。	W
294	パンチ不可	指定した穴数のパンチはできません	パンチ穴の設定を確認してください。	W
296	トレイ選択エラー	指定されたトレイからは印刷することはできません	用紙トレイの設定を確認してください。	W
297	プリントオプションエラー	小冊子作成と特殊ページは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
299	プリントオプションエラー	リピートプリントと特殊ページは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
301	ホチキス/紙折り不可	指定されたホチキスと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
302	ホチキス/紙折り不可	指定されたホチキス位置と紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
303	パンチ/紙折り不可	指定されたパンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
304	パンチ/紙折り不可	指定されたパンチ位置と紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
305	ホチキス/パンチ/紙折り不可	指定されたホチキスとパンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
306	ホチキス/パンチ/紙折り不可	指定された位置のホチキス、パンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
307	合紙挿入エラー	表紙の両面印刷指定時に表紙の外側と内側の間に合紙を挿入することはできません。	プリントオプションを変更してください。	W
308	レコード分割エラー	特殊ページで両面指定がされたおもて面とうら面をレコード分割することはできません	プリントオプションを変更してください。	W
309	プリントオプションエラー	特殊ページと2アップ印刷は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
310	用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズが設定されていません	プリントオプションを変更してください。	W
311	用紙トレイエラー	トレイが正しくセットされていません	プリントオプションを変更してください。	W
312	プリントオプションエラー	ソートする（一部ごと）がオフの時に、一組の枚数が指定された用紙を使用して複数部数出力することはできません	プリントオプションを変更してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
313	ホチキス位置エラー	両面設定（長辺とじ / 短辺とじ）では、指定された位置（短辺/長辺）にホチキスできません	プリントオプションを変更してください。	W
314	パンチ位置エラー	両面設定（長辺とじ / 短辺とじ）では、指定された位置（短辺/長辺）にパンチできません	プリントオプションを変更してください。	W
315	プリントオプションエラー	手差し手動両面指定では、手差しトレイ以外の用紙トレイは指定できません	プリントオプションを変更してください。	W
318	ディスク容量不足	ディスクの空き容量がなくなったため処理を中止しました	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
325	RIPエラー	RIP するページが見つかりません	RIP済みデータを再作成してください。	W
335	プリントオプションエラー	サムネール編集情報を保持したジョブはフォーム登録できません	プリントオプションを変更してください。	W
338	PDFエラー	PDFエラーが発生しました	PDFに問題がないか確認してください。	E
339	APPE内部エラー	APPE の内部でエラーが発生しました	ファイルを確認してください。	E
342	ライセンスエラー	RIP 確認用 PDF ファイル保存オプションのライセンスが設定されていません	ライセンスの設定を確認してください。	E
351	ライセンスエラー	トラッピングの自動指定オプションのライセンスが設定されていません	ライセンスの設定を確認してください。	E
レベル	E　：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W　：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N　：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.2　コントローラーボードエラー

・コントローラーボードエラーが発生すると、エラーリストには「コントローラボードエラー」と表示されます。
・エラーコードには、以下のものがあります。

番号	[ジョブ情報] の [ステータス]	対処方法	レベル
1001～1004、1011～1015、100C ～ 100E、1051、1052、1061、1500 ～ 1504、1506、1600～1602、2031	コントローラボードでエラーが発生しました	基本的にこのエラーコードでジョブがエラーになることはありません。 Print Serverを再起動してください。	E
1081	コントローラボードでエラーが発生しました	基本的にこのエラーコードでジョブがエラーになることはありません。 Print Serverを再起動してください。	N
1801	プリンターとの通信に失敗しました。ネットワークの状態を確認してください。	ネットワークの状態を確認してください。	E
1802	プリンターのメモリー不足です。	ServerManager以外のソフトウエアを実行しない状態で再実行、または拡張メモリーの追加をしてください。	E
2031	コントローラボードでエラーが発生しました	メモリー容量が不足しています。 ServerManager以外のソフトウエアを実行しない状態で再実行、または拡張メモリーの追加をしてください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。		

6.3.3　プリンターエラー

番号	エラーリストのステータス	[ジョブ情報] の [ステータス]	対処方法	レベル
1	プリンターエラー	プリンタが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
10	接続エラー	プリンターとの通信に失敗しました	接続を確認してください。	E
11	ジョブ履歴なし	プリンターにジョブ履歴がありません	ジョブ履歴を確認してください。	E
99	プリンターエラー	プリンタでエラーが発生しました。プリンタを確認してください	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
101	トレイ1故障	トレイ1が故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
102	トレイ2故障	トレイ2が故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
103	トレイ3故障	トレイ3が故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
104	トレイ4故障	トレイ4が故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
105	手差しトレイ故障	手差しトレイが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
106	大容量トレイ故障	大容量トレイが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
110	フィニッシャー故障	フィニッシャーが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
201	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
202	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
204	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
205	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
206	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
207	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
208	トレイ用紙サイズエラー	トレイにサイズが正しくない用紙がセットされています	正しい用紙をセットしてください。	N
209	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
210	トレイセットエラー	トレイが正しくセットされていません	トレイを正しくセットしてください。	N
212	トレイ用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズを確認してください	正しい用紙をセットしてください。	N
217	枠ありOHP検知	枠ありOHPを検出しました	正しい用紙をセットしてください。	N
221	トレイ1紙づまり	トレイ1が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
222	トレイ2紙づまり	トレイ2が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
223	トレイ3紙づまり	トレイ3が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
224	トレイ4紙づまり	トレイ4が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
225	手差しトレイ紙づまり	手差しトレイが紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
231	大容量トレイ紙づまり	大容量トレイが紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
232	紙づまり	紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
234	フィニッシャー紙づまり	フィニッシャーで紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
251	イエロートナーなし	イエロートナーがありません	イエローのトナーカートリッジを交換してください。	N
252	マゼンタトナーなし	マゼンタトナーがありません	マゼンタのトナーカートリッジを交換してください。	N
253	シアントナーなし	シアントナーがありません	シアンのトナーカートリッジを交換してください。	N
254	ブラックトナーなし	ブラックトナーがありません	ブラックのトナーカートリッジを交換してください。	N
266	トナー回収ボトルなし	トナー回収ボトルを確認してください	トナー回収ボトルを正しくセットしてください。	N
267	トナー回収ボトルフル	トナー回収ボトルを交換してください	トナー回収ボトルを交換してください。	N
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストの ステータス	［ジョブ情報］の ［ステータス］	対処方法	レベル
273	ホチキスなし	ホチキスの針がありません	ホチキスの針を補給してください。	N
274	ホチキス故障	ホチキスが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
278	フィニッシャー障害物検知	フィニッシャーが障害物を検知しました	障害物を取り除いてください。	N
279	中綴じ用ホチキス故障	中綴じ用ホチキスが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
281	トレイ1用紙なし	トレイ1に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
282	トレイ2用紙なし	トレイ2に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
283	トレイ3用紙なし	トレイ3に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
284	トレイ4用紙なし	トレイ4に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
285	手差しトレイ用紙なし	手差しトレイに用紙がありません	用紙を補給してください。	N
286	トレイ6用紙なし	手差しトレイに用紙がありません	用紙を補給してください。	N
300	排出トレイフル	トップトレイがいっぱいです	トップトレイから用紙を取り除いてください。	N
301	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
322	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	フィニッシャーの排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
323	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	フィニッシャーの排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
330	プリンターエラー	イエロードラムを確認してください	イエロードラムが正しくセットされているか確認してください。	N
331	プリンターエラー	マゼンタドラムを確認してください	マゼンタドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
332	プリンターエラー	シアンドラムを確認してください	シアンドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
333	プリンターエラー	ブラックドラムを確認してください	ブラックドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
334	プリンターエラー	イエロードラムが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
335	プリンターエラー	マゼンタドラムが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
336	プリンターエラー	シアンドラムが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
337	プリンターエラー	ブラックドラムが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
338	プリンターエラー	イエロードラムのタイプを確認してください	正しいイエロードラムをセットしてください。	N
339	プリンターエラー	マゼンタドラムのタイプを確認してください	正しいマゼンタドラムをセットしてください。	N
340	プリンターエラー	シアンドラムのタイプを確認してください	正しいシアンドラムをセットしてください。	N
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
341	プリンターエラー	ブラックドラムのタイプを確認してください	正しいブラックドラムをセットしてください。	N
342	プリンターエラー	イエロードラムを交換してください	イエロードラムを交換してください。	N
343	プリンターエラー	マゼンタドラムを交換してください	マゼンタドラムを交換してください。	N
344	プリンターエラー	シアンドラムを交換してください	シアンドラムを交換してください。	N
345	プリンターエラー	ブラックドラムを交換してください	ブラックドラムを交換してください。	N
346	プリンターエラー	イエロートナーカートリッジがありません	イエローのトナーカートリッジを交換してください。	N
347	プリンターエラー	マゼンタトナーカートリッジがありません	マゼンタのトナーカートリッジを交換してください。	N
348	プリンターエラー	シアントナーカートリッジがありません	シアンのトナーカートリッジを交換してください。	N
349	プリンターエラー	ブラックトナーカートリッジがありません	ブラックのトナーカートリッジを交換してください。	N
351	プリンターエラー	イエロートナーが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
352	プリンターエラー	マゼンタトナーが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
353	プリンターエラー	シアントナーが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
354	プリンターエラー	ブラックトナーが故障しています	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
356	プリンターエラー	イエロートナーのタイプを確認してください	正しいイエロートナーカートリッジをセットしてください。	N
357	プリンターエラー	マゼンタトナーのタイプを確認してください	正しいマゼンタトナーカートリッジをセットしてください。	N
358	プリンターエラー	シアントナーのタイプを確認してください	正しいシアントナーカートリッジをセットしてください。	N
359	プリンターエラー	ブラックトナーのタイプを確認してください	正しいブラックトナーカートリッジをセットしてください。	N
361	パンチボックスセットエラー	パンチボックスが正しくセットされていません	パンチボックスを正しくセットしてください。	N
362	ステープルダストフル	ステープルダストボックスがいっぱいです	ステープルダストボックスからゴミを取り除いてください。	N
363	ステープルボックスセットエラー	ステープルボックスを確認してください	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
364	パンチダストフル	パンチダストボックスがいっぱいです	パンチダストボックスを空にしてください。	N
372	HCF トレイエラー	HCF の用紙サイズが正しくありません	正しい用紙をセットしてください。	N
373	HCF トレイエラー	HCF のトレイ設定を確認してください	大容量給紙トレイのトレイ設定を確認してください。	N
レベル	E　：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W　：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N　：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	[ジョブ情報] の [ステータス]	対処方法	レベル
399	プリンターエラー	プリンタでエラーが発生しました。プリンタを確認してください	プリンターを確認してください。	N
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.4　データベースエラー

番号	エラーリストのステータス	[ジョブ情報] の [ステータス]	対処方法	レベル
26	エラー終了	ジョブの処理が正常に行われていません	主に、Print Server起動時にデータベースファイルのジョブ情報に不整合が見つかりました。 必要な作業はありません。自動で不整合を修復し、該当するジョブがエラージョブに移動します。	E
32	データベースエラー	内部エラー	パスワードを確認してください。	E
33	データベースエラー	この処理を行う権限がありません	権限を確認してください。	E
34	データベースエラー	「フォームのパスワード」が使用するフォームジョブのパスワードと異なります	フォームのパスワードと、フォームジョブのパスワードを同じにしてください。	E
35	データベースエラー	内部エラー	セキュリティジョブの設定を確認してください。	E
36	データベースエラー	セキュリティがかけられていたため保持リストに移動させました	セキュリティを解除してください。	E
37	データベースエラー	セキュリティがかけられていたためエラーリストに移動させました	セキュリティを解除してください。	E
38	データベースエラー	内部エラー	プリンターの電源を入れてください。	E
39	データベースエラー	内部エラー	ジョブ連結の順番を確認してください。	E
40	データベースエラー	内部エラー	ジョブの種類を確認してください。	E
41	データベースエラー	内部エラー	サムネール編集前にRIP処理を行ってください。	E
42	データベースエラー	削除不許可のジョブです	ジョブ削除を許可する設定に変更してください。	E
44	データベースエラー	内部エラー	フォームジョブの処理が完了してから、データジョブを再開してください。	E
45	データベースエラー	内部エラー	データジョブの処理が完了してから、フォームジョブを再開してください。	E
46	データベースエラー	内部エラー	これ以上は追加できません。	E
47	データベースエラー	内部エラー	サムネール編集前にプレビューを生成してください。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
48	データベースエラー	内部エラー	フォントの削除に失敗しました。	E
52	プリントオプションエラー	"RIPの種類：APPE"と同時に指定できないオプションが指定されています	プリントオプションを確認してください。	W
55	キャンセルエラー	ジョブをキャンセルできません。	ジョブをキャンセルできません。	N
56	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「指定単位ごとに挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
57	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「ジョブの先頭に挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
58	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「ジョブの最後に挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
59	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「おもて表紙を付ける」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
60	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「うら表紙を付ける」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
61	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「合紙」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
62	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「例外ページ」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
63	用紙種類ミスマッチ	「レイアウト（出力設定）」の「表紙用トレイ」と「本文用トレイ」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
64	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「プリントジョブの設定」の「カバーページを印刷する」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
65	用紙種類ミスマッチ	ビルドジョブを構成する連結されたジョブごとの「用紙トレイ」で選択している「用紙種類」が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
66	用紙種類ミスマッチ	ビルドジョブを構成する連結されたジョブとサムネール編集で挿入されたブランクシートの「用紙トレイ」で選択している「用紙種類」が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
67	ライセンスエラー	トラッピングの自動指定オプションのライセンスが設定されていません。	ライセンスの設定を確認してください。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.5　受信時エラー

番号	エラーリストのステータス	[ジョブ情報] の [ステータス]	対処方法	レベル
1	ディスク容量不足	ディスクがいっぱいです	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。	E
2	スプールファイル出力エラー	ファイルの書き込みに失敗しました	Print Serverを再起動してください。	E
3	スプールファイル作成エラー	ファイルの作成に失敗しました	Print Serverを再起動してください。	E
4、5	ジョブ受信エラー	受信時にエラーが発生しました	再度、ジョブをPrint Serverに送信してください。	E
6	ジョブ受信エラー	指定されたデバイスとは違うものが接続されています	接続を確認してください。	E
9	ジョブ受信エラー	TCP コネクションが切断されました	接続を確認してください。	E
16	イメージサイズエラー	TIFF ファイルのイメージピクセル数がカスタムサイズ最小(w:944h:944 ピクセル)より小さい場合には処理できません。	データを変更してください。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.6　メール送受信、ファイル転送時エラー

番号	メッセージ	対処方法
110	SMTPサーバーのIPアドレスが取得できませんでした	ボックスの設定で、SMTPサーバー名を確認してください。
111	SMTPサーバーに接続できませんでした	ネットワーク管理者にご確認ください。
112	SMTPサーバーとの接続が中断されました	ネットワークの状態を確認してください。
113	SMTPサーバーが送信者を拒否しました	ネットワーク管理者にご確認ください。
114	SMTPサーバーが宛先を拒否しました	送信先の設定を確認してください。
115	SMTPサーバーとの通信でエラーが発生しました	ネットワーク管理者にご確認ください。
120	ディスクの空き容量が不足しているため送信できませんでした	エラーメールや不要なファイルの削除、ServerManager の不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
121	ディスクエラーのため送信できませんでした	ディスク障害の可能性があります。 弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。
130	送信最大ファイル数を超えています	送信ファイル数を確認してください。
210	POP サーバーの IP アドレスが取得できませんでした	ボックスの設定で、POP3サーバー名を確認してください。
211	POPサーバーに接続できませんでした	ネットワーク管理者に確認してください。
212	POP サーバーとの接続が中断されました	ネットワークの状態を確認してください。
213	POPサーバーに認証が拒否されました	ネットワーク管理者に確認してください。
214	POP サーバーのメールボックスにアクセスできませんでした	ネットワーク管理者に確認してください。
215	POP サーバーとの通信でエラーが発生しました	ネットワーク管理者に確認してください。
220	ディスク空き容量が不足しているため受信できませんでした	エラーメールや不要なファイルの削除、ServerManager の不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
221	ディスクエラーのため受信でませんでした	• ディスク障害の可能性があります。 • 弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。
310	FTPサーバーにアクセスできません	ネットワーク管理者に確認してください。
320	Windows サーバーにアクセスできません	ネットワーク管理者に確認してください。

Appendix

主な仕様、画像に対する警告値とメモ書きの設定などについて説明しています。

7.1 RIP処理に関する設定

ファイルのRGB画像、特色、インキ総量、ヘアライン、およびオーバープリントに対する警告機能やメモ書きなどについて、さらに詳細の項目の設定について説明します。

ServerManagerを終了し、設定ファイルをテキストエディターで開いて、以下の例に従って、下線部のとおりに設定値を書き換えます。

■［RGB画像警告］の設定ファイルの例

```
% RGBWarning.ps
% Version: 1.0
% CreationDate: 2008/12/12

currentglobal true setglobal

FX_dict /RGBWarning true put
FX_dict /CIEWarning true put

setglobal
```

警告する画像の種類を変更する場合は、この部分を書き換えます

- 書き換えた設定値を有効にするには、Print Serverの再起動が必要です。
- ファイルを編集する前に、オリジナルを複製してバックアップを作成しておくことをお勧めします。
- オリジナルのバックアップファイルをオリジナルと同じフォルダーに保存する場合は、拡張子を「.ps」以外に変更してください。拡張子が「.ps」の場合、編集した内容が反映されないことがあります。
  例：オリジナルのファイル名が「XXX.ps」の場合は、「XXX.ps.org」などに変更
- オリジナルがあるフォルダーに、別のフォルダーを格納しないでください。編集した内容が反映されない場合があります。

7.1.1 RGB画像警告の設定

プリントオプションの［画像警告］>［RGB画像警告］の警告の対象を変更できます。

RGB画像警告の警告色は変更できません。

RGB画像、またはCIE画像の警告

［RGB画像警告］で警告するRGB、およびCIEの画像をどちらかに変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥RGBWarning.ps

2重下線部が変更箇所です。

● 例）CIE画像の警告を行わないようにする場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /CIEWarning true put
```

変更後：

```
FX_dict /CIEWarning false put
```

● 例）RGB画像の警告を行わないようにする場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /RGBWarning true put
```

変更後：

```
FX_dict /RGBWarning false put
```

警告の対象になるアプリケーションの変更

Macintoshクライアントからのプリントで、［RGB画像警告］を有効とするアプリケーションを変更できます。また、Windowsクライアントからのプリントに対してRGB画像警告を無効にできます。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥RGBWarningApplications.ps

2重下線部が変更箇所です。

● 例）FreeHandを追加する場合

変更前（デフォルト）：

```
/RGBWarningApplications[
(QuarkXPress)
(Illustrator)
(InDesign)
(PageMaker) %% For background print
]def
```

変更後：

```
/RGBWarningApplications[
(QuarkXPress)
(Illustrator)
(InDesign)
(PageMaker) %% For background print
(FreeHand)
]def
```

● 例）Windowsクライアントからのプリントに対して警告機能を常にオフにする場合

変更前（デフォルト）：

```
/RGBWarningWinUI true def
```

変更後：

```
/RGBWarningWinUI false def
```

- UNIXワークステーションからのプリントにも適用されます。
- PageMakerをお使いになる場合の注意事項は、以下のとおりです。
- Macintoshクライアントの PageMakerからプリントするとき、バックグラウンドプリントでは、「警告の対象になるアプリケーションの変更」（/RGBWarningApplications）の設定が有効になります。
- フォアグラウンドプリントでは、「Windowsクライアントからのプリントに対して警告機能をオフにする場合」（/RGBWarningWinUI）の設定が有効になります。

7.1.2　特色警告の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［特色警告］で使用する警告色などを変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetSpotWrn.ps

カラーモード用警告色の設定

2重下線部が変更箇所です。

● 例）警告色をC=0%、M=50%、Y=0%、K=30%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXSpotWrnColor [0 0 0 0.3] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnColor [0 0.5 0 0.3] put
```

グレースケールモード用警告色の設定

2重下線部が変更箇所です。

● 例）警告色をK=100%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXSpotWrnColorGrayPrint 0.3 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnColorGrayPrint 1.0 put
```

チントが0%の特色を警告しないようにする設定（コンポジットカラーモード）

チントが0%の特色が含まれている場合、CMYK版には影響はありませんが、通常、アプリケーションからは特色版がプリントされてしまいます。このため、デフォルトの設定では、警告を行うようになっています。
CMYK版には影響がないので、チント0%の特色は警告する必要がないなどの場合は、警告しないように書き換えます。2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot false put
```

チントが0%の特色も警告するようにする設定（分版合成モード）

分版出力の場合では、特色版で、特色のチント 0% のオブジェクトなのか、プロセス版オブジェクトのノックアウトのための 0% の描画なのかが判定できずに、特色以外のオブジェクトも警告してプリントされてしまうことがあります。このため、デフォルトの設定では、チント0%の特色は警告されません。
チント0%の特色を警告するときは、以下のように書き換えます。2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot_SEP false put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot_SEP true put
```

7.1.3　インキ総量警告の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［インキ総量警告］で使用する警告色などを変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetInkWrn.ps

警告色の設定

2重下線部が変更箇所です。

● 例）警告色をC=70%、M=40%、Y=30%、K=20%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXInkWrnColor [0 1 0 0] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXInkWrnColor [0.7 0.4 0.3 0.2] put
```

SeparationカラースペースAllに関する設定

トンボやレジストレーションカラーの設定で使用されることのある、Separation カラースペース All を警告するかしないかを設定できます。デフォルトの設定では警告するようになっています。
Separation カラースペース All を警告しないようにするには、以下のように書き換えます。2 重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXInkWrnSepAlt true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXInkWrnSepAlt false put
```

7.1.4　ヘアライン警告色の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［ヘアライン警告］で使用する警告色と幅などを変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetHairLineWrn.ps

コンポジットカラーモード用の設定

2重下線部が変更箇所です。

● 例）警告色と幅をC=60%、M=70%、Y=80%、K=0%、幅=20ptに変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHairLineWrnColor [0 1 0 0] put
FX_dict /FXHairLineWrnWidth 3 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHairLineWrnColor [0.6 0.7 0.8 0] put
FX_dict /FXHairLineWrnWidth 20 put
```

分版合成モード、およびグレースケールモード用の設定

2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色と幅をK=20%、幅=30ptに変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHairLineWrnColorGrayPrint 0.6 put
FX_dict /FXHairLineWrnWidthGrayPrint 20 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHairLineWrnColorGrayPrint 0.2 put
FX_dict /FXHairLineWrnWidthGrayPrint 30 put
```

- 分版合成モードの場合の警告色について
  ヘアライン警告機能は分版合成の場合にも動作しますが、警告色は、以下のようになります。
  (「FXHairLineWrnColorGrayPrint」がデフォルトの0.6の場合)
  - ヘアライン警告オブジェクトが、オーバープリント指定されている場合は、そのオブジェクトの色成分C、M、Y、Kのうち、色の付いている0%以外の成分に、「FXHairLineWrnColorGrayPrint」が適用された色になります。たとえば、C=60%、M=70%、Y=0%、K=0%の場合は、警告色は、C=60%、M=60%、Y=0%、K=0%になります。
  - ヘアライン警告オブジェクトが、ノックアウト指定されている場合は、そのオブジェクトの色成分C、M、Y、K のそれぞれに、「FXHairLineWrnColorGrayPrint が適用された、C=60%、M=60%、Y=60%、K=60%の色になります。
  - InRIP セパレーションモードの場合は、オーバープリント指定のオン / オフにかかわらず、そのオブジェクトの色成分C、M、Y、Kのそれぞれに、FXHairLineWrnColorGrayPrintが適用された、C=60%、M=60%、Y=60%、K=60%の色になります。
  - ［オーバープリント警告］が［抽出］の場合は、オーバープリントの抽出が優先され、ヘアライン警告は行われません。
- モードと機能の組み合わせによって適用される警告色

モード	オーバープリント警告オフ		オーバープリント警告－警告色オン	
	ノックアウト	オーバープリント	ノックアウト	オーバープリント
コンポジットモード	○	○	○	◇
分版合成モード	■	□	□*	□*
分版合成モード（InRIPセパレーション）	■	■	■*	■*

○：ヘアライン警告色
■：プロセス黒（C、M、Y、Kそれぞれに、グレースケールモード用の警告色を適用）
□：色成分色（C、M、Y、Kのうち色の付いている0%以外の成分に、グレースケールモード用の警告色を適用）
◇：オーバープリント警告色（線幅はヘアライン警告の幅）
＊：分版合成モードのとき、オーバープリント警告機能はオフになります。

白いオブジェクト用の抽出の設定

■カラーモード用

白いヘアラインオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=60%で描画されます。この色を変更できます。

2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色をK=70%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHLColorForWhite [0 0 0 0.6] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLColorForWhite [0 0 0 0.7] put
```

■グレースケール用

白いヘアラインオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=60%で描画されます。この色を変更できます。

2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色をK=70%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHLColorForWhiteGrayPrint 0.6 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLColorForWhiteGrayPrint 0.7 put
```

幅のない直線fillについて

IllustratorやInDesignでは、線のオブジェクトに対して、線と塗りつぶしの色を設定できます。たとえば、直線に色を付けないで塗りつぶしの色だけを設定すると、PostScriptコードは、「1デバイスピクセル幅で直線を描画する」という意味の、幅のない直線パス「fill」になります。このオブジェクトは、600dpiのプリンターでは、600dpiの1ピクセル幅（0.12pt）でプリントされますが、2400dpiのイメージセッターでは、2400dpiの1ピクセル幅（0.03pt）で印刷されるので、かすれて印刷されないことがあります。

ヘアライン警告機能は、このような「幅のない直線fill」も警告できます。このとき、抽出と消去に関しては通常のヘアライン警告と同様ですが、警告色の場合は、デフォルトでは警告色と警告パターンで警告されます。この警告パターンを変更できます。

幅のない直線fillの警告方法を警告色と警告パターンから通常のヘアラインの警告と同様の警告色と警告幅に変更することもできます。

2重下線部が変更箇所です。

●例）警告パターンを三点鎖線から五点鎖線に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrnPattern [12 2 1 2 1 2 1 2] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrnPattern [12 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2]put
```

●例）「幅のない直線fill」の警告をしない場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrn get exec
```

変更後：

```
% FX_dict /FXHLnowidthfillWrn get exec
```

●例）「幅のない直線fill」の警告方法を警告色と警告幅に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXHLUSEnowidthfillWrnPattern true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLUSEnowidthfillWrnPattern false put
```

7.1.5 オーバープリント警告の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［オーバープリント警告］で使用する警告色などを変更できます。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetOverPrintWrn.ps

白いオブジェクトも警告の対象にする場合

[オーバープリント警告] は、白いオブジェクトのオーバープリントやスプレッド指定のトラッピングを警告しません。なぜなら、白いオブジェクトにオーバープリント指定した場合としない場合では、効果は変わらないからです。

白いオブジェクトに対するスプレッド指定のトラッピングについても、設定した場合としない場合では、効果は変わりません。ただし、白いオブジェクトに対するチョーク指定のトラッピングについては、背景オブジェクトを広げる効果があります。

ファイルで白いオブジェクトにオーバープリント指定すると、分版出力では影響がなく、モニター、およびコンポジットプリンターのプリントではノックアウトされます。この差異が、イメージセッターなどへの分版出力のときに問題になることがあります。

白いオブジェクトのオーバープリントやスプレッド指定を警告の対象にする場合は、以下のように書き換えます。

2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
```

変更後：

```
%FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
```

QuarkXPress では、トラップパレットのデフォルト設定を変更しない限り、白いオブジェクトにオーバープリント指定されることはありません。また、背景にオブジェクトがある場合は、自動でノックアウトされます。

Kオーバープリントを警告の対象からはずす場合

Kのオーバープリントは必ず実施されるので、警告からは除外する場合は、以下のように書き換えます。

2重下線部が変更箇所です。

- 例）95%以上のKオーバープリントを警告の対象から除外する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
%FX_dict /BlackOPThreshold 95 put
%FX_dict /IgnoreWhiteAndBlackOP get exec
```

変更後：

```
%FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
FX_dict /BlackOPThreshold 95 put
FX_dict /IgnoreWhiteAndBlackOP get exec
```

これで、95%以上のKのオーバープリントは、警告の対象から除外されるようになります。

90%以上のKオーバープリントを警告の対象から除外する場合は、/BlackOPThresholdの部分の95を90に変更してください。

コンポジットカラーモード用の設定

■警告色の変更

オーバープリント警告で使用する色を変更できます。
2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色をC=70%、M=40%、Y=30%、K=20%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXOPWrnColor [0.3 0.7 0.3 0] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPWrnColor [0.7 0.4 0.3 0.2] put
```

■白いオブジェクトを抽出する場合の警告色の変更

白いオーバープリントオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=20%で描画されます。
2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色をC=30%、M=20%、Y=10%、K=0%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXOPColorForWhite [0 0 0 0.7] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorForWhite [0.3 0.2 0.1 0] put
```

グレースケールモード用の設定

オーバープリント警告機能は、グレースケールモードでも動作します。
グレースケールモードの場合は、カラーモードとは別に、以下のように書き換えます。
2重下線部が変更箇所です。

●例）警告色をK=80%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXOPColorGrayPrint 0.7 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorGrayPrint 0.8 put
```

●例）白いオブジェクトを抽出する場合の警告色をK=80%に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXOPColorForWhiteGrayPrint 0.7 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorForWhiteGrayPrint 0.8 put
```

7.1.6　コンポジットオーバープリントの設定

プリントオプションの［画質］>［コンポジットオーバープリント］を［プロセス］、または［プロセス+特色］にした場合の動作を設定します。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetOverPrintWrn.ps

コンポジットオーバープリントで扱える特色の数

［コンポジットオーバープリント］を［プロセスカラー＋特色］、または［プロセスカラー］にして、［カラー］>［カラー詳細（特色設定）］>［コンポジット特色補正］にチェックマークを付けると、特色のオーバープリントも再現できるようになります。

デフォルトでは、扱える特色の数は、1ページにつき、5色までです。1ページに5色を超える特色が使用された場合は、「特色処理エラー」が発生します。

扱える特色の数を増やす場合は、以下のように書き換えます。2重下線部が変更箇所です。

●例：8色にする場合

変更前（デフォルト）：

```
5 FX_dict /SetMaxSpotColorForOP known {FX_dict /SetMaxSpotColorForOP get exec}
{pop}ifelse
```

変更後：

```
8 FX_dict /SetMaxSpotColorForOP known {FX_dict /SetMaxSpotColorForOP get exec}
{pop}ifelse
```

白いオブジェクトにだけオーバープリントがかからないようにする場合

コンポジットオーバープリント指定しても、白いオブジェクトにだけオーバープリントがかからないようにする場合、以下のように書き換えます。2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
%FX_dict/IgnoreWhiteOPForPreview get exec
```

変更後：

```
FX_dict/IgnoreWhiteOPForPreview get exec
```

QuarkXPressのトラッピングの再現について（制約）

プリントオプションの［画質］>［コンポジットオーバープリント］を［プロセス］、または［プロセス+特色］にした場合は、QuarkXPressの「文字」、「ベジェ画像ボックス（4.＊）」、「多角形画像ボックス（3.3）」に対して指定したトラッピング（チョーク）は、トラッピング（スプレッド）で再現されます。（これは、プリントオプションの制限で、分版合成モードでは問題なくチョークで再現できます）

以下のように書き換えると、このような場合のトラッピング（チョーク）をトラッピング（スプレッド）で再現せずに、ノックアウトで再現するように変更できます。

2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXQXTrapChokeToSpread true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXQXTrapChokeToSpread false put
```

以下のように書き換えると、トラッピング（スプレッド）もトラッピング（チョーク）とともに、ノックアウトで再現するように変更することもできます。なお、PageMakerからのプリントには、制限なく再現できます。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /FXQXTrapSimulation true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXQXTrapSimulation false put
```

7.1.7　Kオーバープリントの設定

Kオーバープリント機能は、DTPのデータ入稿確認のためではなく、Print Serverからの黒のオブジェクトの見栄えを向上させるのが主な目的です。

Kオーバープリント機能の動作の変更は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥OverprintLimit.ps

Kオーバープリントを開始する値

Kオーバープリントのデフォルトでは、ブラック100%（K=100%）のオブジェクトにオーバープリントがかかりますが、以下のように書き換えると、設定したKの値以上のオブジェクトにオーバープリントがかかるように変更できます。

2重下線部が変更箇所です。

● 例）K=95%以上のオブジェクトにオーバープリントがかかるようにする場合

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /OverprintLimit 1.0 put
```

変更後：

```
FX_dict /OverprintLimit 0.95 put
```

Kオーバープリント時のIE（輪郭補正）制御

通常、この設定を変更する必要はありませんが、K=100%が薄いCMYKプロファイルを選択している場合は、K=100%の文字がプリンターではK=100%ではなく薄くなるので、ぼやけて見えることがあります。プリンターのK=100%でないと、IE（輪郭補正）機能が働かないので、文字などを精細にプリントできなくなります。

このような場合、以下のように書き換えると、K=100%の文字などのオブジェクトを見栄えよくプリントできます。プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画像）］>［Image Enhancement/白抜き文字の強調］を［Image Enhancement］にしてください。ただし、K=100%が薄いCMYKプロファイルを選択している場合は、CMYKプロファイルが適用されるK=99%と、プリンターのK=100%になるK=100%との差が顕著になってしまう場合があるので、注意して使ってください。

2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /OverprintIE false put
```

変更後：

```
FX_dict /OverprintIE true put
```

7.1.8 EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱い

EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱いについて説明します。

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 からのEPS（JPEG）画像

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 の分版出力は、ほかのアプリケーションの分版出力のようにEPS（JPEG）画像が墨版（K）だけになってプリントされるのと異なり、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするようなコードを出力するようになっています。

したがって、分版出力では、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［EPS（JPEG圧縮）のカラー出力］が［しない］の状態でも、EPS（JPEG）画像はカラーでプリントされます。コンポジットプリントでは、コンポジットオーバープリントが［プロセスカラー＋特色］、または［プロセスカラー］の場合に［EPS（JPEG圧縮）のカラー出力］の設定に従ってプリントされます。

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 でEPS（JPEG）にトランスファーカーブがある場合

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 の分版出力は、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするようなコードを出力するようになっています。ただし、EPS（JPEG）画像にトランスファーカーブが適用されている場合は、そのEPS（JPEG）画像のC、M、Y、Kすべてに、Kのトランスファーカーブを適用するようなコードになっています。

Print ServerのEPS（JPEG）をカラーにする機能は、EPS（JPEG）画像のC、M、Y、KのそれぞれにはC、M、Y、Kのトランスファーカーブをそれぞれ適用するようになっています。

たとえば、InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 と同様にC、M、Y、Kすべてに、Kのトランスファーカーブを適用するように変更する場合は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥JpegEPSOpt.ps

2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：

```
FX_dict /IDTCSimulation false put
```

変更後：

```
FX_dict /IDTCSimulation true put
```

7.1.9 メモ書きの変更

プリントオプションの［メモ書き］で、プリントする内容を変更できます。

カラーパッチの設定

［メモ書きの種類］の［カラーパッチ］でプリントするパッチの内容を変更する場合は、Illustrator などのアプリケーションでEPSファイルを作成し、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥colorpacth.ps

オプションメモ、およびコメントの設定

［メモ書きの種類］の［オプションメモ］、または［コメント］でプリントする文字のフォントの種類や大きさを変更する場合は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥memofont.ps

2重下線部が変更箇所です。

●例）オプションメモのフォントを10ptの平成明朝体W3に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
/MemoOptionFont
<<
/JP  /GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese

/MemoOptionFontSize 8 def
```

変更後：

```
/MemoOptionFont
<<
/JP  /HeiseiMin-W3-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese

/MemoOptionFontSize 10 def
```

●例）コメントのフォントを10ptの平成明朝体W3に変更する場合

変更前（デフォルト）：

```
/MemoCommentFont
<<
/JP  /GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese

/MemoCommentFontSize 8 def
```

変更後：

```
/MemoCommentFont
<<
/JP  /HeiseiMin-W3-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese

/MemoCommentFontSize 10 def
```

オプションメモ、およびコメントのデフォルトフォントは中ゴシック BBB ですが、中ゴシック BBB が Print Serverにない場合は、代替フォントの平成明朝体W3が使用されます。

カスタムの設定

[メモ書きの種類] の [カスタム] でプリントする内容を変更する場合は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換え、または置き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥custommemo.ps

固定のカスタムメモをプリントする場合は、Illustrator などのアプリケーションで EPS ファイルを作成し、「custommemo＊.ps」（＊は1～10を示す）と置き換えてください。

デフォルトの「custommemo＊.ps」（＊は1～10を示す）は、ジョブごとに、以下の要素をプリントするサンプルです。

- custommemo1.ps…RIPカウンター＋日付
- custommemo2.ps…ジョブ名
- custommemo3.ps…ファイル名
- custommemo4.ps…ジョブ名＋日付
- custommemo5.ps…ユーザー名
- custommemo6.ps…ユーザー名＋ジョブ名＋日付
- custommemo7.ps…カラーモード+CMYK色補正
- custommemo8.ps…カラーモード＋特色プロファイル＋特色補正インテント（フルカラー1のとき）
- custommemo9.ps…Print Serverシリアル番号
- custommemo10.ps…プリンター名

複数部のプリントを行い、自分と先方、または複数部署で校正するような場合に、編集や修正によるバージョンの不整合が発生しないようにこの番号で確認するという、カンプ番号を想定したものです。

PostScript言語の知識が十分にある場合は、「custommemo＊.ps」（＊は1～10を示す）をもとにプリントオプションなどの情報を含めたカスタムメモを独自に編集して作成できます。この場合、利用できる数値、および文字列の取得方法は、以下のとおりです。

FX_dict /GetRIPCounter get exec（整数値）

RIPカウンターが取得されます。この番号は、RIPするたびにカウントアップされます。キャンセル、エラー、Windows からのフォントダウンロードなどでもカウントアップされます。

FX_dict /DateTime get（文字列）

日付と時間を含む、文字列が取得されます。

serialnumber（整数値）

Print Server固有の番号が取得されます。

FX_dict /GetFileName get exec show

ジョブのファイル名が取得されます。

FX_dict /GetJobName get exec show

ジョブのジョブ名が取得されます。

FX_dict /GetUserName get exec show

ジョブの所有者名（ユーザー名）が取得されます。

FX_dict /GetPrinterName get exec show（文字列）

ジョブのエンジン名が取得されます。

/OptionDict FX_dict /GetProfileStrings get exec def

プリントオプションの内容を示す文字列を含む辞書が取得されます。たとえば、各オプションの内容を含む文字列を取得する場合は、「OptionDict /CMYKSimulation get」と入力します。

各キーで取得できる文字列の内容は、以下の表を参照してください。

キーワード	プリントオプション	値（文字列型）
/RGBColorCorrect	RGB色補正	()|(する)|(sRGB)|RGB 色補正プロファイル名
/RGBGamma	RGBガンマ補正	()|(より明るい)|(明るい)|(ふつう)|(暗い)|(より暗い)
/RGBWhitePoint	RGBホワイトポイント	()|(やや黄色い)|(ふつう)|(やや青い)
/RGBOutputProfile	RGB出力プロファイル	()|RGB出力プロファイル名
/RGBOutputIntent	RGB出力インテント	()|(サチュレーション)|(相対カラリメトリック)| (絶対カラリメトリック)
/CMYKSimulation	CMYKシミュレーション	()|CMYKプロファイル名
/SpotColorCorrectionProfile	特色補正プロファイル	()|特色補正プロファイル名
/UserCurve	ユーザー調整	()|ユーザー調整
/SpotColorCorrect	コンポジット特色補正	()|(特色補正)
/Smoothing	スムージング	()|(スムージング)
/DocumentType/ScreeningType	原稿タイプ	()|(写真)|(地図)
/Calibration	キャリブレーション-画像/文字	()|(標準)|キャリブレーション名
/DensityAdjustmentImage	濃度調整	()|濃度調整

- GetRIPCounterで得られるカウント値は、再インストールではリセットされません。
- ハードウエア交換などで特定のカウント値に設定する場合は、以下のファイル内の数値をテキストエディターで編集してください。
  C:¥WINDOWS¥FXSVR_RIPSum.dat

7.2　プリントに関する事項

TCP/IPからのプリント使用制限とカスタムサイズの用紙へのプリント、またPageMakerの制限事項について説明します。

7.2.1　TCP/IPからのプリント使用制限の設定

TCP/IP（LPR）を使用したプリントの制限アドレスを設定できます。

テキストエディターを使用して、以下のファイルを書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Pref¥lp_limit.txt

デフォルトは、次に示すように、すべてのクライアントコンピューターにプリントを許可しています。

デフォルト：＊.＊.＊.＊

ファイルの記述方法

ファイルの記述ルールは、以下のとおりです。

- 各行1エントリーします。
- エントリーには、IPアドレスを使用できます。DNSを使用している場合は、DNS名を使用することもできます。
- IPアドレス、およびDNS名の入力には、ワイルドカードとして「＊」（半角）も使用できます。
  記述例は、以下のとおりです。
  192.168.100.＊
  ＊.example.com
- プリントを許可しない場合は、行の先頭に「–」を付けます。
  記述例は、以下のとおりです。
  –192.168.100.10
  –hostA.example.com
- 複数行を記述すると、先頭行から読み込んで判断されます。条件が矛盾した場合、あとに書かれた行が優先されます。
- 以下のように記述すると、192.168.100 ネットのクライアントコンピューターにプリントを許可していますが、そのうち192.168.100.10のコンピューターだけは、プリントを許可しないという設定になります。
  192.168.100.＊
  -192.168.100.10
- 以下のように記述した場合は、1　行目で　192.168.100.10　のプリントを許可していませんが、2　行目で　192.168.100 ネットのクライアントコンピューターにプリントを許可しているので、192.168.100.10 でもプリントを許可する設定になります。
  -192.168.100.10
  192.168.100.＊

7.2.2　カスタムサイズの用紙へのプリント

Mac OS ClassicのPageMaker、QuarkXPressなどからカスタムサイズの用紙にプリントするには、PPDファイルを書き換える必要があります。

その他のアプリケーションでは、AdobePSの「用紙設定」→「カスタムページ設定」でもカスタムサイズの設定ができます。

編集したPPDファイルを使ってプリントした場合に、うまくプリントできなかったり、プリンタードライバーの画面が正しく表示されなかったりするときは、PPDファイルを再インストールしてください。

操作手順

1. 定義するカスタム用紙サイズの単位をポイントに変換します。

1mmは、2.8346ptになります。定義できる用紙のサイズは、縦は100～333mm（283～943pt）、横は148～488mm（419～1383pt）です。

次に例を示します。

● 199×229mmの場合

・199×2.8346≒564pt

・229×2.8346≒649pt

2. テキストエディターでPPDファイルを開き、下線部を書き換えます。

```
*DefaultPageSize: A4L
*PageSize Custom1: "
%FX_PrintOption: PageSize
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End

*DefaultPageRegion: A4L
*PageRegion Custom1: "
%FX_PrintOption: PageRegion
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End

*DefaultImageableArea: A4L
*ImageableArea Custom1: "11.40 11.40 552.6 637.6"

*DefaultPaperDimension: A4L
*PaperDimension Custom1: "564 649"
```

● CustomXXX（XXXは任意の文字列）

任意の文字列を入力します。ここで入力した文字列が、プリンタードライバーの用紙設定に表示されます。

● ImageableArea

プリント可能な範囲を設定します。

プリンターでは、用紙の端から11.4ptは印字不可能領域になります。そのため、用紙サイズから11.4pt引いた値をここで定義します。

● PaperDimension

用紙サイズを設定します。

ここで設定する用紙サイズは、手順1で計算したpt単位で入力します。

7.3 セキュリティーに関する設定

セキュリティーに関する設定について説明します。

7.3.1 管理者のパスワード

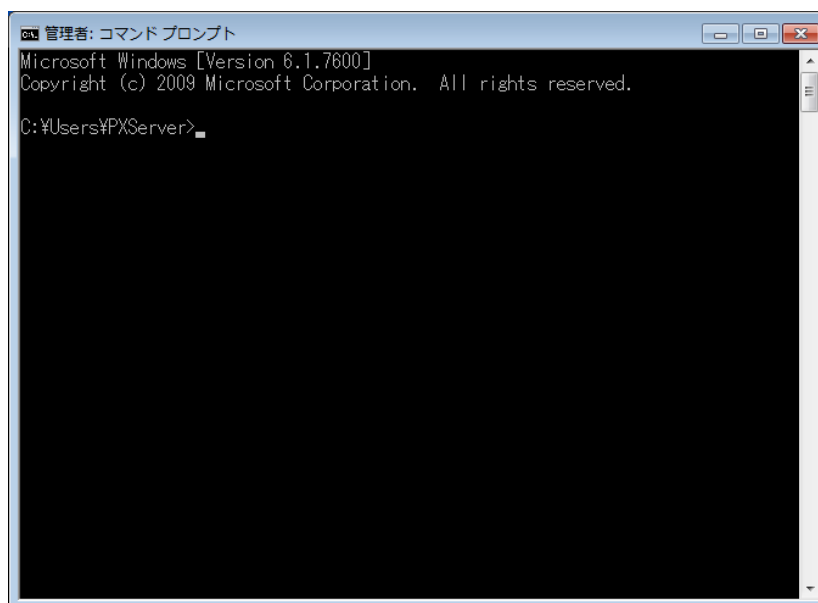
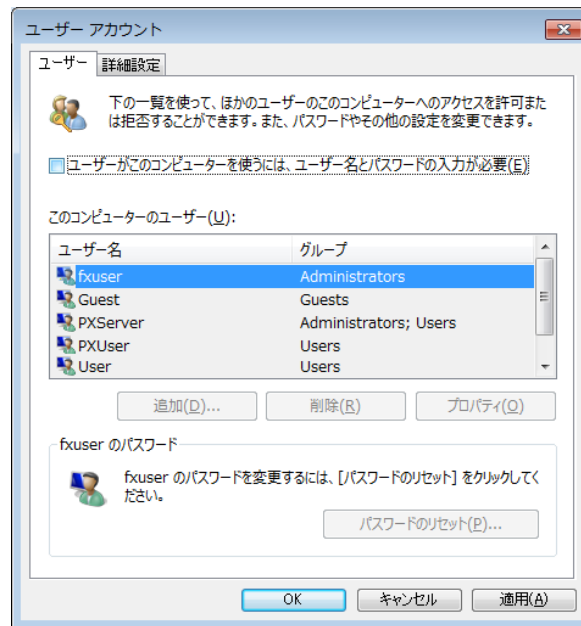
管理者権限のあるユーザーにパスワードを設定していない場合、または簡単なパスワードを設定している場合は、コンピューターウィルスなどに感染するおそれがあります。

本機は、デフォルトで自動ログイン機能が有効になっています。

ログインユーザー名は「PXServer」、パスワードは「n01_printserver」に設定されています。

自動ログイン機能の解除

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を選択します。
2. 「start control userpasswords2」と入力し、〈Enter〉キーを押します。

3. ［ユーザーがこのコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要］にチェックマークを付けて、［OK］をクリックします。

管理者権限のあるユーザーのパスワード変更

1. 〈Ctrl〉キーと〈Alt〉キーを同時に押しながら、〈Delete〉キーを押します。
2. ［パスワードの変更］をクリックします。
   ［パスワードの変更］ダイアログボックスが表示されます。
3. ［新しいパスワード］に「PXServer」アカウントのパスワードを入力し、確認のため［パスワードの確認入力］に同じパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

補足　Windowsの「PXServer」アカウントのパスワードは、「n01_printserver」に設定されています。

参照　パスワード変更の詳細は、Windowsのオンラインヘルプを参照してください。
Windowsのオンラインヘルプは、［スタート］→［ヘルプとサポート］を選択すると、表示されます。

7.3.2　フォルダーの共有

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP 後のデータをファイルに保存］＞［TIFF で保存する］、または［PDF で保存する］を選択すると、プリントイメージをファイルとして保存する機能があります。

Print Server のボックス内に作成されたファイルを Windows クライアントから取得する場合、ファイルが格納されている以下のフォルダー（デフォルトの場合）に、Microsoft ネットワーク共有機能を設定する必要があります。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥Tiff

ホットフォルダを Windows クライアントから使用する場合も同様に Microsoft ネットワーク共有機能を設定する必要があります。

Microsoft ネットワーク共有機能を使用した場合、適正なアクセス権とパスワードを設定しないとコンピューターウィルスに感染するおそれがあります。

Windows ネットワークでの共有プリンターを使用してプリントする場合は、Print Server で、Windows に管理者権限を持つユーザー名でログインし、［スタート］→［コントロールパネル］→［Windows ファイアウォール］→［Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する］で、［ファイルとプリンターの共有］と［Fuji Xerox AFP Service］の［ホーム / 社内（プライベート）］にチェックマークを付けてください。

Windows クライアントからのファイルの取得については、「1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認」（P.27）を参照してください。

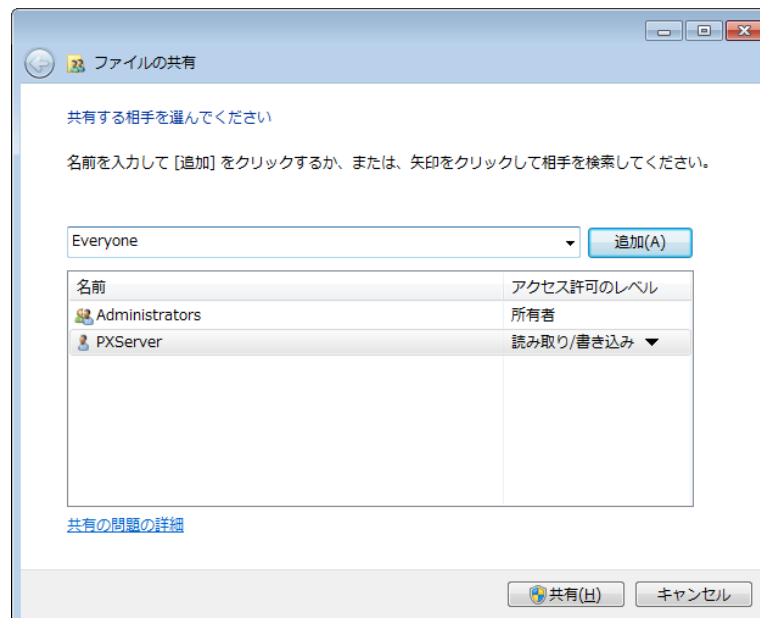
共有設定は、以下の手順で設定します。

例としてファイル保存フォルダーの設定手順を説明します。ホットフォルダの場合も同様の手順で設定します。

操作手順

1. ファイルが格納されている以下のフォルダー（デフォルトの場合）を右クリックし、表示されたメニューで［共有］→［特定のユーザー］を選択します。

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥Tiff

2. 名前の入力欄から［Everyone］を選択し、［追加］をクリックします。

3. ［共有］をクリックします。

4. ［終了］をクリックします。

アクセス権の設定など、詳細な共有機能の設定方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。
Windowsのオンラインヘルプは、［スタート］→［ヘルプとサポート］を選択すると、表示されます。

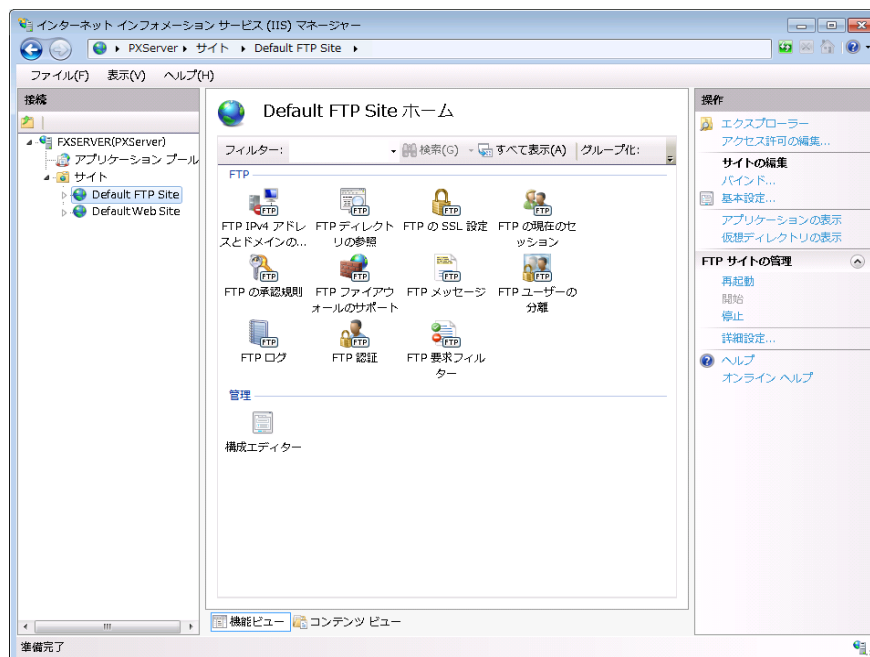
7.3.3　FTPの匿名アクセス

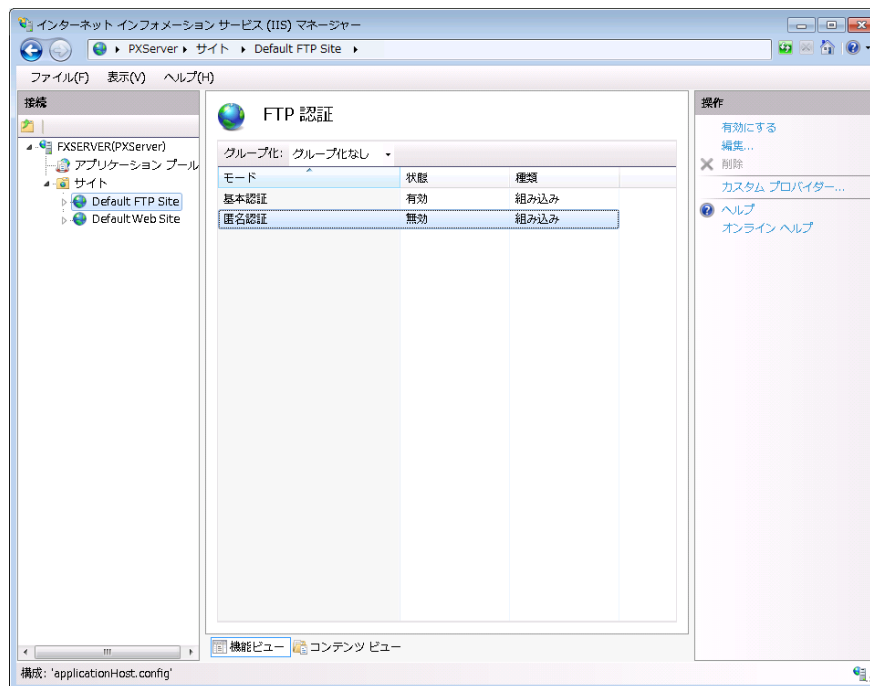
FTPで匿名アクセスを許可していると、コンピューターウィルスに感染するおそれがあります。そのため、FTPの匿名アクセスを許可しない設定にしてあります。

FTP に匿名アクセスを許可する場合は、インターネットインフォメーションサービスに設定をする必要があります。

ホットフォルダを利用したFTPからのプリントについては、「1.3.1 ホットフォルダを使用したプリント」（P.45）を参照してください。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［コントロールパネル］を選択します。
2. ［管理ツール］をダブルクリックします。
3. ［インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャー］をダブルクリックします。
4. 左側のツリーから、Print Serverに設定したホスト名（デフォルトでは「FXSERVER」）をダブルクリックし、［サイト］→［Default FTP Site］を選択します。

5. ［FTP認証］をダブルクリックします。

6. ［匿名認証］を選択し、右側の［有効にする］をクリックします。

参照　詳細なインターネットインフォメーションサービスの設定方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。

Windowsのオンラインヘルプは、［スタート］→［ヘルプとサポート］を選択すると、表示されます。

7.4　RGB画像警告機能

RGB画像警告機能を使用する場合の注意事項について説明します。

◆CIE画像の警告について

RGB画像警告機能には、CIE画像を検出する機能もあります。プリンターに送られてくる、PostScriptコードに含まれるCIEカラースペースのコードを検出し、その画像をシアンで塗りつぶして警告します。

◆アプリケーションによるRGB画像の扱いの違い

アプリケーションやそのバージョンによっては、RGB画像をCMYKデータに色分解する機構を内蔵し、分版出力でもカラー画像をプリントすることができます。アプリケーションやそのバージョンによって、RGB画像のプリント結果は、以下のどちらかになります。

1. RGBデータをRGBカラースペースのままプリントするもの
2. RGBデータをCMYKに変換してからプリントするもの
   - 1.の場合は、オフセット印刷（分版出力）する場合に、RGB画像をK版だけの白黒画像になるようなプリントが行われます。
   - 2.の場合は、分版出力でもCMYKに分版してカラー画像になるようにプリントされます。

アプリケーションで、RGB → CMYK変換を正しく行うには、アプリケーションのカラー環境を正しく設定する必要があります。代表的なアプリケーションとそのバージョンによるRGB画像の取り扱いの違いは、以下のとおりです。ただし、これはアプリケーションの動作を保証するものではありません。仕様や動作の詳細に関しては、各アプリケーションメーカーにお問い合わせください。

● Illustrator

RGB画像ファイルの扱いは、「バージョン」、「PostScriptとEPS出力」、「リンクと埋め込み」のそれぞれの違いで変化します。

バージョン	RGB 画像	出力方法			
		PostScript 出力		EPS 出力	
		EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
5.5	リンク	RGB	—	RGB	—
7.0	リンク	RGB	—	RGB	—
	埋め込み	CMYK	—	RGB	—
8.0	リンク	RGB	CMYK	RGB	RGB
	埋め込み	CMYK	CMYK	RGB	RGB
9.0/10.0	リンク	RGB	CMYK	RGB	CMYK
	埋め込み	CMYK	CMYK	CMYK	CMYK
CS以降	リンク	RGB	CMYK	RGB	CMYK
	埋め込み	CMYK	CMYK	CMYK	CMYK

＊ :TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

● QuarkXPress

バージョン4.0からRGB画像をCMYKに変換できる機能があります。ただし、TIFF/JPEG/BITMAP/PICT画像フォーマットだけCMYKに変換でき、EPSファイルはRGBのまま処理されます。

バージョン	出力方法			
	PostScript 出力		EPS 出力	
	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
3.3	RGB	RGB	RGB	RGB
4.0/4.1	RGB	CMYK	RGB	CMYK
6.5	RGB	CMYK	RGB	CMYK

＊ :TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

● InDesign

RGBをCMYKに変換できる機能があります。ただし、TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD画像フォーマットだけCMYKに変換でき、EPSファイルはRGBのまま処理されます。

2.0以前

出力方法			
PostScript 出力		EPS 出力	
EPS	TIFF*1	EPS	TIFF*1
RGB	CMYK/CIE*2	RGB	CMYK

＊1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD
＊2：アプリケーションのカラー設定によって、動作が変わります。

CS以降

出力設定	出力方法					
	PostScript 出力			EPS 出力		
	Illustrator の EPS*3	PhotoShop の EPS*3	TIFF など *1	Illustrator の EPS*3	PhotoShop の EPS*3	TIFF など *1
コンポジットCMYK（デフォルト）	RGB	CMYK/CIE*2	CMYK/CIE*2	RGB	CMYK/CIE*2	CMYK/CIE*2
コンポジットの変更なし	RGB	RGB	RGB	RGB	RGB	RGB

＊1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD
＊2：アプリケーションのカラー設定によって、動作が変わります。
＊3：Illustratorは8.0.1、PhotoShopは7.0で生成したEPSを使用します。

● FreeHand

［ファイル］メニューのプリントオプションに、［RGBをプロセスカラーに変換］という項目があり、コンポジットプリント、およびEPSファイル作成時のTIFF画像の扱いを切り替えることができます。ただし、分版出力する場合は必ずCMYK画像に変換して処理されます。

バージョン	出力方法					
	PostScript 出力		EPS 出力		PostScript 分版出力	
	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
8.0	RGB	RGB/CMYK	RGB	RGB/CMYK	RGB	CMYK

＊ :TIFF/JPEG/BITMAP/PICT

● PageMaker

PageMakerでは、環境設定にあるCMS設定のカラーマネージメントをOFF/ONすることで、RGB画像をRGB画像のまま処理するか、RGB画像をCMYKに変換してから処理するか選択できます。なお、EPSファイルは、RGBのまま処理されます。

バージョン	出力方法			
	PostScript 出力		EPS 出力	
	EPS	TIFF など	EPS	TIFF など
6.5	RGB	RGB/CMYK*1	RGB	RGB/CMYK*1
7.0	RGB	RGB/CMYK*2	RGB	RGB/CMYK*2

＊1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT
＊2：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

7.5 Q & A、用語集

よくあるお問い合わせとそれに対する回答、また Print Server に関連する用語について説明します。

7.5.1 Q & A

カラーに関する事例

Q CMYKのうち、特定の版だけをプリントすることは可能か。

A プリントオプションの[カラー] > [2色印刷シミュレーション]で、プリントする色版だけを選択してください。

詳細は、「1.1.2 2色印刷シミュレーション」(P.16) を参照してください。

Q コンポジット特色補正機能が対応している、PANTONEカラー、DICカラー、東洋インキカラーとは何か。

A PANTONEカラーは、PANTONE Coated (CVC) です。
PANTONE Uncoated (CVU) を選択した場合は、PANTONE Coated と同じ補正がされます。PANTONE Press (CVS) を選択した場合は、PostScriptエラーが発生しプリントできません。なお、DICと東洋インキもCoatedに対応しています。
DICカラーは、DICカラーガイドのパート1 (DIC 1p～654p)、パート2 (DIC 2001p～2638p)、日本の伝統色 (N701 ～ N1000)、フランスの伝統色 (F1 ～ F322)、および中国の伝統色 (C1 ～ C320) です。
東洋インキカラーは、TOYO COLOR FINDER 1050です。

フランスの伝統色に、「F140」はありません。このため、「F 140」のデータは搭載されていません。

詳細は、「4.1.4 カラー」(P.229) を参照してください。

Q プリントオプションの [カラー] > [カラーモード] で、[フルカラー 1 (RGB/CMYK)] を選択してプリントしたとき、画面のRGBの文字やグラフィックスの色味が異なる色になった。また、RGB画像の色味がぼやけた。

A プリントオプションの [カラー] > [カラー詳細 (RGB設定)] > [RGB色補正] を [する] にして、プリントしてください。
[RGB色補正] のデフォルトは、[sRGB] です。

詳細は、「4.1.4 カラー」(P.229) を参照してください。

Q ユーザー調整カーブや濃度調整カーブでK100%未満に設定したのに、反映されない。

A プリントオプションの [画質] > [その他の設定 (画質)] > [Image Enhancement/白抜き文字の強調] を [しない] にして、プリントしてください。

詳細は、「4.1.5 画質」(P.238) を参照してください。

ServerManagerの設定に関する事例

Q ServerManagerのパスワードを変更したい。

A ServerManagerの［管理］→［ユーザー管理］を選択し、変更してください。

参照　詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.3 ユーザーの管理」を参照してください。

Q Windows 7 のアカウントを管理したい。

A コマンドプロンプトを使用してください。

参照　詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.1.1 Print ServerのIPアドレスとアカウントの設定」を参照してください。

Q ServerManagerに、管理者モードでログインして起動したい。

A ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［その他の設定］で、［ログインモードの設定］の［自動ログインする］にチェックマークを付けてください。

参照　詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.3 ユーザーの管理」を参照してください。

Q WebManagerからアップロードプリントをしたとき、エラーになった。

A WebManagerを使用してプリントするときは、プロキシサーバーを経由せず、直接Print Serverに接続してプリントしてください。

PostScriptに関する事例

Q EPSファイルをプリントしたとき、ジョブが消えてしまった。

A ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［EPSをPostScriptとして扱う］にチェックマークが付いていることが考えられます。
showpageコマンドが付いていないEPSファイルをプリントした場合に、この機能がオンになっていると、showpageコマンド自動付加が抑制されてジョブが消えてしまうことがあります。

参照　詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

Q 保持ジョブでページ設定をしてプリントしたとき、PostScriptエラーになる。

A ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［ページ指定のプリントを高速化］にチェックマークが付いていることが考えられます。
この機能をオフにすることにより、先頭ページからRIP処理されるため、現象を回避できます。

参照　詳細は、『ユーザーズガイド導入編』の「1.2.2 ServerManagerの環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

Q QuarkXPress 4.1からプリントしたとき、用紙サイズ設定が反映されず、PostScriptエラーになる。

A PPDの記載内容によるためです。
QuarkXPressのプリント設定で、［設定］>［プリンタ記述］>［カラー一般］を選択して、プリントしてください。

Q QuarkXPressから分版出力したとき、EPS画像が抜けた。

A Illustrator 8.0のEPSファイルだけに起こる現象です。
Illustratorの保存形式を8.0以外にするか、またはプロセスカラーのスウォッチの［個別に適用］にチェックマークを付けてください。また、QuarkXPressからコンポジット出力することで、エラーを回避することも可能です。

7.5.2 用語集

Print Serverに関連する用語は、印刷用語をはじめ編集用語やDTP用語など、多岐に渡ります。
Print Serverの機能を理解し、本文を読み進むうえでの参考にしてください。

APPE［エー・ピー・ピー・イー］

Adobe PDF Print Engineの略。
PDFファイルのRIP処理のときに、PostScriptに変換せず、そのままレンダリングできるRIP用ソフトウエア。透明効果やレイヤー機能などの情報が欠落することなく、高速で高品質な出力が可能です。

CIEbased［シー・アイ・イー・ベースド］

CIEが発表しているデバイスに依存しないカラーモデルをもとに、色再現することをいいます。(CIEは、commission Internationale de l'Eclariageの略で、国際照明委員会のこと)

CPSI［シー・ピー・エス・アイ］

Configurable PostScript Interpreterの略。
PDFファイルのRIP処理のときに、いったんPostScriptファイルに変換して、透明部分やレイヤー部分を分割、統合するため、出力イメージにずれが発生することがあります。

GCR［ジー・シー・アール］

Gray-Component Replacementの略。
カラー画像のグレーの部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。
画像を変換するときに、GCRの値を調整できるアプリケーションもあります。

ICCプロファイル［アイ・シー・シー・プロファイル］

International Color Consortiumの略。
各デバイスの色再現に関する情報を記述したファイルのことをいいます。

IE［アイ・イー］

Image Enhancementの略。文字の輪郭などをくっきり見せることをいいます。

IT8［アイ・ティー・エイト］

デバイスのキャリブレーションを行うための標準チャートのことをいいます。

PPDファイル［ピー・ピー・ディー・ファイル］

PostScript Printer Description Fileの略。
ポストスクリプトプリンターの設定情報を記述したファイルのことをいいます。

RIP［リップ］

Raster Image Processorの略。
ポストスクリプトデータをビットマップに展開することをいいます。

UCR［ユー・シー・アール］

Under Color Removalの略。
カラー画像の黒色の部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。
RGBモードからCMYKモードに画像を変換するときに､UCRの値を調整できるアプリケーションもあります。

網点［あみてん］

印刷で色の濃淡が置き換えられる大小の点のことで、ハーフトーンともいいます。

色分版［いろぶんぱん］

RGB画像をプロセス印刷で使用する4色のインキに対応したCMYKの画像に分けることをいいます。

オーバープリント

オブジェクト同士が重なり合う場合に、上下の色を重ねてプリントすることをいいます。プリントのずれで白地がでることを防ぎます。

ブラックの文字は、すべてオーバープリントするようにデフォルト設定されているアプリケーションもあります。

ガンマ補正［ガンマほせい］

感光材の感光特性を表すカーブのことをガンマといい、プリンターのガンマ値に応じた最適のカーブに補正することをガンマ補正といいます。

Print ServerやPhotoshopは、画像のガンマ補正をしてコントラストや明暗を調整できます。

キャリブレーション

色の経時変化を補正して、デバイスの色再現性を標準状態に維持することをいいます。

スクリーン線数［スクリーンせんすう］

画像をプリントするときに使われる、網点の列、または線の数をいいます。

出力解像度とスクリーン線数の組み合わせで、画像のきめ細かさが変化します。フィルム出力で使うスクリーン線数は、イメージセッターの解像度や印刷方法、および用紙によって異なります。

墨版保持［すみはんほじ］

CMYKデータをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つK（墨）版の情報を保持するしくみのことをいいます。

特色［とくしょく］

あらかじめ色を混ぜ合わせた、さまざまな色のインキのことです。特色インキは、会社のロゴなど、色を正確に再現するときに使われます。スポットカラーともいいます。

抜き合わせ［ぬきあわせ］

オブジェクト同士が重なり合う場合に、下になる色を上の形で白く抜くことで、ノックアウトともいいます。

半透明の印刷インキを使うときに、色が重なって別の色になることを防ぎます。

のど

プリントされる部分と本の背になる部分との間の空間をいいます。

プリフライト

ファイルが正しくプリントされるのを確認することをいいます。

プロセスカラー

CMYKの網点を重ね合わせて、さまざまな色を擬似的に再現する半透明のインキのことです。

プロファイル

プリンターごとのカラー属性を定義したファイルのことをいいます。

分版出力［ぶんぱんしゅつりょく］

印刷に使用するインキごとに、色の要素を分けてフィルムに出力します。

プロセスカラー印刷では、各ページがCMYKの4枚のフィルムになります。

ヘアライン

小さな文字や極細線のことをいいます。

ホワイトポイント

画像内のもっとも明るい位置のことで、白点ともいいます。

連続階調［れんぞくかいちょう］

写真のように、色と色がなめらかに変化していることをいいます。

Index

記号・英数

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

ね

の

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

ゆ

よ

ら

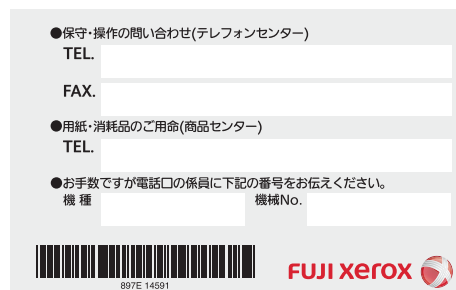
り

れ

ろ

商品のお問い合わせ先について

●この商品の保守、操作、修理(内容、期間、費用)のお問い合わせ、および消耗品をご購入される場合は、商品に貼られている保守サポートの問い合わせ先カードの裏面に記載のあるテレフォンセンター、または商品センターにお問い合わせください。

表 面

裏 面

お問い合わせ先が不明の場合は、富士ゼロックス プリンターサポートデスクにお問い合わせください。

フリーダイヤル:0120-66-2209（フジゼロックス）　FAX:0120-14-1046

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時〜 17 時 30 分
フリーダイヤルは、携帯電話･PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

本機を廃却する場合は、お買い上げいただいた富士ゼロックス、各販売会社の担当営業にお問い合わせいただき、お申し込みください。
担当営業が不明な場合には、プリンター回収センターで受付します。
TEL：0120-88-8641　　FAX：0120-22-6993
受付時間：9 時〜 12 時、13 時〜 17 時

弊社へのお問い合わせの際には、機種名と機械番号を確認させていただきます。
保守サポートの問い合わせ先カードの裏面の「機種」「機械 No.」、もしくは商品の背面、または側面の銀色のシールに記載されている「商品名」「商品コード」「SER#」を事前にご確認ください。

●富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル：0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時〜 12 時、13 時〜 17 時
フリーダイヤルは、携帯電話･PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

ホームページアドレス：http://www.fujixerox.co.jp
商品全般に関する情報、最新ソフトウエアなどを提供しています。

Print Server N01 ユーザーズガイド運用編

著作者 ― 富士ゼロックス株式会社
発行者 ― 富士ゼロックス株式会社

発行年月 ― 2011 年 9月　　第2版

（管理番号：ME5443J1-1）